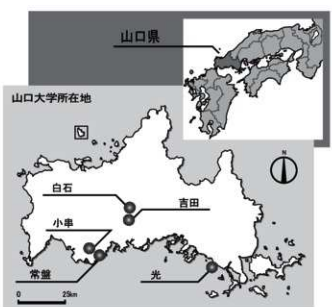
山口大学埋蔵文化財資料館年報
－平成28年度－

2021

山口大学埋蔵文化財資料館

山口大学埋蔵文化財資料館年報

平成28年度　山口大学埋蔵文化財資料館活動報告
平成28年度　山口大学構内遺跡発掘調査概報



2021

山口大学埋蔵文化財資料館

序

山口大学埋蔵文化財資料館は、吉田構内をはじめ小串・常盤・白石・光構内に所在する山口大学構内遺跡における埋蔵文化財の発掘・保護を基幹業務としています。昨年度末の組織改編により、当館は単独施設として新たな歩みを始めましたが、これまでと同様に、学術資料の管理と発信を主要業務とする組織として、埋蔵文化財の調査成果や学術的価値を広く社会に告知するため、資料展示や年報および広報誌発行、地域貢献および社会教育活動などの諸活動にも積極的に取り組んでまいります。

さて、平成28(2016)年度は、埋蔵文化財保護業務に関しては、本発掘調査1件、立会調査8件を吉田構内、白石構内、小串構内にて実施しました。その中でも、吉田構内で実施した動物病理解剖施設(現:総合病性鑑定研究施設)新営その他工事に伴う本発掘調査では、埋没谷と遺物包含層からおびただしい量の古代の遺物が出土しました。遺物の中には、古代官衙の存在を示唆する円面硯や製塩土器、鞴羽口などが含まれており、出土資料の整理作業に4年もの歳月を必要としました。

当館収蔵品の調査としては、平成22年度より開始した萩市見島ジーコンボ古墳群出土資料の再調査が7年目を迎え、第123号墳号墳出土資料の調査とともに、新たに発見された第152号墳出土資料の再調査を行い、併せて古墳群西部域出土資料の調査成果を刊行することができました。当館が所蔵する見島ジーコンボ古墳群出土資料の調査は、これで一先ずの終了を迎えることになります。長期間ご協力いただいた萩博物館の皆様に厚くお礼申し上げます。

その他の取り組みでは、前年度に締結した山口県立山口博物館との連携協力協定の下、市民講座「古代ウォークラリー」を開催いたしました。展示活動としては、第37回企画展のほか、平成23年度からの継続事業である山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携特別展を、平成24年度からの継続事業である山口大学所蔵学術資産継承事業委員会事業成果展「宝山の一角」を共催にて開催しました。これらの継続的な学術資料の公開活動が本学内、学外に及ぼす影響は大きく、年間の入館者は2,000名を大きく超えることになりました。

本書には、当館が同年に実施した構内遺跡の調査成果をはじめ、収蔵資料の展示活動や社会連携活動、館員の研究活動を収録しております。本書が山口大学および学外研究機関、地域社会において幅広く活用されることを願います。

当館は、人的な埋蔵文化財保護体制をはじめ、出土品や調査記録の整理・保管場所の不足が年々深刻化するなど多くの課題を抱えていますが、学内ばかりでなく地域に開かれた学術研究・教育の場として、活用していただくよう、全力を尽くして取り組む所存です。これまで当館の調査・研究活動にご支援、ご協力を頂いた関係機関、関係各位に心から厚く御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご理解、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年3月

山口大学埋蔵文化財資料館長

根ヶ山 徹

例言

1．本書は、山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」と呼称）が平成28年度に実施した、山口大学構内の遺跡発掘調査成果報告と、同年度に資料館が実施した社会教育等の活動報告を記したものである。

2．構内遺跡発掘調査に関しては、現地での調査は資料館員である田畑直彦（埋蔵文化財資料館助教）・横山成己（埋蔵文化財資料館助教）・川島尚宗（当時：大学情報機構埋蔵文化財資料館助教※平成25年11月1日～平成30年3月31日）・山田圭子（当時：事務局情報環境部学術情報課教務補佐員※平成27年4月1日～平成30年3月31日）・乃美友香（事務局学術基盤部学術基盤推進課技術補佐員）が担当した。また、現地での本発掘調査および立会調査に際しては、有限会社久富工務店に協力を依頼した。

3．発掘調査における現地での実測と写真撮影は田畑・横山・川島・山田が行った。出土遺物に関しては、整理を乃美が行い、実測・写真撮影を横山・水久保祥子（埋蔵文化財資料館技術職員）が行った。製図・整図は田畑・横山・川島・乃美が行った。

4．発掘調査に伴う事務は、事務局情報環境部学術情報課総務係（当時）が統括した。

5．発掘調査の諸記録類と出土資料は資料館で適正に保管している。

6．掲載した石器の石材は、加納隆氏（本学名誉教授）に鑑定いただいた。

7．旧石器時代、縄文時代に所属する石器の一部に対し、河村吉行氏（(財）山口県埋蔵文化財センター）および平成28年度中四国旧石器談話会参加諸氏にご教示いただいた。

8．本文の執筆分担は目次または文末に記した。

9．本書の編集は館員の補助を得て横山が行った。

凡例

1．山口大学の吉田・白石・小串・常盤・光構内は、いずれもが文化財保護法（法律第214号）で示される「周知の埋蔵文化財包蔵地」内に位置する。各構内の位置する遺跡名は以下の通りである。

吉田構内～吉田遺跡　　白石構内～白石遺跡　　小串構内～山口大学医学部構内遺跡
常盤構内～山口大学工学部構内遺跡　　光構内～御手洗遺跡・月待山遺跡

2．吉田構内における調査区および層位・遺構の位置は、日本測地系に基づいた国土座標を基準として北から南へ1～24、西から東へA～Zの番号を付して50m方眼に区画した、構内地区割のA－24区南西隅を起点（構内座標x＝0，y＝0）とする構内座標値で表示している。なお、平面直角座標系第Ⅲ系における座標値（X，Y）と構内座標値（x，y）とは下記の計算式で変換される。

x＝X＋206，000
y＝Y＋64，750

3．平成28年度に実施した本発掘、予備発掘および立会調査に関しては、以下の略号により資料整理を行っている。

実習棟（動物病理解剖施設）新営その他工事に伴う予備発掘調査・本発掘調査……YD2016-1
実習棟（動物病理解剖施設）新営その他工事に伴う立会調査……YD2016DBK
農学部果樹園排水工事に伴う立会調査……YD2016NKE
教育学部附属山口小学校雨水管改修工事に伴う立会調査……SI2016-1
基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事（自家発電設備工事）に伴う立会調査……KG2016-1

4．各遺構は下記の記号で表記することがある。

竪穴住居……SB	掘立柱建物……SH	土壙……SK
溝……SD	柱穴・ピット……Pit・SP	落ち込み……SX

5．本書で使用した方位は、吉田構内では国土座標を基準とした真北、他の構内では磁北を示す。

6．標高数値は海抜標高を示す。

7．土層および土器の色調記号は、農林省農林水産技術会事務局監修『新版標準土色帖』（1976）に準拠した。

8．遺物の実測図は、下記のように分類した。

断面黒塗り……須恵器、陶器、磁器
断面白抜き……縄文土器、弥生土器、土師器、土師質土器、瓦質土器、石器、木器、金属器

本文目次

第１章　平成28年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告……（横山）…… 1
第1節　資料館における展示・情報公開活動
1　第37回企画展『水が残した物質文化～構内遺跡出土の木製品～』……（横山）…… 2
2　山口県大学ML連携特別展『学びはぐくむ～モノから学ぶ歴史教科書～』…（横山）…… 3
3　第5回山口大学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』を共催にて開催…（横山）…… 4
4　平成28年度刊行物……（横山）…… 5
第2節　資料館における社会教育活動
1　山口県立山口博物館との共催事業『講座　遺跡ウォークラリー』……（横山）…… 6

第２章　平成28年度山口大学構内遺跡の調査
第1節　平成28年度に実施した遺跡調査の概要……（横山）…… 8
第2節　吉田構内（吉田遺跡）の調査
1　実習棟（動物病理解剖施設）新営その他工事に伴う予備発掘調査・本発掘調査
…（川島・横山）……12
2　実習棟（動物病理解剖施設）新営その他工事に伴う立会調査……（川島）…… 146
3　総合研究棟（国際総合科学部）改修工事に伴う立会調査 ……（横山）…… 150
4　農学部果樹園排水工事に伴う立会調査……（横山）…… 151
5　人文学部駐輪場屋根新設工事に伴う立会調査……（横山）…… 154
6　共通教育棟周辺駐輪場整備工事工事に伴う立会調査……（田畑）…… 155
第3節　白石構内（白石遺跡）の調査
1　教育学部附属山口小学校雨水管改修工事に伴う立会調査……（横山）…… 156
第4節　小串構内（山口大学医学部構内遺跡）の調査
1　基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事（自家発電設備工事）に伴う立会調査
…（横山）…… 160
第5節　光構内（御手洗遺跡・月待山遺跡）の調査
1　教育学部附属山口小学校雨水管改修工事に伴う立会調査……（田畑）…… 164

付節1　平成28年度　山口大学構内遺跡調査要項……165
付節2　山口大学構内の主な調査……168

付篇1　動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事（プレハブ撤去）に伴う立会調査出土の木製品について
…（水久保）…… 192
付篇2　吉田遺跡第Ⅳ地区の調査……（横山）…… 201

挿図目次

第2章第1節 平成28年度に実施した遺跡調査の概要

図1 山口大学吉田・白石構内位置図 ……9
図2 小串・常盤構内位置図……11
図3 光構内位置図……11

第2章第2節 吉田構内（吉田遺跡）の調査

図4 調査区位置図……12
図5 総合研究棟調査区との位置関係……13
図6 南区平面図……16
図7 南区断面図……17
図8 北区平面図……23
図9 北区北壁・西壁・西側南壁断面図……24
図10 北区東壁・東側南壁－アゼ断面図……26
図11 ＳＤ１平面図・断面図……29
図12 ＳＸ３平面図・断面図……32
図13 ＳＸ６・７平面図 ＳＸ６断面図……33
図14 ＳＸ７断面図……34
図15 南区出土土器実測図……45
図16 北区谷埋土２出土土器実測図①……45
図17 北区谷埋土２出土土器実測図②……46
図18 北区谷埋土２出土土器実測図③……47
図19 北区谷埋土１出土土器実測図①……48
図20 北区谷埋土１出土土器実測図②……49
図21 北区谷埋土１出土土器実測図③……50
図22 北区谷埋土１出土土器実測図④……51
図23 北区谷埋土１出土土器実測図⑤……52
図24 北区遺構出土土器実測図……52
図25 北区遺構検出層出土土器実測図①……53
図26 北区遺構検出層出土土器実測図②……54
図27 北区遺物包含層２出土土器実測図①……55
図28 北区遺物包含層２出土土器実測図②……56
図29 北区遺物包含層２出土土器実測図③……57
図30 北区遺物包含層２出土土器実測図④……58
図31 北区遺物包含層２出土土器実測図⑤……59
図32 北区遺物包含層１・２出土土器実測図…59
図33 北区遺物包含層１出土土器実測図①……61
図34 北区遺物包含層１出土土器実測図②……62
図35 北区遺物包含層１出土土器実測図③……63
図36 北区遺物包含層１出土土器実測図④……64
図37 北区遺物包含層１出土土器実測図⑤……65
図38 北区遺物包含層１出土土器実測図⑥……66
図39 北区遺物包含層２上面ＳＤ１
出土土器実測図……67
図40 北区旧耕土・旧床土・壁面出土土器実測図
……67
図41 排土中採取土器実測図……67
図42 北区出土土製品・金属器実測図……69
図43 北区出土石器実測図①……69
図44 北区出土石器実測図②……70
図45 北区出土石器実測図③……71
図46 北区出土石器実測図④……72
図47 北区出土木製品実測図……73
図48 周辺調査区の位置と出土遺物……143・144
図49 調査区位置図 ……146
図50 Ｂ地点北壁西端土層柱状模式図 ……148
図51 Ｄ地点平面図・断面図 ……148
図52 Ｏ地点東壁土層柱状模式図 ……148
図53 出土土器実測図 ……149
図54 調査区位置図 ……150
図55 Ａ・Ｂ地点土層断面柱状図 ……150
図56 調査区位置図 ……151
図57 調査区平面図 ……152
図58 出土土器実測図 ……153
図59 調査区位置図 ……154
図60 Ａ地点土層断面柱状図 ……154
図61 調査区位置図 ……155

第2章第3節 白石構内（白石遺跡）の調査

図62 調査区位置図 ……156
図63 調査区平面図・断面図 ……158
図64 出土土器実測図 ……159

第2章第4節 小串構内（山口大学医学部構内遺跡）の調査

図65 調査区位置図 ……160
図66 平成16年度調査平面図・断面図 ……162
図67 出土遺物実測図 ……163

第2章第5節 光構内（御手洗遺跡・月待山遺跡）の調査

図68　調査区位置図……164
第2章付節2 山口大学構内の主な調査
図69 山口大学吉田構内地区割および
主な調査区位置図……185・186
図70 山口大学白石構内（幼稚園・小学校）
調査区位置図 ……187
図71 山口大学白石構内（中学校）
調査区位置図 ……188
図72 山口大学小串構内調査区位置図 ……189
図73 山口大学常盤構内調査区位置図 ……190
図74 山口大学光構内調査区位置図 ……191
付篇1 動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事
（プレハブ撤去）に伴う立会調査出土の木製品について
図75 調査区位置図 ……193
図76 調査区平面図・断面図 ……194
図77 出土木製品実測図 ……197
図78 出土音義木簡実測図……201・202
付篇2 吉田遺跡第Ⅳ地区の調査
図79 吉田遺跡第Ⅳ地区（農学部附属農場牛舎敷地）
平板測量図 ……202
図80 吉田遺跡第Ⅳ地区（農学部附属農場牛舎敷地）
調査区位置図 ……203
図81 吉田遺跡第Ⅳ地区（農学部附属農場牛舎敷地）
遺構平面図・断面図……205・206
図82 吉田遺跡第Ⅳ地区出土土器実測図 ……214
図83 吉田遺跡第Ⅳ地区出土石器実測図① …215
図84 吉田遺跡第Ⅳ地区出土石器実測図② …216

写真目次

第1章第1節 資料館における展示・情報公開活動
写真１ 企画展ポスター ……2
写真２ 展示の模様 ……2
写真３ ミュージアムトークの模様 ……3
写真４ ワークショップの模様 ……3
写真５ 前期ミュージアムトークの模様 ……4
写真６ 後期ミュージアムトークの模様 ……4
写真７ 平成28年度埋蔵文化財資料館刊行物 …5
第1章第2節 資料館における社会教育活動
写真８ 田布施町郷土館にて資料解説 ……7
写真９ 国森古墳へ ……7
写真10 国森古墳見学 ……7
写真11 後井古墳見学 ……7
写真12 最終見学地へ ……7
写真13 御蔵戸キツネビラ古墳 ……7
第2章第1節 平成28年度に実施した遺跡調査の概要
写真14 吉田構内航空写真 ……9
写真15 白石構内（教育学部附属山口幼稚園・小学校）
航空写真 ……9
写真16 白石構内（教育学部附属山口中学校）
航空写真 ……9
写真17 小串構内航空写真……11
写真18 常盤構内航空写真……11
写真19 光構内航空写真……11
第2章第2節 吉田構内（吉田遺跡）の調査
写真20 調査前全景……12
写真21 調査前全景……12
写真22 総合研究棟調査区……13
写真23 南区重機掘削風景……16
写真24 作業風景……16
写真25 南区北半東壁土層断面……17
写真26 南区南半東壁土層断面……18
写真27 南区南半北壁土層断面……18
写真28 南区南半遺構検出状況……18
写真29 南区南半遺構完掘状況……18
写真30 南区北半遺構検出状況……19
写真31 南区北半遺構完掘状況……19
写真32 南区南半完掘状況……19
写真33 南区北半完掘状況……19
写真34 北区北壁土層断面……25
写真35 北区西壁土層断面……25
写真36 北区西側南壁土層断面……25
写真37 北区東壁土層断面……27
写真38 北区東側南壁－アゼ土層断面……27

写真39 北区東側南壁土層断面……27
写真40 北区遺物包含層１検出状況……28
写真41 北区遺物包含層１検出状況……28
写真42 ＳＤ１検出状況……29
写真43 ＳＤ１完掘状況……29
写真44 北区埋没谷検出状況……30
写真45 北区埋没谷検出状況……30
写真46 北区東側遺構検出状況……31
写真47 北区西側遺構検出状況……31
写真48 ＳＸ３検出状況……32
写真49 ＳＸ３掘削風景……32
写真50 ＳＸ３南北断面……32
写真51 ＳＸ３東西断面……32
写真52 ＳＸ３完掘状況……32
写真53 ＳＸ３完掘状況……32
写真54 ＳＸ６・７検出状況……34
写真55 ＳＸ６土層断面……34
写真56 ＳＸ６完掘状況……34
写真57 ＳＸ６完掘状況……34
写真58 ＳＸ７土層断面……34
写真59 ＳＸ７土層断面……34
写真60 ＳＸ７完掘状況……35
写真61 ＳＸ７完掘状況……35
写真62 Pit11半裁状況 ……35
写真63 Pit12半裁状況 ……35
写真64 Pit13半裁状況 ……35
写真65 Pit14半裁状況 ……35
写真66 Pit16半裁状況 ……35
写真67 Pit17半裁状況 ……35
写真68 Pit18半裁状況 ……35
写真69 Pit19完掘状況 ……35
写真70 Pit20完掘状況 ……35
写真71 Pit21完掘状況 ……35
写真72 Pit22半裁状況 ……35
写真73 Pit23半裁状況 ……35
写真74 Pit24・25完掘状況 ……36
写真75 Pit30半裁状況 ……36
写真76 Pit31・32半裁状況 ……36
写真77 Pit33・34・38完掘状況 ……36
写真78 Pit35・36半裁状況 ……36
写真79 Pit37半裁状況 ……36
写真80 Pit39半裁状況 ……36
写真81 Pit43土層断面 ……36
写真82 Pit44半裁状況 ……36
写真83 Pit45完掘状況 ……36
写真84 Pit47・48半裁状況 ……36
写真85 Pit49半裁状況 ……36
写真86 Pit50半裁状況 ……36
写真87 Pit51完掘状況 ……36
写真88 Pit52半裁状況 ……36
写真89 Pit53半裁状況 ……36
写真90 Pit54半裁状況 ……36
写真91 Pit55半裁状況 ……36
写真92 Pit56半裁状況 ……37
写真93 Pit57完掘状況 ……37
写真94 Pit59完掘状況 ……37
写真95 Pit60半裁状況 ……37
写真96 Pit61完掘状況 ……37
写真97 Pit62半裁状況 ……37
写真98 Pit63土層断面 ……37
写真99 Pit65半裁状況 ……37
写真100 Pit66半裁状況……37
写真101 Pit67完掘状況……37
写真102 Pit68土層断面……37
写真103 Pit69～71半裁状況……37
写真104 Pit72半裁状況……37
写真105 Pit75半裁状況……37
写真106 Pit76完掘状況……37
写真107 Pit77完掘状況……37
写真108 Pit78半裁状況……37
写真109 Pit79半裁状況……37
写真110 Pit80・90完掘状況……38
写真111 Pit91半裁状況……38
写真112 Pit92半裁状況……38
写真113 Pit93半裁状況……38
写真114 Pit94土層断面……38
写真115 Pit96・97半裁状況……38
写真116 Pit98・99半裁状況……38

写真117 Pit100半裁状況 ……38
写真118 Pit101半裁状況 ……38
写真119 Pit102半裁状況 ……38
写真120 Pit103土層断面 ……38
写真121 ＳＸ１半裁状況 ……38
写真122 ＳＸ２土層断面 ……38
写真123 ＳＸ４検出状況 ……38
写真124 ＳＸ５土層断面 ……38
写真125 ＳＫ１検出状況 ……38
写真126 ＳＫ２完掘状況 ……38
写真127 ＳＫ３半裁状況 ……38
写真128 北区東側遺構完掘状況 ……39
写真129 北区西側遺構完掘状況 ……39
写真130 出土遺物（土器）① ……74
写真131 出土遺物（土器）② ……75
写真132 出土遺物（土器）③ ……76
写真133 出土遺物（土器）④ ……77
写真134 出土遺物（土器）⑤ ……78
写真135 出土遺物（土器）⑥ ……79
写真136 出土遺物（土器）⑦ ……80
写真137 出土遺物（土器）⑧ ……81
写真138 出土遺物（土器）⑨ ……82
写真139 出土遺物（土器）⑩ ……83
写真140 出土遺物（土器）⑪ ……84
写真141 出土遺物（土器）⑫ ……85
写真142 出土遺物（土器）⑬ ……86
写真143 出土遺物（土器）⑭ ……87
写真144 出土遺物（土器）⑮ ……88
写真145 出土遺物（土器）⑯ ……89
写真146 出土遺物（土器）⑰ ……90
写真147 出土遺物（土器）⑱ ……91
写真148 出土遺物（土器）⑲ ……92
写真149 出土遺物（土器）⑳ ……93
写真150 出土遺物（土器）㉑ ……94
写真151 出土遺物（土器）㉒ ……95
写真152 出土遺物（土器）㉓ ……96
写真153 出土遺物（土器）㉔ ……97
写真154 出土遺物（土器）㉕ ……98
写真155 出土遺物（土器）㉖ ……99
写真156 出土遺物（土器）㉗ ……100
写真157 出土遺物（土製品・金属器） ……100
写真158 出土遺物（石器）① ……101
写真159 出土遺物（石器）② ……102
写真160 出土遺物（木製品） ……103
写真161 Ａ地点 ……146
写真162 Ｂ地点（ハンドホール１） ……146
写真163 Ｂ地点（ハンドホール東側管路） …146
写真164 Ｄ地点遺構検出状況 ……147
写真165 Ｄ地点遺構検出状況 ……147
写真166 Ｃ地点 ……147
写真167 Ｍ地点 ……147
写真168 Ｍ地点 ……147
写真169 Ｌ地点 ……147
写真170 Ｏ地点 ……147
写真171 Ｇ地点 ……148
写真172 Ｎ地点 ……148
写真173 出土遺物（土器） ……149
写真174 Ａ地点掘削状況 ……150
写真175 Ｂ地点土層断面 ……150
写真176 作業風景 ……151
写真177 調査区土層断面 ……151
写真178 調査区全景 ……152
写真179 調査区全景 ……152
写真180 出土遺物（土器） ……153
写真181 Ａ地点土層断面 ……154
写真182 ＣⅠ工区南部 ……155
写真183 ＣⅠ工区10地点土層断面 ……155
写真184 ＣⅠ工区11地点土層断面 ……155
第2章第3節 白石構内（白石遺跡）の調査
写真185 調査地点遠景 ……156
写真186 調査地点近景 ……156
写真187 重機掘削風景 ……159
写真188 南側東西トレンチ西端部遺構検出状況 ……159
写真189 南側東西トレンチ東端部遺構完掘状況 ……159
写真190 北側東西トレンチ遺構完掘状況 ……159
写真191 出土遺物（土器） ……159

第2章第4節 小串構内（山口大学医学部構内遺跡）の調査
写真192 調査地遠景……160
写真193 調査地近景……160
写真194 平成16年度調査区東壁土層断面……162
写真195 平成28年度調査区東壁土層断面……162
写真196 貝堆積層検出途中……163
写真197 貝堆積層検出状況……163
写真198 出土遺物（土器・石器）……163
第2章第5節 光構内（御手洗遺跡・月待山遺跡）の調査
写真199 A地点土層断面……164
写真200 B地点土層断面……164
付篇1 動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事
（プレハブ撤去）に伴う立会調査出土の木製品について
写真201 出土木製品……198
写真202 出土音義木簡……201・202
付篇2 吉田遺跡第Ⅳ地区の調査
写真203 調査地遠景……207
写真204 調査地遠景……207
写真205 調査地から農場本館を望む……207
写真206 調査風景……207
写真207 調査風景……207
写真208 調査風景……207
写真209 調査風景……207
写真210 完成直後の農場本館……207
写真211 A面B面遺構群……208
写真212 B面遺構群……208
写真213 B面遺構群……208
写真214 D面遺構群……208
写真215 第2号竪穴式住居跡……208
写真216 第2号竪穴式住居跡……208
写真217 第2号竪穴式住居跡……208
写真218 第2号竪穴式住居跡……208
写真219 第3号竪穴式住居跡……209
写真220 第3号竪穴式住居跡須恵器出土状況
……209
写真221 第3号竪穴式住居跡石器出土状況…209
写真222 第3号竪穴式住居跡……209
写真223 第3号竪穴式住居跡……209
写真224 Pit 1……210
写真225 Pit 2……210
写真226 Pit 3・4……210
写真227 B面Pit群……210
写真228 Pit 6・11……210
写真229 Pit 7……210
写真230 Pit10・12……210
写真231 Pit13……210
写真232 Pit14……210
写真233 Pit15……210
写真234 Pit18……210
写真235 Pit19……210
写真236 Pit20……211
写真237 Pit21……211
写真238 Pit22……211
写真239 溝2……211
写真240 溝2……211
写真241 溝2……211
写真242 溝2……211
写真243 出土遺物（土器）……217
写真244 出土遺物（石器）……218

表目次

第1章第1節 資料館における展示・情報公開活動
表1 埋蔵文化財資料館利用者の推移……1
表2 平成28年度月別入館者数……1
第2章第1節 平成28年度に実施した遺跡調査の概要
表3 平成28年度山口大学構内遺跡調査一覧表
……8
第2章第2節 吉田構内（吉田遺跡）の調査
表4 北区遺構観察表……40
表5 出土遺物（土器）観察表……104
表6 出土遺物（土製品）観察表……140
表7 出土遺物（金属器）観察表……141
表8 出土遺物（石器）観察表……141

表9 出土遺物（木製品）観察表 ……141
表10 遺物包含層出土土器の地点別点数 ……145
表11 出土遺物（土器）観察表 ……149
表12 出土遺物（土器）観察表 ……153
第2章第3節 白石構内（白石遺跡）の調査
表13 出土遺物（土器）観察表 ……159
第2章第4節 小串構内（山口大学医学部構内遺跡）の調査
表14 出土遺物（土器）観察表 ……163
表15 出土遺物（石器）観察表 ……163
第2章付節1 山口大学構内の主な調査
表16 山口大学構内の主な調査一覧表 ……168
付篇1 動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事
（プレハブ撤去）に伴う立会調査出土木製品について
表17 出土遺物（木製品）観察表 ……197
付篇2 吉田遺跡第Ⅳ地区の調査
表18 吉田遺跡第Ⅳ地区出土遺物一覧表 ……213
表19 出土遺物（土器）観察表 ……219
表20 出土遺物（石器）観察表 ……220

第1章　平成28年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告

当館は、昭和53年(1978)設置以降、山口大学構内が所在する遺跡の調査・研究を行うとともに、収蔵資料の展示・公開、また埋蔵文化財・考古学にかかわる社会教育活動を行っている。具体的には、展示・情報公開活動として、当館展示室において年度内に3回程度の資料展示を行うこと、刊行物やホームページなど各種メディアを通じて遺跡及び収蔵資料の情報を公開すること、社会教育活動としては講座やワークショップの開催、授業や講演会等への講師派遣など、学内外の要望に応じた地域連携・生涯学習支援活動を実施することである。

平成28年度は、展示活動として、第37回となる企画展のほか、県内の大学博物館・図書館が各大学の学術資料や研究成果を展示にて公開する「山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携事業」に継続参加し、本学委員会である山口大学学術資産継承事業委員会の事業成果展『宝山の一角』共催館として、展示室の提供と展示構築・広報支援などを行った。情報公開活動としては、平成12年度の構内遺跡調査研究年報と、『見島ジーコンボ古墳群　第123号墳・第152号墳(再)・西部城出土資料調査報告』、広報誌『てらこや埋文』を刊行した。社会教育活動としては、平成27年度に山口県立山口博物館と締結した連携協力協定に基づき、『講座　遺跡ウォークラリー』を開催した。

当年度の総入館者数は、当館設立後最多となる2,192名となり、前年度に比して10%増加した(表1)。月別入館者数を見ると、例年どおりオープンキャンパスが開催される8月が最多入館者数となっており、新入生ガイダンス等で活用される4～6月も増加傾向を見せている(表2)。

次頁より、当該年度に実施した展示・情報公開活動と社会教育活動の詳細を報告する。

表1　埋蔵文化財資料館利用者の推移

年度	平成2	平成3	平成4	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27	平成28
利用者総数	358	367	191	260	516	142	558	373	913	669	808	1,152	1,208	776	1,333	1,718	1,873	1,672	2,037	1,787	1,995	2,192					

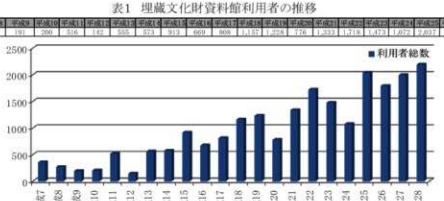
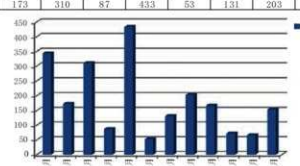


表2　平成28年度月別入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入館者数	343	173	310	87	433	53	131	203	167	72	66	154



第1節　資料館における展示・情報公開活動

1．第37回企画展『水が残した物質文化～構内遺跡出土の木製品～』

他の考古系博物館でも同様であるが、当館ではこれまで「土器」を主体とする展示を開催してきた。これは、遺跡からの遺物としては土器が圧倒的に豊富であることや、短期間で形態を変化させることから、時の移り変わりを可視化させやすい、などの理由による。

その一方で、特に本学吉田構内（吉田遺跡）は、東から南を山に囲まれ、丘陵地と平地部にまたがり立地することから、埋没谷や埋没河川が数多く存在しており、地中で分解され消滅する可能性が低い木製品が、そのままの形状で遺存しやすい環境にある。この10年ばかりの間に、数百点もの木製品が出土しているのも、この環境に負う部分が大きい。そこで平成28年度の企画展では、弥生時代から室町時代までの木製品を集中的に公開することにした。

展示では、近年吉田構内西部の陸上競技場から出土した弥生時代の竹製網代編み製品や、吉田構内南東部の動物医療センター周域に存在する古代の埋没谷から、平成18年度以降継続的に出土している多量の木製品（掘立柱建物の柱根、杭、斧柄、刳物、曲物、火付け木など）、吉田構内北部の就職支援施設「O-HARA」にて検出された井戸より出土した曲物柄杓など45点もの木製品を公開した。

同時に、これらの展示品が保存処理を終えて安定した状態に保たれている一方で、出土以降保存処理が行えていない木製品が水漬け状態で多数保管されていることや、予算の問題で「年間保存処理数」＜「年間出土数」となっていること、保存処理待ち木製品がすでに約400点（※当時）存在していること、資料の劣化が進行していることなど、包み隠すことなく実情を公開した。

当館の木製品保存処理数は、平均で年間20～30点である。計算上、これ以上の出土がなく、継続的に処理できたとしても完了に15～20年が必要となる。当館の保存処理予算を増加させつつ埋没谷や埋没河川上での開発を避けるなど、全学的な対応が必要不可欠と思われるが、方針は未だ提示されていない。幸運にも形を残した古代の木製品を継承する責任から目を背けてはならないと考える。

7月25日（月）から10月14日（金）までの会期中、559名の方々に観覧いただき、観覧者からは「木の利用は大昔からあったようで、古いようで新しい気がする」「今回の展示ははじめてでは？今後もいろいろな企画をお願いします」などの声が寄せられた。

写真1　企画展ポスター

写真2　展示の模様

2．山口県大学ML連携特別展『学びはぐくむ～モノから学ぶ歴史教科書～』

参加館が共通テーマに沿って各大学や館の特性を生かした学術資料または研究成果の展示を開催するという現行体制での4年目を迎えた山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携特別展。平成28年度の共通テーマは「はぐくむ」に決定された。

本学からは、当館と総合図書館、医学部図書館、工学部図書館の4館が参加をしており、毎年本学共通の展示タイトルを定めている。当該年度は「学び はぐくむ」が共通タイトルとなったことを受け、当館では歴史教科書を素材とする企画を実施することにした。

現在、日本の学制は6・3・3・4制を採用している。日本の歴史については、初等教育の末年である小学6年生から学び始め、前期中等教育をおこなう中学校でやや詳細に学ぶものの、後期中等教育をおこなう高等学校では必履修科目中の選択科目となるため、全ての高校生が学ぶ科目とはなっていない。さらに極めて限られた期間で悠久の列島人類史を学ばなくてはならないことから、初・中等教育ではどうしても「日本史＝教科書の暗記」になりがちである。

展示では、考古学の研究成果が大きく反映する先史時代から古代にかけての現行歴史教科書(小・中学校、高等学校)の記述を確認するとともに、吉田遺跡から出土した遺物を用いて教科書記述の検証を行った。具体的には「教科書記述の根拠となる実物資料」「実物資料から見た教科書記述への疑問」「教科書記述から実物資料が識別可能か」という視点から展示を構築した。

平成28年10月29日(土)から平成29年1月31日(火)の会期中、561名もの方々に見学いただいた。観覧者からは「大学らしい展示で楽しかった」「普通の博物館では踏み込めないテーマだった」などの声が数多く寄せられた。特に「中等教育の日本史学習で本当に縄文土器と弥生土器が見分けられるか」というコーナーは好評で、「見分けられない」ことに驚く姿が印象的であった。

また、展示では古代の学習帳とも言うべき「千字文音義木簡(本書付篇1(192～200頁参照))」の実物初公開もおこなった。それにあわせ、10月30日(日)に開催された姫山祭(吉田キャンパス大学祭)にて、吉田遺跡出土品をもとに復元した円面硯にて墨を擦り、木板に文字を書く「木簡ワークショップ」(参加者20名)と、古代の墨づくりの実演をおこなったほか、11月12日(土)にミュージアムトーク(参加者12名)を開催し、いずれも好評を博した。

写真3 ミュージアムトークの模様

写真4 ワークショップの模様

3．第5回山口大学所蔵学術資産継承事業成果展「宝山の一角」を共催にて開催

平成24年度より、山口大学学術資産継承事業委員会（以下委員会と記述）が主催する事業成果展『宝山の一角』の共催館として、展示空間の提供と展示設営協力、会期中の管理運営を行っている。

展示は例年どおり前期・後期の2部構成で、前期展は山口商工会議所主催「山口お宝展」への参加企画も兼ね平成29年2月25日（土）から4月21日（金）まで、後期展は5月8日（月）から6月30日（金）までの会期で開催された。

当館は共催館として展示会場の管理を行うと同時に、前期展にて見島ジーコンボ古墳群（山口県萩市所在）出土資料を出展することとなった。

前期展では、文書資料として西山塾及び大楽源太郎資料（図書館）、地震と断層に関連する鉱物・岩石資料（理学部）、美術資料として植木未魚子作品（教育学部）、商品資料として山口焼（経済学部）が、後期展では文書資料として近現代東アジア関連資料（経済学部）、考古資料として立野経塚（山口県光市所在）出土経筒、鉱物資料として新鉱物と稀産鉱物（工学部）、生物標本資料としてニホンザルの交連骨格標本（共同獣医学部）、シロアリと秋吉台の昆虫（農学部）が展示された。

前後期ともミュージアムトーク（展示解説）を開催したが、特に後期展のトークは所蔵学部の教員や大学院生が解説を行ったこともあり、参加者も多く（12名）、熱気溢れる会になった。

前期展では720名、後期展では565名、総数1,285名もの方々に観覧いただいた。観覧者からは「貴重なコレクションの公開展示を続けて欲しい」「昔の資料の散逸を危惧しており、個人の所蔵を1ヶ所に集めて管理していく必要を感じた」「山口大学がお持ちの埋文資料を時代別にシリーズで見たい」などの声が寄せられた。

『宝山の一角』展は、本学が教育研究に活用する資料を分かりやすく紹介していることもあり、新入生のガイダンスや授業の課題として活用されることが年を追って多くなっている。本学の特色ある行事として継続するよう、当館としては今後も協力を惜しまない所存であるが、同時に「資料の保存・管理・継承」という博物館の一次機能を基幹業務とする組織として、委員会の活動を支援するとともに、適切な助言等を与えられるよう努力していきたい。

写真5　前期ミュージアムトークの模様

写真6　後期ミュージアムトークの模様

4．平成28年度刊行物

1.『山口大学構内遺跡調査研究年報ＸＸ』

当年報は埋蔵文化財資料館設立以来、平成14年度まで刊行したシリーズである。前年度に刊行した平成13年度年報に続き、平成28年度は平成12年に実施した構内遺跡調査報告を所収した年報を刊行した。事前調査1件（吉田）、試掘調査2件（吉田1・常盤1）、立会調査12件（吉田9・白石1・光2）の成果が掲載されている。そのほか、田畑直彦による「吉田遺跡第Ⅰ地区B区の未報告図面について」と題する付篇を所収している。

事前調査1件は、吉田構内総合研究等新営に伴う調査であり、弥生時代から古代の遺物を包含する埋没谷が確認されており、円面硯や製塩土器、弥生時代中期末から後期初頭の弥生土器や打製石鏃、磨製石器などの出土が報告されている。

2. 館蔵資料調査研究報告書6『見島ジーコンボ古墳群第123号墳・第152号墳（再）・西部域出土資料調査報告』

平成22年度から開始した事業で、継続的に見島ジーコンボ古墳群の出土資料調査及び報告書の刊行を実施してきた。平成28年度は、古墳群西部域調査の最終年度であり、第123号墳が調査対象であったが、当館所蔵品に新たに第152号墳出土と目される資料群が確認されたことから、第152号墳出土資料の再調査（接合検討）も実施することとなった。

平成28年5月16日から6月3日にかけて、第123号墳と第152号墳を対象に、当館と萩博物館の収蔵資料の悉皆調査を実施し、その成果を収録した。また、昭和35年（1960）に実施された分布調査にて採取されたと推定される当館所蔵古墳群西部域資料の調査成果も公開した。

3. 山口大学埋蔵文化財資料館通信 第26号『てらこや埋文』

平成18年(2005)より刊行を開始した広報誌であり、当初季刊で刊行していたが、平成23年度以降は年度末に1度の刊行となっている。巻頭頁は当該年度に実施した吉田構内動物病理解剖実習棟の調査成果速報を、2頁から3頁には展示活動、4頁から5頁には山口県立山口博物館との共済事業などを、6頁にはワークショップ関連記事を、7頁には「資料館この一品」として「千字文」音義木簡を掲載した。

当広報誌は当館をはじめ県内博物館施設で無料配布しており、県立図書館などにも収蔵されている。

写真7　平成 28 年度埋蔵文化財資料館刊行物

第2節　資料館における社会教育活動

1. 山口県立山口博物館との共催事業『講座　遺跡ウォークラリー』

当館は、平成27年(2016)6月24日に山口県立山口博物館と連携協力協定を締結した。前年度はその取り組みの第一歩として企画展『半世紀の遺跡調査から読み解く　先史・古代の平川』を当館にて開催し、関連して『山口市平川地区の遺跡探訪』を実施した。

その後、両館で平成28年度以降の事業を協議したところ、「国と県の施設が連携するのであれば、より広域に活動の場を広げるべき」との意見で一致したことから、平成28年度は山口県田布施町にて講座『遺跡ウォークラリー』(共催:田布施町教育委員会)を開催することとなった。

田布施町には、当県最初期の古墳である国森古墳をはじめ、当県最大規模の横穴式石室をもつ後井古墳群などが存在する。現在でこそのどかな田園風景が広がっている町であるが、古墳時代には周辺域を束ねる豪族が居を構えたと推定される地域である。半日では回りきれないほど著名な遺跡が広範囲に分布することから、今回は町域の西半部を中心に見学することにした。10月8日(土)に開催したウォークラリーのスケジュールは以下のとおりであった。

13時00分　田布施町郷土館集合　展示見学・資料解説(写真8)

13時55分　国森古墳(写真9・10)→14時20分　石走山古墳群→14時50分　後井古墳群(写真11)→15時15分　稲荷山古墳群→15時40分　御蔵戸キツネビラ古墳(写真12・13)→15時55分　田布施町郷土館

綿密な下見等の準備を行い、約3時間かけてゆっくりと遺跡を探訪する予定であったが、開催当日は前線をともなった低気圧の急接近により、夕刻から豪雨との予報であった。急遽スケジュールを1時間短縮することとなり、17名の参加者とともに急ぎ足で遺跡を巡ることになった。

古墳時代、柳井湾から平生湾にかけては古柳井(熊毛)水道が存在し、室津(熊毛)半島は本州と分離して島となっていた、とされている。田布施町郷土館では、推定される古柳井水道の範囲と古墳の分布域を確認し、各古墳から出土した土器や金属器などの実物資料を見学した。

その後、田布施町公用車にて2㎞西方の国森古墳へ移動した。準備段階で「ウォークラリーで自動車移動はいかがなものか」との意見もあったが、4月におこなった下見では総数2万歩を計測するコースであることを確認していた。参加者の主体が高齢者であることが予想されたこともあり、歩行距離の短縮はやむを得ないとの判断であった。

国森古墳から御蔵戸キツネビラ古墳までは、徒歩で見学を続けた。蒸し暑い日だったが、参加者は健脚ぞろいだったようで、足下のやや危険な場所もなんなく踏破していた。先を急がざるを得ないため、残念ながら各遺跡での説明は概略的なものになってしまったが、遺跡の立地状況を確認し、古墳時代の風景を想像しながら、楽しく歩を進めることができた。

残念ながら、最終目的地の御蔵戸キツネビラ古墳目前で雨が降り始めた。初志貫徹とばかりに参加者とともにあわただしく古墳に駆け上がり、巨大横穴式石室の見学を行った。

その後、再び田布施町公用車にて田布施町郷土館に戻り、散会となったが、参加者の方々からは「郷土の歴史をくわしく知りました。できるならもっとゆっくり！」「日頃行けない古墳を見ることができて興味深かったです」「ぜひ下松市でも開催して欲しい」などの声が聞かれた。課題も多く残った講座となったが、参加者の満足度は高かったようで、事業の継続的な開催に自信を得られる1日となった。

末筆になりるが、田布施町教育委員会の方々に多大なる協力をいただいたことに対し、お礼申し上げたい。

写真8　田布施町郷土館にて資料解説

写真9　国森古墳へ

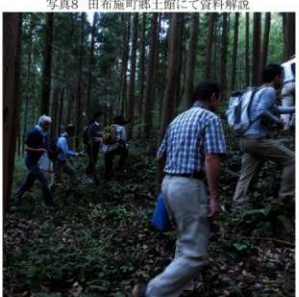


写真 10　国森古墳見学

写真 11　後井古墳見学

写真 12　最終見学地へ

写真 13　御蔵戸キツネビラ古墳

第2章　平成28年度山口大学構内遺跡の調査

第1節　平成28年度に実施した遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市（吉田・白石構内）、宇部市（小串・常盤構内）、光市（光構内）の県内各市に分散しているが、各構内は「周知の埋蔵文化財包蔵地」内、つまり遺跡の上に立地している。各構内の様相を概観すると、吉田構内は縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての全時代を網羅する複合集落遺跡であり、官衙遺跡としても著名である吉田遺跡内に、白石構内は弥生時代から古墳時代を中心とした集落遺跡である白石遺跡内に、小串・常盤構内は旧石器時代から江戸時代にかけての遺物を包含する山口大学医学部構内遺跡内・山口大学工学部構内遺跡内に、光構内は縄文時代から江戸時代にかけての集落遺跡・遺物散布地である御手洗遺跡と月待山遺跡にまたがり立地している。

このような環境のもと、山口大学埋蔵文化財資料館は山口大学構内に埋存する貴重な埋蔵文化財の保護・調査・研究・活用する施設として昭和52年(1977)に竣工し、昭和54年(1979)に教職員が配置されて以降、その重責を担い続けている。当館の平成28年度時の調査体制は以下の通りである。

まず、各構内において地下掘削を伴う工事が立案・計画された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において事業計画を確認した後、文化財保護法の諸手続のもと、山口大学各構内が所在する地方公共団体（山口県および各市）の指導により、埋蔵文化財保護の観点から本発掘・予備発掘・立会の3種の方法で厳密に調査を行っている。「周知の埋蔵文化財包蔵地」外に位置する大学関連施設（職員宿舎等）敷地内で地下掘削を伴う工事が実施される場合においても、埋蔵文化財の新規発見の可能性を考慮して、できる限り工事掘削時に資料館員が確認調査を行っている。これらの調査に対する平成28年度の当館の教職員配置は、専任教員3名、教務補佐員1名、技術補佐員1名であった。

上記の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において、遺跡のさらなる現状変更を避けるべく、工事計画、工法の変更等で現状保存が可能であるかどうか厳格な協議を行い、保存方法を選定している。また、調査成果については、地方公共団体への報告後、内業整理等を経て可能な限り迅速に発掘調査概報（年報）を刊行している。

上記の調査体制のもと、平成28年度に当館が実施した大学構内における埋蔵文化財調査は、表3のとおり、本発掘調査1件（予備発掘調査から本発掘調査に移行）、立会調査8件の計9件であった。

表3　平成28年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区割	面積（㎡）	調査期間	本書掲載頁
本発掘	実習棟（動物病理解剖施設）新営その他工事	吉田	Q･R-19	491	7月20日～10月19日	12-145
立会	実習棟（動物病理解剖施設）新営その他工事	吉田	Q･R-18･19	233	11月1日～1月23日	146-149
	総合研究棟（国際総合科学部）改修工事	吉田	H-18	160	7月20･26日	150
	農学部果樹園排水工事	吉田	O-15	9	11月1日	151-153
	人文学部駐輪場屋根新設工事	吉田	M-20	26	3月14日	154
	共通教育棟周辺駐輪場整備工事	吉田	J･K･L-16 J･L-17	53	9月2･3･8日 10月19日 11月7日	155
	教育学部附属山口小学校雨水管改修工事	白石		24	12月21日～1月5日	156-159
	基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事（自家発電設備工事）	小串		100	1月17～20日	160-163
	教育学部附属光小学校 バスケットゴール設置工事	光		4	1月14日	164

吉田構内（本部、人文・教育・経済・理・農の各学部：山口市吉田1677-1、教育学部附属特別支援学校：同吉田3003所在）

例年どおり、平成28年度の埋蔵文化財調査も吉田構内に集中し、その件数は本発掘調査1件、立会調査5件を数える。

昨年度同様、当該年度は共同獣医学部が欧州獣医学教育国際認証を取得するために必要な施設拡充が計画されたことから、引き続き吉田構内南東部、動物医療センター周域で開発工事が計画された。実習棟（動物病理解剖施設※現：総合病性鑑定研究施設）新営工事については、周囲の既往調査の成果から古代官衙に関連する遺構や遺物が地下に埋存することが明白であったため、予備発掘調査終了後の埋蔵文化財資料館専門委員会審議時に計画地の変更を強く働きかけたが、本学の教育研究面での利便性が優先させるという本学執行部の判断から、本発掘調査を実施した上で記録保存する運びとなった。調査の結果、古代の遺物を多量に含む埋没谷（既往調査における谷埋土下層）と包含層（既往調査における谷埋土上層）が確認され、円面硯や製塩土器、鞴羽口など、古代官衙に関連する遺物が

写真14 吉田構内航空写真（南東から）

写真15 白石構内（教育学部附属山口幼稚園・小学校）
航空写真（東から）

写真16 白石構内（教育学部附属山口中学校）
航空写真（南から）

図1 山口大学吉田・白石構内位置図

多量に出土したほか、主に北区西部（農学部解剖実習棟側）にピット等の遺構を多数検出した。

農学部果樹園排水工事は、構内中央部西側に立地する第2学生食堂西側で計画された。第2学生食堂敷地および西に隣接する大学会館前庭部（遺跡保存地区）では、既往の調査成果により、主として弥生時代および古墳時代の集落跡や、古代の大溝が分布することが明らかとなっている。工事に対しては立会調査にて対応したが、耕土直下に遺構面が確認され、竪穴式住居の可能性のある大型遺構など複数の遺構が検出されたため、関係各位と協議をおこない、工法変更（盛土）により遺構群を保護することとなった。

白石構内（教育学部附属山口幼稚園：山口市白石三丁目1-2、同山口小学校：白石三丁目1-1、同山口中学校：白石一丁目9-1所在）

立会調査1件を実施した。教育学部附属山口小学校雨水管改修は掘削深度の深い工事であり、既往の調査成果から、埋蔵文化財に支障が生じることは明白であったが、工事規模が狭小であったことから、本発掘調査同等の精度で調査を実施することを条件に、工事立会対応とした。調査の結果、遺物包含層下に、密ではないものの土壙、ピット、流路を確認した。

小串構内（医学部，同付属病院：宇部市南小串1丁目1-1）

立会調査1件を実施した。基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事（自家発電設備工事）は、掘削面積および深度から発掘調査対応が必要な事案であったが、診療棟・病棟本体工事の遅延のため十分な調査期間が確保できない状況にあったため、やむなく白石構内と同様に、本発掘調査同等の精度にて調査を実施することを条件に、工事立会対応とした。調査の結果、旧海底面（汽水域貝堆積層）にて弥生土器と石錘を確認した。

常盤構内（工学部：宇部市常盤台2丁目16-1、尾山宿舎：同上野中町2658-3所在）

平成28年度中に土地の掘削を伴う工事計画は立案されなかった。

光構内（教育学部附属光小学校、同光中学校：光市室積8丁目4番1号）

立会調査1件を実施したが、埋蔵文化財に支障は生じなかった。

図2 小串・常盤構内位置図

写真17 小串構内航空写真（南東から）

写真18 常盤構内航空写真（南から）

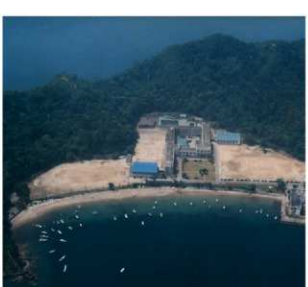


写真19 光構内航空写真（北東から）

図3 光構内位置図

第2節　吉田構内(吉田遺跡)の調査

1．実習棟(動物病理解剖施設)新営その他工事に伴う予備発掘調査・本発掘調査

図4　調査区位置図

写真20　調査前全景（西から）

写真21　調査前全景（南東から）

調査地区　吉田構内Q・R-19区

調査面積　491㎡

調査期間　平成24年7月20日～10月19日

調査担当　川島尚宗　横山成己　田畑直彦　山田圭子

調査結果

(1)調査の経緯(図4、写真20・21)

吉田構内東側に位置する総合研究棟南側の敷地において、動物病理解剖施設の新営が計画された(図4)。周辺では、古代の埋没谷に沿って土器・木製品などの遺物が濃密に分布するほか、平成14年度におこなわれた解剖実習棟新営に伴う発掘調査で古代の掘立柱建物群が検出されている[注1]。さらに、平成27年度の動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査で国内5例目となる音義木簡が出土しており[注2]、今回の調査地点は吉田構内においても古代官衙に関連する遺構・遺物が非常に密に分布する地点となっている。

平成12年度の総合研究棟新営に伴いおこなわれた試掘調査・発掘調査では、南東から北西方向への埋没谷が検出された[注3]。この際の調査区南端は、今回の調査地点(北区)と重複しているが、総合研究棟建物の開発範囲外であったことから、埋没谷の上面を検出した状態で調査が完了していた(図5、写真22)。今回の開発では、総合研究棟南側敷地の大部分におよび、また建屋本体・管路の掘削深度が平成12年度の調査で明らかとなっていた遺物包含層および埋没谷に到達することが確実視されたが、埋没谷以外の遺構分布が希薄であったことから、建屋敷地を対象に予備発掘調査を実施し、当地点における埋蔵文化財の遺存状況について確認することが、平成25年第10回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成26年3月24日開催)にて承認された[注4]。

(川島)

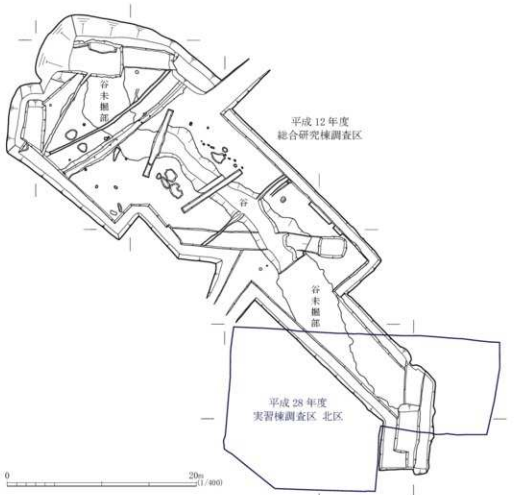


図 5 総合研究棟調査区との位置関係

写真 22 総合研究棟調査区（北西から）

【註】

1) 田畑直彦(2004)「平成14年度山口大学構内遺跡調査の概要」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ・ⅩⅦ』,山口

2) 横山成己(2018)「吉田遺跡出土「千字文」音義木簡略報」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成25年度－』,山口
横山成己(2020)「動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成27年度－』,山口

3) 田畑直彦(2017)「吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅨ』,山口

4) 計画当初の新営建物名称は「健体病態解剖実習施設」であったが,計画が具体化する過程で「動物病理解剖施設」へと名称変更が行われ,竣工後に「総合病性鑑定研究施設」に再変更された。

(2)調査の経過

調査は,平成28年7月20日に開始し,南区では20日から21日まで,北区では21日から28日まで重機掘削をおこなった(写真23)。南区では,大半が攪乱を受けていたものの,南側の一部,および北側で遺物包含層を確認できた(写真25～27)。攪乱部分は雨水がたびたび溜まる状況であったため,調査区東壁崩落の危険性があると判断し,記録作業終了後,北区に先行して埋め戻しをおこなった。

北区では,北東隅,南西隅において地山を検出し,これらに挟まれる形で谷状の地形を形成していることが判明した。この後,遺物包含層上面の検出作業をおこない,8月5日に遺物包含層の範囲を確認し(写真40・41),遺物包含層の掘削を進めた。2枚の遺物包含層および谷埋土1の上部を掘削後,9月7日に埋没谷の肩部を検出することができた(写真44・45)。埋没谷においては,9月15日までに建屋基礎掘削深度に抵触する谷埋土2までの掘削を終えた。

予備発掘調査は9月16日にて終了予定であったが,完掘写真撮影に伴う清掃作業中に遺構が多数検出されたため,9月16日に開催された平成28年度第4回埋蔵文化財資料館専門委員会の審議では,調査の経過報告をおこなった。専門委員会直前に検出された遺構が未掘状態で遺跡の性格が不明確であったことから,委員からは調査を継続し遺構などの性格を明らかにした上で,遺構の保存を検討すべきとの意見が提出された。現状保存か記録保存かの議論については委員会の場で結論を出しえなかったため,委員会後に本学執行部に判断を一任したところ,9月20日に当該調査区の記録保存の判断がくだされた。同時に,施設環境部より,工期の都合上10月半ばには発掘現場を開発工事業者へ引き渡してもらいたい旨要望があった。これをうけ,9月26日より,設備関連の工事により遺構に支障をきたすおそれのある北区西側を西へ2.5m拡張して本発掘調査に移行した。他の設備関連工事区についても掘削深度が遺構確認面まで及ぶ地点はあったが,排土置場や重機の通路確保のため,やむなく立会調査にて対応することとなった。引き続き地山上面での遺構検出作業を進め,谷左岸(調査区西側)では9月27日に,谷右岸(調査区東側)では10月4日に遺構検出写真を撮影した(写真46・47)。

10月7日に,発掘現場にて第5回埋蔵文化財資料館専門委員会が開催され,谷右岸の遺構の掘削が完了しておらず不明な点も多かったものの,調査の進捗状況と成果について説明をおこなった結果,最終的に当調査区の記録保存が承認された。委員会後,調査区東端の土留付近も精査した結果,遺構が複数検出され(図8),埋没谷に関しては建屋基礎下が地盤改良工事により破壊されることが判明した。そのため,谷埋土3の完掘をおこない,検出された遺構の掘削・記録作業を進めた。遺構については,

谷左岸で10月13日に、谷右岸で10月15日に完掘後の写真撮影をおこない(写真128・129)、同日、図面も含めた記録作業を完了した。なお、施設環境部との協議により現場引き渡し日が10月20日と決定され、谷左岸の埋め戻しを10月14日より開始したため、調査区の全景完掘写真は撮影していない。埋め戻し作業および撤収作業は10月19日に完了した。 (川島)

(3)基本層序(図9、写真34)

北区北東で観察された基本層序は、1:表土(層厚5～10cm)、2:旧耕土・床土(層厚20～25cm)、3:遺物包含層1(黒褐色粘質土、層厚20～25cm)、4:遺物包含層2(暗灰黄色粘質土、層厚10～20cm)、5:谷埋土(最大層厚100cm以上)[註1]5:地山[註2](明黄褐色礫混土)である(図9・10・写真34～39)。旧耕土は調査区全体で確認されているが、床土は標高のやや高い北区東側でのみ確認されている。遺物包含層からの出土遺物は古代の須恵器を中心とするものの、特に上位の遺物包含層1には中世の遺物もわずかながら含まれることから、中世に形成された層と考えられる[註3]。北区北東隅と南西隅では、旧耕土の直下にて地山が検出されており、後世に削平を受けていると考えられる。谷左岸に関しては、現在道路で切り通されているが[註4]、本来の地形は、南側の農学部附属農場牧草地へ緩やかにつながっていたと考えられる。

調査区中央部には谷筋が確認され、谷の最深部は調査区上面から約150cmをはかる。河川底部は砂礫層であるが、右岸側にはシルト層が地山としてあらわれている。谷の堆積土は、4層に大別される。1層・2層は灰色系の粘質土で古代の遺物を多く含んでいる。3層は黒褐色粘質土で、遺物量はわずかである。最下層の4層は砂礫層で、弥生土器片が集中する地点もあったが、遺物量は少ない[註5]。今回の調査区では、谷筋が蛇行する部分が確認されており、弥生時代以降、水流が緩やかになった時期があり、さらに古代に至り、遺物を含む粘質土が流れ込み、谷の堆積が進んだと考えられる。 (川島・横山)

【註】

1)谷埋土4(黒色粘質土と暗黄灰色砂質土の互層:図9北壁の19層)は本発掘終了時に完掘しておらず(写真46・47)、調査区壁際の断ち割り部で深度を確認したにすぎない(写真34・38・39)。掘り残した谷埋土4は、実習棟新営工事時に破壊を受けており、その際に実施した立会調査において、弥生土器とみられる小片4点を確認している(本書「実習棟(動物病理解剖施設)新営その他工事に伴う立会調査」146～149頁参照)。

2)地山は均一な土質ではなく、灰黄褐色粘質土、黄褐色粘質土、にぶい黄褐色礫混砂質土、にぶい褐色礫混砂質土(図9北壁24～27層)、暗灰黄色礫混粘質土、明黄褐色礫混粘質土(図9西壁8～9層)などが見られる。この内の上位層には遺物のめり込みが見られるが、確認された遺構群は当層上面に検出されることから、当層が往時の地表面であったことを示しているか、上位に堆積する遺物包含層に起因するものと考えている。

3)当調査での「遺物包含層」とは、北東・南西方向から谷筋(谷最深部)に向かう傾斜地に自然堆積した層を示す。この堆積層は周辺地での既往調査における「谷埋土上層」に該当するものと思われる。すなわち、当調査「遺物包含層2」が既往調査「Ⅳ期谷緩傾斜地埋没期＝谷埋土2下層堆積時期」に、「遺物包含層1」が「Ⅴ期 谷筋の平坦化時期＝谷埋土2上層・谷埋土1堆積時期」に相当する。既往調査谷埋土1に、わずかながら中世土師器や瓦質土器が見られることもこれを裏付ける。

4)この道は本学吉田地区統合移転前に確認できないことから、吉田構内造成時に設けられたものと思われる(本学web『写真で見る山口大学』「1965年(昭和40年)山口市吉田地区(統合移転前)」http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~soumuka/50kinen/i-seibi.html)。

5)当層は、北区に一部重複する総合研究棟新営に伴う発掘調査区にて確認された「第Ⅶ層＝縄文～弥生時代谷埋土1」に相当すると思われるが、土質は大きく異なるようである。

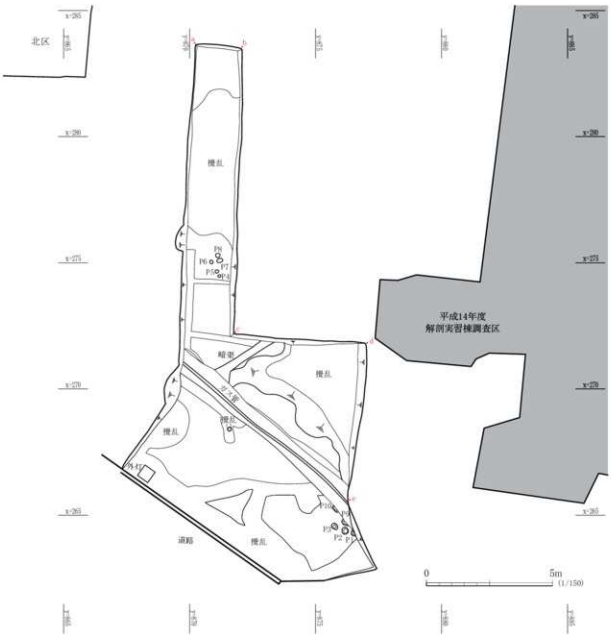
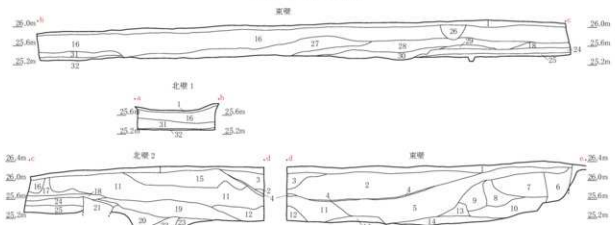


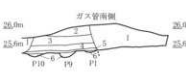
図 6　南区平面図

写真 23　南区重機掘削風景（東から）

写真 24　作業風景（北東から）



1 にぶい黄橙色(10YR7/2)砂質土(マサ土)
2 灰黄褐色(10YR6/2)粘質土(密で硬くしまる、撹乱土)
3 にぶい黄色(2.5Y6/2)砂質土(マサ土、整地土)
4 黒褐色(10YR3/1)粘質土(密で硬くしまる、撹乱土)
5 褐灰色(10YR4/1)粘質土(密で硬くしまる、撹乱土)
6 明黄褐色(10YR6/6)粘質土(密で硬くしまる、ガス管掘方)
7 黄褐色(2.5Y5/3)粘質土(密で硬くしまる、電気掘方)
8 黒褐色(10YR3/2)粘質土(密で硬くしまる、撹乱土)
9 明赤褐色(2.5YR5/6)粘質土(やや粗くしまりは弱い、撹乱土)
10 黒褐色(10YR3/2)粘質土(やや粗くしまりは弱い、撹乱土)
11 にぶい褐色(7.5YR5/3)粘質土(やや粗く、やや しまりは弱い、撹乱土)
12 にぶい黄橙色(10YR7/2)粘質土(しまりは非常に弱い、地山)
13 にぶい黄橙色(10YR7/2)粘質土(しまりは非常に弱い、地山)
14 黄褐色(10YR5/6)粘質土(しまりは非常に弱い、地山)
15 灰黄色(2.5Y6/2)粘質土(やや粗く、やや しまり弱い)
16 灰黄褐色(10YR6/2)粘質土(やや密、硬くしまる)
17 褐灰色(10YR5/1)粘質土(密、硬くしまる)
18 灰白色(5Y7/2)粘質土(密、硬くしまる、上部にパラス含む)
19 灰色(5Y4/1)粘質土(密、硬くしまる)
20 明黄褐色(10YR6/6)粘質土(やや粗く、しまりは弱い)
21 灰黄色(2.5Y6/2)粘質土(密、かたくしまる、暗褐理土)
22 黄褐色(10YR5/8)粘質土(やや粗く、しまりは弱い)
23 褐灰色(10YR5/1)粘質土(密、しまりは弱い)
24 黒褐色(10YR3/2)粘質土(極めて密、硬くしまる、遺物包含層)
25 にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土(やや粗く、やや しまりは弱い、地山に類似)
26 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土(やや粗く、しまりは弱い)
27 暗灰黄色(2.5Y4/2)粘質土(粗く、しまりは弱い、パラスを多量に含む)
28 灰オリーブ色(5Y5/2)粘質土(密、硬くしまる)
29 灰黄色(2.5Y6/2)粘質土(密、硬くしまる)
30 にぶい黄橙色(10YR6/4)粘質土(やや粗く、やや しまりは弱い)
31 オリーブ褐色(2.5Y4/3)粘質土(密、硬くしまる、鉄分質強い耕土)
32 黒褐色(2.5Y3/2)粘質土(密、硬くしまる、遺物包含層)



1 にぶい黄色(2.5Y6/3)粘質土(粗く、硬くしまる、撹乱土)
2 明黄褐色(2.5Y7/6)粘質土(粗く、硬くしまる、撹乱土)
3 耕土 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘質土(密、硬くしまる、耕土)
4 遺物包含層 黒褐色(7.5YR3/1)粘質土(密、硬くしまる、遺物包含層)
5 遺構埋土 褐灰色(7.5YR4/1)粘質土(粗い0.5～3cm大の礫を多量に含む)
6 遺構埋土 褐灰色(7.5YR5/1)粘質土(粗い0.5～3cm大の礫を多量に含む)

0 4m (1/80)

図7 南区断面図

写真 25 南区北半東壁土層断面（北西から）

写真 26　南区南半東壁土層断面（西から）

写真 27　南区南半北壁土層断面（南から）

写真 28　南区南半遺構検出状況（西から）

写真 29　南区南半遺構完掘状況（西から）

写真 30　南区北半遺構検出状況（南東から）

写真 31　南区北半遺構完掘状況（東から）

写真 32　南区南半完掘状況（北東から）

写真 33　南区北半完掘状況（東から）

(4)遺構

南区(図6、写真28～31)

南区南側の大部分は、大きく攪乱を受けている。南区南側において、5基のピットを確認した(図6、写真28・29)。いずれも平面形が円形となる。残存部が浅く、遺存状態は良くない。これらのうち、Pit2とPit3より土師器、須恵器の小片が出土している。また、近世以降の暗渠が検出された(写真32)。暗渠は南へと続いたものと考えられるが、攪乱を受け規模は不明である。南区北側では、性格不明の小ピット5基を検出した(写真30・31)。

北区(図8・11、写真42～129)

北区では、遺物包含層2の上面において、L字状に延びる溝状遺構(SD1)を検出した(図11、写真42・43)。溝は南をコーナーとして北東、北西方向に走っており、幅48～55cm、深さ3～5cmを測る。埋土は2層に区分可能で、下層は暗灰黄色(2.5Y5/2)粘質土で硬くしまっており、上層は黒褐色(2.5Y3/1)粘質土で、遺物は上層に含まれていた。出土した遺物は古代の須恵器、土師器で、一部は上層に堆積する遺物包含層1出土資料と接合した(図39、表5)。溝の上層埋土が遺物包含層1の土質(黒褐色(10YR3/1)粘質土)に類似することから、遺物包含層1堆積時に埋没した可能性を残す。

他はいずれも地山に検出した遺構である。

埋没谷は、北区のほぼ中央で検出した。上流は南東から北西方向に走るが、調査区の中央で北北西に方向を変える。谷幅は6.75～7.5mである。谷の埋土は、土層観察用のアゼ北面において(図10の東側南壁－アゼ)、谷埋土1(暗褐黄色(2.5Y4/2)粘質土、層厚20cm)、谷埋土2(黄灰色(2.5Y6/1)粘質土、層厚20cm)、谷埋土3(灰色(5Y5/1)粘質土、層厚10cm)、谷埋土4(灰白色(5Y8/1)砂質土と灰色(10Y6/1)の互層、20～25cm)という基本的な層序が確認された(写真37・38)。谷埋土1・2からは、古代の須恵器を中心とする遺物が多量に出土した。また谷埋土2からは少量ながら木製品も出土したことから、当調査の谷埋土2が既往調査の谷埋土3上層に相当する可能性が高い。谷埋土3からは、作業台など石製品が数点確認されたものの、土器は確認されていない。谷埋土4は一部しか掘り下げていないものの、土層観察用アゼ北側断ち割り部にて弥生土器が集中する地点が確認されたほか、立会調査においても弥生土器と見られる小片を確認している。谷右岸の灰色(7.5Y6/1)砂礫層より下位の明褐色(7.5YR5/6)砂礫層は、弥生時代以前の谷埋土とみられたが、北区北壁の断ち割り調査にて掘削したものの、遺物は確認できなかった(図9の北壁、写真34)。なお、より高所にて平成20年度に確認した谷左岸の護岸杭列は、当調査区では確認されなかった。その理由としては、平成20年度調査区に比して、谷の西側に南西方向に延びる丘陵までの距離が遠く、左岸が緩傾斜となっていたこと、もしくは当調査区谷右岸部付近までが古代官衙域で、当調査区左岸部は城外であった可能性などが考えられる。

埋没谷の左岸では、土壙(SK)2基、ピット(Pit)36基、性格不明の落ち込み遺構(SX)5基を検出した(図8、写真47)。遺構群の規則的な配置が確認できず、建物を復元しうる柱穴は確認できていない。

土壙としたもの2基のうちSK2は、調査区南壁精査時に上層からの掘り込みであることが確認された(写真126)。Pit11～48(写真62～84)は、深度が5～10cmほどと浅いものが多い。多くの遺構埋土の色調は褐色(10YR4/1～6または7.5YR4/2～4)～にぶい黄褐色(10YR5/3・4)を呈し、粘性は総じて強かった。遺構埋土のしまりは強いものが多いが、礫を多量に含む粘質土やシルト質の遺構埋土にはしまりの弱いものもみられた。調査区西端で検出された遺構は、埋土が遺物包含層2(明黄褐色(2.5Y6/6)礫混粘質土)に類似するものもあり、さらに深度が浅いため、これらは染み込みである可能性が高いと考えられる。また、谷の肩部で検出されたPit26からは土師器と須恵器が出土したものの、埋土(褐色(10YR4/

6)粘質土)は谷埋土2(黄灰色(2.5Y6/1)粘質土)と類似しており、自然に形成された窪みに谷埋土が堆積したものと考えられる。

一方で、SX3(図12、写真48～53)のように、長軸1.63m×短軸1.45mの不整円形を呈し、検出面から0.3mの深さをもつ遺構も存在する。SX3の埋土は上層が浅黄色(2.5Y8/4)粘質土で下層が褐色(7.5YR 4/4)粘質土であり、検出当初から北東部での地山(浅黄色(2.5Y7/4)粘質土)との境界が不明瞭であった(写真48・50)。SX3は風倒木痕の可能性が高いのではなかろうか。明確に形状を把握できなかったSX4(写真123)も同様の痕跡である可能性が指摘できる。

SX2(写真122)に関しては、遺構の西半が調査区外で、南端部が撹乱により破壊されていた。半裁掘削を行い、深度25cmで底面に至ることを確認したが、遺物が含まれていないこと、遺構壁面に沿う形状で地山状の粘土ブロックが帯状に挟まっていることなど、人為的な遺構として評価できなかったため、掘削を終了した。[註3]

遺物はPit26埋土内およびSX3検出面より須恵器や土師器が出土しているが、その他の遺構からは遺物が出土しておらず、各遺構の時期の判断は難しい。遺物包含層上面での遺構検出はし得ていないが、左岸における遺構の一部は中世の可能性が残される。

埋没谷右岸では、土壙(SK)1基、ピット(Pit)42基、性格不明の落ち込み遺構(SX)2基、杭跡17基が検出された(図8、写真46)。左岸と同様に大多数の遺構は浅いものの、左岸よりも柱穴など建物の存在を示唆する遺構が密に検出された。ただし、左岸と同様に深度の浅い遺構については、上層からの染み込みである可能性がある。

右岸で検出された遺構のうち、調査区東端で検出された柱穴(Pit77・78・91・103[註4]、Pit94・97)は、今回の調査区の中では比較的等間隔で規則的に並んでおり、調査区東外方に延びる掘立柱建物に復元できる可能性を有している(図8、写真107・108・111・114・115・120・128)。建物であれば、前者は1間約1.65m、後者は1間約1.95mの規模に復元される。これらの遺構から遺物は出土していないが、東に隣接する解剖実習棟調査区西端にて確認されたSB8、SB9との位置関係(図48)から、古代に属する施設である可能性がある。

杭に関しては明確な並びを見いだせない。地山への打ち込みも浅かったことから、遺物包含層より上位からの打ち込みの可能性も否定できない。

右岸でほかに注目される遺構は、2基の性格不明落ち込み遺構(SX6・SX7)である(図13・14、写真54～61)。SX6は長軸4.1m×短軸2.25mの隅丸長方形型を呈し、SX7は長軸2.98m×短軸2.22mの不整楕円形を呈する。検出面からの深さは、SX6で最大0.47m、SX7で最大0.29mを測る。SX6からは磨石状の円形石器が1点出土したほか遺物は確認されておらず、SX7も遺物の出土がみられないことから、両者の時期は判断できない。両者とも、遺構の中心部が地山に類似する土質(写真46・54)となっており(SX6:明黄褐色(10YR6/8)粘質土、SX7:浅黄色(5Y7/3)粘質土)、左岸にて検出されたSX3の埋土と類似点が認められる。今後類例との比較が必要となるが、ここでは風倒木痕との認識を示しておく。ただし、重複する他の遺構との関係では、SX7はPit4基(Pit57・81・82・83)にいずれも切られた状態であったが、SX6はPit3基(Pit69・70・71)には切られているものの、Pit2基(Pit63・76)には切られているように見受けられた。この切り合い関係が事実であれば、Pit71から古代の須恵器が出土していることから、SX6は風倒木痕ではなく、古代以前でPit76構築以降に設けられた遺構ということになる。

右岸で検出された遺構の埋土は、左岸と同様に褐色(10YR4/1～6または7.5YR4/2～4)、黄褐色(10YR5/6～8)、にぶい黄褐色(10YR5/3・4)を呈する礫混粘質土が主体であるが、中にはPit57のように灰

オリーブ色(5Y5/2)を呈する例もある。吉田キャンパスでは、中世の遺構埋土は灰色系の色調を呈する傾向があることから、Pit57は、埋土から須恵器が出土しているものの、中世に属する可能性が高い。

右岸の遺構からの出土遺物は、上記のPit57・71からの須恵器、SX6からの磨石状の円形石器のみであり、遺物からの遺構の時期比定は難しい。右岸で検出された遺構は、解剖実習棟敷地と近接することから古代に属するものが多いと考えられるが、Pit57の例にみられるように、中世の遺構も含まれている可能性がある。これらの遺構については、平成14年度におこなわれた解剖実習棟新営に伴う発掘調査の成果を参照しつつ、評価をしていく必要がある(図48)。 (川島・横山)

【註】

1)横山成己(2019)「動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事に伴う本発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』,山口

2)横山成己(2012)「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成20年度－』,山口

3)調査区西壁断面図作成後にSX2の掘削を行ったため、図9には遺構断面が反映されていない。

4)Pit103は平面および断面形状から溝である可能性を有している(写真120)。

5)このうちPit57から出土した褐もしくは器台とみられる須恵器は、遺物包含層1・2出土資料と接合関係にある(図24、写真138の249)。

6)解剖実習棟新営に伴う発掘調査の正式な調査報告は未刊行であるが、概要は下記に所収している。
田畑直彦(2004)「平成14年度山口大学構内遺跡調査の概要」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ・ⅩⅦ』,山口

(5)遺物(図16～47、写真130～160、表5～9)

当調査では、遺構からの遺物の出土は僅少であったが、遺物包含層および谷埋土から土器を中心に膨大な遺物の出土をみた。整理作業および図化作業等に長期間を要したため、各堆積層の遺物組成、傾向等を詳細に検討することはかなわなかったことから、可能な限りの資料公開を目標とした。南区、北区の順で掲載するが、北区の堆積層に含まれる遺物に関しては、本稿では下位の堆積層より報告をおこなう。なお、註を付す場合は頁が大きく乖離することを避けるため、各層報告文の末尾に置く。

[土器]

南区出土土器(図15、写真130、表5)

1～13は南区にわずかに遺存した遺物包含層に含まれていた土器である。南区では地山直上に堆積しているが、土質が黒褐色(2.5Y3/2)粘質土であることから(図7、写真25・27)、北区の遺物包含層1(黒褐色(10YR3/1または2/2、7.5YR3/1)、褐灰色(7.5YR4/6)粘質土)に相当するものと思われる。須恵器には坏蓋口縁部(**1・2**)、坏口縁部(**3～5**)、高台付坏底部(**6**)、坏底部(**8**)、壺底部(**7**)、皿口縁部(**9・10**)が、土師器には甕口縁部(**11**)、高台付坏または塊底部(**12**)がある。**13**は鎬蓮弁文の龍泉窯系青磁碗で、13世紀代のものとみられる。**14・15**は遺構検出面(地山)にめり込んだ資料で、須恵器の坏底部(**14**)と壺または甕の口縁部(**15**)がある。

その他はいずれも旧耕土や攪乱から出土した資料である。**17**は内面に布目は観察されないが、製塩土器の体部片とみられる。**21**は土師器塊の底部で、底部外面に糸切り痕が残る。11世紀代に属する資料であろう。

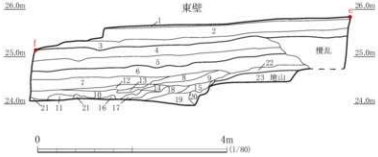
図8 北区平面図

図 9　北区北壁・西壁・西側南壁断面図

写真 34　北区北壁土層断面（南東から）

写真 35　北区西壁土層断面（南東から）

写真 36　北区西側南壁土層断面（北から）

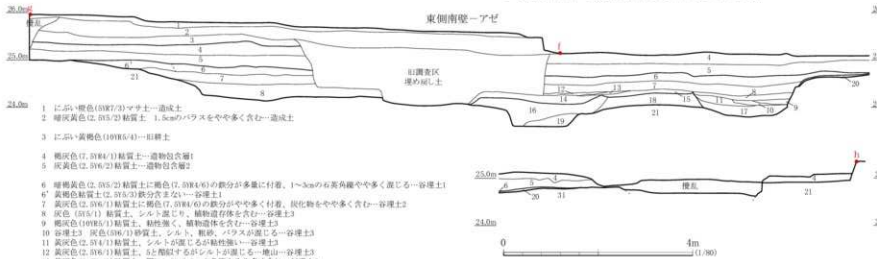


1 表土
2 オリーブ褐色（2.5Y4/4） 中礫を少量含む…造成土
3 暗灰黄（2.5Y4/2） 明黄褐色土ブロックを少量含む…旧耕土

4 黒褐色（10YR2/2） 中礫をやや多く含む…造物包含層1
5 にぶい黄褐色（10YR4/3） 中礫を多く含む…造物包含層2

6 暗灰黄色（2.5Y4/2） 炭化物をやや多く含む 中礫を多く含む 鉄分沈着が多い…谷埋土1
7 灰オリーブ（5Y4/2） 中礫を少量含む…谷埋土2
8 黒褐色（2.5Y3/2） 炭化物を多く含む…谷埋土2
9 暗灰黄色（2.5Y4/2）…谷埋土2
10 黒色（2.5Y1/1）～黒褐色（2.5Y3/2） 部分的にシルト質となる 炭化物をわずかに含む…谷埋土3
11 黒褐色（2.5Y3/1） 砂質土…谷埋土3
12 黄灰色（2.5Y4/1） 砂質～シルト質…谷埋土3
13 褐色（10YR3/4） 炭化物をやや多く含む 中礫を少量含む…谷埋土3
14 暗オリーブ（2.5Y3/3） 礫混じり粘質土…谷埋土3
15 暗褐色（10YR3/4） 中礫を多く含む…谷埋土3
16 黒色（2.5Y2/1） 中礫を多く含む…谷埋土3
17 黒褐色（2.5Y3/1） 礫混じり砂質土 鉄分沈着が部分的にみられる…谷埋土3
18 黒褐色（2.5Y3/2） 鉄分沈着がわずかにみられる…谷埋土3
19 黒褐色（2.5Y3/1） 礫混じり粘質土 鉄分沈着が多い 炭化物をわずかに含む…谷埋土3
21 黒褐色（2.5Y3/1） 砂礫層…谷埋土4
22 褐色（10Y5/6） 中礫を多く含む 鉄分沈着がやや多くみられる…谷埋土4

23 黄褐色（10YR5/8） 部分的にシルト質となる 中礫を少量含む…地山



1 にぶい橙色（5YR7/3）マサ土…造成土
2 暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土 1.5cmのバラスをやや多く含む…造成土

3 にぶい黄褐色（10YR5/4）…旧耕土

4 褐灰色（7.5YR4/1）粘質土…造物包含層1
5 灰黄色（2.5Y6/2）粘質土…造物包含層2

6 暗褐黄色（2.5Y5/2）粘質土に褐色（7.5YR4/6）の鉄分が多量に付着、1～3cmの石英角礫やや多く混じる…谷埋土1
6' 黄褐色粘質土（2.5Y5/3）鉄分含まない…谷埋土1
7 黄灰色（2.5Y6/1）粘質土に褐色（7.5YR4/6）の鉄分がやや多く付着、炭化物をやや多く含む…谷埋土2
8 灰色（5Y5/1） 粘質土、シルト混じり、植物遺体を含む…谷埋土3
9 褐灰色（10YR5/1）粘質土、粘性強く、植物遺体を含む…谷埋土3
10 谷埋土3 灰色（5Y6/1）砂質土、シルト、粗砂、バラスが混じる…谷埋土3
11 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土、シルトが混じるが粘性強い…谷埋土3
12 黄灰色（2.5Y6/1）粘質土、5と酷似するがシルトが混じる…地山…谷埋土3
13 黄灰色（2.5Y4/1）粘質土、間に1.5～2.5cmの角礫をやや多く含む…谷埋土3
14 黒褐色（2.5Y3/1）粘質土…谷埋土3
15 明褐色（7.5YR5/6）砂質土、鉄分付着…谷埋土3
16 褐灰色（7.5YR6/1）砂質土、2～4cmの石英角礫をやや多く含む、作業台、板石を含む…谷埋土3
17 灰白色（5Y8/1）砂質土、灰色（10Y6/1）粘質土の互層、弥生土器を含む…谷埋土4

18 灰白色（10YR7/1）粘質土、1～7cmの石英角礫、7cmの円礫をやや多く含む…旧谷埋土（無造物層）
19 赤褐色（5YR4/6）礫層、鉄分強く5～10cmの角の丸い礫を多量に含む…旧谷埋土（無造物層）

20 褐灰色（10YR6/1）礫層 1～6cmの石英角礫を多量に含み、間に粘土混じる…地山（造物めり込む）
21 地山 浅黄色（10YR8/4）粘土・シルト

図10 北区東壁・東側南壁－アゼ断面図

写真 37　北区東壁土層断面（北西から）

写真 38　北区東側南壁－アゼ土層断面（北東から）

写真 39　北区東側南壁土層断面（北西から）

写真 40　北区遺物包含層 1 検出状況（北東から）

写真 41　北区遺物包含層 1 検出状況（西から）

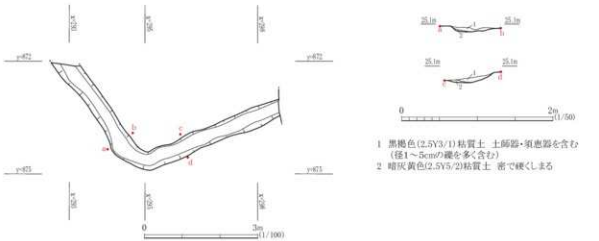


図 11 SD1平面図・断面図

写真 42 SD1検出状況（東から）

写真 43 SD1完掘状況（東から）

写真 44　北区埋没谷検出状況（東から）

写真 45　北区埋没谷検出状況（西から）

写真 46　北区東側遺構検出状況（東から）

写真 47　北区西側遺構検出状況（北から）

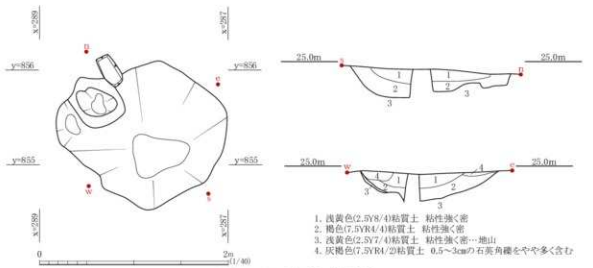


図 12 SX3平面図・断面図

写真 48 SX3検出状況（北東から）

写真 49 SX3掘削風景（南西から）

写真 50 SX3南北断面（東から）

写真 51 SX3東西断面（北から）

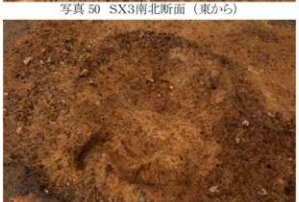


写真 52 SX3完掘状況（北から）

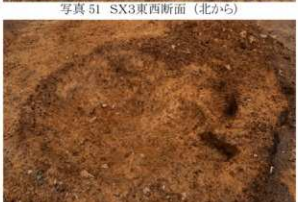
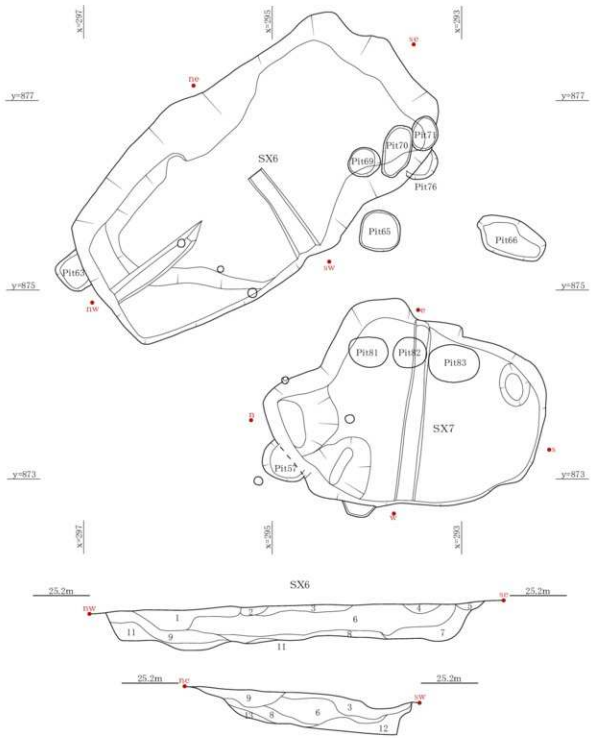


写真 53 SX3完掘状況（東から）

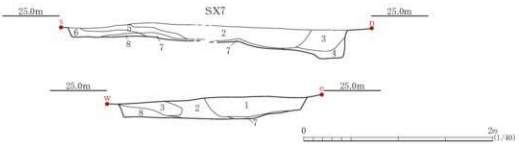


1. オリーブ褐色(2.5Y4/6)粘質土 0.3～0.5cmφの石英を多く含む
2. 明黄褐色(2.5Y7/6)粘質土 0.5cmφほどの石英を少量含む
3. 褐色(10YR4/6)粘質土 0.5～1cmφの石英を多量に含む(基礎粘質土)
4. 黄橙色(10YR8/6)シルト 粘性弱い
5. 記録なし
6. 明黄褐色(10YR6/8)粘質土 0.5cmφほどの石英を少量含む
7. 明褐色(7.5YR5/6)礫混粘質土
8. 黄褐色(10YR5/8)粘質土 1.5cmφほどの石英を少量含む
9. 褐色(7.5YR4/6)粘質土 0.5～1cmφの石英を多く含む 炭化物をごく少量含む

10.橙色(7.5YR6/8)粘質土 密でよく締まる 粘性強い…地山
11.明黄褐色(10YR6/8)粘質土 0.5～1cmφの石英を多量に含む…地山
12.明黄褐色(10YR6/8)粘質土 砂礫をほとんど含まない…地山
13.黄褐色(10YR5/8)粘質土 1～1.5cmφの石英をやや多く含む

0 2m (1/40)

図 13 SX6・7 平面図 SX6 断面図



1. 黒褐色(10YR3/2)粘質土 0.5～2cmφの石英角礫を多く含み，締まりは弱い 炭をやや少量含む
2. 浅黄色(5Y7/3)粘質土 密でよく締まる 粘性強い
3. 灰黄褐色(10YR5/2)粘質土 0.5～2cmφの石英角礫を多く含み，締まりは弱い 炭をやや多く含む
4. 黄褐色(2.5Y5/6)粘質土 締まり弱く粘性やや弱い
5. 灰黄色(2.5Y6/2)粘質土 0.5～1cmφのパラスをやや多く含む 締まり弱く粘性弱い
6. 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘質土 0.5～1cmφのパラスをやや多く含む 締まり弱く粘性弱い
7. 橙色(7.5YR6/8)粘質土 密でよく締まる 粘性強い…地山
8. 明黄褐色(10YR6/6)粘質土 密でよく締まる 粘性強い…地山

図 14 SX7 断面図

写真 54 SX6・7 検出状況（北から）

写真 55 SX6 土層断面（南から）

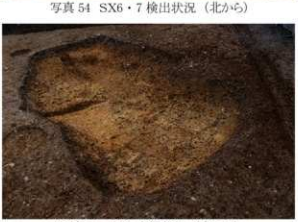


写真 56 SX6 完掘状況（南から）

写真 57 SX6 完掘状況（西から）

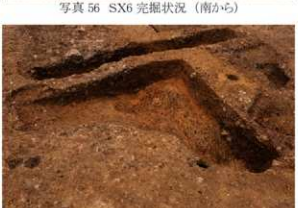


写真 58 SX7 土層断面（北東から）

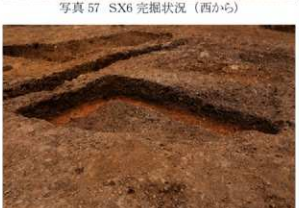


写真 59 SX7 土層断面（南西から）

写真 60　SX7 完掘状況（東から）

写真 61　SX7 完掘状況（南西から）

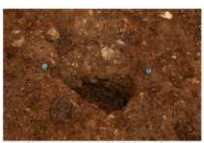


写真 62　Pit11 半裁状況（南から）

写真 63　Pit12 半裁状況（南から）

写真 64　Pit13 半裁状況（南西から）

写真 65　Pit14 半裁状況（南西から）

写真 66　Pit16 半裁状況（南から）

写真 67　Pit17 半裁状況（南から）

写真 68　Pit18 半裁状況（南から）

写真 69　Pit19 完掘状況（南から）

写真 70　Pit20 完掘状況（南から）

写真 71　Pit21 完掘状況（南から）

写真 72　Pit22 半裁状況（南から）

写真 73　Pit23 半裁状況（南西から）

写真 74　Pit24・25 完掘状況（南から）

写真 75　Pit30 半裁状況（南西から）

写真 76　Pit31・32 半裁状況（西から）

写真 77　Pit33・34・38 完掘状況（南から）

写真 78　Pit35・36 半裁状況（南から）

写真 79　Pit37 半裁状況（南西から）

写真 80　Pit39 半裁状況（南西から）

写真 81　Pit43 土層断面（南西から）

写真 82　Pit44 半裁状況（西から）

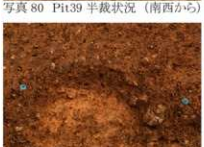


写真 83　Pit45 完掘状況（南から）

写真 84　Pit47・48 半裁状況（西から）

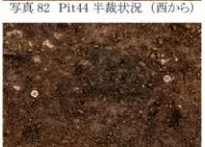


写真 85　Pit49 半裁状況（南から）

写真 86　Pit50 半裁状況（南から）

写真 87　Pit51 完掘状況（南から）

写真 88　Pit52 半裁状況（南から）

写真 89　Pit53 半裁状況（南から）

写真 90　Pit54 半裁状況（南東から）

写真 91　Pit55 半裁状況（南から）

写真 92　Pit56 半裁状況（南から）

写真 93　Pit57 完掘状況（西から）

写真 94　Pit59 完掘状況（北から）

写真 95　Pit60 半裁状況（東から）

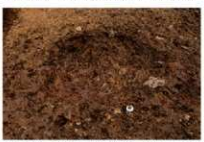


写真 96　Pit61 完掘状況（南西から）

写真 97　Pit62 半裁状況（南から）

写真 98　Pit63 土層断面（南東から）

写真 99　Pit65 半裁状況（西から）

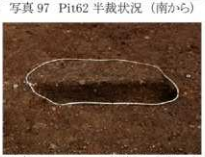


写真 100　Pit66 半裁状況（西から）

写真 101　Pit67 完掘状況（南から）

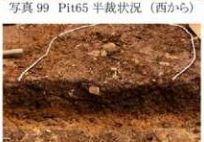


写真 102　Pit68 土層断面（西から）

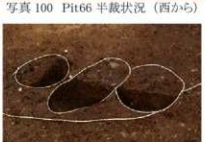


写真 103　Pit69～71 半裁状況（南西から）

写真 104　Pit72 半裁状況（南西から）

写真 105　Pit75 半裁状況（西から）

写真 106　Pit76 完掘状況（南から）

写真 107　Pit77 完掘状況（西から）

写真 108　Pit78 半裁状況（西から）

写真 109　Pit79 半裁状況（西から）

写真110 Pit80・90完掘状況(西から)

写真111 Pit91半裁状況(西から)

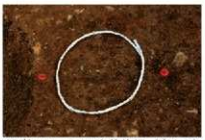


写真112 Pit92半裁状況(南から)

写真113 Pit93半裁状況(南から)

写真114 Pit94土層断面(南東から)

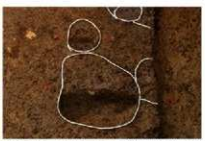


写真115 Pit96・97半裁状況(南から)

写真116 Pit98・99半裁状況(南から)

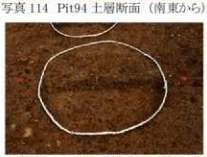


写真117 Pit100半裁状況(南から)

写真118 Pit101半裁状況(南から)

写真119 Pit102半裁状況(南から)

写真120 Pit103土層断面(西から)

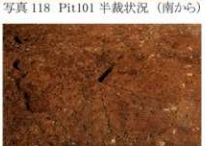


写真121 SX1半裁状況(南東から)

写真122 SX2土層断面(南東から)

写真123 SX4検出状況(南から)

写真124 SX5土層断面(北東から)

写真125 SK1検出状況(東から)

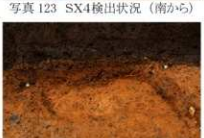


写真126 SK2完掘状況(北から)

写真127 SK3半裁状況(北西から)

写真 128　北区東側遺構完掘状況（西から）

写真 129　北区西側遺構完掘状況（北から）

表4　北区遺構観察表

種類	遺構番号	平面形態	平面規模(cm)	深さ(cm)	埋土	出土遺物	備考
不明遺構	SX1	不整形	175×118	9.5	褐色(7.5YR4/6)粘質土に灰白色(10YR8/2)粘土混ざる		風倒木痕か
	SX2	楕円形か	237＋×92＋	28	にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土		西側撹乱で、南側撹乱で破壊
	SX3	楕円形	163×145.5	36.5	図12参照		風倒木痕か
	SX4	不整形	200＋×95		暗褐色・明黄褐色土ブロックなどが混ざる		風倒木痕か
	SX5	楕円形	151.5×64	14.5	オリーブ褐色(2.5Y4/4)混礫粘質土		谷左岸にかかる
	SX6	隅丸長方形	406.5×225.5	46.5	図13参照		風倒木痕か、炭化物混ざる
	SX7	不整楕円形	298×222	29	図13・14参照		風倒木痕か
土壙	SK1	不明	96＋×39＋	19.5	明黄褐色(10YR6/6)粘質土1～2cmφの礫やや多く混ざる		東側調査区外南側撹乱で破壊
	SK2	方形か	66×38＋	5.5	黄褐色(10YR5/6)粘質土0.5cmφの礫を多く含む		南半部調査区外撹乱坑
	SK3	隅丸長方形	160×61.5	27	褐色(7.5YR4/6)しまりあり・粘性強い1～5cmφの礫やや多く混ざる		Pit72・94に切られる
ピット	Pit11	楕円形	47.5×38	26	にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土		
	Pit12	隅丸三角形	69.5×58	23	褐色(10YR4/4)粘質土		
	Pit13	楕円形	44×36	11.5	灰黄褐色(10YR4/2)粘質土		
	Pit14	楕円形	27×24	3	灰黄褐色(10YR4/2)粘質土		
	Pit15	楕円形	43.5×37	4.5	灰黄褐色(10YR4/2)粘質土		SX1を切る
	Pit16	楕円形	33.5×31.5	9.5	褐色(7.5YR4/3)粘質土		
	Pit17	楕円形	33.5×25	4	灰褐色(7.5YR4/2)粘質土		
	Pit18	楕円形	45.5×27.5	7	褐色(10YR4/4)粘質土		
	Pit19	楕円形	39×32	11.5	褐色(10YR4/4)粘質土		
	Pit20	楕円形	30.5×24	15	にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土		
	Pit21	隅丸方形	57×58	8.5	にぶい黄褐色(10YR5/3)粘質土		
	Pit22	楕円形	21.5×17	6.5	にぶい黄褐色(10YR5/3)粘質土		
	Pit23	楕円形	58×46	11	褐色(7.5YR4/4)粘質土		
	Pit24	円形	16	4.5	にぶい褐色(7.5YR5/3)粘質土		
	Pit25	楕円形	18×12.5	4.5	にぶい褐色(7.5YR5/3)粘質土		
	Pit26	楕円形	116.5×88.5	11.5	褐色(10YR4/6)粘質土	須恵器・土師器	Pit27・28を切る
	Pit27	楕円形	34＋×36	7.5	褐色(10YR4/6)粘質土		Pit26に切られる谷左岸にかかる
	Pit28	楕円形	36×32	4.5	褐色(10YR4/6)粘質土		Pit26に切られる
	Pit29	楕円形	53×26	16.5	褐色(10YR4/6)粘質土		谷左岸にかかる
	Pit30	楕円形	45.5×22.5	5.5	黄褐色(10YR5/8)粘質土		
	Pit31	楕円形	92.5×68.5	7.5	明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土1～5cmφの礫やや多く混ざる		南端調査区外Pit32を切る撹乱坑
	Pit32	円形	26	6	明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土1～5cmφの礫やや多く混ざる		Pit31に切られる
	Pit33	楕円形	20.5×15.5	5	黄褐色(2.5Y5/6)粘質土		
	Pit34	楕円形	34×21.5	3.5	黄褐色(2.5Y5/6)粘質土		
	Pit35	隅丸方形	73×66.5	15	黄褐色(10YR5/6)粘性強い0.5cmφの礫多く混ざる1～2cmの黒色土ブロックやや多く混ざる		
	Pit36	隅丸方形	34.5×35.5	7	明黄褐色(2.5Y6/6)粘性強い		
	Pit37	隅丸長方形	49×31	6	黄褐色(2.5Y5/6)粘質土		
	Pit38	楕円形	15.5×11.5	2	記録なし		
	Pit39	楕円形	45×37.5	7	記録なし		
	Pit40	楕円形	19×16	3.5	明黄褐色(10YR6/6)灰黄褐色(10YR5/2)粘質土		Pit41・SX4を切る

種類	遺構番号	平面形態	平面規模(cm)	深さ(cm)	埋土	出土遺物	備考
ピット	Pit41	楕円形	48＋×30	7	褐色(10YR4/6)粘質土		Pit40に切られる SX4を切る
	Pit42	楕円形	38.5×26.5	11.5	にぶい褐色(7.5YR5/4)粘質土		SX4を切る
	Pit43	楕円形か	22＋×44＋	13.5	褐色(10YR4/6)粘質土		ガス管により破壊
	Pit44	楕円形	45×28.5	10	黄褐色(10YR5/6)粘質土		SX3を切る
	Pit45	楕円形か	63.5＋×24.5＋	8.5	記録なし		攪乱で破壊
	Pit46	不明	40＋×13＋	14	褐色(10YR4/4)粘質土 礫多く混ざる		攪乱で破壊
	Pit47				明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土		
	Pit48	円形	13	12	明黄褐色(2.5Y6/6)粘質土		
	Pit49	楕円形	42.5×39	4.5	記録なし		
	Pit50	楕円形	23.5×21	4.5	記録なし		
	Pit51	楕円形	32.5×25	12	黄褐色(2.5Y5/4) 1～3cmφの礫多量に混ざる		
	Pit52	楕円形	79×44	16	にぶい黄褐色(10YR5/4) 1～3cmφの礫多量に混ざる		炭化物混ざる
	Pit53	楕円形	22.5×17.5	15	黄褐色(2.5Y5/4) しまり弱い・強粘質土 0.3～1cmφの礫多量に混ざる		
	Pit54	楕円形	36×28	10.5	黄褐色(2.5Y5/4) しまり弱い・強粘質土 0.3～1cmφの礫多量に混ざる		
	Pit55	楕円形	62×51	16	褐色(10YR4/4) しまり弱い・強粘質土 0.3～1cmφの礫多量に混ざる		
	Pit56	隅丸方形	35.5×35.5	11.5	黄褐色(10YR5/6) しまり弱い・強粘質土 0.3～1cmφの礫少量混ざる		
	Pit57	楕円形	58×59	16	灰オリーブ色(5Y4/2) 1～3cmφの礫多量に混ざる	須恵器	SX7を切る Pit58に切られる 炭化物混ざる
	Pit58	円形	20		記録なし		
	Pit59	楕円形	35.5×29	6	褐色(10YR4/4) 黄褐色(2.5Y5/4) 1～3cmφの礫多量に混ざる		
	Pit60	楕円形	79×43.5	5.5	褐色(7.5YR4/6)粘質土 0.5～1.5cmφの礫多く混ざる		
	Pit61	円形	40	8	記録なし		
	Pit62	円形	37	3	褐色(10YR4/4)粘質土 0.5～1.5cmφの礫多量に混ざる		後に削み上判断消滅
	Pit63	方形か	39×26.5＋	8	褐色(10YR4/4) しまり・粘性あり 2～5cmφの礫少量混ざる		SX6に切られる?
	Pit64	消去					SX6埋土
	Pit65	隅丸方形	43×43	4	黄褐色(10YR5/6) しまり・粘性あり 1～3cmφの礫少量混ざる		
	Pit66	楕円形	76×41.5	8.5	黄褐色(10YR5/6) 0.5～1cmφの礫多量に混ざる		
	Pit67				褐色(7.5YR4/6)粘質土 0.5～2cmφの礫多量に混ざる		
	Pit68				褐色(7.5YR4/6)粘質土 0.5～2cmφの礫多量に混ざる 10cmφの礫少量混ざる		
	Pit69	円形	34	10	褐色(7.5YR4/4) しまり強・粘性あり 0.5～1cmφの礫やや多く混ざる		
	Pit70	楕円形	56×30	15	褐色(7.5YR4/6) しまり強・粘性あり 0.5～2cmφの礫多く混ざる		Pit71を切る
	Pit71	楕円形	38×28	11.5	褐色(7.5YR4/6) しまり強・粘性あり 0.5～2cmφの礫多く混ざる	須恵器	Pit70に切られる
	Pit72	楕円形	19.5×17.5	14	にぶい黄褐色(10YR4/3) しまりあり・粘性強い 1～2cmφの礫少量混ざる		
	Pit74				黄褐色(10YR5/6) 0.5～1.5cmφの礫多量に混ざる		

種類	遺構番号	平面形態	平面規模(cm)	深さ(cm)	埋土	出土遺物	備考
ピット	Pit75	楕円形	25.5×16	7.5	にぶい黄褐色(10YR5/6) しまりあり・粘性強い 5cmφの礫わずかに混ざる		
	Pit76	円形か	38	15	褐色(10YR4/6) しまり・粘性あり 1～3cmφの礫少量混ざる		SX6に切られる?
	Pit77	楕円形か	59×35+	20	黄褐色(10YR5/8) しまり・粘性あり 1～3cmφの礫少量混ざる		東側調査区外
	Pit78	円形	38	8	褐色(7.5YR4/6) しまり・粘性あり 2～5cmφの礫少量混ざる		
	Pit79	楕円形	34×30	8.5	黄褐色(10YR5/8) しまりあり・粘性あり 1～3cmφの礫多く混ざる		
	Pit80	隅丸方形か	60+×68	7	褐色(7.5YR4/6) しまり・粘性あり 1～3cmφの礫多量に混ざる		側溝で半壊
	Pit81	楕円形	42×31.5		黄褐色(2.5Y5/4) しまり弱い・粘性強い 1～2.5cmφの暗褐色土ブロック 混ざる・2cmφの礫少量混ざる		SX4を切る
	Pit82	円形	34		オリーブ褐色(2.5Y4/4) しまりあり・粘性やや強い 1cmφの礫やや多く混ざる		SX4を切る
	Pit83	楕円形	54×39.5		褐色(10YR4/4) しまり弱い・粘性やや強い 1～4cmφの礫多量に混ざる		SX4を切る
	Pit90	楕円形	24.5×21	5	褐色(10YR4/6) しまり弱い・粘性あり 1～3cmφの礫少量混ざる		Pit80を切る
	Pit91	楕円形	56×44	7	褐色(10YR4/6) しまり・粘性あり 1～5cmφの礫少量混ざる		
	Pit92	円形	28	3.5	褐色(10YR4/6) しまり・粘性あり 1～2cmφの礫少量混ざる		
	Pit93	円形	29.5	5.5	黄褐色(10YR5/8) しまり・粘性あり 2～4cmφの礫多く混ざる		
	Pit94	隅丸方形	75×70.5	40	明褐色(7.5YR5/6) しまりあり・粘性強い 2～5cmφの礫多量に混ざる		
	Pit95	楕円形	24.5+×27.5	3.5	にぶい黄褐色(10YR5/6) しまり弱い・粘性強い 1～3cmφの礫少量混ざる		Pit97に切られる 側溝で半壊
	Pit96	円形	19.5	16	褐色(10YR4/6) しまり・粘性強い 1～2cmφの礫少量混ざる		
	Pit97	楕円形	52.5×43.5	12	褐色(10YR4/4) しまり弱い・粘性強い 1～5cmφの礫少量混ざる		Pit95を切る
	Pit98	楕円形	47×40.5	8	にぶい黄褐色(10YR5/6) しまりあり・粘性強い 0.5～2cmφの礫多量に混ざる		Pit99に切られる
	Pit99	楕円形	24.5×17	3	にぶい黄褐色(10YR5/6) しまりあり・粘性強い 0.5～2cmφの礫少量混ざる		Pit98を切る
	Pit100	楕円形	59.5×50.4	5	にぶい黄褐色(10YR5/6) しまりあり・粘性強い 0.2～2cmφの礫多量に混ざる		
	Pit101	楕円形	49×43	8	黄褐色(10YR5/8) しまり・粘性弱い 1～3cmφの礫少量混ざる		
	Pit102	楕円形	57.5×55	5.5	褐色(10YR4/6) しまりあり・粘性強い 1～3cmφの礫少量混ざる		
	Pit103	不明	71+×19.5+	15.5	褐色(10YR4/6) しまり弱い・粘性あり 1～10cmφの礫少量混ざる		東側調査区外 西側側溝で破壊

北区谷埋土2出土土器(図16～18、写真130～133、表5)

谷埋土4から弥生土器と見られる小片が出土しているが図示不能であることから、北区出土土器は谷埋土2から報告をおこなう。

22～31は須恵器坏蓋。**22**は外面に墨書の一部が見られる。小さなボタン状つまみを有する蓋で、平坦な天井部から緩やかに内湾して下降し、口縁端部をほぼ垂直に下垂させている。農学部解剖実習棟調査区にて出土した「官」の字が記された須恵器蓋[註1]と比べ、つまみの径や器高、口縁端部の下垂角度に小差ががみられるが、ほぼ同一の器形と言える。完形復元不能であるが、**23～25**の天井部、**30**の口縁部も同形の蓋である可能性が高い。8世紀前半から中ごろ資料と見られる。その一方でかえりを有する口縁片(**28・29**)、扁平な天井部から口縁を屈曲気味に外方に開き端部を下垂させている破片(**31**)など、時期的に先行または後出する蓋も混ざっている。

32～38は須恵器高台付坏。いずれも底部外端より内側に「ハ」字状に高台が付けられる。端部はつまみ出されたような凹面を有しており、やや長めの高台が多い。こちらも8世紀前半から中頃の資料であろう。**39～42**は無高台の坏底部。**42**の外面には直線2条のヘラ記号が見られる。**43～50**は坏口縁部。**44**は復元口径10.4cmと小型で、直立する口縁から底部に向かい収縮する。坏G類とみるが、坏H類の蓋、小型高坏坏部の可能性も残す。

53～55は須恵器の高台付皿。これまで基準を曖昧にしていたが、坏部の器高・口径比が1/3以下のものを皿とする。吉田遺跡では口径16cm内外で、底部外面に鳥足状のヘラ記号を施すものが散見される。高台形態的な特徴として、断面形態がやや「く」字状に屈曲し外方に開くものが多い。

56～73は須恵器高坏。**56**は唯一全形を復元しうる資料で、脚部沈線は中位よりやや上に巡らされる。坏部見込み中央にヘラ記号「×」が施されるが、線は微弱で引き直しも見られる。**73**は小型低脚高坏の坏底－脚部片。動物医療センター周域では類例が少ない。

74は器種不明の須恵器脚部。形態から小型壺の脚部の可能性があるが、当調査で同様の脚部が4点(遺物包含層2に1点(**463**)、遺物包含層1に2点(**713・714**))出土しているのに対して、対応する上部を見いだせない。

75は須恵器壺蓋と見られる。**76**は平瓶の体部片。頭部が付け根で折損しており、肩部に沈線1条を巡らせる。**77**は横瓶の口縁－肩部片。遺物包含層1出土の肩部片と接合した。口縁部からから頭部にかけて完形で遺存している。**78**は須恵器甕の口縁－肩部片。口縁上端に面をとる。**79**は須恵器円面硯。総合研究棟調査区の谷埋土2上位出土資料[註3]と接合した。谷埋土1より同一個体と見られる脚部片が出土している(写真132)。

土師器は出土量が須恵器に比して著しく少ない。**80～83**は坏。**83**は鉢とした方が良いかもしれない。**84**は高坏で須恵器模倣品または須恵器の焼成不良品である。**85～90**は甕口縁部片。

91は所属時期が大きく異なり、弥生土器甕の底部とみられる。

【註】

1) 田畑直彦(2004)「平成14年度山口大学構内遺跡調査の概要」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ・ⅩⅦ』,山口 Fig.82の2

2) 吉田遺跡の東南約2kmに位置する岡小路遺跡からも鳥足状ヘラ記号が施される須恵器高台付皿が出土しているが、復元口径19.1cmと大型である(井上広之(2006)「岡小路遺跡 第2次調査」,山口市教育委員会(編)『山口市埋蔵文化財年報5 －平成16年度－』,山口)。

3) 田畑直彦(2017)「吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研

究年報ＸＸ』, 山口 Fig.18の56

北区谷埋土1出土土器(図19～23、写真133～138、表5)

谷埋土2に比して包含する遺物が倍増する。

92～130は須恵器坏蓋。**92**は坏H類の蓋で、口縁を垂直に下垂させる。**93**は坏蓋としたが、口径が17.1㎝と大きく、高台付皿の蓋である可能性が残る。扁平なドーム状の天井から内湾して口縁に降下するもの(**99・100・116**など)も見られるが、口縁にかえりを有するもの(**107～114**)、口縁が屈曲気味に大きく開くもの(**103・127**など)、輪状つまみを有するもの(**130**)など、異なる時期の資料の混ざりが激しい。**105・106**は転用硯とみられ、平滑な内面に墨が遺存する。

131～146は須恵器高台付坏の底部片。こちらも高台の形態にバリエーションがあり、やはり時期的な混ざりが見られる。**147～154**は無高台坏の底部片。**155～187**は口縁部片。**155**は復元口径10.2㎝で坏G類の身とみられる。**187**は坏としたが内面に灰を被っており、ハソウなど他器種の口縁かもしれない。

188～190は須恵器高台付皿の底部片、**191～194**は口縁部片。**191**は復元口径17.8㎝とやや大型であることから、皿蓋の可能性もある。**195**は無高台の皿とみられる。

196～210は須恵器高坏。**196**の脚部沈線は、中位より下位に巡らされる。遺物包含層2出土の破片と接合している。

211～215は須恵器壺類の口縁・頸部片。**211**は直立する口縁で、残存部下端に沈線が巡らされている。**214**は平瓶頸部の可能性がある。**215**は短頸壺の口縁－頸部とみられる。**216**は扁平な壺蓋か。

217はハソウの口縁部片。**218**は器台の裾部と見られる。器台裾部は周辺地で過去にも確認されている。官衙に関連する資料ではなく、丘陵上にかつて存在したと推定される古墳群由来の資料である可能性が高い。

219～222は平瓶。**219**は谷埋土2や遺物包含層2、遺構検出層出土資料と接合しており、口縁を除きほぼ完形に復元可能である。内外面とも丁寧に回転ナデ調整が施されている。**220**は粘土板充填部が遺存することから天井部と見られる。外面に高台を打ち欠いた重ね焼き痕が残っている。**221**も粘土板充填部が遺存しているが220とは別個体で、器壁が薄く外面にカキ目が施されている。**222**は平瓶の腹部とみられるが、壺の可能性もある。

223～228は須恵器甕。**223・224**は肩部外面に平行叩き後回転ナデ、内面に同心円当て具後回転ナデが施される。**227**の口縁部は内端をつまみ上げており、頸部外面に沈線と櫛描波状文が施されている。**228**も頸部とみられ、やはり沈線と櫛描波状文が施される。

土師器は少量である。**229・230**は須恵器模倣品で、かえりを有する坏蓋口縁部片である。**231～237**は坏。**237**は内面に炭素が吸着しているが磨きは見られない。**238**は塊底部片。**239～241**は皿。**242～246**は甕口縁部片。大きく外反するもの(**242～245**)と直線的に外方にのびるもの(**246**)がみられる。**247**は甑または甕の把手。端部を欠失しているが、ほぼ水平にのびている。

248は弥生土器甕の体部片。沈線を4条巡らせている。既往調査においても、谷埋土には散発的に弥生時代の遺物が見られる。埋没谷南東側の丘陵から流入した遺物と推定される。

【註】

1) 河村吉行(1986)「農学部附属農場飼料圃排水溝修復整備に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅴ』, 山口 Fig.34の12

2) 横山成己(2007)「吉田遺跡第Ⅱ地区の調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成17年度』, 山口 78頁参照

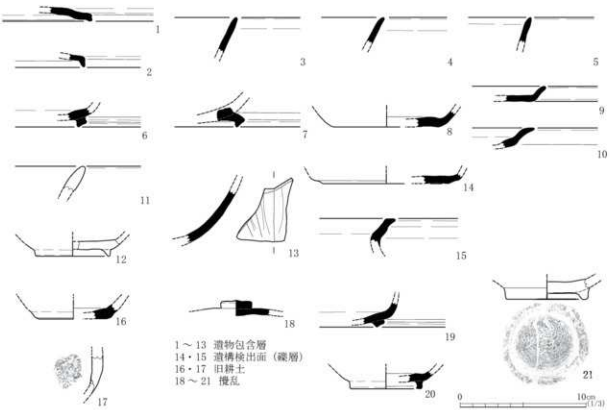


図 15 南区出土土器実測図

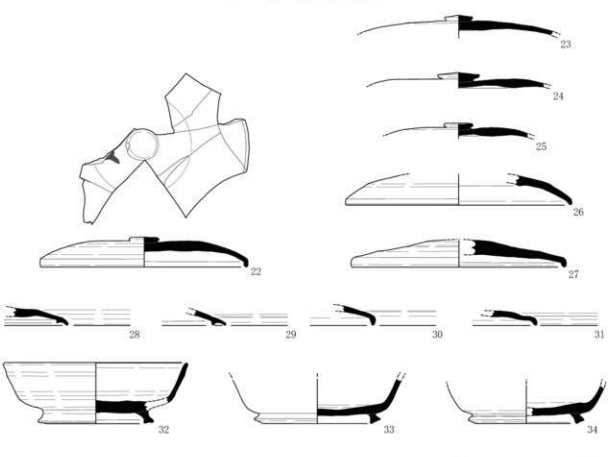


図 16 北区谷埋土 2 出土土器実測図①

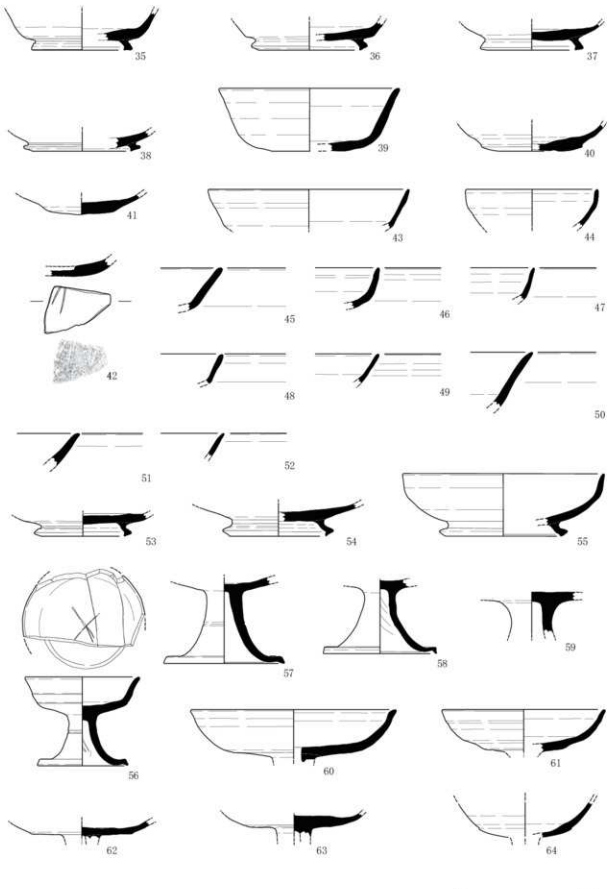


図 17　北区谷埋土 2 出土土器実測図②

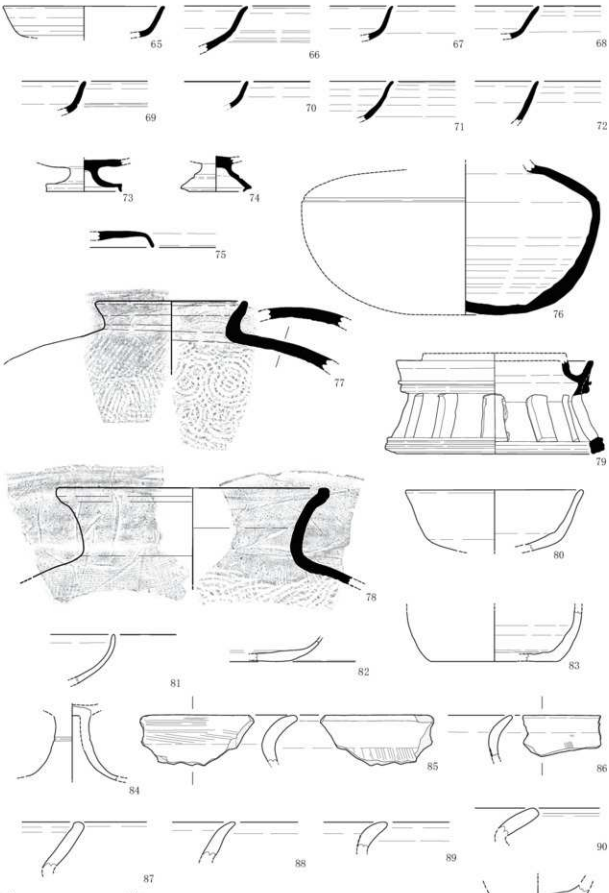


図 18　北区谷埋土 2 出土土器実測図③

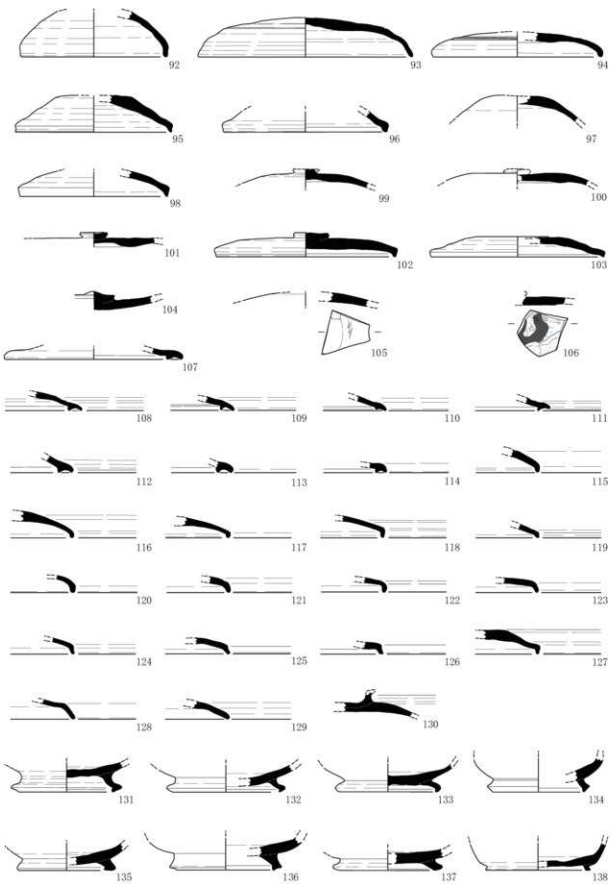


図 19 北区谷埋土 1 出土土器実測図①

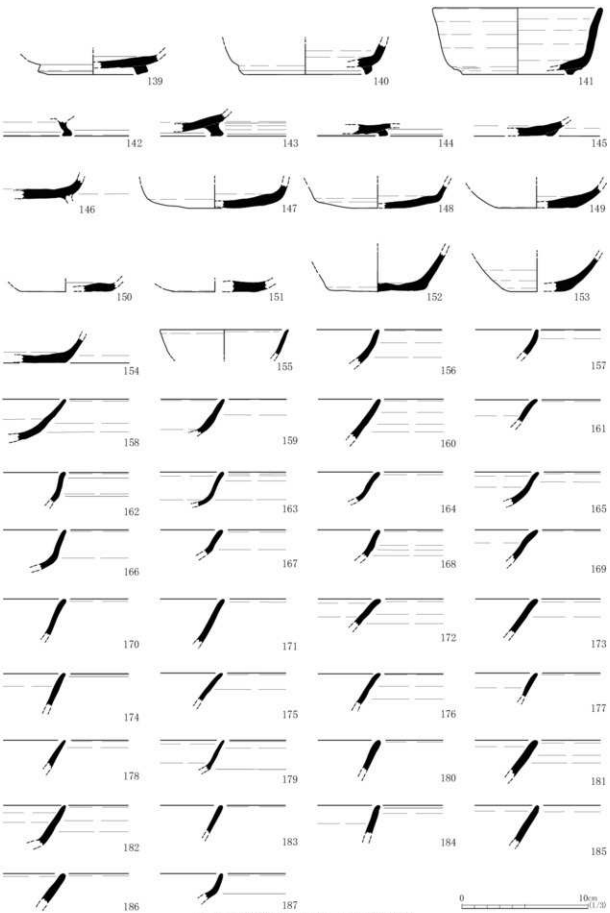


図 20　北区谷埋土 1 出土土器実測図②

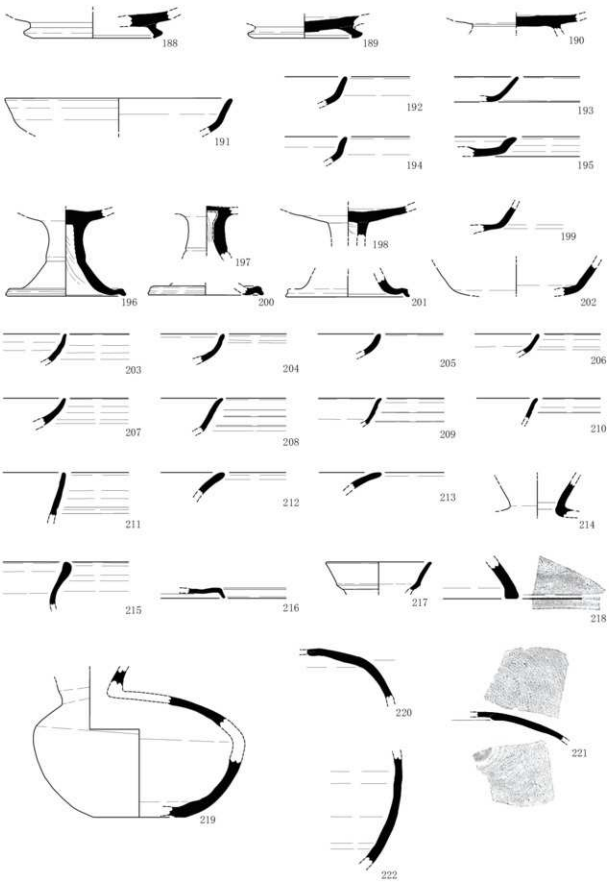


図 21　北区谷埋土 1 出土土器実測図③

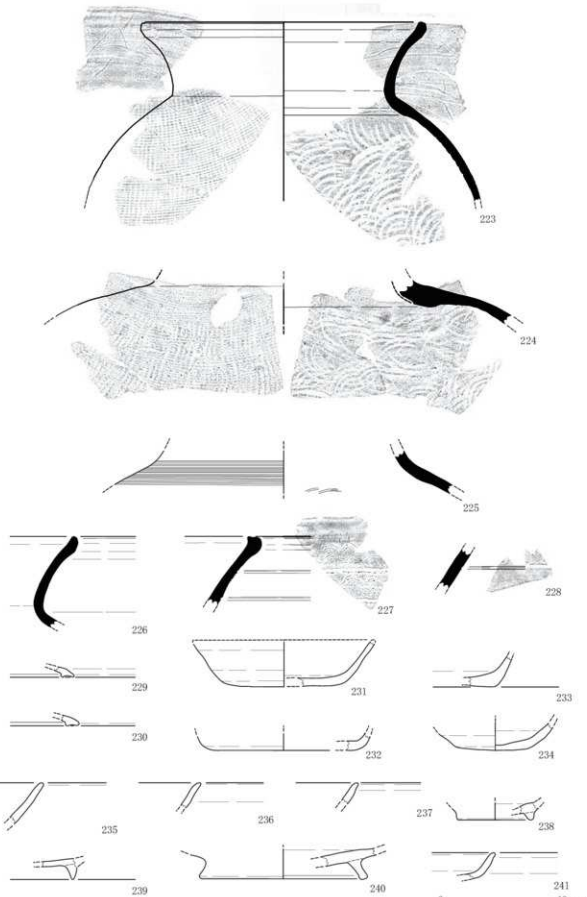


図 22　北区谷埋土 1 出土土器実測図④

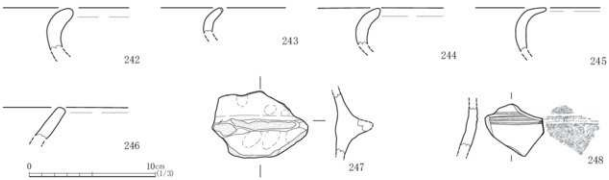


図23 北区谷埋土1出土土器実測図⑤

図24 北区遺構出土土器実測図

北区遺構出土土器(図25～26、写真138～140、表5)

249はPit57から出土した須恵器甕頸部または器台の鉢部片である。遺物包含層1・2出土資料と接合している。下端外面に粘土剥離痕が観察されることから、器台脚部接続付近の破片である可能性が高いと考えるが、内面に当て具痕が観察されないため特定できない。外面には沈線3条で区画された施文帯に櫛描波状文が施されている。

250はPit71から出土した須恵器坏蓋の口縁－天井部片。

北区遺構検出層出土土器(図25・26、写真138～140、表5)

「基本層序」註2に記したとおり、遺構検出層には遺物が食い込んでいる状況であった。

251～266は須恵器坏蓋。形態にバリエーションが多く、口縁にかえりを有するもの(**255～257**)、天井部から屈曲気味に長く口縁を下垂させるもの(**258**)、口縁に向かい緩やかに降下し端部を下垂させるもの(**259～263**)、口縁が外方に開き端部を下垂させるもの(**265**)などがある。

267～279は須恵器高台付坏の底部片。**268～270**、**272**は皿の可能性がある。底部外端より内側に長い高台が「ハ」字状に付くもの(**267～270**)、底部外端に断面長方形の高台が「ハ」字状に付くもの(**274・275**)、底部外端に断面逆台形の高台が付き、端部全面で接地するもの(**276**)など、7世紀後半から9世紀までの特徴を有するものが混ざっている。**280～291**は坏口縁部片と無高台の坏底部片。**280**は皿の可能性が高い。**285**の外面には2条の直線で「V」字状にヘラ記号が刻まれている。

292～294は須恵器高台付皿の底部片、**295・296**は皿の口縁部片である。**292**と**294**は遺物包含層1出土破片と接合している。**297～300**は須恵器高坏。

301～306は須恵器の壺甕類。**301**は遺物包含層1出土破片と接合している。

307は龍泉窯系青磁の碗で、内面に劃花文が見られる。**308**は玉縁白磁碗の口縁部片。

土師器で図示できるのは、坏底部1点(**309**)と甕口縁部2点(**311・312**)のみである。

310は弥生土器甕の口縁部であろう。

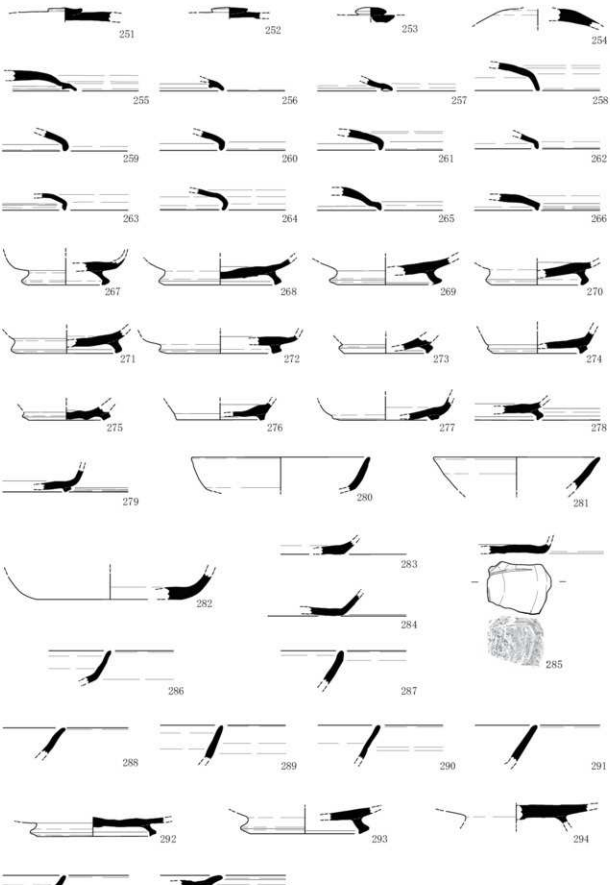


図 25　北区遺構検出層出土土器実測図①

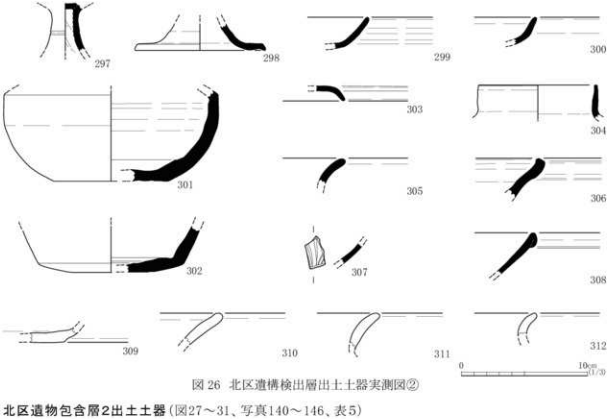


図 26 北区遺構検出層出土土器実測図②

北区遺物包含層2出土土器(図27～31、写真140～146、表5)

遺物包含層2に含まれていた土器は、谷理土と同じく大多数が須恵器で、土師器は極少数であった。

313～366は須恵器坏蓋。谷理土同様器形のバリエーションがみられるが、口縁が外方に開き端部を下垂させるものの占める割合が増える(**359～366**)。**316**は遺構検出層出土片と接合している。

367～394は須恵器高台付坏の底部片。**367・368**は高台付皿の可能性がある。7世紀後半から9世紀代のものが混在するものの、底部外端の内側に断面長方形の高台が「ハ」字状に付く、8世紀中ごろ～後半の資料が増加している。**395～405**は無高台坏。ほぼ完形復元可能な**398・403**はそれぞれ8世紀後半、9世紀後半に所属する資料であろう。**406～432**は坏の口縁部片である。

433～437・439は高台付皿の底部片とみられる。**440**の外面には鳥足状のヘラ記号が施されており、高台付皿または皿蓋の可能性が高い。**438**は無高台皿の底部。**441・442**は皿蓋の口縁部片であろう。

443～462は須恵器高坏。全形を復元できる資料は存在しない。坏口縁部は、内湾してゆるやかに立ち上がるもの(**456～461**)が大多数であり、坏底から直線的に立ち上がるもの(**462**)も少数であるが存在する。**463**は谷理土2および遺物包含層1に類例がみられる器種不明の脚部片。

464・465は長頸壺。肩がほぼ水平に張る**464**は、谷理土1、遺物包含層1、SD1出土資料と接合している。**466**は精選された胎土で器壁も薄い壺口縁部片である。**467**は器壁が厚くつくりも粗雑な頸－口縁部片。**468**の頸部には沈線が1条残る。**469・472**は高台付、**470**は無高台、**471**は丸底の壺底部。**476**は平瓶の頸－体部片で、外面に窯体が溶着している。**474**は長頸壺、**475**はハソウの口縁部と見られる。

476～480は須恵器甕の口縁部片。**476**の外面には横方向に2条の沈線がみられるが、意図的なものかは不明である。**481**は外面に同心円のカキ目がみられることから、横瓶の腹部片である可能性が高い。**479**は甕の頸－肩部片。**483**は口縁端部が坏蓋口縁状に処理されており、内外面回転ナデ調整が施されている。甑であろうか。**484**は器台の脚裾部。沈線間と端部上位に3段の櫛描波状文が施されている。

485～489は土師器坏。**488**の底部には糸切り痕が残る。**490～493**は土師器塊底部片。**494～499**は土

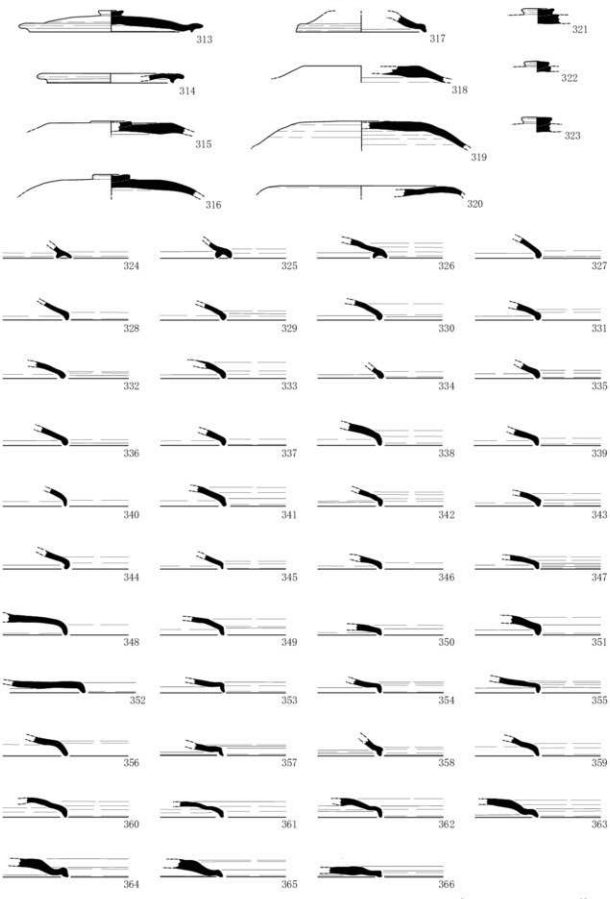


図 27　北区遺物包含層 2 出土土器実測図①

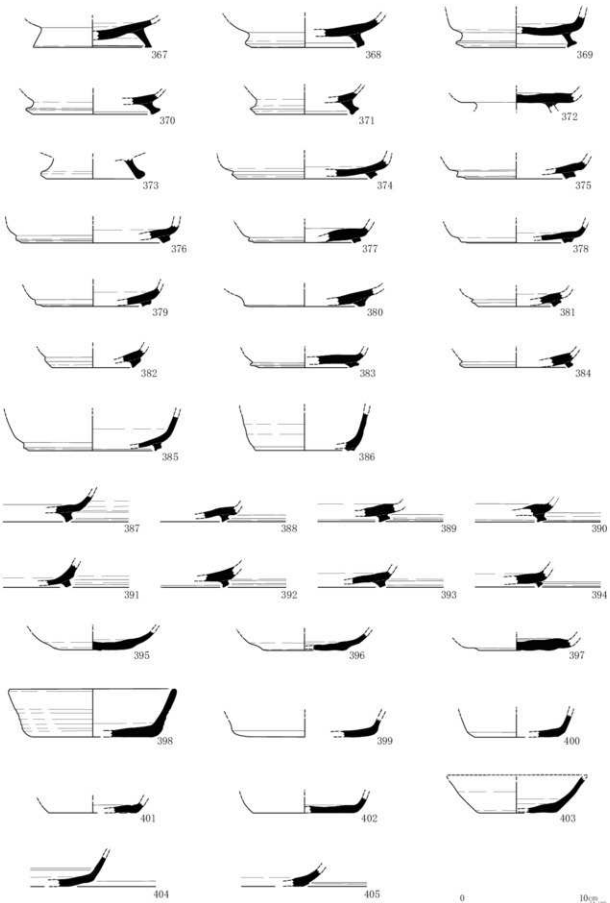


図 28　北区遺物包含層 2 出土土器実測図②

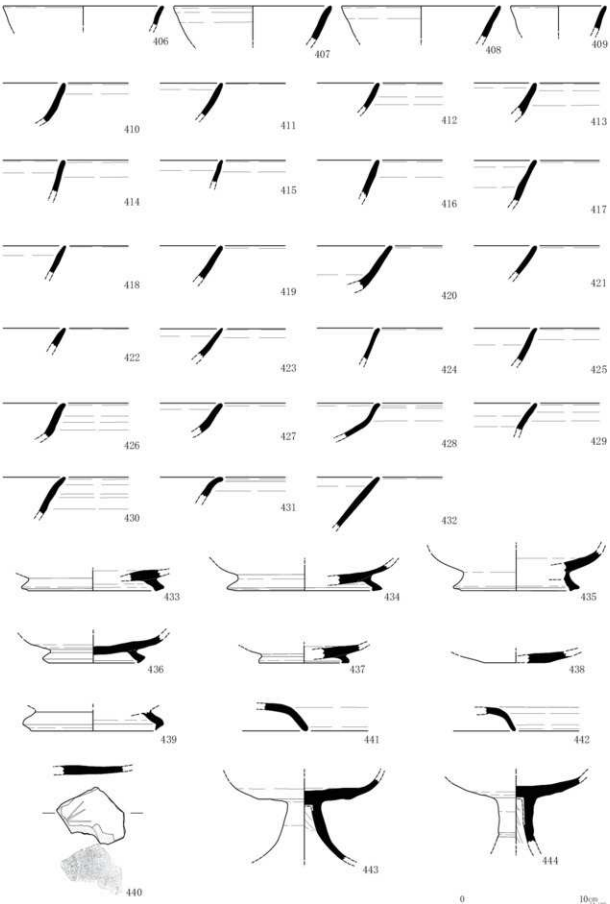


図 29　北区遺物包含層 2 出土土器実測図③

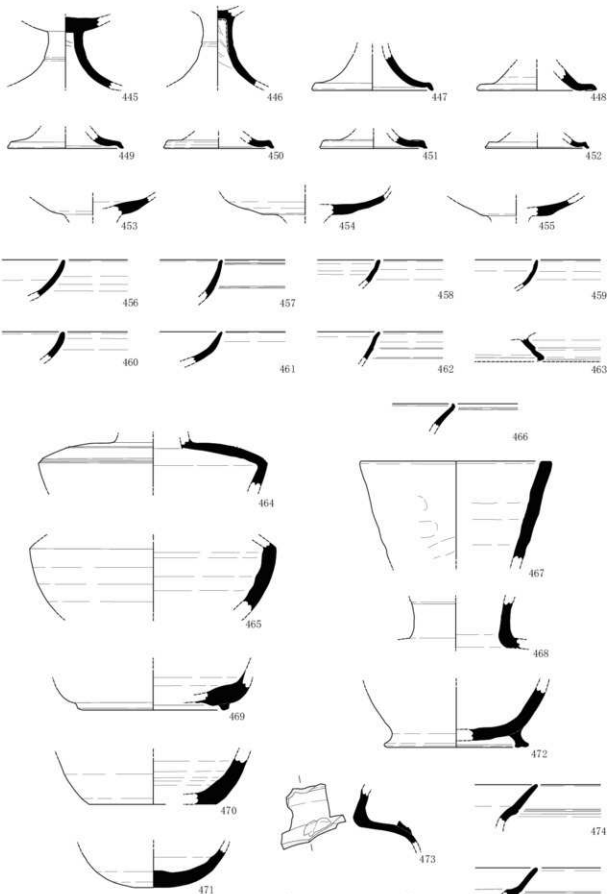


図 30　北区遺物包含層 2 出土土器実測図④

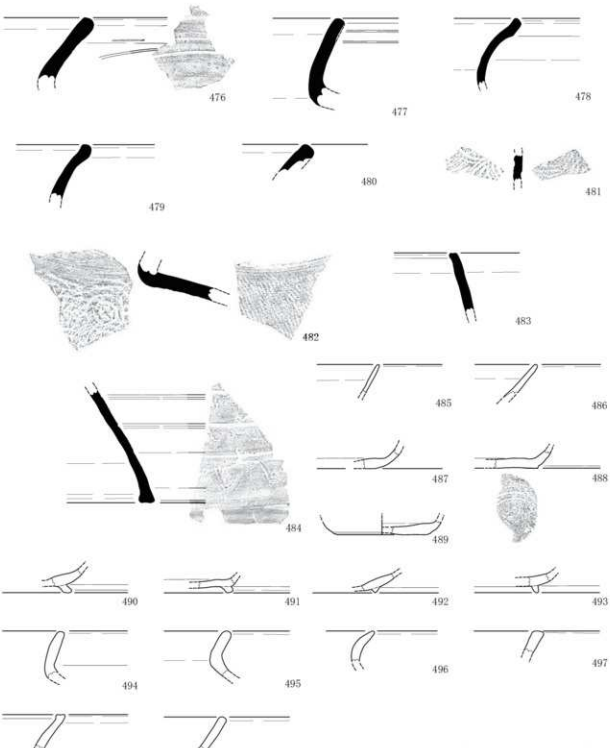


図 31　北区遺物包含層 2 出土土器実測図⑤

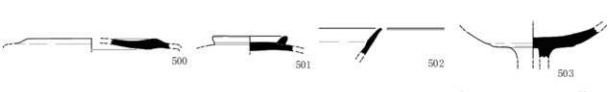


図 32　北区遺物包含層 1・2 出土土器実測図

師器甕の口縁部片である。

北区遺物包含層1・2出土土器(図32、写真146、表5)

遺物包含層1・2のいずれに所属するかが不明の資料が存在する。同一日、同一地区の出土である。

500・501は須恵器坏蓋天井部片。**501**は輪状つまみを有する。**502**は須恵器坏口縁部片。**514**は須恵器高坏の坏底－脚柱部片である。

北区遺物包含層1出土土器(図33～38、写真146～155、表5)

堆積土中、もっとも多くの遺物を包含していた層である。

504～565は須恵器坏蓋。**505**は遺物包含層2出土破片と接合している。やや径が小さいものの**22**と同形態の蓋と言えるが、墨書は確認できない。**515**の擬宝珠状つまみは初現形態を保っており、吉田遺跡では稀少な資料である。**509**は内面に直線2条のヘラ記号が残る。

566～618は須恵器高台付坏の底部片である。**569**は高台付皿の可能性がある。**584**は見込み部に円形の重ね焼き痕が見られ、外面に板目圧痕が残る。**599**の底部外面には直線1条のヘラ記号がみられる。**619～634**は無高台坏。**623**の底部外面には板目圧痕が残る。**624**の底部外面はヘラ切り未調整。**625**の底部外面には、焼成前に高台を剥いだ痕跡がみられる。調整や胎土の特徴から**630**と**651**は同一個体である可能性が高い。**635～679**は坏の口縁部片。

680～688は須恵器皿。高台付(**680・681**)と無高台(**682～686**)があり、**687・688**は高台付皿の口縁部片とみられる。

689～712は須恵器高坏。**693**は沈線が2条巡らされており、形態的にも長頸壺の頸部片である可能性を残している。**712**は小型高坏で、谷埋土1出土片と接合している。**713・714**は器種不明の脚部。**715**は形態がやや異なっており、ミニチュアの高坏とみられる。

716～722は須恵器壺類。**717**は壺腹部片で、腹部の沈線直下に櫛目圧痕を「く」字状に施している。

723は器台の脚部片であろうか。沈線の上下に9条を単位とする櫛描波状文が巡らされ、下位は2段に施される。**724**は器種不明のコップ状須恵器。**725**は把手の可能性がある。

726～733は須恵器甕。**727**はやや異形の口縁部で、鉢など別器種かもしれない。**730**は既往調査出土資料と同一個体とみられる[註1]。**732・733**の当て具には円に直行する亀裂がみられるが同一道具ではない。

734の緑釉陶器は赤く発色している。**735～737**は白磁片。

738は染付皿。見込みに蔓草文を描く。**739・740**は陶器の鉢と碗。この3点は上位層所属資料か。

741～747は土師器坏、**748～753**は土師器塊の底部片。**754～758**は坏または塊の口縁部片で、**756**は**741**と同一個体の可能性がある。**759～762**は土師器皿で、**762**は中世に所属する。**763～764**は土師器甕の口縁部で、**765**は羽釜であろうか。**766～769**は甕または甑の把手片。

770～777は製塩土器。**770**は美濃ヶ浜式の脚柱片、それ以外は六連式で、内面に布目が残る。

778は瓦質土器足鍋の脚部片で、全面に煤が付着している。

【註】

1)横山成己(2019)「動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事に伴う本発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』,山口 35頁図15-105

SD1出土土器(図39、写真155、表5)

遺物包含層2に掘り込まれた遺構で、埋土が遺物包含層1に類似することから、遺物包含層1堆積時に埋没した可能性がある。遺物は全て古代以前に所属する。

779～785は須恵器坏蓋。**786～790**は須恵器高台付坏。**788**は遺物包含層1出土破片と接合してい

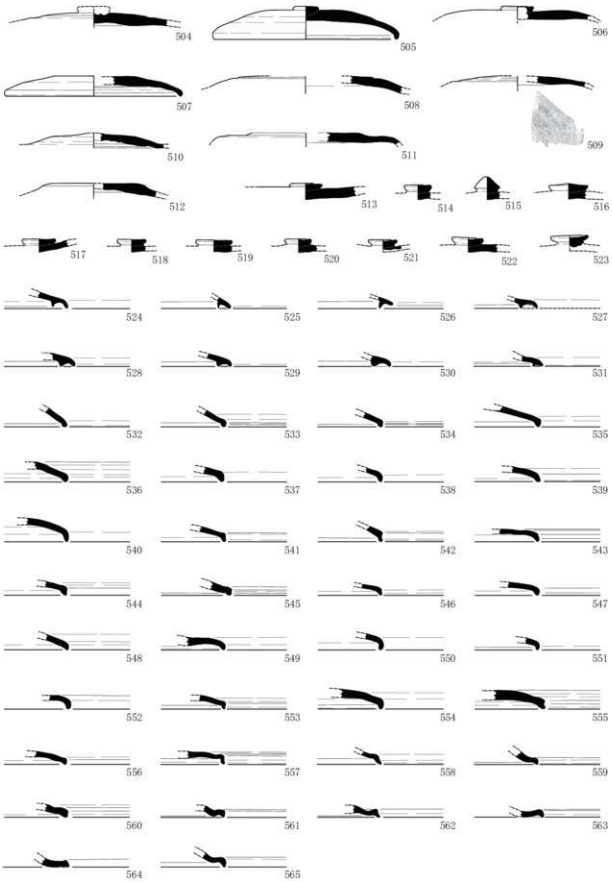


図 33 北区遺物包含層 1 出土土器実測図①

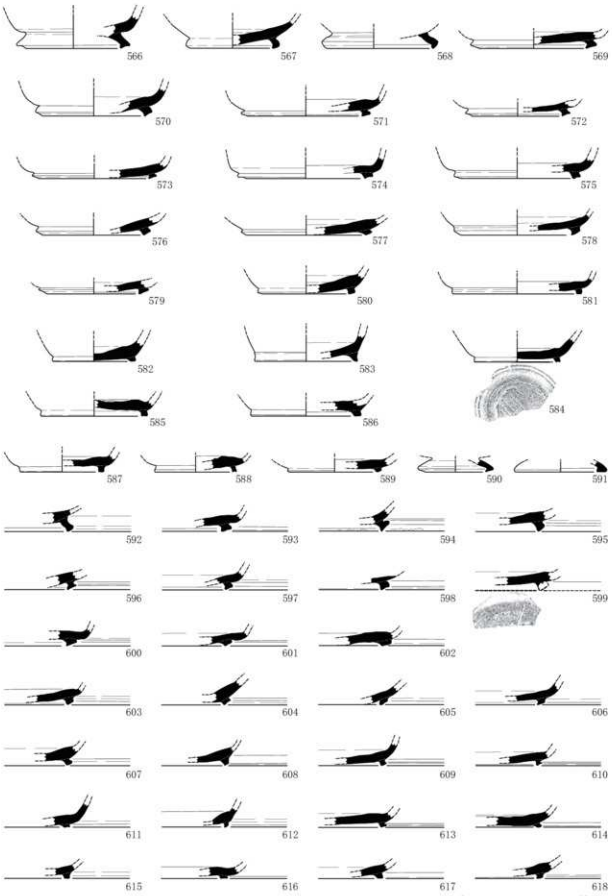


図 34　北区遺物包含層 1 出土土器実測図②

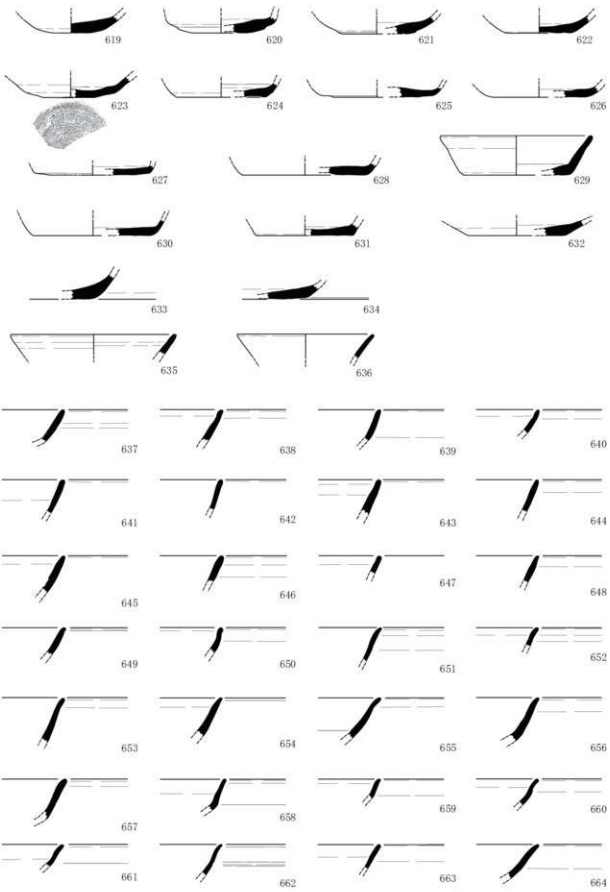


図 35 北区遺物包含層 1 出土土器実測図③

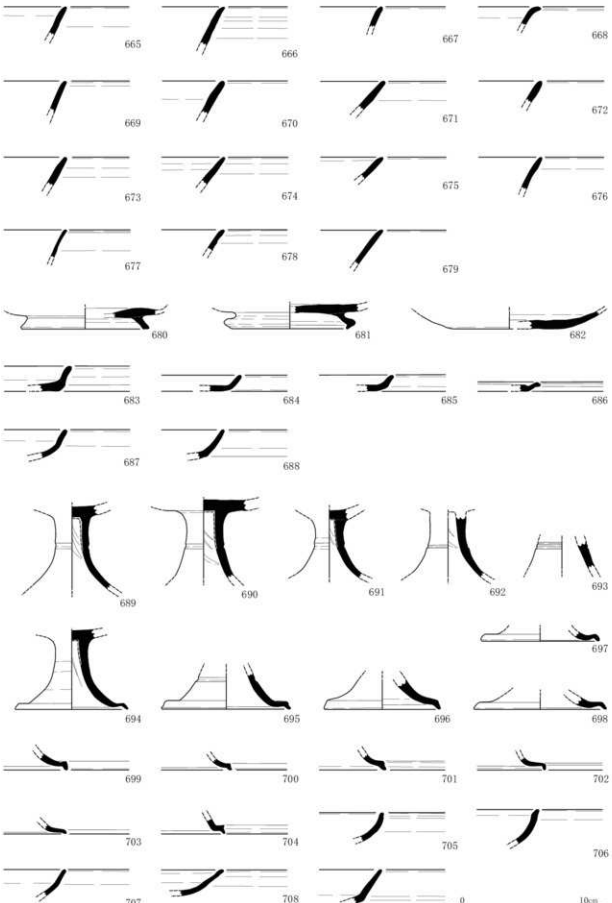


図 36　北区遺物包含層 1 出土土器実測図④

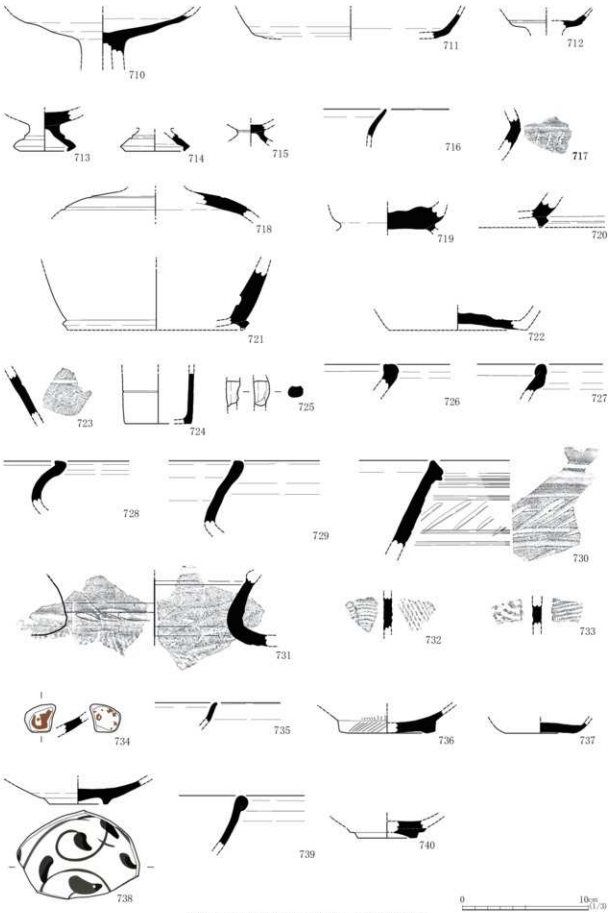


図 37　北区遺物包含層 1 出土土器実測図⑤

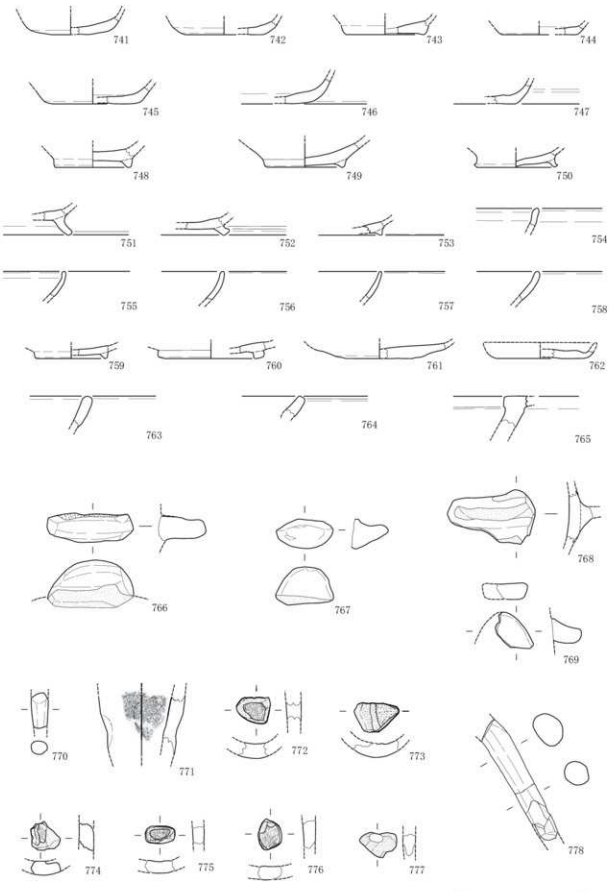


図 38　北区遺物包含層 1 出土土器実測図⑥

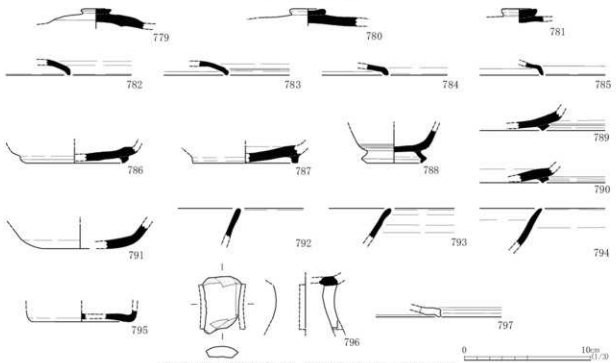


図 39　北区遺物包含層 2 上面SD1 出土土器実測図

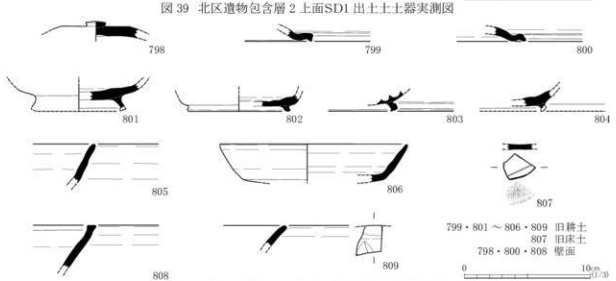


図 40　北区旧耕土・旧床土・壁面出土土器実測図

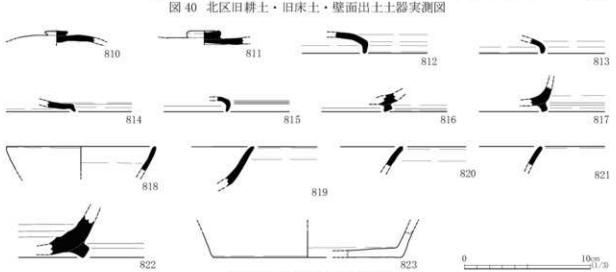


図 41　排土中採取土器実測図

る。791は丸底気味の坏底部、792～794は坏口縁部片である。795は坏としたが、壺の可能性もある。遺物包含層2出土破片と接合している。796は透窓のある高坏脚部片。古墳時代に所属するものであろう。797は須恵器模倣の土師器坏蓋口縁部片。

北区旧耕土・旧床土・壁面出土、排土中採取土器(図40・41、写真155・156、表5)

古代に所属するものが大多数である。807の須恵器坏底部片は、外面に直線1条のヘラ記号が残る。809は龍泉窯系の青磁皿口縁部片。

[土製品](図42、写真157、表6)

824～828は輪の羽口片である。829は平坦面が形成されており、鋳造炉などの可能性が考えられる。

[金属器](図42、写真157、表7)

830は遺物包含層1から出土した。銅製と見られ、緑青を吹いている。貴金具の可能性がある。

[石器]

北区谷埋土3出土石器(図43、写真158、表8)

831は流紋岩質凝灰岩の板石。明確な擦痕などはみられない。832は石英斑岩製の作業台。片側傾斜面が主に使用されたようで、擦痕が観察される。

北区谷埋土2出土石器(図44、写真158、表8)

833は黒雲母花崗岩製の凹石。両面に打撃痕が残る。834は刃部を折損した石斧の基部。石英斑岩製。835は安山岩の剥片。打製石鏃未製品の可能性がある。

北区谷埋土1出土石器(図44、写真158、表8)

836は風化が著しく原面は一部しか遺存していないものの、磨石の可能性がある。安山岩質凝灰岩製。837は安山岩の打製石鏃。完形品で、全長1.75cm、最大幅1.3cm、最大厚0.36cmを測る。838は黒曜石の石核とみられる。839・840は黒曜石の剥片。

北区SX1出土石器(図45、写真159、表8)

841は花崗閃緑岩製で、平面円形、断面長楕円形を呈している。敲石の可能性がある。

北区遺構検出層出土石器(図45、写真159、表8)

842は斜長斑岩製の砥石。原面は1面のみ遺存しており、他は折損している。843は黒曜石の縦長剥片。旧石器とみられる。

北区遺物包含層2出土石器(図45・46、写真158、表8)

845は石英斑岩製の砥石。1面のみを使用しており、他に2面の原面が残るが、3面は折損している。折損面の赤色化は被熱痕跡の可能性がある。846は平面楕円形の瑪瑙玉。847は斜長斑岩製。1面に擦痕が観察されることから、作業台と思われる。848は石英斑岩製の板石。部分的に擦痕がみられるものの、人為的なものか判断できない。

北区遺物包含層1出土石器(図46、写真158、表8)

849は石英の剥片。全長4.6cm、最大幅3.35cm、最大厚0.85cmを測る。重量は18.25g。

排土中採取石器(図46、写真158、表8)

850は石英斑岩製の砥石。遺存する4面のうち1面のみを使用している。

[木製品](図47、写真160、表9)

出土した木製品は10点に過ぎない。860を除き谷埋土2より出土している。851～853は端材。854は棒状製品。855～859は端部の焦げた棒状製品で、火付け木としておく。860は遺物包含層2から出土した。頭部が炭化しているが、杭頭の可能性がある。(横山)

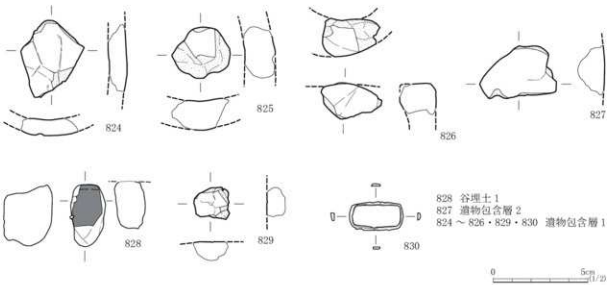


図 42 北区出土土製品・金属器実測図

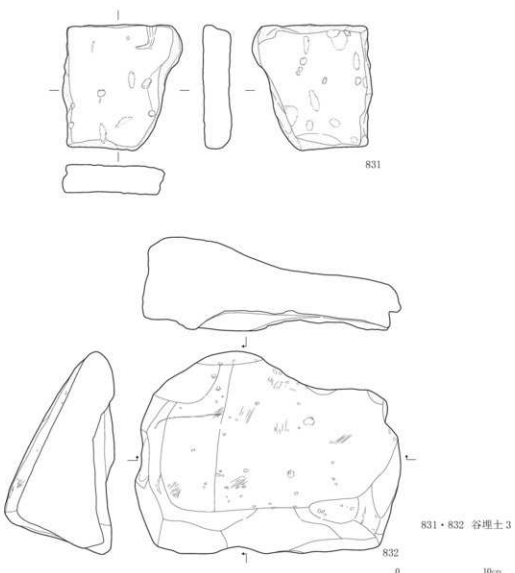


図 43 北区出土石器実測図①

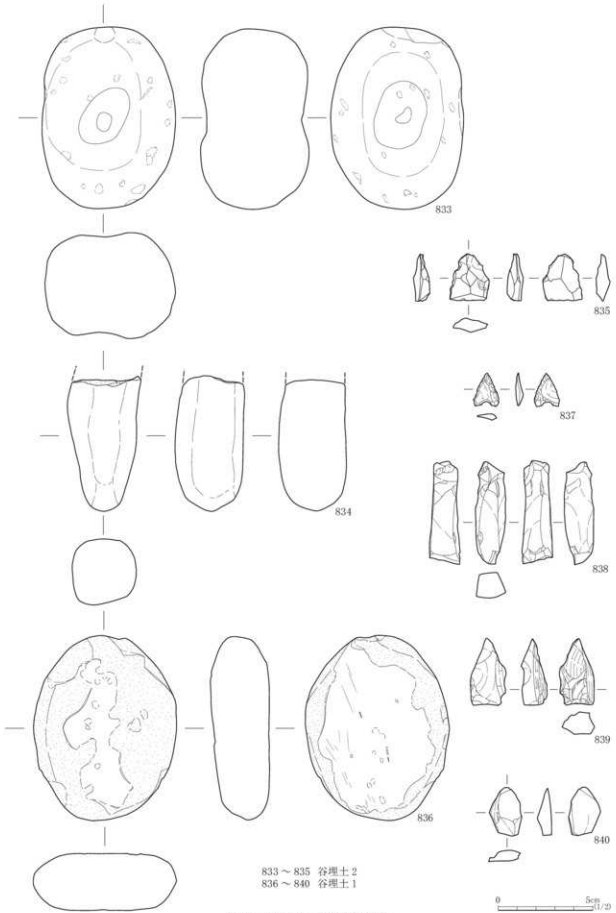


図44 北区出土石器実測図②

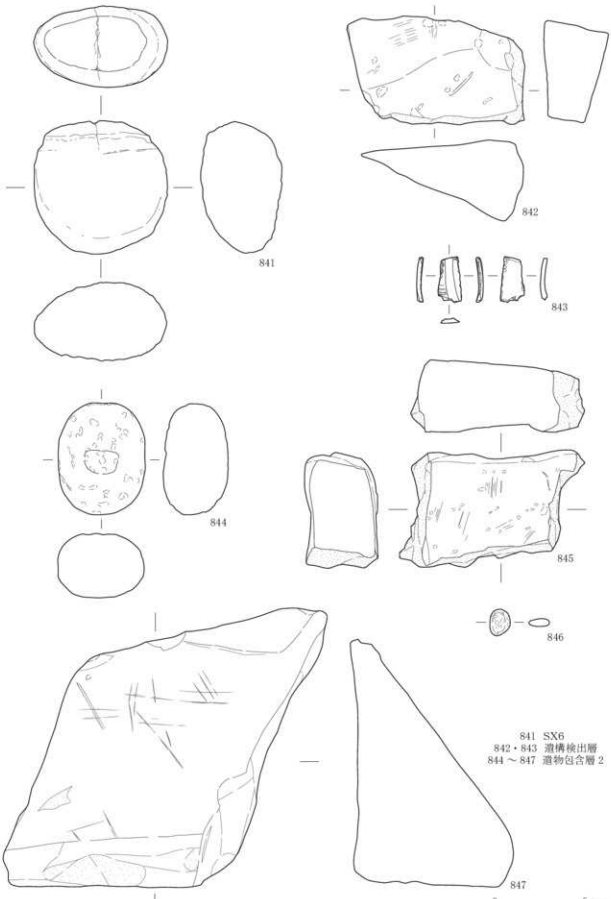
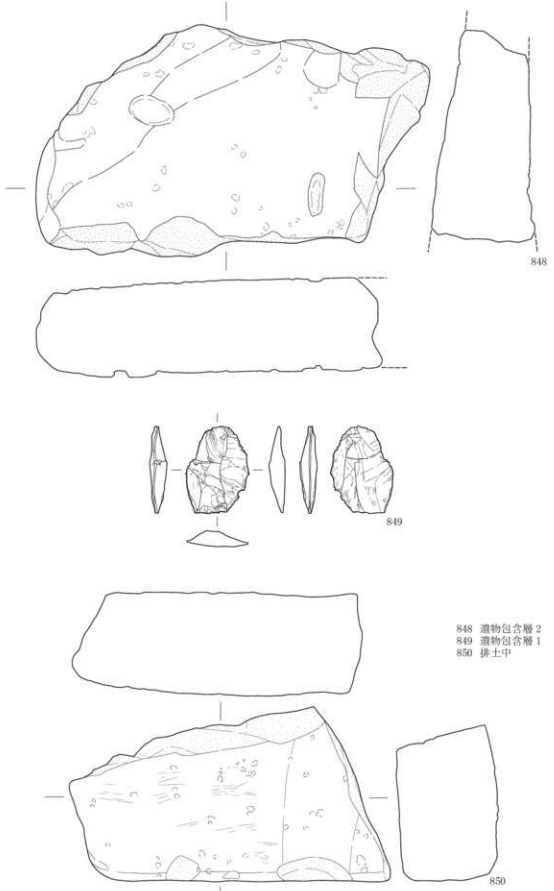
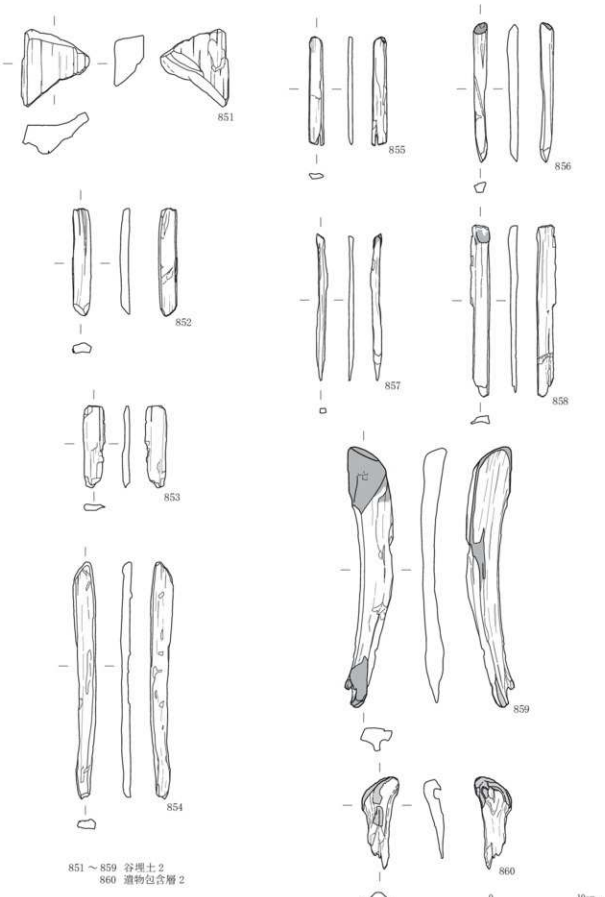


図 45 北区出土石器実測図③



848 遺物包含層 2
849 遺物包含層 1
850 排土中

図 46 北区出土石器実測図④



851～859　谷埋土2
860　遺物包含層2

図47　北区出土木製品実測図

写真 130 出土遺物（土器)①

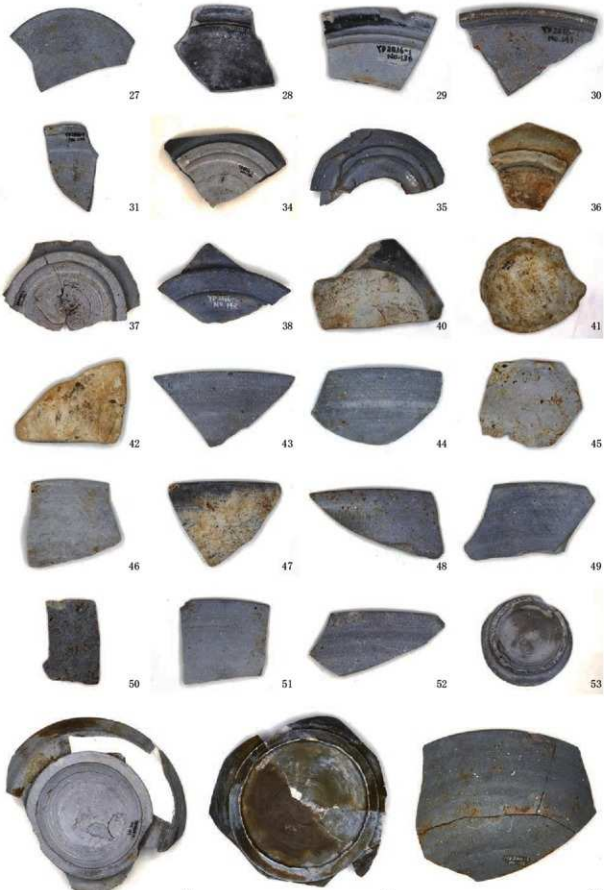


写真 131 出土遺物（土器）②

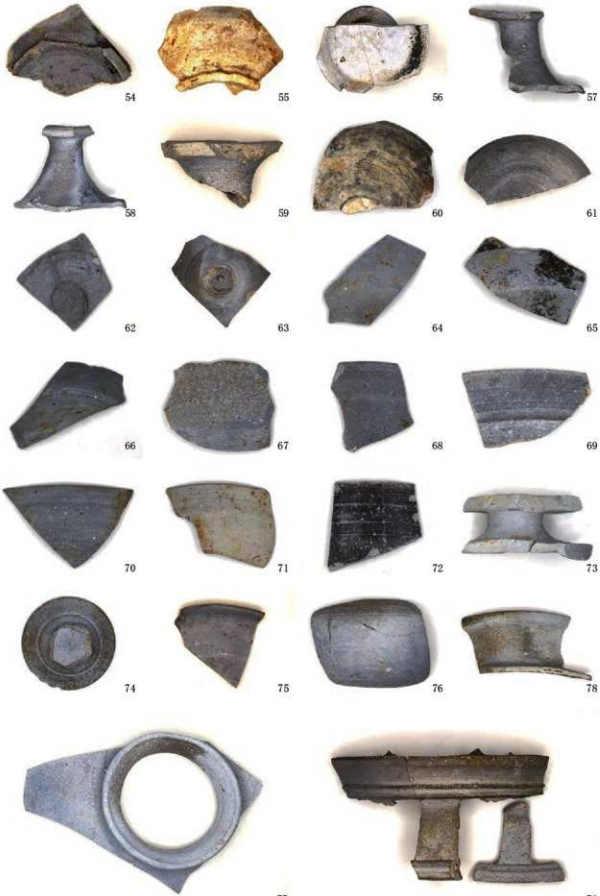


写真 132 出土遺物（土器）③

写真 133 出土遺物（土器)④

写真 134 出土遺物（土器)⑤

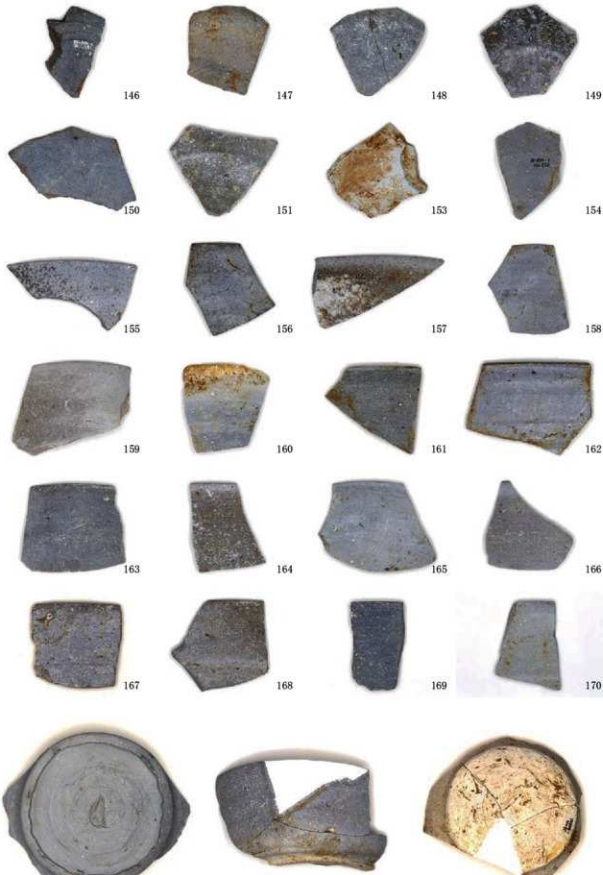


写真 135 出土遺物（土器)⑥

写真 136 出土遺物（土器)⑦

写真 137 出土遺物（土器)⑧

写真 138 出土遺物（土器）⑤

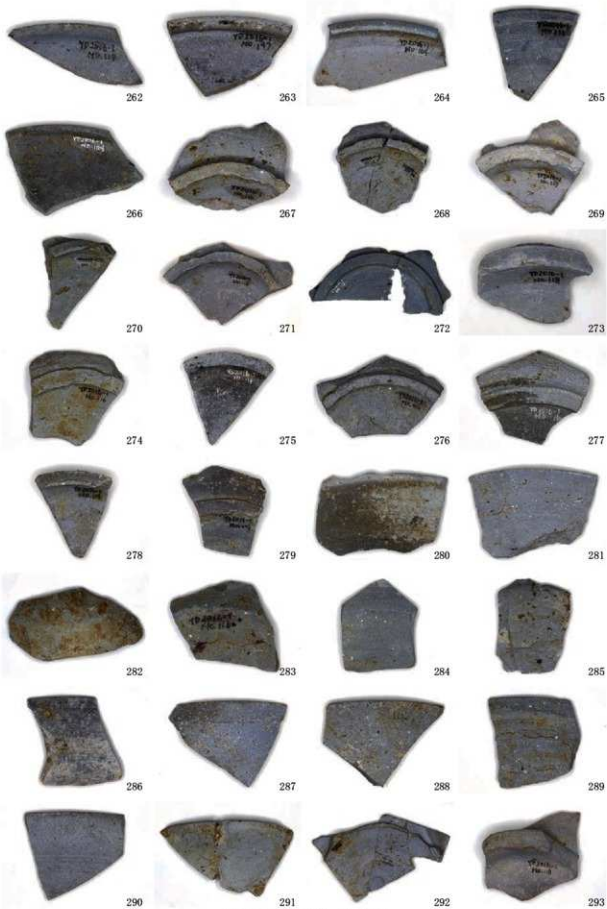


写真 139 出土遺物（土器)⑩

写真 140 出土遺物（土器)⑪

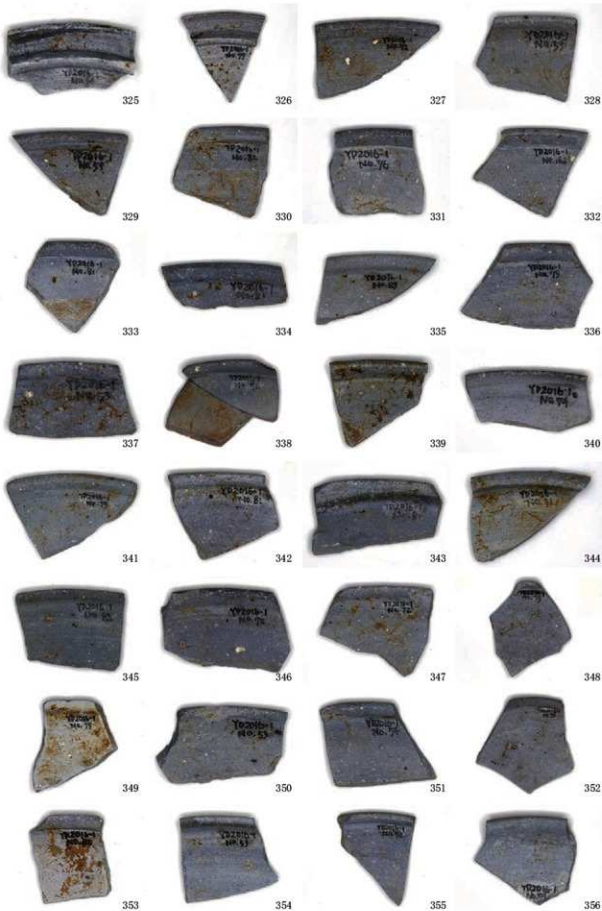


写真 141 出土遺物（土器)⑫

写真 142 出土遺物（土器)⑬

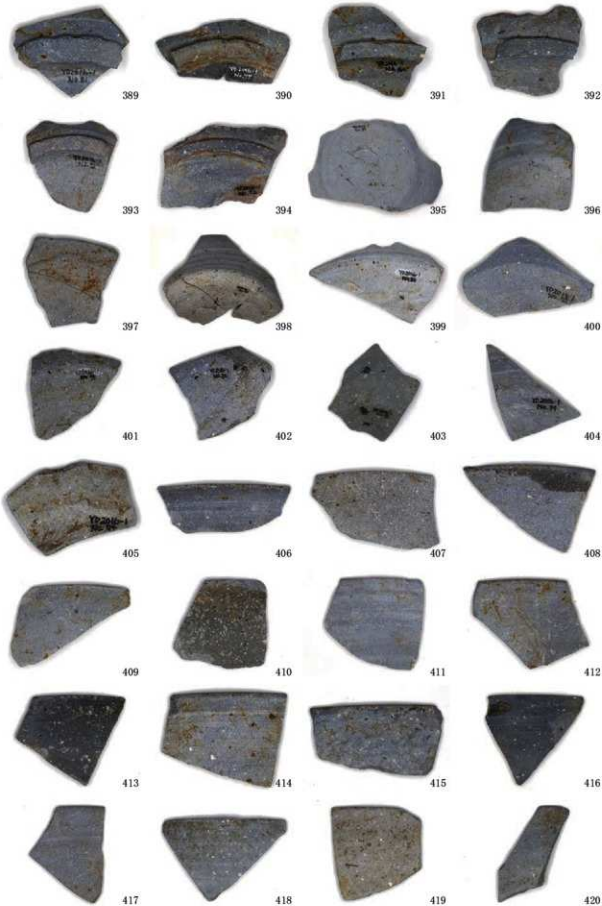


写真 143 出土遺物 (土器)⑭

写真 144 出土遺物（土器)⑮

写真 145 出土遺物（土器)⑯

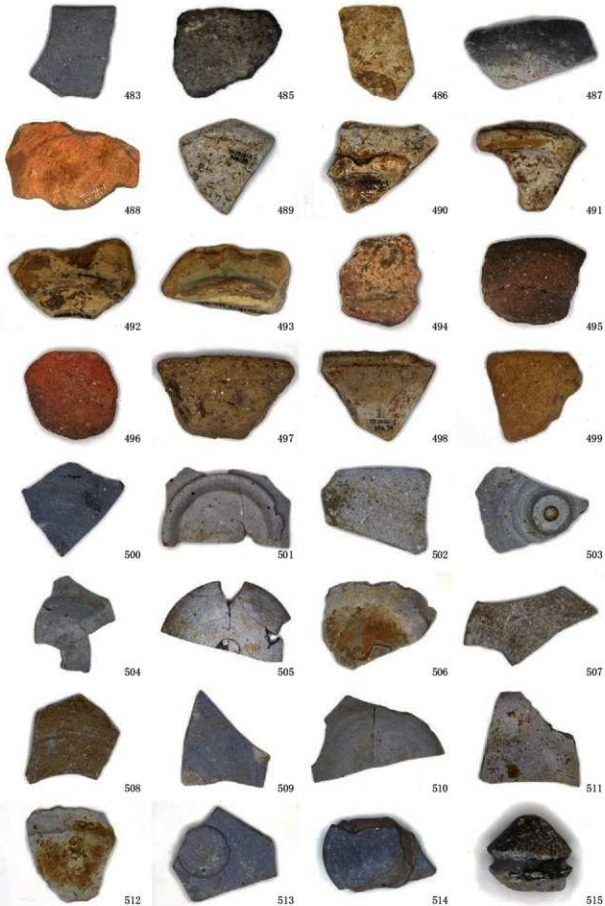


写真 146 出土遺物（土器)⑰

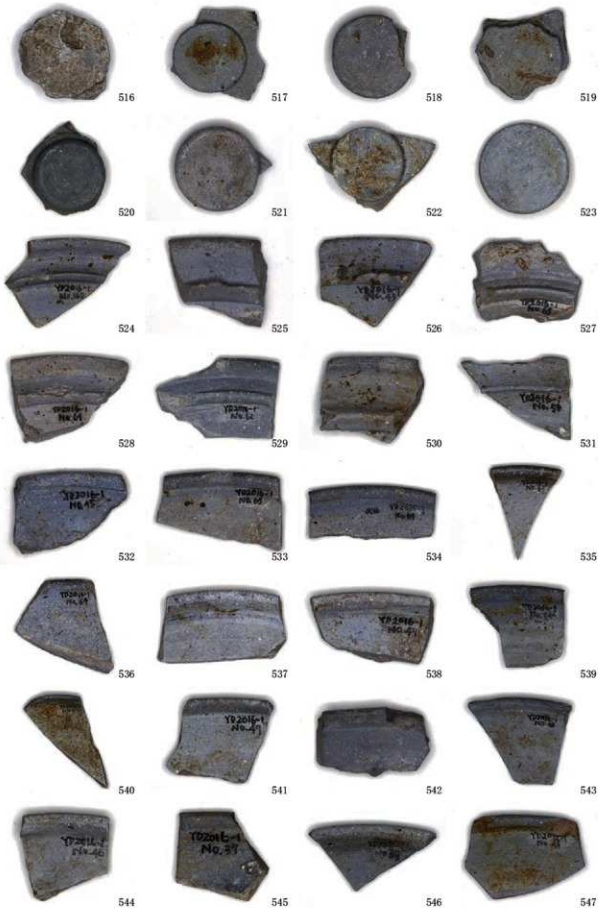


写真 147 出土遺物（土器)⑱

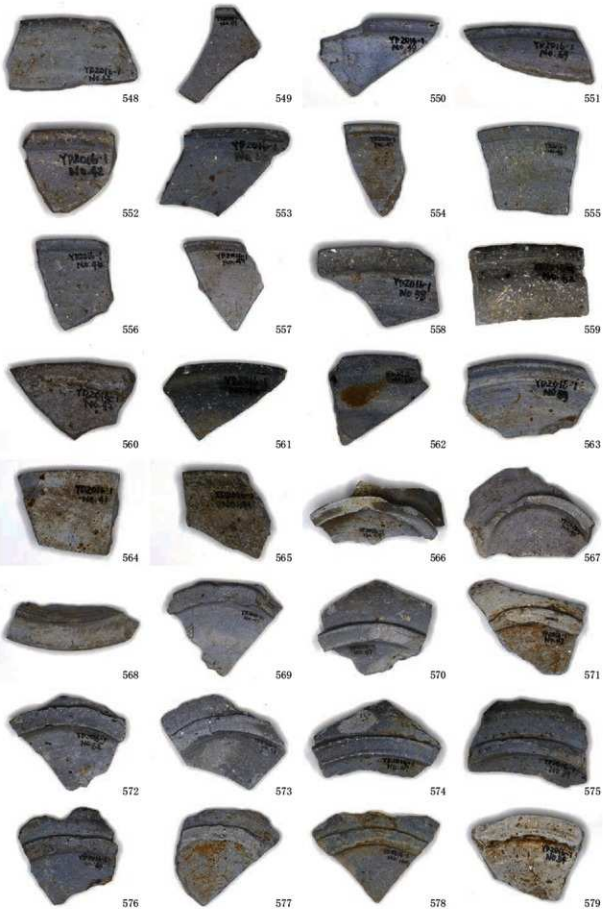


写真 148 出土遺物（土器）⑲

写真 149 出土遺物（土器)㉙

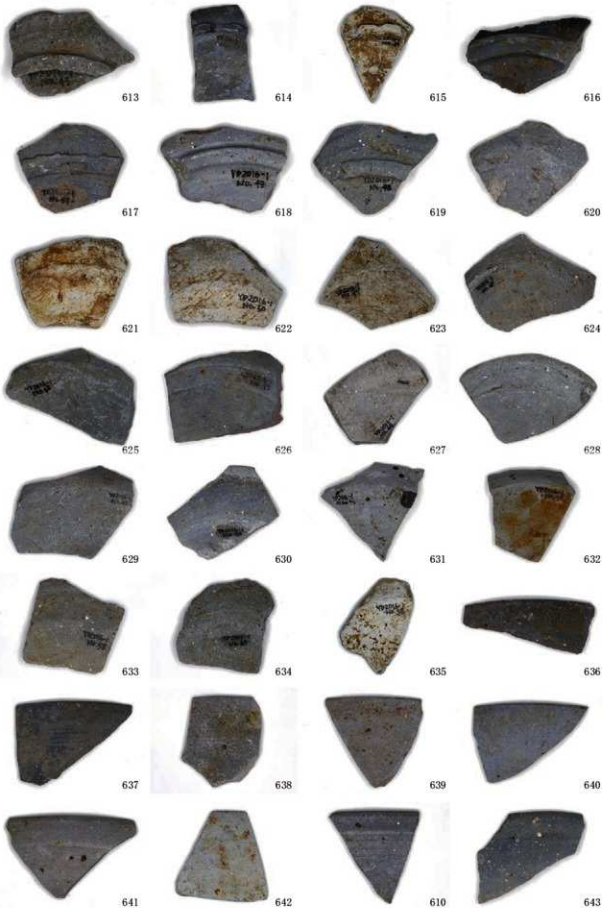


写真 150 出土遺物（土器)㉑

写真 151 出土遺物（土器)㉒

写真 152 出土遺物（土器)㉓

写真 153 出土遺物（土器)㉔

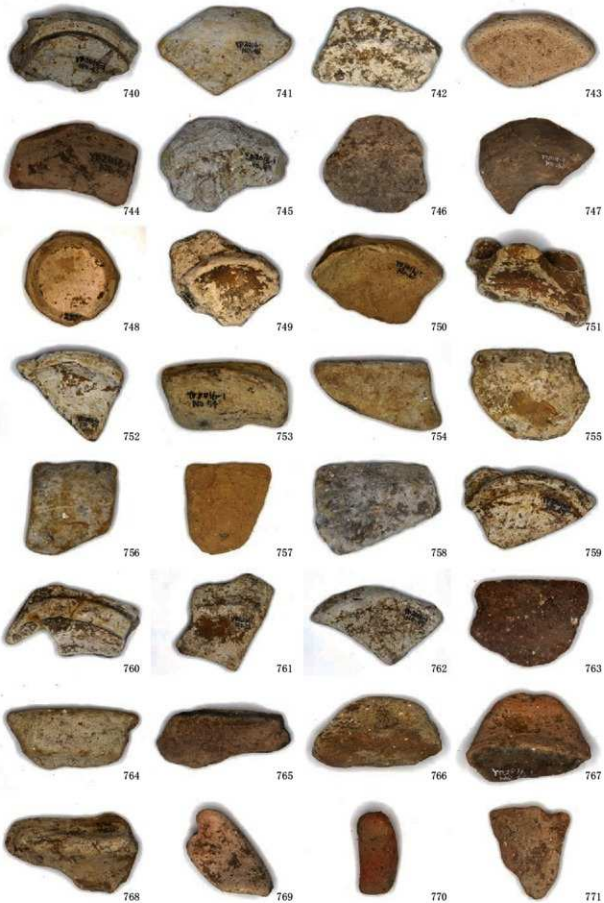


写真 154 出土遺物（土器)㉟

写真 155 出土遺物（土器)㉟

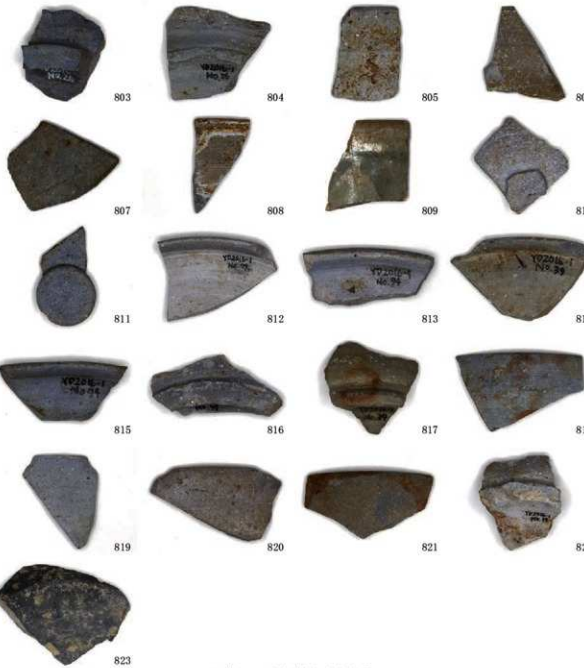


写真 156 出土遺物（土器)②

写真 157 出土遺物（土製品・金属器)

831-1

831-2

832

833-1

833-2

834-1

834-2

835-1

835-2

836-1

836-2

837-1

837-2

838-1

838-2

839-1

839-2

840-1

840-2

写真 158 出土遺物 (石器)①

841-1

841-2

842-1

842-2

843-1

843-2

844-1

844-2

845-1

845-2

846-1

846-2

847-1

847-2

848-1

848-2

849-1

849-2

850-1

850-2

写真 159 出土遺物 (石器)②

851

854

856

859

852

857

853

855

858

860

写真 160　出土遺物（木製品）

表5 出土遺物(土器)観察表

法量( )は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
1	南区包含層	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	③残高1.1	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	密;0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)多く混ざる	
2	南区包含層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.05	①②灰白色(N8/)	密;0.2～0.5mmφの砂粒(角閃石)極少量混ざる	
3	南区包含層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.9	①②灰白色(7.5Y6/1)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
4	南区包含層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.2	①②灰白色(N7/)	密;0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
5	南区包含層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.1	①灰白色(N7/)～灰色(N5/) ②灰白色(N8/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	口縁部外面重ね焼き痕
6	南区包含層	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.5	①②灰白色(N7/)	密;0.2～1.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
7	南区包含層	須恵器 壺か	底部	③残高1.5	①灰白色(N7/)	密;0.2mmφの砂粒(角閃石など)極少量混ざる	
8	南区包含層	須恵器 坏	底部	②(8.4) ③残高1.3	①灰色(N6/～5/) ②灰色(N6/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
9	南区包含層	須恵器 皿	口縁部～底部	③残高1.25	①灰色(N6/) ②灰白色(5Y7/1)～灰色(5Y5/1)	密;0.2mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
10	南区包含層	須恵器 皿か	口縁部	③残高1.55	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
11	南区包含層	土師器 甕	口縁部	③残高2.05	①明黄褐色(10YR6/6) ②明黄褐色(10YR7/6)	やや粗;0.2～1mmの砂粒(長石・石英など)多量に混ざる	
12	南区包含層	土師器 坏	底部	②(5.8) ③残高1.3	①②浅黄色(2.5Y8/3)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石・石英など)少量混ざる	
13	南区包含層	青磁 碗	体部	③残高4.1	釉:灰オリーブ色(7.5Y5/2) 素地:灰白色(N8/)	精緻	龍泉窯系鏑蓮弁文
14	南区遺構検出層	須恵器 坏	底部	②(10.0) ③残高0.8	①②灰白色(N7/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
15	南区遺構検出層	須恵器 壺か	口縁部	③残高2.3	①灰白色(N7/) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	密;0.2mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	内面全面に灰被る
16	南区旧耕土	須恵器 坏	底部	②(6.0) ③残高1.2	①②灰白色(7.5Y7/1)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
17	南区旧耕土	製塩土器	体部		①浅黄橙色(7.5YR8/4) ②灰白色(2.5Y8/2)	密;0.2～1.5mmφの粗砂粒少量混ざる	六連式
18	南区攪乱	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.25	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	密;0.2～1.5mmφの粗砂粒少量混ざる	
19	南区攪乱	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.95	①灰白色(N7/～8/) ②灰白色(2.5Y7/1)	密;0.2～1.5mmφの粗砂粒(角閃石など)少量混ざる	
20	南区攪乱	須恵器 高台付坏	底部	②(5.6) ③残高1.4	①②灰色(N6/)	密;0.2～1mmφの粗砂粒少量混ざる	
21	南区攪乱	土師器 塊	底部	②6.5 ③残高1.6	①浅黄色(2.5Y8/4)～黄褐色(10YR5/6) ②にぶい黄褐色(10YR5/4)	密;0.2～0.5mmφの砂粒(黒雲母・長石など)少量まざる	底部外面回転糸切り痕
22	北区南東側谷埋土2	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	①(16.4) ③2.35	①②灰白色(N7/)	0.5～3mmφの長石含む	外面墨書
23	北区南東側谷埋土2	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.6	①②灰白色(N7/)	0.5～4mmφの長石含む	
24	北区谷埋土2	須恵器 坏蓋	天井部	③1.25	①灰白色(N7/) ②青灰色(5PB6/1)	0.5～1mmφの長石・石英含む	
25	北区南東側谷埋土2	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.15	①明青灰色(5PB7/1) ②灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
26	北区谷埋土2	須恵器 坏蓋	口縁部	①(17.8) ③残高2.4	①灰白色(7.5Y7/1) 灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
27	北区東西アゼ谷埋土2	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	①(17.0) ③残高1.15	①②明青灰色(5B7/1)	0.5～2mmφの長石・石英含む	
28	北区南東側谷埋土2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.4	①灰白色(N7/) ②灰色(N5/)	0.5～2mmφの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
29	北区 南東側 谷埋土2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.2	①灰白色(N7/) ②灰白色(N7/) 灰色(N4/)	0.5～1mmφの長石含む	
30	北区 谷埋土2 (東流路 東肩側)	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.6	①灰色(7.5Y6/1) ②灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
31	北区 北東側 谷埋土2	須恵器 坏蓋	天井部 ～口縁部	③残高1.2	①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
32	北区 谷埋土2	須恵器 高台付坏	①(14.4) ②7.8 ③4.85	口縁部 ～底部	①②灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
33	北区 中央東壁 谷埋土2	須恵器 高台付坏	体部 ～底部	②(8.4) ③残高3.6	①②明青灰色(5PB7/1)～青灰色(5PB5/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	北区谷埋土1と接合
34	北区 南東側 谷埋土2	須恵器 高台付坏	底部	②(8.0) ③残高3.0	①灰色(N6/) 灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	0.5～3mmφの長石含む	
35	北区 谷埋土2 (東流路 東肩側)	須恵器 高台付坏	体部 ～底部	②(8.0) ③残高3.0	①②灰色(N5/)	0.5～2mmφの長石・石英含む	
36	北区 谷埋土2	須恵器 高台付坏	底部	②(8.0) ③残高2.25	①灰白色(5Y7/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	
37	北区 谷埋土2	須恵器 高台付坏	底部	②(6.9) ③残高2.1	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
38	北区 谷埋土2	須恵器 高台付坏	底部	②(7.8) ③残高1.6	①青灰色(5PB5/1) ②明青灰色(5PB7/1)	0.3mmφの砂粒含む	
39	北区 東西アゼ 谷埋土2	須恵器 坏	口縁部 ～底部	①(14.4) ②(6.0) ③5.0	①②灰色(N6/)～灰白色(N7/)	密:0.2～3mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
40	北区 谷埋土2	須恵器 坏	底部	②(8.0) ③残高2.15	①灰白色(N8/) 灰色(N5/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
41	北区 谷埋土2	須恵器 坏	底部	③残高1.6	①灰白色(10Y8/1) ②灰白色(5Y8/2)	0.5～1mmφ長石含む	
42	北区 谷埋土2 (東流路 東肩側)	須恵器 坏	天井部	③残高1.4	①淡黄色(2.5Y8/3) ②灰白色(5Y8/1)	0.5～1mmφの長石含む	坏蓋の可能性あり 外面ヘラ記号
43	北区 谷埋土2	須恵器 坏	口縁部	①(15.8) ③残高3.15	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.5mmφの長石含む	
44	北区 谷埋土2	須恵器 坏	口縁部	①(10.4) ③残高2.95	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
45	北区 東西アゼ 南側 谷埋土2	須恵器 坏	口縁部	③残高3.4	①灰白色(N7.5/) 重ね焼き部:灰白色(N8/) ②灰白色(N8/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	口縁端部外面重ね焼き痕
46	北区 谷埋土2 (東流路 東肩側)	須恵器 坏	口縁部	③残高3.25	①②灰白色(N8/)	0.5～2mmφの長石含む	
47	北区 谷埋土2 (東流路 東肩側)	須恵器 坏	口縁部	③残高2.55	①灰色(N5/) 灰白色(5Y8/2) ②灰白色(N7/)	1～2mmφの長石含む	
48	北区 東西アゼ 谷埋土2	須恵器 皿	口縁部	③残高2.4	①②灰白色(N7/)	密:0.2～2.5mmφの粗砂粒(長石・くさり礫など)極少量混ざる	
49	北区 谷埋土2 (東流路 東肩側)	須恵器 坏	口縁部	③残高2.35	①灰白色(N6/) ②灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
50	北区 東西アゼ 南側 谷埋土2	須恵器 坏	口縁部	③残高4.3	①灰白色(N7/) ②灰白色(5Y7/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
51	北区 北側 谷埋土2	須恵器 坏	口縁部	③残高2.6	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
52	北区 谷埋土2	須恵器　坏	口縁部	③残高1.85	①②灰白色(N7/)	砂粒を圧とんど含まない	
53	北区 谷埋土2	須恵器　高台付皿	底部	②6.7 ③残高1.8	①②灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
54	北区 谷埋土2	須恵器　高台付皿	底部	②(7.6) ③残高2.6	①灰色(N6/) ②暗灰黄色(2.5Y4/2)	0.5～1mmφの長石含む	
55	北区 東西アゼ 南側 谷埋土2	須恵器　高台付皿	口縁部 ～底部	①(15.9) ②(9.0) ③5.0	①灰白色(2.5Y8/2～7/1) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石・石英など)少量混ざる	
56	北区 東西アゼ 南側 谷埋土2	須恵器　高坏	口縁部 ～底部	①(9.0) ②7.0 ③7.1	①②灰白色(N7.5/) 灰色(N4/)	精緻:0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	坏部内面ヘラ記号
57	北区 谷埋土2 (東流路 東肩側)	須恵器　高坏	坏底部 ～脚部	②(9.6) ③残高6.85	①②灰白色(N7/)	0.5～3mmφの長石含む	
58	北区 南東側 谷埋土2	須恵器　高坏	脚部	②(9.0) ③残高5.9	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
59	北区 谷埋土2	須恵器　高坏	坏底部 ～脚部	③3.35	①②灰白色(N7/)	1～2mmφの長石含む	
60	北区 南東側 谷埋土2	須恵器　高坏	坏部	①(16.2) ③残高3.95	①暗灰色(N4/) 灰黄色(2.5Y7/2) ②灰色(N5/) 灰白色(5Y8/1)	0.5～3mmφの長石含む	
61	北区 南東側 谷埋土2	須恵器　高坏	坏部	①(12.8) ③残高3.4	①灰白色(N7/)　灰色(N6/) ②灰白色(N7/)　灰色(N5/)	0.5～2mmφの長石含む	
62	北区 南東側 谷埋土2	須恵器　高坏	坏底部	③残高1.3	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	0.5～1mmφの長石含む	
63	北区 谷埋土2 (東流路 東肩側)	須恵器　高坏	坏底部	③残高1.9	①②明青灰色(5B7/1)	0.5～1mmφの長石含む	
64	北区 東西アゼ 南側 谷埋土2	須恵器　高坏	坏部	③残高2.8	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
65	北区 東西アゼ 南側 谷埋土2	須恵器　高坏	坏部	①(12.8) ③残高2.5	①灰白色(N7/) 暗灰色(N3/) ②灰白色(N7/)　灰色(N5/)	精緻:0.1～0.2mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
66	北区 谷埋土2	須恵器　高坏	口縁部	③残高3.6	①②灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
67	北区 谷埋土2 (東流路 西肩側)	須恵器　高坏	口縁部	③残高2.7	①②灰色(N7/)	1mmφの長石含む	
68	北区 谷埋土2	須恵器　高坏	口縁部	③残高2.6	①②灰白色(N7/)	1～7mmφの長石含む	
69	北区 谷埋土2 (東流路 東肩側)	須恵器　高坏	口縁部	③残高2.55	①②灰色(N6/)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
70	北区 谷埋土2	須恵器　高坏	口縁部	③残高2.1	①②灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
71	北区 南東側 谷埋土2	須恵器　高坏	口縁部	③残高3.1	①灰白色(7.5Y8/1) ②灰白色(7.5Y7/1)	0.5～1mmφの長石含む	
72	北区 南東側 谷埋土2	須恵器　高坏	口縁部	③残高3.15	①オリーブ黒色(10Y3/1) 灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.3mmφの砂粒含む	
73	北区 谷埋土2	須恵器　高坏	脚部	②(6.0) ③残高2.55	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
74	北区 谷埋土2	須恵器　不明脚部	脚部	②4.3 ③残高2.8	①②灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
75	北区 谷埋土2 (東流路東肩側)	須恵器 壺蓋	口縁部	③残高1.3	①②灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
76	北区 谷埋土2	須恵器 平瓶	体部	③残高12.0	①②灰色(N6/)	0.5～3mmφの長石含む	北区包含層1と接合
77	北区 谷埋土2 (東流路東肩側)	須恵器 横瓶	口縁部 ～肩部	①11.8 ③残高5.5	①②灰白色(N7/)	1～3mmφの長石含む	
78	北区 中央東壁 谷埋土2	須恵器 甕	口縁部 ～肩部	①(20.2) ③残高7.6	①灰白色(N7/)～黄灰色(2.5Y6/1) ②灰白色(N7/～8/)～黄灰色(2.5Y6/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石・くさり礫など)少量混ざる	
79	北区 南東側 谷埋土2	須恵器 円面硯	海～脚部	②(15.6)	①灰色 ②明青灰色	0.5～1.5mmφの砂粒を含む	総合研究棟出土品(年報XX fig.18-56)と接合 北区谷埋土1から同一個体出土
80	北区 東西アゼ 南側 谷埋土2	土師器 坏	口縁部 ～底部	①(14.0) ②(10.8) ③残高4.9	①灰色(N4/) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.2～2.5mmφの粗砂粒(石英など)少量混ざる	
81	北区 谷埋土2	土師器 坏	口縁部	③残高3.7	①灰白色(5Y8/1) ②灰白色(5Y8/2)	1mmφの長石含む	
82	北区 谷埋土2	土師器 坏	底部	③残高1.7	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(2.5Y8/2)	0.5～2mmφの長石・石英含む	須恵器模倣土師器
83	北区 谷埋土2	土師器 坏	体部 ～底部	②(10.0) ③残高4.05	①灰白色(2.5Y7/1) 淡黄色(2.5Y8/3) ②淡黄色(2.5Y8/3)	0.5～2mmφの長石含む	
84	北区 東西アゼ 南側 谷埋土2	土師器 高坏	脚部	③残高5.9	①灰色(N5/～6/) ②灰白色(5Y8/2)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
85	北区 谷埋土2	土師器 甕	口縁部	③残高3.7	①浅黄橙色(10YR8/3) ②淡黄色(2.5Y8/3)	0.5～3mmφの長石・石英含む	
86	北区 南東側 谷埋土2	土師器 甕	口縁部	③残高2.3	①にぶい橙色(7.5YR7/4) ②灰褐色(10YR6/2)	0.5～1mmφの長石・石英含む	
87	北区 東西アゼ 南側 谷埋土2	土師器 甕	口縁部	③残高3.6	①橙色(7.5YR6/6) ②褐灰色(10YR5/1)	密:0.2～4mmφの砂粒(石英など)多量に混ざる	
88	北区 南東側 谷埋土2	土師器 甕	口縁部	③残高2.7	①②橙色(7.5YR6/8)	0.5～1mmφの長石・石英・くさり礫含む	
89	北区 南東側 谷埋土2	土師器 甕	口縁部	③残高2.1	①にぶい橙色(7.5YR7/4) ②灰褐色(7.5YR5/2) 黒褐色(7.5YR3/1)	0.5～3mmφの長石・石英・くさり礫含む	
90	北区 東西アゼ 南側 谷埋土2	土師器 甕	口縁部	③残高2.2	①明黄褐色(10YR6/6) ②明黄褐色(10YR6/6)～にぶい黄橙色(10YR7/2)	やや粗:0.2～2mmφの粗砂粒(石英など)やや多く混ざる	
91	北区 東西アゼ 南側 谷埋土2	弥生土器 甕	底部	②(6.6) ③残高1.5	①灰白色(2.5Y8/2)～明黄褐色(10YR7/6) ②灰白色(2.5Y7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
92	北区 南東 谷埋土1	須恵器 坏蓋	天井部 ～口縁部	①(11.6) ③残高3.6	①明青灰色(5PB7/1) ②灰白色(N8/～7/)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石・石英など)少量混ざる	
93	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏蓋	天井部 ～口縁部	①(17.0) ③残高3.1	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	北区谷埋土2と接合
94	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏蓋	天井部 ～口縁部	①(13.3) ③1.9	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
95	北区 東側 谷埋土1	須恵器 坏蓋	天井部 ～口縁部	①(12.4) ③残高2.95	①灰白色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
96	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	①(13.0) ③残高1.7	①②青灰色(5PB6/1)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
97	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高2.1	①②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
98	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.7	①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
99	北区 南東 谷埋土1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.5	①灰白色(N7/)～灰色(N5/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
100	北区 北壁 谷埋土1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.15	①②灰白色(N7/)	密:0.2～4.5mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
101	北区 東側 谷埋土1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.15	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	0.5～2mmφの長石含む	
102	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏蓋	天井部 ～口縁部	①(14.2) ③1.9	①②灰色(N5/)	密:0.2～4mmφの粗砂粒(くさり礫・長石など)多く混ざる	北区包含層2と接合
103	北区 東側 谷埋土1	須恵器 坏蓋	天井部 ～口縁部	①(14.0) ③1.6	①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒少量混ざる	
104	北区 北西側 谷埋土1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.5	①明青灰色(5PB7/1) 灰:灰色(10Y6/1) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(くさり礫など)やや多く混ざる	
105	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏蓋(転用硯)	天井部	③残高1.25	①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	精緻:0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	わずかに墨痕残る
106	北区 東西アゼ 谷埋土1	須恵器 坏蓋 (転用硯)	天井部	③残高0.65	①灰白色(N8/) 灰:灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(角閃石など)極少量混ざる	
107	北区 東側 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	①(14.2) ③残高0.9	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	精緻	
108	北区 谷埋土1 (東流路東肩側)	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.5	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
109	北区 南東 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
110	北区 東側 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.2	①②灰白色(N7/) 外面灰:灰色(7.5Y6/1)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	外面灰被る
111	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①②灰白色(N7/) 外面灰:明オリーブ灰色(2.5GY7/1)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	外面灰被る
112	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.35	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
113	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.85	①②青灰色(5PB5/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
114	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.8	①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(角閃石・長石など)極少量混ざる	
115	北区 東側 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.85	①灰白色(N7.5/) 重ね焼き部:灰白色(N7/) ②灰白色(10Y7/1) 重ね焼き部:灰白色(10Y8/1)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
116	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高2.15	①灰白色(N8/) オリーブ灰色(2.5GY5/1) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
117	北区 東西アゼ 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.6	①明青灰色(5B7/1) ②青灰色(5PB6/1)	0.5～1mmφの長石含む	
118	北区 谷埋土1 (東流路 東肩側)	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.75	①②灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石・石英含む	
119	北区 東側 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
120	北区 東西アゼ 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.4	①灰白色(N8/) ②灰白色(N8/)～灰色(7.5Y6/1)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(角閃石など)極少量混ざる	
121	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.3	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
122	北区 東側 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.2	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(N7/)～灰色(N4/)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
123	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏蓋	天井部 ～口縁部	③残高1.2	①②灰色(N7/) 外面灰:浅黄色(5Y7/3)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	外面灰被る
124	北区 東側 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.3	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
125	北区 南東 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.3	①②青灰色(5PB6/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
126	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.9	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
127	北区 東西アゼ 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.95	①②灰色(N6/～4/)	1～2mmφの長石含む	
128	北区 南東 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.6	①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
129	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.45	①②灰白色(N8/)	やや粗:0.2～2mmφの粗砂粒(長石・石英など)多く混ざる	
130	北区 谷埋土1 (東流路 西肩側)	須恵器 坏蓋	天井部	③2.3	①灰白色 ②灰白色(7.5Y8/1)	0.5～1mmφの長石含む	輪状つまみ
131	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	②(6.4) ③残高2.35	①灰白色(N7/) 灰白色(7.5Y8/1) ②灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
132	北区 東西アゼ 南側 谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	②(8.4) ③残高2.2	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(角閃石・長石など)少量混ざる	
133	北区 南東側 谷埋土1	須恵器 高台付坏	体部 ～底部	②7.6 ③残高2.25	①②灰白色(N7.5/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
134	北区 南東 谷埋土1	須恵器 高台付坏	体部 ～底部	②(7.2) ③残高2.7	①②灰白色(N7/)	密:0.2～2.5mmφの粗砂粒(石英・長石など)少量混ざる	
135	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	②(7.5) ③残高2.2	①②灰白色(N8/)	0.5～2mmφの長石含む	
136	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	②(7.6) ③残高2.6	①明青灰色(5PB7/1)～灰色(5Y5/1) ②灰白色(N7/)	密:0.2～0.3mmφの砂粒(角閃石など)極少量混ざる	
137	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	②(7.2) ③残高1.7	①②灰白色(2.5Y8/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
138	北区 北西側 谷埋土1	須恵器 高台付坏	体部 ～底部	②(8.4) ③残高2.2	①明青灰色(5PB7/1) ②灰白色(N7/)N7/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
139	北区 南東 谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	②(7.1) ③残高1.6	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
140	北区 南東側 谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	②(9.6) ③残高2.5	①灰色(N5/～6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(角閃石など)少量混ざる	
141	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高台付坏	口縁部 ～底部	①(11.4) ②(8.8) ③5.3	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)多く混ざる	
142	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高台付坏	高台部	③残高1.25	①灰色(N4/)～灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
143	北区 東西アゼ 谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.75	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
144	北区 南東側 谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.0	①②青灰色(5PB6/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
145	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.2	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
146	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.7	①②青灰色(5B5/1)	0.5～1mmφの長石・0.5～2mmφの石英含む	
147	北区 東西アゼ 谷埋土1	須恵器 坏	底部	②(10.7) ③残高1.9	①②灰白色(10Y7/1)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)多く混ざる	
148	北区 南東 谷埋土1	須恵器 坏	底部	③残高1.9	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
149	北区 南東側 谷埋土1	須恵器 坏	底部	②(6.8) ③1.8	①青灰色(5PB5/1～6/1) ②灰白色(N8/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
150	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	底部	②(6.2) ③残高0.7	①②青灰色(5PB6/1)	密:0.2～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
151	北区 北西側 谷埋土1	須恵器 坏	底部	②(6.9) ③残高0.9	①灰白色(5Y7/2) ②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(角閃石など)極少量混ざる	
152	北区 東側 谷埋土1	須恵器 坏	体部 ～底部	②(7.6) ③残高4.15	①②灰白色(5Y8/1)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石・角閃石・石英など)やや多く混ざる	
153	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	体部 ～底部	②(5.6) ③残高2.7	①②灰白色(N8/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
154	北区 東西アゼ 谷埋土1	須恵器 坏	底部	③残高2.0	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
155	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	①(10.2) ②残高2.05	①②灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
156	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.8	①②明青灰色(5PB7/1) 内面灰:明オリーブ灰色(2.5GY7/1)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
157	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.0	①灰色(5Y6/1) 重ね焼き部:灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(角閃石・長石など)極少量混ざる	
158	北区 東側 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部 ～底部	③残高3.3	①②灰白色(N7/)	0.5mmφの砂粒含む	
159	北区 東西アゼ 南側 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.75	①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
160	北区 東側 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高3.2	①灰白色(N6/)～灰白色(N7/) ②灰白色(N7.5/)	密:0.2～3mmφの粗砂粒(長石など)やや多く混ざる	
161	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高1.8	①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.7mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
162	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.4	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	
163	北区 谷埋土1 (東流路 東肩側)	須恵器 坏	口縁部	③残高2.7	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
164	北区 東側 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.35	①灰色(5Y6/1) 重ね焼き部:灰白色(N7.5/) ②灰白色(N7.5/)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	口縁部重ね焼き痕
165	北区 東端部 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.6	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	1mmφの長石含む	
166	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部～底部	③残高3.1	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	精緻:0.1～0.2mmφの角閃石極少量混ざる	
167	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.0	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	内面灰被る
168	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.2	①②灰白色(N7/) 内面灰:オリーブ灰(5Y6/3)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(角閃石など)極少量混ざる	内面灰被る
169	北区 南東 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.6	①②青灰色(5PB6/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(くさり礫・長石など)やや多く混ざる	
170	北区 東側 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.9	①②灰白色(N7/)	密:0.2～4mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
171	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高3.5	①灰白色(N7/) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.5～1mmφの長石含む	
172	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.1	①②灰色(N6/)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石・石英など)やや多く混ざる	
173	北区 東側 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.7	①灰白色(N7.5/) 重ね焼き部:灰白色(N7/) ②灰白色(N7.5)	密:0.2～4mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	口縁部重ね焼き痕
174	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.6	①灰白色(7.5Y8/1)～灰色(N5/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～0.3mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
175	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.2	①②灰色(N6/)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(くさり礫など)やや多く混ざる	
176	北区 北西側 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.5	①②灰白色(N7/)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(くさり礫など)やや多く混ざる	
177	北区 東西アゼ 南側 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高1.9	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
178	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.2	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～0.4mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
179	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.4	①②灰白色(N7/)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
180	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.6	①灰白色(N7/)～灰色(N6/) ②灰白色(N8/～7/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(石英・長石など)やや多く混ざる	
181	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.9	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
182	北区 南東側 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高3.2	①②灰白色(10Y7/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(くさり礫など)少量混ざる	
183	北区 南東 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.3	①灰白色(N8/～7/) ②灰白色(N8/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
184	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.2	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
185	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高3.0	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
186	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.4	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
187	北区 中央 谷埋土1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.1	①②明青灰色(5PB7/1) 内面灰:灰オリーブ色(5Y5/3)	精緻:0.1～0.2mmφの長石極少量混ざる	内面灰被る
188	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高台付皿	底部	②(9.6) ③残高2.1	①②灰白色(N8/)	密:0.1～2mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
189	北区 南東 谷埋土1	須恵器 高台付皿	底部	②(7.6) ③残高1.8	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
190	北区 南東側 谷埋土1	須恵器 高台付皿	底部	③残高1.1	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
191	北区 東側 谷埋土1	須恵器 高台付皿	口縁部	①(17.8) ③残高2.7	①灰白色(N7/)～灰色(N6/) ②灰色(N5/～6/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
192	北区 中央 谷埋土1	須恵器 皿	口縁部	③残高2.2	①②灰白色(N7/)～灰色(N5/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
193	北区 中央 谷埋土1	須恵器 皿	口縁部 ～底部	③2.0	①②灰白色(N7/)	砂粒をほとんど含まない	
194	北区 中央 谷埋土1	須恵器 皿	口縁部	③残高2.0	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/) 灰:灰オリーブ色(7.5Y6/2)	精緻:0.2～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	内面灰被る
195	北区 南東 谷埋土1	須恵器 皿	口縁部 ～底部	③残高1.55	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
196	北区 東側 谷埋土1	須恵器 高坏	坏底部 ～脚部	③残高6.95	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	北区包含層2と接合
197	北区 東端部 谷埋土1	須恵器 高坏	脚部	③残高4.0	①②青灰色(5B6/1)	1mmφの長石含む	
198	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高坏	坏部 ～脚部	③残高2.4	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
199	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高坏	坏底部	③残高1.95	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
200	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高坏	脚裾部	②(9.2) ③残高0.7	①②灰白色(N8/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
201	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高坏	脚裾部	②(9.8) ③残高1.7	①②灰白色(N8/)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
202	北区 谷埋土1	須恵器 高坏	坏部	③残高2.5	①②灰白色(N7.5/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
203	北区 東側 谷埋土1	須恵器 高坏	口縁部	③残高2.2	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
204	北区 東西アゼ 谷埋土1	須恵器 高坏	口縁部	③残高2.3	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	0.5～2mmφの長石含む	
205	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高坏	口縁部	③残高1.7	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
206	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高坏	口縁部	③残高1.6	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.1～0.5mmφの砂粒含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
207	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高坏	口縁部	③残高2.2	①灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)～灰色(N6/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
208	北区 東側 谷埋土1	須恵器 高坏	口縁部	③残高2.7	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
209	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高坏	口縁部	③残高2.1	①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
210	北区 中央 谷埋土1	須恵器 高坏	口縁部	③残高1.7	①②灰色(7.5Y6/1) 内面灰:浅黄色(2.5Y7/3)	精緻:0.2～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	内面灰被る
211	北区 中央 谷埋土1	須恵器 長頸壺	口縁部	③残高3.5	①②灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
212	北区 東西アゼ 谷埋土1	須恵器 壺	口縁部	③残高1.7	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～2.5mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
213	北区 中央 谷埋土1	須恵器 長頸壺	口縁部	③残高1.3	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石・くさり礫など)やや多く混ざる	
214	北区 南東側 谷埋土1	須恵器 平瓶か	頸部	③残高2.85	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
215	北区 中央 谷埋土1	須恵器 壺	口縁部	③残高3.45	①灰色(7.5Y5/1) ②灰色(6N/)	0.5～1mmφの長石含む	
216	北区 南東 谷埋土1	須恵器 壺蓋	天井部～口縁部	③残高0.8	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	
217	北区 中央 谷埋土1	須恵器 ハソウ	口縁部	①(8.2) ③残高2.3	①灰白色(7.5Y7/1) 灰白色(N7/) ②灰白色(5Y7/1)	0.5～1mmφの長石含む	
218	北区 南東側 谷埋土1	須恵器 器台	脚部	③残高2.95	①灰色(N5/～6/) ②灰色(N5/)	1mmφの長石含む	
219	北区 東端部 谷埋土1	須恵器 平瓶	頸部～底部	②(7.3) ③残高12.0	①②灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	北区包含層2・北区谷埋土2・北区地山直上と接合
220	北区 中央 谷埋土1	須恵器 平瓶	肩部	③残高4.0	①灰色(7.5Y6/1) 明青灰色(5B7/1) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	外面重ね焼き痕・北区谷埋土2に接点ない同一個体あり
221	北区 中央 谷埋土1	須恵器 平瓶	体部	③残高7.0	①②灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
222	北区 中央 谷埋土1	須恵器 平瓶	体部	③残高8.55	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	0.5～2mmφの長石含む	
223	北区 中央 谷埋土1	須恵器 甕	口縁部～肩部	①(21.6) ③残高14.2	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
224	北区 東側 谷埋土1	須恵器 甕	肩部	③残高3.3	①②灰白色(N8/) 外面灰:浅黄色(2.5Y7/3)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	外面灰被る
225	北区 中央 谷埋土1	須恵器 甕	頸部～肩部	③残高3.45	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
226	北区 北西側 谷埋土1	須恵器 甕	口縁部	③残高7.2	①灰白色(10Y8/1) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
227	北区 東端部 谷埋土1	須恵器 甕	口縁部	③残高5.45	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmφ長石含む	
228	北区 中央 谷埋土1	須恵器 甕	杯部	③残高3.25	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
229	北区 南東 谷埋土1	土師器 坏蓋	口縁部	③残高0.85	①②淡黄色(2.5Y8/4)～浅黄色(2.5Y7/4)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	須恵器模倣
230	北区 南東側 谷埋土1	土師器 坏蓋	口縁部	③残高0.9	①②浅黄色(2.5Y7/4)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	須恵器模倣
231	北区 東西アゼ 南側 谷埋土1	土師器 坏	底部	①(14.4) ②(10.0) ③残高3.6	①灰色(5Y5/1) ②灰白色(5Y8/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
232	北区 東側 谷埋土1	土師器 坏	底部	②(11.5) ③残高1.4	①②灰白色(2.5Y8/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
233	北区 中央 谷埋土1	土師器 坏	底部	③残高2.4	①灰白色(5Y8/1) ②灰白色(10Y7/1)	0.5～4mmφの長石含む	
234	北区 中央 谷埋土1	土師器 坏	底部	②(6.2) ③残高2.1	①②灰色(5Y4/1)	密:0.2～3mmφの粗砂粒(くさり礫など)多く混ざる	
235	北区 中央 谷埋土1	土師器 坏	口縁部	③残高3.3	①灰色(N4/) ②灰白色(5Y8/1)～灰色(N6/)	やや粗:0.2～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
236	北区 南東 谷埋土1	土師器 坏	口縁部	③残高2.0	①灰色(N4/) ②灰色(N5/)	やや粗:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
237	北区 東西アゼ 谷埋土1	土師器 坏	口縁部	③残高1.7	①②暗灰色(N3/)	やや粗:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	内外面炭素吸着
238	北区 東側 谷埋土1	土師器 埦	底部	②(6.0) ③残高1.4	①②浅黄橙色(10YR8/4)～橙色(5YR7/6)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
239	北区 東西アゼ 谷埋土1	土師器 高台付皿	底部	③残高1.7	①②にぶい黄橙色(10YR7/4)～橙色(5YR6/6)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
240	北区 中央 谷埋土1	土師器 高台付皿	底部	②(12.0) ③残高2.4	①②灰白色(5Y8/2)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・石英など)少量混ざる	高台付盤か
241	北区 中央 谷埋土1	土師器 皿	口縁部	③残高2.1	①②暗灰色(N3/)	0.5～1mmφの長石含む	
242	北区 中央 谷埋土1	土師器 甕	口縁部	③残高2.8	①浅黄橙色(7.5YR8/4) ②にぶい黄橙色(10YR6/3)～浅黄色(2.5Y8/4)	やや粗:0.2～1.5mmφの砂粒(石英など)少量混ざる	
243	北区 中央 谷埋土1	土師器 甕	口縁部	③残高2.0	①②にぶい橙色(7.5yr7/3)	密:0.2～4mmφの粗砂粒(石英など)少量混ざる	
244	北区 南東 谷埋土1	土師器 甕	口縁部	③残高2.9	①淡黄色(2.5Y8/3) ②明黄褐色(2.5Y7/6)	密:0.2～3mmφの粗砂粒(石英・くさり礫など)少量混ざる	
245	北区 東側 谷埋土1	土師器 甕	口縁部	③残高3.5	①黄灰色(2.5Y4/1)～暗灰黄色(2.5Y4/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	やや粗:0.2～1.5mmφの砂粒(長石・石英など)少量混ざる	
246	北区 南東 谷埋土1	土師器 甕	口縁部	③残高2.5	①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②にぶい黄橙色(10YR6/4)	やや粗:0.2～5mmφの粗砂粒(くさり礫・石英など)多量に混ざる	
247	北区 谷埋土1 (東流路 西層側)	土師器	把手	③残高5.35	①浅黄色(2.5Y7/4) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.5～3mmφの長石・石英・チャート・くさり礫含む	
248	北区 東側 谷埋土1	弥生土器 甕	頸部	③残高3.3	①②灰黄色(2.5Y7/2)～黒色(2.5Y2/1)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(石英・長石など)少量混ざる	
249	北区 Pit57	須恵器 甕・器台	坏部	③残高9.55	①②灰白色(N7/)	1～5mmφの長石含む	北区包含層1・北区包含層2と接合
250	北区 Pit71	須恵器 坏蓋	口縁部	①(13.8) ③残高1.3	①灰白色(N7/) ②青灰色(5PB6/1)	0.5～2mmφの長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
251	北区中央遺構検出層	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.15	①明青灰色(5PB7/1)～青灰色(5PB6/1) ②灰白色(10Y7/1)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石・石英など)多く混ざる	
252	北区東側遺構検出層	須恵器 坏蓋	天井部	③残高0.9	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
253	北区東側遺構検出層	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.2	①灰白色(N7/～8/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
254	北区中央遺構検出層	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.3	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
255	北区東側遺構検出層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.6	①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	0.5～3mmφの長石含む	
256	北区東側遺構検出層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.95	①②灰白色(N7/)	精緻:0.1～0.2mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
257	北区東側遺構検出層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.95	①②明青灰色(5PB7/1)	1～2mmφの長石含む	
258	北区東側遺構検出層	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	③残高2.2	①②灰白色(N7/～8/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
259	北区中央遺構検出層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.6	①灰白色(10Y7/1) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
260	北区東側遺構検出層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.5	①②灰白色(N7/)	密:0.2～2mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
261	北区中央遺構検出層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.65	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	外面灰被る
262	北区東側遺構検出層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.2	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
263	北区東側遺構検出層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.35	①②灰白色(N7/)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
264	北区中央遺構検出層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.7	①②灰白色(N8/)	精緻:0.1～0.2mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
265	北区東側遺構検出層	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	③残高1.85	①灰白色(N7/) 重ね焼き部:灰色(N4/) ②灰白色(N7/)～灰色(N6/)	密:0.2～1mmφの砂粒(角閃石・長石など)極少量混ざる	口縁外面重ね焼き痕
266	北区中央遺構検出層	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	③残高1.3	①灰白色(N7/)～灰色(N6/) ②灰色(N6/～5/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
267	北区東側遺構検出層	須恵器 高台付坏	底部	②(5.8) ③残高2.15	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
268	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 高台付坏	底部	②(8.7) ③残高2.1	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	皿か
269	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 高台付坏	底部	②(7.4) ③残高2.2	①②灰白色(N7.5/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	皿か
270	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 高台付坏	底部	②(6.9) ③残高1.8	①灰白色(N7/) ②灰白色(7.5Y7/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	皿か
271	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 高台付坏	底部	②(7.8) ③残高1.85	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
272	北区 北西側 遺構 検出層	須恵器 高台付坏	底部	②(8.4) ③残高1.5	①②青灰色(5PB6/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(角閃石など)少量混ざる	皿か
273	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 高台付坏	底部	②(6.6) ③残高1.25	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
274	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 高台付坏	底部	②(6.8) ③残高1.8	①②灰白色(10Y7/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
275	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 高台付坏	底部	②(5.8) ③残高1.0	①灰色(N5/)～灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・石英など)少量混ざる	
276	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 高台付坏	底部	②(7.1) ③残高1.4	①灰白色(N7/) ②灰白色(5Y7/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
277	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 高台付坏	底部	②(7.2) ③残高1.85	①灰白色(N7/)～灰色(5Y5/1) ②灰白色(N7/)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石など)極少量混ざる	
278	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.45	①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(角閃石・長石など)	
279	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.8	①青灰色(5PB5/1～6/1) ②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
280	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.7	①黄灰色(2.5Y6/1) 口縁部重ね焼き部:灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	口縁部外面重ね焼き痕
281	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.6	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
282	北区 中央 遺構 検出層	須恵器 坏	底部	②(11.2) ③残高2.1	①②灰白色(N7/)	密:0.2～2.5mmφの粗砂粒(くさり礫・長石など)やや多く混ざる	
283	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 坏	底部	③残高1.1	①②灰色(7.5Y6/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)多量に混ざる	
284	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 坏	底部	③残高1.75	①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	0.5～1mmφ長石含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
285	北区 中央 遺構 検出層	須恵器 坏	底部	③残高0.8	①②灰白色(N7/)	密:0.2～0mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	底部外面へラ記号
286	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.6	①灰色(N6/)～灰白色(5Y8/1) ②灰白色(2.5Y7/1)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
287	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.7	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
288	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.1	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(角閃石など)少量混ざる	
289	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.7	①②灰白色(N7/) 重ね焼き部:灰色(N6/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	口縁端部内外面重ね焼き痕
290	北区 中央 遺構 検出層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.7	①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
291	北区 中央 遺構 検出層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.9	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	
292	北区 中央 遺構 検出層	須恵器 高台付皿	底部	②(9.0) ③残高1.5	①②灰白色(N7/) 外面重ね焼き部:灰色(5Y6/1)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	北区谷埋土1と接合
293	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 高台付皿	底部	②(8.8) ③残高2.05	①青灰色(5PB6/1)～明青灰色(5PB7/1) ②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
294	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 高台付皿	底部	③残高1.45	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	北区包含層1と接合
295	北区 遺構 検出層	須恵器 皿	口縁部	③残高1.4	①②明青灰色(5B7/1)	0.5～1mmφの長石含む	
296	北区 北西側 遺構 検出層	須恵器 皿	口縁部～底部	③0.9	①②灰白色(N7/) 内面剥離面灰:オリーブ黄色(5Y6/3)	密:0.2～3mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	内面剥離面に自然釉被る
297	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 高坏	脚部	③残高3.8	①灰色(10Y6/1)～灰白色(N8/) ②灰白色(N7.5/)	精緻:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざるみ	
298	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 高坏	脚裾部	②(10.4) ③残高2.1	①②灰白色(N7.5/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
299	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 高坏	口縁部	③残高2.5	①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
300	北区 中央 遺構 検出層	須恵器 高坏	口縁部	③残高2.2	①②灰白色(N8/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
301	北区 東側 遺構 検出層	須恵器 壺	体部～底部	②(9.0) ③残高7.3	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	北区谷埋土1と接合

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
302	北区東側遺構検出層	須恵器 壺	底部	②(11.7) ③残高3.7	①明青灰色(5PB7/1) ②灰白色(N7.5/)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
303	北区東側遺構検出層	須恵器 壺蓋	口縁部	③残高1.2	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
304	北区遺構検出層	須恵器 短頸壺	口縁部	①(9.4) ③残高3.7	①②灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
305	北区東側遺構検出層	須恵器 壺	口縁部	③残高2.0	①灰白色(5Y7/1)～灰色(5Y6/1) ②灰白色(N8/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
306	北区東側遺構検出層	須恵器 甕	口縁部	③残高3.25	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmφ長石含む	
307	北区東側遺構検出層	青磁 碗	体部	③残高1.65	釉:灰オリーブ色(5Y6/3) 素地:灰白色(2.5Y8/1)	精緻	龍泉窯系劃花文
308	北区東側遺構検出層	白磁 碗	口縁部	③残高3.3	釉:灰白色(5Y7/2) 素地:灰白色(5Y8/1)	精緻	
309	北区東側遺構検出層	土師器 坏	底部	③残高1.2	①②浅黄橙色(10YR8/4)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
310	北区中央遺構検出層	弥生土器 甕	口縁部	③残高2.5	①②明褐色(7.5YR5/6)	やや粗:0.2～3mmφの粗砂粒(石英・くさり礫など)多量に混ざる	
311	北区東側遺構検出層	土師器 甕	口縁部	③残高2.9	①②橙色(5YR6/6)～にぶい黄橙色(10YR6/3)	密:0.2～5mmφの砂粒(石英・くさり礫など)少量混ざる	
312	北区東側遺構検出層	土師器 甕	口縁部	③残高1.8	①②浅黄橙色(10YR8/3)	やや粗:0.2～1mmφの砂粒(長石・石英など)多量に混ざる石英など)やや多く混ざる	
313	北区東側包含層2	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	①(12.8) ③1.7	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	北区谷埋土1と接合
314	北区東側包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	①(11.8) ③残高0.8	①②灰白色(N7/)	精緻	
315	北区東側包含層2	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.0	①灰白色(5Y8/1)～(N7/) ②灰白色(5Y8/1)	密:0.1～2.5mmφの粗砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
316	北区東側包含層2	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.6	①②灰白色(N7/)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(くさり礫・長石など)やや多く混ざる	北区遺構検出層と接合
317	北区中央包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	①(10.4) ③残高1.4	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)やや多く混ざる	
318	北区中央包含層2	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.3	①灰白色(10Y7/1) ②灰色(10Y6/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)多く混ざる	
319	北区東側包含層2	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	②残高2.15	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(角閃石・長石など)少量混ざる	
320	北区東側包含層2	須恵器 坏蓋	天井部	③残高0.85	①灰白色(N7/) 重ね焼き部:灰白色(N8/) ②灰白色(N8/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
321	北区中央包含層2	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.2	①灰白色(N7/) ②灰白色(2.5Y7/1)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
322	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	天井部	③残高0.85	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒少量まあろ	
323	北区 中央部 包含層2	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.2	①青灰色(5PB5/1) ②灰色(N6/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
324	北区 中央 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.95	①②灰白色(N7/)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
325	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.3	①②灰白色(N8/)～灰色(N4/)	精緻	
326	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.55	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
327	北区 東側 包含層	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.65	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
328	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.9	①灰白色(N7/) 灰:浅黄色(5Y7/3) ②灰色(N6/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	外面灰被る
329	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.3	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
330	北区 西側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.6	①②灰色(N6/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
331	北区 中央 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.4	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
332	北区 拡張 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.95	①②灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	
333	北区 中央 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.5	①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
334	北区 中央 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.9	①②灰色(N6/) 外面灰:灰白色(5Y7/2)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	外面灰被る
335	北区 中央 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.2	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	
336	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.5	①②青灰色(5PB6/1)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
337	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.25	①明青灰色(5PB7/1) ②青灰色(5PB6/1)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
338	北区 中央 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.8	①②灰色(N6/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
339	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.3	①灰白色(5Y7/1) ②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
340	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.4	①灰白色(N7/)～灰色(5Y7/1) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
341	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.6	①②灰色(N6/)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
342	北区 中央 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.4	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
343	北区 中央 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.2	①灰白色(N8/) ②青灰色(5PB6/1) 重ね焼き部:灰白色(N8/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	口縁部内面重ね焼き痕
344	北区 中央 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.5	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
345	北区 西側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.15	①②灰白色(N7/)	密;0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
346	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①灰白色(N7/) 端部;灰色(N5/) ②灰色(N6/)	密;0.1～1.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
347	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①②灰白色(N7/)	密;0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
348	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	③残高1.7	①②灰白色(N7/) 外面灰;灰白色(N8/)～(5V7/2)	密;0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
349	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.4	①②灰白色(N8/)	密;0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
350	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.9	①②灰白色(N6/)	密;0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
351	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.55	①②灰白色(N7/) 外面灰;灰オリーブ色(5Y6/2)	密;0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	外面灰被る
352	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	③残高1.4	①②明青灰色(5PB7/1)	密;0.2～5mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
353	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	密;0.2～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	
354	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.6	①②灰白色(N7/)	密;0.1～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	
355	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.3	①灰白色(N7/) 灰;浅黄色(5Y7/3) ②明青灰色(5PB7/1)	密;0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
356	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.5	①灰色(N6/)～灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密;0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	皿の可能性もあり
357	北区 西側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.0	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
358	北区 中央 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.4	①暗灰色(N4/) ②灰白色(N7/) 内面から口縁部の灰;オリーブ灰色(2.5GY5/1)	密;0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	内面と口縁部内外面に灰被る
359	北区 中央 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.5	①②灰白色(N7/)	密;0.1～0.3mmφの砂粒(角閃石・長石など)極少量混ざる	
360	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.55	①②灰白色(N7/)	密;0.1～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
361	北区 東西アゼ 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.2	①②灰白色(N7/)	0.5～1mmφの長石含む	
362	北区 中央 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.5	①②灰白色(N7/)	密;0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
363	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.5	①灰色(7.5Y6/1) ②灰白色(5Y7/1)～灰色(N6/)	密;0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
364	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.5	①②灰白色(N6/)	密;0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)多く混ざる	
365	北区 中央 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.4	①②灰白色(N7/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
366	北区 東側 包含層2	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.85	①明青灰色(5PB7/1) 灰;灰白色(5Y7/2) ②青灰色(5PB6/1)	密;0.2～1mmφの砂粒(角閃石など)やや多く混ざる	外面灰被る
367	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(9.4) ③残存2.2	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	密;0.2～1.5mmφの砂粒(長石・石英など)少量混ざる	皿か、北区谷埋土2と接合

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
368	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(8.4) ③残高2.35	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	皿か
369	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(8.2) ③残高2.55	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
370	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(9.6) ③残高1.6	①②灰白色(N7/)	精緻	
371	北区 中央 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(7.6) ③残高1.75	①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
372	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.7	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
373	北区 西側 包含層2	須恵器 高台	高台部	②(7.4) ③残高1.6	①②灰白色(N7/) 外面底:灰白色(5Y8/1)～灰オリーブ色(5Y5/2)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	外面灰被る
374	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(10.4) ③残高1.6	①②灰白色(N7/)	密:0.1～2.5mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
375	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(8.0) ③残高1.4	①②灰色(N6/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
376	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(11.2) ③残高1.45	①②灰色(N6/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)多く混ざる	
377	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(7.9) ③残高1.3	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
378	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(7.7) ③残高1.4	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
379	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(7.8) ③残高1.65	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
380	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(8.6) ③残高1.4	①灰白色(10YR8/1) ②灰白色(N8/～7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	
381	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(5.8) ③残高1.1	①②灰色(N6/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
382	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(6.4) ③残高1.55	①灰色(N5/～6/) ②灰色(N6/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
383	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(7.3) ③残高1.3	①②青灰色(5PB6/1)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)多く混ざる	
384	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(8.2) ③残高1.2	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
385	北区 北側 包含層2	須恵器 高台付坏	体部～底部	②(10.0) ③残高2.8	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
386	北区 中央 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	②(7.8) ③残高3.0	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
387	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	③残高2.2	①灰白色(N8/～7/) ②灰白色(N8/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
388	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.2	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
389	北区 中央 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.4	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
390	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.55	①②灰色(N6/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)多く混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
391	北区 拡張 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.9	①②明青灰色(5PB7/1)	0.3～1mmφの長石含む	
392	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.65	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
393	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.35	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
394	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.35	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
395	北区 中央 包含層2	須恵器 坏	底部	②(6.8) ③残高1.5	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
396	北区 中央 包含層2	須恵器 坏	底部	②(6.8) ③残高1.35	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
397	北区 中央 包含層2	須恵器 坏	底部	②(6.2) ③残高0.95	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(N7/)N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
398	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部～底部	①(13.0) ②(11.0) ③3.8	①②灰白色(N7/) 外面底部重ね焼き部:灰白色(2.5Y8/1)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	底部外面重ね焼き痕
399	北区 東南壁面 包含層2	須恵器 坏	底部	②(11.6) ③残高1.5	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
400	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	底部	②(6.6) ③残高1.85	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
401	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	底部	②(7.0) ③残高0.9	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
402	北区 北側 包含層2	須恵器 坏	底部	②(8.2) ③残高1.3	①明青灰色(5PB7/1)～灰色(5Y6/1) ②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～3mmφの粗砂粒(石英・長石など)少量混ざる	
403	北区 西側 包含層2	須恵器 坏	底部	②(6.2) ③残高2.9	①②灰白色(7.5Y7/1)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
404	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	底部	③残高3.8	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
405	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	底部	③残高1.4	①②灰白色(2.5Y7/1)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石など)多く混ざる	
406	北区 西側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	①(12.7) ③残高2.1	①青灰色(5PB6/1) ②明青灰色(5PB7/1)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
407	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部～体部	①(12.4) ③残高2.75	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(角閃石・長石など)少量混ざる	
408	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	②残高2.6	①灰白色(N7/) 灰色(7.5Y4/1) ②灰白色(N7/)	密:0.1～2mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
409	北区 中央 包含層2	須恵器 坏	口縁部	①(7.6) ③残高2.0	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
410	北区 中央 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高3.1	①②灰白色(N7/) 外面灰:灰オリーブ色(7.5Y5/2)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
411	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	②残高2.7	①②灰白色(N7/)	精緻	
412	北区 北側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高2.2	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(角閃石など)極少量混ざる	
413	北区 中央 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高2.6	①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
414	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高2.6	①②灰白色(N7/) 外面重ね焼き部:灰色(N6/)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
415	北区 中央 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高1.8	①明青灰色(5PB7/1) 灰:浅黄色(5Y7/3) ②青灰色(5PB6/1)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	外面灰被る
416	北区 中央 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高3.0	①②灰色(N6/)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石・石英など)少量混ざる	
417	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高3.3	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
418	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高2.2	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
419	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高2.7	①②灰白色(5Y7/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
420	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高3.5	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
421	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高2.35	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
422	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高1.6	①②灰白色(N8/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
423	北区 南西側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高2.3	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
424	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高2.6	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
425	北区 中央 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高2.7	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
426	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高2.7	①青灰色(5PB6/1) ②明青灰色(5PB7/1)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(角閃石・長石など)極少量混ざる	
427	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高2.4	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
428	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高2.7	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
429	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高2.2	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
430	北区 中央 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高3.0	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
431	北区 東側 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高1.6	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
432	北区 中央 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高4.05	①灰白色(N7/) ②明青灰色(5PB7/1)	密:0.1～1mmφの砂粒(角閃石など)少量混ざる	
433	北区 中央 包含層2	須恵器 高台付皿	底部	②(10.1) ③残高1.65	①②灰白色(7.5Y7/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
434	北区 東側 包含層2	須恵器 高台付皿	底部	②(10.8) ③残高2.05	①②灰白色(N7/)	精緻	
435	北区 西側 包含層2	須恵器 高台付皿	底部	②(8.4) ③残高3.3	①②灰白色(N7/) 高台外面灰:灰白色(2.5Y8/1)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	高台灰被る
436	北区 西側 包含層2	須恵器 高台付皿	底部	②(7.0) ③残高2.2	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
437	北区東側包含層2	須恵器 高台付皿	底部	②(7.2) ③残高1.4	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(角閃石など)極少量混ざる	
438	北区西側包含層2	須恵器 皿	底部	②(5.2) ③残高0.9	①②灰白色(N7/)	精緻	
439	北区西側包含層2	須恵器 高台付皿か	高台部	②(10.0) ③残存1.7	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
440	北区東側包含層2	須恵器 高台付皿か	底部	③残高0.75	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	外面ヘラ記号
441	北区東側包含層2	須恵器 皿蓋	口縁部	③残高3.2	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
442	北区東側包含層2	須恵器 皿蓋	口縁部	③残高1.9	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒極少量混ざる	
443	北区東側包含層2	須恵器 高坏	坏部～脚部	③残高6.5	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
444	北区東側包含層2	須恵器 高坏	坏部～脚部	③残高5.45	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/) 灰:灰白色(2.5Y7/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	坏部内面灰被る 北区遺構検出層と接合
445	北区東側包含層2	須恵器 高坏	坏部～脚部	③残高5.65	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
446	北区東側包含層2	須恵器 高坏	坏底部～脚部	③残高6.05	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
447	北区東側包含層2	須恵器 高坏	脚部	②(9.5) ③残高2.9	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
448	北区東側包含層2	須恵器 高坏	脚部	③残高1.75	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
449	北区東側包含層2	須恵器 高坏	脚裾部	②(9.2) ③残高1.15	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
450	北区中央包含層2	須恵器 高坏	脚裾部	②(8.8) ③残高0.9	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
451	北区東側包含層2	須恵器 高坏	脚裾部	②(8.4) ③残高1.0	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
452	北区中央包含層2	須恵器 高坏	脚裾部	②(8.2) ③残高0.8	①②灰白色(N7/)～灰色(N6/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
453	北区東側包含層2	須恵器 高坏	坏底部	③残高1.45	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
454	北区東側包含層2	須恵器 高坏	坏部	③残高1.7	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(N8/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(角閃石・長石など)極少量混ざる	
455	北区東側包含層2	須恵器 高坏	坏底部	③残高1.3	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
456	北区東側包含層2	須恵器 高坏	口縁部	③残高2.9	①黄灰色(2.5Y6/1) 重ね焼き部:灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	口縁部外面重ね焼き痕
457	北区中央包含層2	須恵器 高坏	口縁部	③残高3.2	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
458	北区東側包含層2	須恵器 高坏	口縁部	③残高1.8	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	
459	北区中央包含層2	須恵器 高坏	口縁部	③残高2.1	①灰白色(N7/～8/) ②灰白色(N8/)	精緻	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
460	北区 東側 包含層2	須恵器 高坏	口縁部	③残高2.1	①②灰白色(N8/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
461	北区 東側 包含層2	須恵器 高坏	口縁部	③残高2.4	①暗灰色(N3/)～灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
462	北区 中央 包含層2	須恵器 高坏	口縁部	③残高2.25	①②明青灰色(5PB7/1)	精緻	
463	北区 中央 包含層2	須恵器 不明脚部	高台部	③残高1.9	①灰白色(N7/)～灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
464	北区 東西アゼ 包含層2	須恵器 長頸壺	肩部	③残高3.5	①②灰白色(N7/)	0.5～2mmφの長石含む	北区SD1・北区包含層1・北区谷埋土1と接合
465	北区 東側 包含層2	須恵器 長頸壺	体部	③残高5.6	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
466	北区 中央 包含層2	須恵器 壺	口縁部	③残高1.8	①②灰白色(N7/)	精緻	
467	北区 東側 包含層2	須恵器 長頸壺	口縁部	①(13.4) ③残高7.8	①灰白色(5Y8/1) ②灰白色(N8/)	やや粗:0.2～3mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
468	北区 東側 包含層2	須恵器 長頸壺	頸部	③残高3.7	①②灰白色(N8/)	1～3mmφの長石含む	
469	北区 中央 包含層2	須恵器 壺	底部	②(11.2) ③残高3.2	①②灰白色(N8/)	密:0.1～1mmφの砂粒(角閃石・長石など)少量混ざる	
470	北区 東側 包含層2	須恵器 壺	底部	②(10.2) ③残高3.7	①明青灰色(5PB7/1) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(角閃石など)少量混ざる	
471	北区 北側 包含層2	須恵器 壺	底部	③残高3.1	①②灰白色(N7/)	密:0.2～3mmφの粗砂粒(長石など)やや多く混ざる	北区谷埋土1・北区谷埋土2と接合
472	北区 東側 包含層2	須恵器 壺	体部 ～底部	②(11.5) ③残高4.8	①体部:にぶい橙色(7.5YR7/3) 底部:にぶい黄橙色(10YR7/2) ②にぶい橙色(5YR6/3)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	焼成不良
473	北区 東側 包含層2	須恵器 平瓶	頸部 ～肩部	③残高4.5	①②灰白色(N8/～7/) 外面自然釉:暗オリーブ灰色(5GY4/1)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	肩部に窯体溶着 北区谷埋土1と接合
474	北区 西側 包含層2	須恵器 長頸壺か	口縁部	③残高3.0	①②灰白色(N7/) 内面灰:浅黄色(2.5Y7/3)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	内面灰被る
475	北区 東側 包含層2	須恵器 ハソウ	口縁部	③残高2.4	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
476	北区 東側 包含層2	須恵器 甕	口縁部	③残高4.8	①灰白色(N7/)～灰色(N6/) ②灰白色(N8/)	密:0.1～1mmφの砂粒(角閃石・長石など)少量混ざる	外面ヘラ記号か
477	北区 東側 包含層2	須恵器 甕	口縁部	③残高7.0	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(角閃石など)少量混ざる	
478	北区 西側 包含層2	須恵器 甕	口縁部	③残高5.35	①②灰白色(N8/)	0.5～1mmφの長石含む	
479	北区 東側 包含層2	須恵器 甕	口縁部	③残高4.4	①灰色(7.5Y5/1)～灰白色(N7/) ②灰白色(N7/) 灰:オリーブ黄色(5Y6/3)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(角閃石など)極少量混ざる	内面灰被る
480	北区 中央 包含層2	須恵器 甕	口縁部	③残高2.2	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	やや粗:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	口縁端部灰被る

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
481	北区 西側 包含層2	須恵器 横瓶	腹部	③残高2.1	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
482	北区 東側 包含層2	須恵器 甕	肩部	③残高3.0	①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
483	北区 東側 包含層2	須恵器 甕か	口縁部	③残高4.75	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
484	北区 東側 包含層2	須恵器 器台	脚部	③残高9.0	①灰色(7.5Y6/1) ②灰白色(N8/)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	
485	北区 中央 包含層2	土師器 坏	口縁部	③残高2.3	①②黄灰色(2.5Y6/1)	やや粗:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)多く混ざる	
486	北区 西側 包含層2	土師器 坏	口縁部	③残高2.5	①灰白色(2.5Y8/2) ②灰白色(2.5Y8/1)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
487	北区 東側 包含層2	土師器 坏	底部	③残高1.65	①灰白色(2.5Y8/1)～灰色(N5/) ②灰白色(2.5Y8/1)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
488	北区 東西アゼ 包含層2	土師器 坏	底部	③残高1.45	①橙色(7.5YR6/6) ②褐灰色(10YR4/1)	0.1～0.3mmφの砂粒含む	底部糸切り痕
489	北区 中央 包含層2	土師器 坏	底部	②(7.8) ③残高1.2	①灰白色(2.5Y8/1) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
490	北区 北側 包含層2	土師器 埦	底部	③残高1.9	①灰白色(2.5Y8/1～8/2) ②灰白色(2.5Y7/1)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
491	北区 東側 包含層2	土師器 埦	底部	③残高1.25	①灰白色(5Y8/1) ②淡黄色(2.5Y8/3)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石・石英など)少量混ざる	
492	北区 東側 包含層2	土師器 埦	底部	③残高1.5	①淡黄色(2.5Y8/4) ②灰白色(2.5Y8/1)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
493	北区 東側 包含層2	土師器 埦	底部	③残高1.5	①灰白色(5Y7/2) ②浅黄色(2.5Y8/3)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
494	北区 中央 包含層2	土師器 甕	口縁部	③残高3.75	①浅黄橙色(10YR8/3) ②灰白色(2.5Y8/2)	やや粗:0.2～3mmφの粗砂粒(石英など)多く混ざる	
495	北区 東側 包含層2	土師器 甕	口縁部	③残高3.5	①にぶい橙色(7.5YR6/4) ②灰褐色(7.5YR4/2)～煤:黒色(7.5YR2/1)	やや粗:0.2～2mmφの粗砂粒(長石・石英など)多量に混ざる	
496	北区 中央 包含層2	土師器 甕	口縁部	③残高2.4	①橙色(2.5YR6/6) ②にぶい橙色(7.5YR7/3)～灰黄褐色(10YR6/2)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
497	北区 東側 包含層2	土師器 甕	口縁部	③残高1.7	①②浅黄色(2.5Y7/4)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石・石英など)やや多く混ざる	
498	北区 東側 包含層2	土師器 甕	口縁部	③残高2.9	①灰色(5Y6/1) ②灰白色(5Y8/1～7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	
499	北区 中央 包含層2	土師器 甕	口縁部	③残高2.85	①明黄褐色(10YR7/8) ②浅黄色(2.5Y8/6)	密:0.1～2mmφの粗砂粒(石英など)少量混ざる	
500	北区 南西側 包含層1 包含層2	須恵器 坏蓋	天井部	③残高0.85	①青灰色(5PB6/1) ②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～3mmφの粗砂粒(石英など)少量混ざる	
501	北区 南西側 包含層1 包含層2	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.7	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(角閃石など)極少量混ざる	輪状つまみ
502	北区 南西側 包含層1 包含層2	須恵器 壺か	口縁部	③残高2.2	①②灰白色(N7/) 灰:灰オリーブ色(5Y5/2)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	内外面灰被る

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
503	北区 南西側 包含層1 包含層2	須恵器 高坏	坏底部	③残高2.5	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
504	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.1	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
505	北区 南西側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部 ～口縁部	①(14.6) ③2.6	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	北区包含層2と接合
506	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.05	①灰白色(2.5Y8/1～7/1) ②灰黄色(2.5Y6/2)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
507	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部 ～口縁部	①(13.9) ③残高1.6	①②灰白色(N7/) 外面灰:灰オリーブ色(5Y6/2)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	外面灰被る
508	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.9	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
509	北区 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高0.9	①灰白色(N7/) 灰:灰オリーブ色(5Y6/2) ②青灰色(5PB6/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	外面灰被る 内面へラ記号
510	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部 ～口縁部	③残高1.2	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	
511	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部 ～口縁部	③残高0.9	①②灰白色(N7/) 外面灰:灰白色(7.5Y7/2)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石など)やや多く混ざる	外面灰被る
512	北区 南西側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.1	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	密:0.1～1mmφの砂粒(角閃石・長石など)少量混ざる	
513	北区 西側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.25	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
514	北区 西側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.1	①青灰色(5PB6/1) ②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
515	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	撮部	③残高1.8	①灰色(N4/) 灰:灰オリーブ色(7.5Y6/2) ②灰色(N6/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	撮部上面灰被る
516	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部	②残高1.25	①②灰白色(N7/) 外面灰:浅黄色(2.5Y7/3)～オリーブ黄色(5Y6/3)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	外面灰被る
517	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.05	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
518	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.0	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
519	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.0	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
520	北区 中央 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.05	①②灰色(N6/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
521	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高0.7	①灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(角閃石など)極少量混ざる	
522	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.25	①②灰白色(N7/) 外面灰:浅黄色(2.5Y7/3)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	外面灰被る
523	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	撮部	③残高0.95	①灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
524	北区 処理 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.35	①②灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
525	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.9	①②灰白色(N7/) 外面灰:灰オリーブ色(7.5Y6/2)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(角閃石など)極少量混ざる	外面灰被る

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
526	北区 南側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.9	①②灰白色(N7/) 外面灰:にぶい黄色(2.5Y6/3)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	外面灰被る
527	北区 中央 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.8	①②灰白色(N7/～8/)	精緻	
528	北区 南側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①灰白色(2.5Y5/1) 灰:浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(N7/)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	外面灰被る
529	北区 西側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.05	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
530	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.9	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
531	北区 西側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.9	①②灰白色(N7/)	密:0.1～2mmφの粗砂粒(長石・くさり礫など)極少量混ざる	
532	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.5	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)多量に混ざる	
533	北区 中央 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.35	①②青灰色(5PB6/1) 外面灰:明オリーブ灰色(2.5GY7/1) 内面重ね焼き部:灰白色(2.5Y7/1)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	外面灰被る 内面重ね焼き痕
534	北区 南側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.2	①灰白色(N7/) ②灰白色(N7/) 重ね焼き部:灰白色(2.5Y7/1)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	口縁部内面重ね焼き痕
535	北区 中央 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.15	①②灰白色(N7/) 重ね焼き部:灰色(5Y5/1) 灰:灰オリーブ色(7.5Y5/2)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	口縁端部内外面重ね焼き痕
536	北区 南側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.6	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
537	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.15	①②灰白色(N8/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
538	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.2	①②灰白色(N7/)	密:0.1～2mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
539	北区 西側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.2	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)～灰色(N6/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる)	
540	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	③残高1.9	①灰色(N6/)～灰白色(N7/) ②灰白色(5Y7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(角閃石・長石など)少量混ざる	
541	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.25	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
542	北区 中央 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.2	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石)少量混ざる	
543	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.0	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石)少量混ざる極少量混ざる	
544	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①②灰白色(N8/)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石・角閃石)極少々混ざる	
545	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①②灰色(N6/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
546	北区 南西側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.9	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
547	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
548	北区 西側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.3	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密;0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
549	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	③残高1.05	①②灰白色(N7/)	密;0.2～2mmφの粗砂粒(長石など)やや多く混ざる	
550	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.3	①②明青灰色(5PB7/1) 外面灰;にぶい黄色(2.5Y6/3)	密;0.1～0.2mmφの砂粒(長石・角閃石)極少々混ざる	外面灰被る
551	北区 南西側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.0	①②灰白色(N7/)	密;0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
552	北区 西側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①灰白色(N8/) 灰;浅黄色(2.5Y7/4) ②灰白色(N7/)	精緻	外面灰被る 壺蓋か
553	北区 西側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①②灰色(N6/)	密;0.1～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
554	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	③残高1.6	①②灰白色(N7/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
555	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.4	①青灰色(5PB6/1) ②明青灰色(5PB7/1)	密;0.2～2mmφの粗砂粒(長石など)やや多く混ざる	
556	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①②灰白色(N7/)	密;0.1～2mmφの粗砂粒(長石など)やや多く混ざる	
557	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	③残高1.05	①②灰白色(N7/)	密;0.1～1.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	
558	北区 西側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.05	①②灰白色(N7/)	密;0.1～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
559	北区 西側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.6	①灰白色(N8/) 灰;浅黄色(2.5Y7/3) ②灰色(N5/)	密;0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	外面灰被る
560	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①②明青灰色(5PB7/1) 外面灰;にぶい黄色(2.5Y6/3)	密;0.1～0.2mmφ砂粒(角閃石など)極少量まざる	
561	北区 東側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.4	①灰色(N6/) ②灰色(N5/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
562	北区 中央 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.95	①青灰色(5PB6/1) ②青灰色(5PB6/1)～明青灰色(5PB7/1)	密;0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	
563	北区 南西側 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.5	①②灰白色(N7/)	密;0.1～2.5mmφの粗砂粒(長石・石英など)極少量混ざる	
564	北区 中央 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.8	①②灰白色(N7/) 灰;浅黄色(5Y7/3)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	内外面灰被る
565	北区 中央 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.2	①灰白色(N7/)～灰色(N5/) ②灰白色(N7/) 灰;オリーブ黄色(5Y6/3)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	外面重ね焼き痕 内面灰被る
566	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(7.6) ③残高2.7	①灰色(N5/)～灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
567	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(6.3) ③残高3.2	①②灰白色(N7/)	密;0.1～0.5mmφの砂粒(角閃石・長石など)極少量混ざる	
568	北区 南側 包含層1	須恵器 高台付坏	高台部	②(9.4) ③残高1.3	①灰白色(2.5Y8/1～7/1) ②灰白色(2.5Y7/1)	密;0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
569	北区 北側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(8.2) ③残高1.3	①②灰白色(N7/)	密;0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	皿か
570	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(8.0) ③残高2.25	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
571	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(9.0) ③残高1.6	①灰白色(10Y8/1) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
572	北区 西側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(7.1) ③残高1.15	①②灰白色(N7/)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
573	北区 北側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(8.6) ③残高1.25	①灰色(N6/)～灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
574	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(9.4) ③残高1.75	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
575	北区 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(9.0) ③残高1.7	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(角閃石など)少量混ざる	
576	北区 南西側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(7.8) ③残高1.35	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(角閃石など)少量混ざる	
577	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(9.4) ③残高1.8	①灰白色(N7/) ②青灰色(5PB6/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
578	北区 拡張 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(10.0) ③残高1.65	①青灰色(5B6/1) ②明青灰色(5B7/1)	0.5～1mmφ長石含む	
579	北区 西側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(7.2) ③残高1.05	①②灰白色(N8/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)やや多く混ざる	
580	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(6.6) ③残高1.6	①灰白色(2.5Y7/1)～灰黄色(2.5Y7/2) ②灰色(N6/)	密:0.1～2mmφの砂粒(長石・石英など)やや多く混じる	
581	北区 中央 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(9.4) ③残高1.3	①青灰色(5PB6/1) ②明青灰色(5PB7/1)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
582	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(5.8) ③残高1.7	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの粗砂粒(長石など)やや多く混じる	
583	北区 中央 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(8.2) ③残高2.1	①②灰白色(N7/)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石・角閃石など)やや多く混ざる	
584	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(6.8) ③残高1.9	①灰色(N6/) 灰白色(N7/)～浅黄色(2.5Y7/3) ②灰色(N6/) 重ね焼き部:灰色(10Y6/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	内面見込み重ね焼き痕 底部外面板圧痕
585	北区 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(8.6) ③残高1.8	①②青灰色(5PB5/1)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石など)多く混ざる	
586	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(8.8) ③残高1.25	①②灰色(N5/)	密:0.1～1mmφの砂粒(角閃石など)少量混ざる	
587	北区 中央 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(6.7) ③残高1.9	①灰白色(N7/)～灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～3mmφの粗砂粒(長石など)多く混ざる	
588	北区 中央 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(6.4) ③残高1.75	①②灰白色(N7/) 外面灰:オリーブ灰色(5GY5/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(角閃石など)少量混ざる	外面灰被る
589	北区 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	②(7.0) ③残高1.1	①②灰白色(5Y7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石)少量混ざる	
590	北区 西側 包含層1	須恵器 高台付坏か	高台部	②(4.8) ③残高1.0	①②灰白色(N8/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	
591	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏か	高台部	②(7.2) ③残高0.9	①②灰白色	精緻	
592	北区 西側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.7	①②灰白色(N7/)	精緻	
593	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.4	①青灰色(5PB5/1) ②青灰色(5PB6/1)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石など)やや多く混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
594	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.7	①②灰色(N6/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
595	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.6	①②青灰色(5PB6/1)	密;0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
596	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.4	①②灰白色(N7/)	密;0.1～0.5mmφの砂粒(長石)少量混ざる	
597	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.5	①灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)～(2.5Y8/1)	密;0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
598	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.05	①灰白色(N7/)	密;0.1～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
599	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.2	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	底部外面ヘラ記号
600	北区 東西アゼ 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.4	①青灰色(5B6/1) ②灰色(N6/)	0.5～1mmφの長石含む	
601	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.25	①②明青灰色(5PB7/1	密;0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
602	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.1	①②灰白色(N7/)	密;0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
603	北区 西側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.3	①②灰白色(N7/) 外面灰:オリーブ灰色(5GY6/1)	密;0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	外面灰被る
604	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.9	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密;0.1～1.5mmφの砂粒(角閃石・長石など)少量混ざる	
605	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.5	①青灰色(5PB5/1) ②青灰色(5PB6/1)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
606	北区 北側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.8	①灰色(N6/)～灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密;0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	
607	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.5	①②灰色(N6/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石・石英など)多く混ざる	
608	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.5	①②灰色(N6/)	密;0.2～4mmφの粗砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
609	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.85	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密;0.2～1.5mmφの粗砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
610	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.25	①②明青灰色(5PB7/1)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
611	北区 中央 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.95	①灰色(N6/)～灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)やや多く混ざる	
612	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.5	①②明青灰色(5PB7/1)	密;0.2～1mmφの砂粒(角閃石・長石など)やや多く混ざる	
613	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.2	①灰色(N6/)～灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
614	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.3	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)やや多く混ざる	
615	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.1	①灰色(N4/) ②灰色(N5/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
616	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高0.9	①②青灰色(5PB6/1)	密;0.1～0.2mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
617	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.2	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
618	北区 東側 包含層1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.3	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
619	北区 南西側 包含層1	須恵器 坏	底部	②(5.5) ③残高1.4	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
620	北区 南西側 包含層1	須恵器 坏	底部	②(6.0) ③残高1.3	①②灰白色(5Y8/1)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石・石英など)少量混ざる	
621	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	底部	②(6.2) ③残高1.45	①灰白色(5Y8/1) ②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
622	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	底部	②(5.7) ③残高1.45	①②灰白色(2.5Y7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(角閃石など)少量混ざる	
623	北区 中央 包含層1	須恵器 坏	底部	②(4.2) ③残高1.65	①②灰白色(5Y7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	底部外面板目圧痕
624	北区 中央 包含層1	須恵器 坏	底部	②(7.2) ③残高1.15	①灰色(N5/～6/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	底部外面ヘラ切り未調整
625	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	底部	②(9.2) ③残高0.8	①②灰色(N6/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石・雲母など)少量混ざる	底部に高台を剥いだ痕跡
626	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	底部	②(7.3) ③残高0.95	①②灰白色(N8/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石)少量混ざる	
627	北区 東西アゼ 包含層1	須恵器 坏	底部	②(9.0) ③残高0.85	①②灰白色(N7/)	0.5～3mmφの長石含む	
628	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	底部	②(10.0) ③残高1.0	①灰白色(N7/) ②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
629	北区 西側 包含層1	須恵器 坏	口縁部～底部	①(11.9) ②(8.8) ③3.1	①②灰白色(N7/) 外面重ね焼き部:灰白色(N8/) 灰色(N5/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石)少量混ざる	口縁部外面重ね焼き痕
630	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	底部	②(9.6) ③残高1.3	①②灰白色(N7/)	密:0.1～2mmφの粗砂粒(角閃石・チャートなど)少量混ざる	No.651と同一個体の可能性あり
631	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	底部	②(7.7) ③残高2.0	①②灰白色(5Y7/1)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
632	北区 西側 包含層1	須恵器 坏	底部	②(7.7) ③残高1.2	①②灰色(5Y6/1)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(くさり礫など)やや多く混ざる	
633	北区 中央 包含層1	須恵器 坏	底部	③残高2.0	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(角閃石・長石など)多く混ざる	
634	北区 西側 包含層1	須恵器 坏	底部	③残高1.1	①②灰白色(N8/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・石英など)少量混ざる	
635	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	①(13.1) ③残高1.6	①灰色(N6/～5/) ②青灰色(5PB6/1)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
636	北区 西側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	①(10.8) ③残高2.0	①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
637	北区 南西側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.6	①灰色(N6/) 重ね焼き部:灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	
638	北区 中央 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.5	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
639	北区 中央 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.5	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(角閃石・長石)極少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
640	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高1.9	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(N8/)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
641	北区 南側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.7	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石)少量混ざる	
642	北区 西側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.45	①②灰白色(N7/) 重ね焼き部:灰色(N6/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	口縁部内外面重ね焼き痕
643	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.85	①灰色(N5/) ②灰白色(N7/) 重ね焼き部:灰色(N5/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)やや多く混ざる	口縁部内端重ね焼き痕
644	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.6	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
645	北区 西側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高3.0	①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/) 重ね焼き部:灰色(N6/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	口縁部内端重ね焼き痕
646	北区 西側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.1	①灰白色(2.5Y7/1) 灰:オリーブ黄色(5Y6/3) 重ね焼き部:暗灰色(N3/)～灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(角閃石など)少量混ざる	外面灰被る 口縁部外面重ね焼き痕
647	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高1.5	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
648	北区 西側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.2	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(角閃石など)極少量混ざる	
649	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.2	①灰色(5Y5/1) 重ね焼き部:灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	口縁部重ね焼き痕
650	北区 西側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.1	①②灰白色(2.5Y7/1)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
651	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.7	①②灰色(N6/)	密:0.1～2mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	No.630と同一個体の可能性あり
652	北区 南西側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高1.5	①②灰白色(N7/)	密:0.1～2mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
653	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高3.6	①青灰色(5PB6/1) ②明青灰色(5PB7/1)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
654	北区 中央 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高3.1	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
655	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高3.3	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
656	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高3.5	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	
657	北区 西側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高3.3	①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
658	北区 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.5	①灰白色(N7/) ②灰白色(2.5Y7/1)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	
659	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高1.6	①②灰白色(N8/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
660	北区 中央 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.1	①灰色(N6/)～灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
661	北区 西側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高1.8	①灰白色(N7/) 灰色(N4/) ②灰色(N4/) 灰白色(N7/)	精緻	内外面重ね焼き痕
662	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.5	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
663	北区 西側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高1.9	①灰色(N6/)～灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密;0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
664	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.75	①②灰白色(N7/)	密;0.2～0.5mmφの砂粒(角閃石・長石など)少量混ざる	高坏坏部か
665	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.3	①暗灰色(N3/) ②灰色(N5/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
666	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高3.15	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密;0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
667	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高1.6	①②青灰色(5PB5/1)	密;0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
668	北区 西側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高1.5	①②灰白色(N7/)	密;0.1～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
669	北区 中央 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.7	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密;0.1～0.5mmφの砂粒(長石)少量混ざる	
670	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.6	①②灰色(N5/～6/)	密;0.1～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	口縁部に重ね焼き痕
671	北区 西側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.3	①②明青灰色(5PB7/1)	密;0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
672	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高1.8	①②青灰色(5PB6/1)	密;0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
673	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.3	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(N7/)	密;0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
674	北区 西側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.2	①灰白色(N7/) 重ね焼き部;灰色(N5/) ②灰白色(5Y7/1) 重ね焼き部;灰白色(N7/)	密;0.1～1.5mmφの砂粒(長石・石英など)少量混ざる	口縁部内外面重ね焼き痕
675	北区 中央 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高1.8	①②灰白色(N7/)	密;0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
676	北区 東側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.6	①②灰白色(N7/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
677	北区 西側 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.2	①②灰白色(N7/)	精緻	
678	北区 中央 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高1.7	①灰色(N5/)～灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	密;0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
679	北区 中央 包含層1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.75	①②灰白色(N7/)	密;0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
680	北区 包含層1	須恵器 高台付皿	底部	②(10.2) ③残高1.6	①②灰白色(N7/)	密;0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
681	北区 中央 包含層1	須恵器 高台付皿	底部	②(9.0) ③残高1.95	①②灰白色(N7/)	密;0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
682	北区 西側 包含層1	須恵器 皿	底部	②(8.4) ③残高1.4	①灰白色(N7/)～灰色(N6/) ②灰白色(5Y7/1)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
683	北区 東側 包含層1	須恵器 皿	口縁部～底部	②2.0	①②灰白色(N8/)	密;0.1～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
684	北区 東側 包含層1	須恵器 皿	口縁部～底部	③残高1.3	①灰白色(N7/) ②灰白色(5Y7/1)	密;0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
685	北区 西側 包含層1	須恵器 皿	口縁部	③残高1.3	①②灰白色(N8/)	密;0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
686	北区 東側 包含層1	須恵器 皿	口縁部～底部	③0.7	①②青灰色(5PB6/1)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
687	北区 西側 包含層1	須恵器 皿	口縁部	③残高2.3	①②灰白色(N8/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
688	北区 東側 包含層1	須恵器 皿	口縁部	③残高2.3	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
689	北区 東側 包含層1	須恵器 高杯	坏底部～脚部	③残高6.6	①灰白色(N8/)～灰色(N6/) ②灰白色(N8/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
690	北区 東側 包含層1	須恵器 高杯	坏部～脚部	③残高6.3	①灰白色(N7/～8/) ②灰白色(N8/)	密:0.2～1mmφの砂粒(角閃石・長石など)少量混ざる	
691	北区 西側 包含層1	須恵器 高杯	坏部～脚部	③残高5.5	①明青灰色(5PB7/1) 灰色(7.5Y6/1) ②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
692	北区 東側 包含層1	須恵器 高杯	脚部	③残高4.75	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
693	北区 東側 包含層1	須恵器 高杯	脚部	③残高2.55	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	壺頸部の可能性あり 内面少量灰被る
694	北区 東側 包含層1	須恵器 高杯	坏底部～脚部	②(9.0) ③残高6.25	①②灰白色(N7/)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(角閃石など)少量混ざる	
695	北区 東側 包含層1	須恵器 高杯	脚部	③残高2.9	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(角閃石・長石など)極少量混ざる	
696	北区 西側 包含層1	須恵器 高杯	脚部	②(9.2) ③残高2.4	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
697	北区 東側 包含層1	須恵器 高杯	脚裾部	②(15.4) ③残高0.8	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(角閃石など)少量混ざる	
698	北区 東側 包含層1	須恵器 高杯	脚裾部	②(10.6) ③残高1.0	①②灰白色(N7/) 外面灰:にぶい黄色(2.5Y6/3)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	外面灰被る
699	北区 西側 包含層1	須恵器 高杯	脚裾部	③残高1.4	①②灰白色(N7/) 外面灰:灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	外面灰被る
700	北区 中央 包含層1	須恵器 高杯	脚裾部	③残高0.9	①②灰白色(N8/) 外面灰:浅黄色(2.5Y7/3)	精緻	
701	北区 南側 包含層1	須恵器 高杯	脚裾部	③残高1.3	①②灰白色(2.5Y7/1)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	
702	北区 包含層1	須恵器 高杯	脚裾部か	③残高1.0	①灰白色(N7/) 灰:オリーブ黄色(5Y6/3) ②灰白色(N7/)	精緻:0.1mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	外面灰被る
703	北区 東側 包含層1	須恵器 高杯	脚裾部	③残高0.8	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(角閃石・長石)極少量混ざる	
704	北区 西側 包含層1	須恵器 高杯	脚裾部	③残高1.2	①灰色(N6/) ②灰白色(5Y7/2) 灰:にぶい黄色(2.5Y6/3)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	内面灰被る
705	北区 東西アゼ 包含層1	須恵器 高杯	口縁部	③残高2.3	①②灰白色(N7/)	1mmφの長石含む	
706	北区 西側 包含層1	須恵器 高杯	口縁部	③残高2.7	①②灰白色(N8/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
707	北区 東側 包含層1	須恵器 高杯	口縁部	③残高2.1	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
708	北区 東側 包含層1	須恵器 高杯	口縁部	③残高2.0	①②灰白色(N8/)	密:0.1～2mmφの粗砂粒(角閃石など)少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
709	北区 中央 包含層1	須恵器 高坏	口縁部	③残高2.7	①灰白色(N8/)～灰色(7.5Y5/1) ②灰白色(N7/) 灰:灰オリーブ色(7.5Y6/2)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	内面灰被る
710	北区 東側 包含層1	須恵器 高坏	坏部～脚部	③残高3.3	①②灰白色(N7/)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(角閃石など)少量混ざる	
711	北区 東側 包含層1	須恵器 高坏	坏部	③残高1.95	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
712	北区 東側 包含層1	須恵器 高坏	坏部	③残高1.1	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/) 灰:灰オリーブ色(5Y6/2)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	内面灰被る 北区谷埋土1と接合
713	北区 西側 包含層1	須恵器 不明脚部	脚部	②(3.6) ③残高3.2	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
714	北区 東側 包含層1	須恵器 不明脚部	高台	②接地部(4.8) ③残高1.4	①②灰白色(N7/)	密:0.2mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	
715	北区 中央 包含層1	須恵器 ミニチュア高坏か	坏底部～脚部	③残高1.6	①灰白色(N7/) ②灰白色(2.5Y7/1)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	
716	北区 東側 包含層1	須恵器 壺	口縁部	③残高2.35	①②灰白色(N7/) 内面灰:浅黄色(2.5Y7/3)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	内面灰被る
717	北区 東側 包含層1	須恵器 壺	肩部	③残高2.35	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(角閃石など)極少量混ざる	胴部下位に「く」字状櫛目圧痕
718	北区 東側 包含層1	須恵器 長頸壺	肩部	③残高1.85	①灰黄色(2.5Y7/2) 自然釉:オリーブ灰色(2.5GY5/1) ②灰白色(N7/)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	外面灰・自然釉被る
719	北区 中央 包含層1	須恵器 壺	底部	③残高2.0	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/) 灰:にぶい黄色(2.5Y6/3) 黄灰色(2.5Y5/1)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
720	北区 東側 包含層1	須恵器 壺	底部	③残高2.1	①②青灰色(5PB5/1)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石)極少量混ざる	
721	北区 東側 包含層1	須恵器 壺	底部	②(14.0) ③残高4.6	①②青灰色(5PB6/1)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
722	北区 東側 包含層1	須恵器 壺	底部	③残高1.9	①②灰白色(N7/) 内面灰:灰色(7.5Y6/1)～灰白色(7.5Y8/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(角閃石など)極少量混ざる	内面灰被る
723	北区 東側 包含層1	須恵器 器台脚部か	脚部	③残高3.5	①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
724	北区 中央 包含層1	須恵器 器種不明	体部～底部	②(5.2) ③残高4.0	①②灰色(N6/)～灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
725	北区 西側 包含層1	須恵器 把手か	脚部か	③残高2.0	①灰色(N5/)～灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
726	北区 南西側 包含層1	須恵器 甕	口縁部	③残高2.0	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
727	北区 西側 包含層1	須恵器 甕	口縁部	②残高2.2	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	鉢か
728	北区 東側 包含層1	須恵器 甕	口縁部	③残高3.3	①②灰白色(2.5Y8/1～7/1)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
729	北区 東側 包含層1	須恵器 甕	口縁部	③残高4.95	①②灰白色(N7/)	密:0.2～2.5mmφの粗砂粒(長石など)やや多く混ざる	
730	北区 東側 包含層1	須恵器 甕	口縁部	③残高6.95	①灰色(7.5Y5/1)～灰白色(7.5Y7/1) ②灰白色(7.5Y7/1)	密:0.1～1mmφの砂粒(角閃石・長石など)少量混ざる	年報12 図15-106 同一個体か
731	北区 西側 包含層1	須恵器 甕	頸部	③残高5.5	①青灰色(5PB6/1) ②青灰色(5PB6/1)～明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
732	北区 包含層1	須恵器 甕	体部	③残高2.7	①②灰白色(N7/)	密:0.2mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
733	北区 包含層1	須恵器 甕	体部	③残高1.65	①灰白色(N7/) ②灰白色(N8/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	
734	北区 南西側 包含層1	緑釉陶器 埦	体部	③残高1.35	釉:にぶい赤褐色(5YR4/3) 素地:灰白色(5Y8/1)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
735	北区 西側 包含層1	白磁 碗	体部	③残高2.5	釉:灰黄色(2.5Y7/2) 素地:灰白色(2.5Y8/1)	精緻	皿か
736	北区 南側 包含層1	白磁 碗	底部	②(6.4) ③残高1.8	素地:灰白色(5Y8/1) 釉:灰白色(5Y7/2)	精緻:角閃石含む	
737	北区 東側 包含層1	白磁 皿か	底部	②5.6 ③残高0.9	釉:灰白色(2.5GY8/1) 素地:灰白色(2.5Y8/2)	精緻	
738	北区 中央 包含層1	磁器 染付皿	底部	②(4.8) ③残高1.9	素地:灰白色(2.5Y7/1) 染付:オリーブ灰色(2.5GY6/1)～黒色(2.5GY2/1)	精緻	蔓草文
739	北区 南側 包含層1	陶器 鉢	口縁部	③残高4.05	①②にぶい黄橙色(10YR6/3)	密:0.1～0.2mmφの砂粒少量混ざる	
740	北区 南側 包含層1	陶器 碗	底部	②(4.8) ③残高1.3	①露体:灰白色(10Y8/1) ②釉:黒色(N1.5/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
741	北区 東側 包含層1	土師器 坏	底部	②(6.4) ③残高1.5	①②灰白色(2.5Y8/1～8/2)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	No.756と同一個体か
742	北区 中央 包含層1	土師器 坏	底部	②(6.7) ③残高1.1	①②灰白色(2.5Y8/1～8/2)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(くさり礫など)少量混ざる	
743	北区 東側 包含層1	土師器 坏	底部	②(6.2) ③残高1.1	①②浅黄橙色(10YR8/3)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(石英など)極少量混ざる	
744	北区 東側 包含層1	土師器 坏	底部	②(6.0) ③残高0.75	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②橙色(2.5YR6/6～5YR7/6)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
745	北区 東側 包含層1	土師器 坏	底部	②(8.0) ③残高1.4	①②灰白色(2.5Y8/1)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
746	北区 東側 包含層1	土師器 坏	底部	③残高2.05	①にぶい黄橙色(10YR7/3)～灰黄色(2.5Y7/2) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)～にぶい褐色(7.5YR5/4)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
747	北区 東西アゼ 包含層1	土師器 坏	底部	③残高1.6	①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②黒褐色(2.5Y3/1) 黄褐色(10YR5/8)	1mmφの長石含む	
748	北区 東側 包含層1	土師器 埦	底部	②(6.0) ③残高1.5	①灰白色(7.5YR8/2)～淡黄色(2.5Y8/4) ②淡黄色(2.5Y8/3)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・金雲母など)極少量混ざる	
749	北区 東側 包含層1	土師器 埦	底部	②(6.0) ③残高1.9	①にぶい黄褐色(10YR5/3)～灰白色(10YR8/2) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる 石英など)極少量混ざる	
750	北区 中央 包含層1	土師器 埦	底部	②(6.2) ③残高6.6	①浅黄色(2.5Y8/4) ②暗灰色(N3/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
751	北区 東側 包含層1	土師器 埦	底部	③残高2.0	①灰白色(10YR8/2) ②灰白色(2.5Y7/1)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
752	北区 東側 包含層1	土師器 埦	底部	③残高1.25	①②灰白色(5Y8/1)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
753	北区 西側 包含層1	土師器 埦	底部	③残高1.1	①②淡黄色(2.5Y8/4)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
754	北区 西側 包含層1	土師器 埦	口縁部	③残高1.5	①灰白色(5Y8/2) ②灰白色(5Y8/1)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
755	北区 西側 包含層1	土師器 埦	口縁部	③残高2.0	①②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	
756	北区 東側 包含層1	土師器 埦	口縁部	③残高2.3	①②灰白色(2.5Y7/1～8/2)	密:0.1～2mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	No.741と同一個体か
757	北区 西側 包含層1	土師器 埦	口縁部	③残高2.2	①明黄褐色(2.5Y7/6) ②灰白色(2.5YR8/2)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
758	北区 北側 包含層1	土師器 埦	口縁部	③残高2.3	①灰白色(2.5Y8/2～7/1) ②灰白色(2.5Y8/2)～灰色(N4/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
759	北区 東側 包含層1	土師器 高台付皿	底部	②(5.4) ③残高1.0	①灰白色(5Y8/2) ②灰白色(N7/～8/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	内面須恵質
760	北区 東側 包含層1	土師器 高台付皿	底部	②(7.0) ③残高1.3	①②灰白色(2.5Y8/1)	密:0.2～1mmφ砂粒(長石など)少量混ざる	
761	北区 西側 包含層1	土師器 皿	底部	②(7.2) ③残高1.25	①灰白色(2.5Y8/2) ②灰白色(5Y8/1)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(くさり礫・長石など)少量混ざる	
762	北区 東側 包含層1	土師器 皿	底部	②(7.2) ③残高0.75	①灰白色(7.5Y8/1) ②灰白色(5Y8/2)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
763	北区 東側 包含層1	土師器 甕	口縁部	③残高2.5	①②にぶい黄橙色(7.5YR5/4)	粗:0.2～2mmφの粗砂粒(くさり礫など)多量に混ざる	
764	北区 中央 包含層1	土師器 甕	口縁部	③残高1.7	①②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(石英など)少量混ざる	
765	北区 南西側 包含層1	土師器 羽釜か	口縁部	③残高3.75	①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②浅黄橙色(2.5Y7/3)	やや粗:0.1～3mmφの粗砂粒(長石など)多く混ざる	
766	北区 東側 包含層1	土師器 甕・甑	把手	③残高1.9	①淡黄色(2.5Y8/3)～浅黄色(2.5Y7/3)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(くさり礫など)多量に混ざる	
767	北区 東側 包含層1	土師器 甕・甑	把手	③残高2.35	①橙色(7.5YR7/6)～にぶい橙色(7.5YR7/4)	密:0.2～1.5mmφの粗砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる石英など)多く混ざる	
768	北区 東側 包含層1	土師器 甕・甑	把手	③残高3.4	①②淡黄色(2.5Y8/3)	密:0.2～1.5mmφの粗砂粒(くさり礫など)少量混ざる	
769	北区 南西側 包含層1	土師器 甕・甑	把手	③残高2.85	①浅黄橙色(10YR8/3)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
770	北区 包含層1	製塩土器	脚部	③残高2.8	①にぶい黄橙色(10YR7/4)～橙色(5YR7/6)	密:0.1～1.5mmφの砂粒(石英など)少量混ざる	美濃ヶ浜式
771	北区 東側 包含層1	製塩土器	体部	③残高4.9	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②橙色(7.5R7/6)	密:0.2～4mmφの粗砂粒(長石・石英など)多く混ざる	六連式
772	北区 東側 包含層1	製塩土器	体部	③残高1.7	①橙色(5YR7/6) ②にぶい橙色(7.5YR7/3)	密:0.2～1.5mmφの粗砂粒(石英など)多量に混ざる	六連式
773	北区 東側 包含層1	製塩土器	体部	③残高2.3	①灰色(5Y6/1) ②にぶい橙色(5YR6/4)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	六連式 須恵質焼成
774	北区 南側 包含層1	製塩土器	体部	③残高2.15	①②橙色(5YR6/6)	やや粗:0.5～3mmφの粗砂粒(石英など)多く混ざる	六連式
775	北区 中央 包含層1	製塩土器	体部	③残高1.4	①浅黄橙色(7.5YR8/3) ②橙色(7.5YR7/6)	密:0.2～1mmφの砂粒(石英など)少量混ざる	六連式
776	北区 中央 包含層1	製塩土器	体部	③残高2.45	①灰白色(2.5Y7/1) ②にぶい橙色(5YR7/4)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	六連式 須恵質焼成
777	北区 東側 包含層1	製塩土器	体部	③残高0.65	①灰黄色(2.5Y7/2) ②橙色(5YR6/6)	やや粗:0.2～2mmφの粗砂粒(石英など)多く混ざる	六連式

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
778	北区 西側 包含層1	瓦質土器 足鍋	脚部	③残高8.2		密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石・角閃石など)やや多く混ざる	全面に煤付着
779	北区 SD1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.6	①②灰白色(N8/) 外面灰:浅黄色(5Y7/3)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
780	北区 SD1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.4	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1.5mmφの砂粒(長石など)多く混ざる	
781	北区 SD1	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.1	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(角閃石など)少量混ざる	
782	北区 SD1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.25	①②灰白色(N7/) 内面重ね焼き部:灰色(N5/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	口縁部内面重ね焼き痕
783	北区 SD1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
784	北区 SD1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.9	①②灰色(N6/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
785	北区 SD1	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.0	①灰白色(N8/) 灰:灰黄色(2.5Y7/2) ②青灰色(5PB6/1)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	外面灰被る 壺蓋か
786	北区 SD1	須恵器 高台付坏	底部	②(7.6) ③残高1.3	①灰色(N5/)～灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石・角閃石など)極少量混ざる	
787	北区 SD1	須恵器 高台付坏	底部	②(8.3) ③残高1.4	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(角閃石など)極少量混ざる	
788	北区 SD1	須恵器 高台付坏	底部	②(4.2) ③残高2.7	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	北区包含層1と接合
789	北区 SD1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.6	①灰色(N5/)～灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(角閃石・長石など)少量混ざる	
790	北区 SD1	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.2	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(角閃石など)少量混ざる	
791	北区 SD1	須恵器 坏	底部	②(9.2) ③残高1.95	①②灰白色(N8/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	
792	北区 SD1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.4	①青灰色(5PB6/1) ②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石・角閃石など)少量混ざる	
793	北区 SD1	須恵器 坏	口縁部	③残高2.4	①灰色(N5/～6/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
794	北区 SD1	須恵器 坏	口縁部	③残高3.05	①明青灰色(5PB7/1) ②青灰色(5PB6/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
795	北区 SD1	須恵器 坏	底部	②(8.0) ③残高1.0	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	北区包含層2と接合 北区包含層1に接点ない同一個体あり
796	北区 SD1	須恵器 有透高坏	脚部	③残高4.1	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
797	北区 SD1	土師器 坏蓋	口縁部	③残高0.8	①灰黄色(2.5Y6/2) ②灰色(5Y6/1)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	須恵器模倣
798	北区 東壁面	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.3	①灰白色(N7/) 灰:浅黄色(5Y7/3) ②灰白色(N7/)	密:0.2mmφの砂粒(長石)極少量混ざる極少量混ざる	外面灰被る
799	北区 旧耕土	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.0	①青灰色(5PB5/1) 灰色(N6/)～暗灰色(N3/) ②明青灰色(5B7/1)～青灰色(5PB5/1)	密:0.2～2mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	口縁部上面に重ね焼き痕
800	北区 東壁面	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.1	①灰白色(N7/) 重ね焼き部:灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	口縁部外面重ね焼き痕
801	北区 旧耕土	須恵器 高台付坏	底部	②(7.0) ③残高2.05	①体部:灰白色(N8/) 底部:灰白色(5Y8/1) ②灰白色(N8/)	精緻:0.2～0.5mmφの長石極少量混ざる	皿か
802	北区 旧耕土	須恵器 高台付坏	底部	②(8.0) ③残高1.35	①②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
803	北区 旧耕土	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.3	①灰色(N6/)	密:0.2mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	
804	北区 旧耕土	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.55	①②灰白色(N7/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石)やや多く混ざる	
805	北区 旧耕土	須恵器 坏	口縁部	③残高2.1	①②灰白色(5Y7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)やや多く混ざる	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
806	北区旧耕土	須恵器 坏	口縁部～底部	①(15.8) ②残高3.0	①明黄褐色(10YR6/6) ②灰白色(N7/)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	
807	北区旧床土	須恵器 坏か	底部	③残高0.45	①②灰色(N6/)	密:0.2mmφの砂粒(長石)少量混ざる	底部外面へラ記号
808	北区壁面	須恵器 甕	口縁部	③残高3.4	①②灰白色(5Y7/1) 灰:浅黄色(10YR8/4)～にぶい黄橙色(10YR7/4)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	内外面灰被る
809	北区旧耕土	青磁 皿	口縁部	③残高1.7	釉:オリーブ灰色(2.5GY6/1) 灰白色(7.5Y7/2) 素地:灰白色(N8/)	精緻	龍泉窯系鏑蓮弁文
810	北区排土中	須恵器 坏蓋	天井部	③残高0.9	①②灰白色(N7/)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	
811	北区排土中	須恵器 坏蓋	天井部	③残高1.15	①②青灰色(5B6/1)	0.5～2mmφの長石含む	
812	北区排土中	須恵器 坏蓋	天井部～口縁部	③残高1.7	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(角閃石・長石など)極少量混ざる	壺蓋か
813	北区排土中	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.2	①黄灰色(2.5Y6/1) 灰:灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	精緻	外面灰被る
814	北区排土中	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.9	①②灰白色(7.5Y7/1)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
815	北区排土中	須恵器 壺蓋	口縁部	③残高1.25	①明青灰色(5PB7/1)～灰色(5Y5/1) ②明青灰色(5PB7/1)	密:0.1～0.3mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
816	北区排土中	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.5	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.1～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
817	北区排土中	須恵器 高台付坏	底部	③残高2.05	①②灰色(N6/)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
818	北区排土中	須恵器 坏	口縁部	①(11.8) ③残高2.0	①②明青灰色(5PB7/1)	密:0.2mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	
819	北区排土中	須恵器 坏	口縁部	③残高3.2	①②灰白色(N7/)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
820	北区排土中	須恵器 坏	口縁部	③残高1.6	①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	密:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	
821	北区排土中	須恵器 坏	口縁部	③残高1.6	①②灰白色(N7/)	密:0.1mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	
822	北区排土中	須恵器 壺	底部	③残高3.4	①灰白色(N7/)～灰色(N6/) ②灰白色(N7/)～浅黄色(2.5Y7/3)	密:0.2～1.5mmφの粗砂粒(長石など)少量混ざる	内面灰被る
823	北区排土中	瓦質土器 鉢か	底部	②(15.0) ③残高2.1	①②暗灰色(N3/)	密:0.1～0.2mmφの砂粒(長石)極少量混ざる	

表6 出土遺物(土製品)観察表

法量( )は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm) ①長さ②幅③厚④重量(g)	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
824	北区中央包含層1	輪 羽口	①(4.0) ②(2.8) ③(0.9) ④(10.63)	①灰色(N6/)～灰白色(N7/) ②灰白色(10YR8/2)～浅黄橙色(10YR8/3)	密:0.2～1mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
825	北区中央包含層1	輪 羽口	①(2.7) ②(3.1) ③(1.6) ④(13.01)	①淡黄色(2.5Y8/3) ②橙色(5YR6/6)	密:0.2～3mmφの粗砂粒(石英など)少量混ざる	
826	北区南西側包含層1	輪 羽口	①(1.9) ②(3.0) ③(1.9) ④(8.61)	①暗灰色(N3/)～灰色(N4/) ②赤橙色(10YR6/6)～にぶい褐色(7.5YR6/3)	密:0.1～1mmφの砂粒(石英など)少量混ざる	二次焼成
827	北区中央包含層2	輪 羽口	①(2.1) ②(4.0) ③(1.9) ④(11.05)	①褐灰色(5YR6/1)～にぶい橙色(5YR7/4)	粗:0.2～0.5mmφの砂粒(長石など)少量混ざる	
828	北区南東谷埋土1	輪 羽口	①(2.95) ②(1.8) ③(2.55) ④(11.54)	①②にぶい橙色(7.5YR7/4)	0.5～3mmφの長石・チャート含む	
829	北区中央包含層1	鋳造関連遺物か	①(1.85) ②(1.7) ③(0.95) ④(2.05)	①褐灰色(5PR6/1)～にぶい橙色(2.5YR7/4) ②淡橙色(5YR8/3)～橙色(2.5YR7/6)	密:0.1～1mmφの砂粒(長石など)極少量混ざる	

表7 出土遺物(金属器)観察表

法量( )は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm) ①長さ②幅③厚④重量(g)	備考
830	北区 東西アゼ包含層1	青金具か	①2.0 ②2.95 ③0.2 ④1.99	

表8 出土遺物(石器)観察表

法量( )は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm) ①長さ②幅③厚④重量(g)	石材	備考
831	北区 谷埋土3	板石	①13.4 ②12.2 ③2.95 ④849.9	流紋岩質凝灰岩	
832	北区 谷埋土3	作業台	①28.05 ②20.8 ③11.9 ④6690	石英斑岩	
833	北区 谷埋土2	回石	①11.65 ②8.05 ③5.7 ④627.9	黒雲母花崗岩	
834	北区 谷埋土2	石斧	①(7.15) ②3.7 ③3.6 ④133.25	石英斑岩	
835	北区 谷埋土2	剥片	①2.5 ②2.0 ③0.85 ④3.32	安山岩	
836	北区 谷埋土1	磨石か	①9.9 ②7.6 ③3.05 ④355.08	安山岩質凝灰岩	
837	北区 中央 谷埋土1	打製石鏃	①1.75 ②1.30 ③0.36 ④0.54	安山岩	
838	北区 北西側 谷埋土1	石核	①5.4 ②1.6 ③1.7 ④15.44	黒曜石	
839	北区 中央 谷埋土1	剥片	①3.45 ②1.75 ③1.15 ④6.39	黒曜石	
840	北区 南東 谷埋土1	剥片	①2.55 ②1.65 ③0.7 ④2.49	黒曜石	
841	北区 SX6	磨石か	①7.1 ②7.0 ③4.3 ④294.26	花崗閃緑岩	
842	北区 東側 遺構検出面	砥石	①9.45 ②5.65 ③4.3 ④267.65	斜長斑岩	
843	北区 遺構検出層	縦長剥片	①2.4 ②1.1 ③0.3 ④1.02	黒曜石	
844	北区 中央 包含層2	敲石	①5.9 ②4.6 ③3.4 ④136.25	花崗閃緑岩	
845	北区 東側 包含層2	砥石	①(9.8) ②(6.0) ③(3.8) ④308.67	石英斑岩	
846	北区 東側 包含層2	不明	①1.4 ②1.1 ③0.4 ④0.90	瑪瑙	
847	北区 中央 包含層2	作業台か	①13.6 ②12.2 ③8.4 ④1919.1	斜長斑岩	
848	北区 東側 包含層2	板石 作業台か	①(20.8) ②(12.15) ③(5.45) ④1825	石英斑岩	
849	北区 包含層1	剥片	①4.6 ②3.35 ③0.85 ④11.34	石英	
850	北区 排土中	砥石	①17.0 ②9.2 ③5.4 ④1204.2	石英斑岩	

表9 出土遺物(木製品)観察表

法量( )は残存値

遺物番号	遺構	器種	法量(cm) ①長さ②最大幅③最大厚	備考
851	北区 東西アゼ南側 谷埋土2	角端材	①8.2 ②7.25 ③3.1	
852	北区 南東側 谷埋土2	板状端材	①11.4 ②2.0 ③1.0	
853	北区 谷埋土2	板状端材	①8.65 ②2.25 ③0.7	
854	北区 谷埋土2	棒状製品	①25.05 ②2.25 ③0.95	
855	北区 谷埋土2 (東流路 東肩側)	火付け木	①11.45 ②1.6 ③0.6	
856	北区 谷埋土2 (東流路 東肩側)	火付け木	①14.8 ②1.45 ③1.1	
857	北区 谷埋土2 (東流路 東肩側)	火付け木	①15.5 ②1.0 ③0.55	
858	北区 谷埋土2	火付け木	①18.2 ②2.0 ③0.9	
859	北区 谷埋土2	火付け木	①27.5 ②4.4 ③2.1	
860	北区 包含層2	杭頭か	①9.8 ②3.5 ③1.75	頭部炭化

(6)小結

当調査では、遺物包含層(既往調査の谷埋土上層)および谷埋土から夥しい数の遺物が出土した。その反面、北区谷右岸(北区東端部)に建物の柱穴と推定されるピットの並びを検出したほか、顕著な遺構群が確認できなかった。ここでは埋没谷と遺物包含層の様相に関し言及しておくことで小結としたい。

当調査の北区において、南南東－北北西方向に走る埋没谷[21]を確認した。既往調査の成果とあわせ、官衙域の南西部はこの谷筋により区画される可能性が高い(図48)。谷筋の方向をみると、南東部に位置する平成18年度調査区[22](YD2006－2)では、ほぼ南から北に走っているようであるが、直角気味に西折して平成27年度調査区[23](YD2015DIC2)から平成14年度農学部解剖実習棟調査区[24]にかけては南東－北西に走る。農学部解剖実習棟調査区の南西端部および当調査の南区が大きく攪乱を受けているため、北区との間がやや不明確であるが、北折→西折と蛇行するようで、北区中央から平成12年度総合研究棟調査区[25]の南半部まで北北西に直線的に走り、北半部でやや西に向きを変えるようである。古代官衙に関連する施設と推定される平成18年度調査区の掘立柱建物跡1～3、農学部解剖実習棟調査区のSB8・9はなどは、谷筋の北東を南東－北西方向に延びる丘陵の南西傾斜地端部(図48の青破線部・既往調査の谷埋土上層堆積地)に立地しており、施設の選地として注目すべきであろう。

一方、谷床に目を向けると、平成27年度調査区(YD2015DIC2)の東南端部と平成12年度総合研究棟調査区にて谷床を確認した最北西端部の距離はおよそ115mで、谷床高がそれぞれ約26.0mと約23.5mを測ることから、2.2%弱の勾配であることがわかる。当調査において確認した谷埋土3・4や既往調査(総合研究棟調査区)の縄文～弥生時代谷埋土1・2、既往調査(YD2014-1、YD2015DIC2)の谷埋土5は掃流状集合流動による堆積層である可能性が高く、弥生時代以前遺物を含む堆積層、または無遺物層と認識されている。古代に所属する遺物はその上位に堆積する。

当調査における谷埋土2、既往調査(YD2014-1、YD2015DIC2)谷埋土3上層[26]の堆積時期は8世紀代と推定される。この時期に谷筋への遺物の投棄が本格化することは共通するものの、木製品の含有量において大きな差を見いだせる。既往調査区では多量の木製品の投棄が見られたが(図48の赤線範囲[27])、当調査区においてそのような状況は見られなかった[28]。また堆積する土質も大きく異なることから、両者を安易に同一視すべきではなかろう。

前述したように、本稿での「遺物包含層」は谷最深部に向かう緩傾斜地に堆積した層を示す。掲載した土器の総数は823点であり、そのうち遺物包含層出土資料が479点と半数以上を占める。ここでは北区を対象に、層別の土器出土地点に注目したい(表10)。

下位に堆積する遺物包含層2では、総数187点中115点(61.5%)が「東側」(谷右岸)から出土しており、谷筋にほぼ重複する「中央」も46点(24.6%)存在するのに対し、谷左岸にあたる「西側(拡張区を含む)」「南側」「南西側」は合わせても17点(9.1%)に過ぎない。一方、上位に堆積する遺物包含層1では、総数275点中「東側」が142点(51.6%)、中央が36点(13.1%)と比率を下げ、谷左岸にあたる「西側」「南側」「南西」が合計75点(27.3%)と増加する。この変化に関しては、谷筋の左岸側(南西側)を南東－北西方向に延びる丘陵の様相が示唆を与えてくれる。現在農学部附属農場牧草地となっている当丘陵上では、昭和41年(1966)に発掘調査が実施され、溝1条とピット278基が検出された。弥生時代および古墳時代の土地活用が一部認められるものの、出土した遺物から8世紀後半から中世前期にかけ集落が営まれたと推定される[29]。遺物包含層2堆積時期は未だこの集落が存続している期間で、集落廃絶後の中世後期に丘陵頂部から土が流失し、堆積したのが遺物包含層1である可能性を指摘できる。

明確な遺構が限定される構内南東部においては、今後も詳細な遺物の検討が必要となろう。(横山)

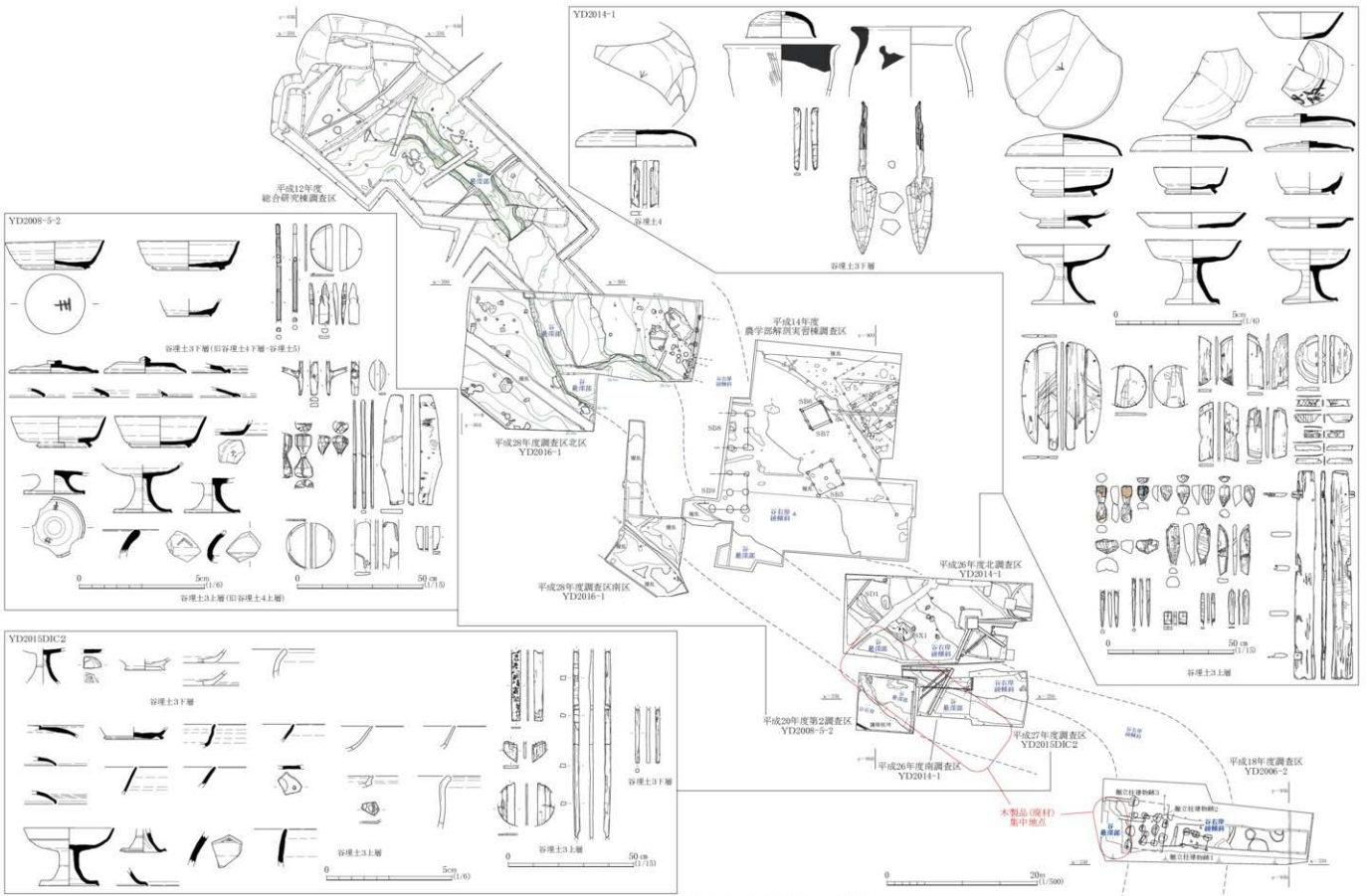


図 48 周辺調査区の位置と出土遺物

表10　遺物包含層出土土器の地点別点数

[遺物包含層2]

出土地点	東	中央	東西アゼ(中央-西)	西(拡張区)	北	南	南西	不明	総数
点数	115	46	3	16	6		1		187
%	61.5	24.6	1.6	8.6	3.2		0.5		100

[遺物包含層1]

出土地点	東	中央	東西アゼ(中央-西)	西(拡張区)	北	南	南西	不明	総数
点数	142	36	4	50	4	11	14	14	275
%	51.6	13.1	1.5	18.2	1.5	4	5.1	5.1	100.1

【註】

1)ここでは「埋没谷」を「谷最深部」に限定して使用する。

2)横山成己(2010)「農学部附属家畜病院改修Ⅰ期工事に伴う本発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成18年度－』,山口

3)横山成己(2020)「動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成27年度－』,山口

4)田畑直彦(2004)「平成14年度山口大学構内遺跡調査の概要」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ・ⅩⅦ』,山口

5)田畑直彦(2017)「吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅨ』,山口

6)平成20年度第2調査区(YD2008－5－2)のNR4L4も同一層である(横山成己(2012)「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成20年度－』,山口)。また、当調査の谷埋土2は平成14年度総合研究棟調査区の谷埋土2と同一層であろうが、調査担当者によると報告(註5)では主な出土資料のみ掲載したとのことで、筆者も出土資料を実見していないことから、当該調査の遺物相に関する言及は控えた。

7)紙面の制限があり図48には掲載できなかったが、平成18年度調査区(YD2006－2)の木製品と共伴した土器は7世紀後半に所属するものが主体であり(註2)、堆積由来に大きな差があるものと思われる。

8)調査担当者によると、平成14年度農学部解剖実習棟調査区の埋没谷においても木製品は少量であったとのことである。

9)各層出土土器の総重量を量っていないことから正確な比率は提示できない。あくまで図化可能であった土器の比率である。また北区で「遺物包含層1・2」として取り上げられた土器4点と、南区で「包含層」として取り上げられた13点は対象から除外する。

10)横山成己(2007)「吉田遺跡第Ⅱ地区の調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成17年度』,山口

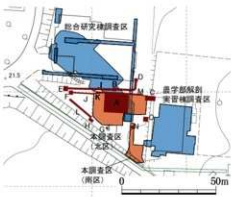


図 49 調査区位置図

写真 161 A地点(南東から)

写真 162 B地点(ハンドホール1)(南から)

写真 163 B地点(ハンドホール東側管路)(西から)

2. 実習棟(動物病理解剖実習施設)新営その他工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内Q・R-18・19区

調査面積 約233㎡

調査期間 平成28年11月1日～平成29年1月23日

調査担当 川島尚宗 田畑直彦 山田圭子

調査結果

実習棟(動物病理解剖棟施設)新営に伴い、建屋部分に関しては予備発掘調査・本発掘調査をおこなった。建屋部分建設開始後の設備工事に関しては立会調査にて対応した。調査箇所は図1に示すとおりA～N地点として報告する。

建屋の地盤改良工事(A地点)に際しては、谷理土4より弥生土器とみられる小破片を4点採集している(写真161)。

建屋北側では電気設備工事にかかわる掘削が数度にわたっておこなわれた(B・D・I地点)。B地点およびB地点東側の管路において、遺物包含層より須恵器・土師器が採集された(図173、表11)。ハンドホール1設置工事では(B地点)、北壁にて遺物包含層を確認できた(写真162、図50)。当該地点は、北壁付近以外の大部分が現地表面から最大115cmの深さまで撹乱を受けていた。B地点東側管路からハンドホール2設置箇所(D地点)での掘削時には、現地表下約30～40cmで複数の遺構が検出された(写真163～165、図51)。ハンドホール2の掘削は数度にわたっておこなわれたため、一部しか作図することができなかった。遺構の掘削深度はいずれも8～20cm程度であった。遺物は確認されず遺構の性格は不明であるが、予備発掘調査・本発掘調査で検出されたような遺構群が総合研究棟東側にも残されていることが明らかとなった。

渡り廊下設置工事(C地点)では、解剖実習棟西側法面の掘削がおこなわれたが、遺成土の範囲内であった(写真166)。

排水管路(M地点)設置時の掘削において、遺物包含層を調査時地表下より約50cmで確認した(写真167・168)。遺物包含層は、建屋西側のJ地点でも現

写真 164　D地点遺構検出状況（西から）

写真 165　D地点遺構検出状況（南西から）

写真 166　C地点（西から）

写真 167　M地点（東から）

写真 168　M地点（北東から）

写真 169　L地点（西から）

写真 170　O地点（西から）

写真 171　G地点(北から)

写真 172　N地点(南から)

図 50　B地点北壁西端土層柱状模式図

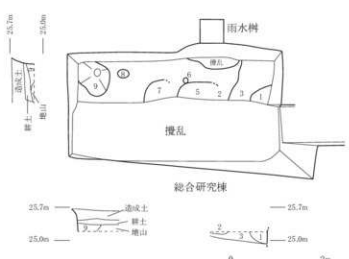


図 51　D地点平面図・断面図

図 52　O地点東壁土層柱状模式図

地表下42cmより下で確認されている。遺物包含層は、建屋東側C地点南側のオイルタンク設置箇所(O地点)でも確認できた(写真170、図52)。本調査調査区に隣接する部分と考えられる。

建屋西側の滅菌槽設置箇所(E地点)では、地山が標高24.5mの高さで確認できた。E地点では、矢板を利用して掘削がおこなわれたため、断面を観察できなかった。建屋西側の実験排水管路(L地点)掘削工事では、現地表面から深さ約30cmで地山面を確認した。ここでは2基の遺構を確認したが、掘り込みはどちらも5cm程度で、遺物は確認できなかった(写真169)。建屋南側のハンドホール3(G地点)の掘削時には、現地表下50cmで地山を確認した(写真171)。排水桝(N地点)の掘削では、現地表下65cmにて厚さ8cmの遺物包含層1が、その下部に遺物包含層2の上面を確認できた(写真172)。

建屋本体部分の発掘調査によって、谷の東側に遺構が密に分布する状況が確認されたが、一連の立会調査によって総合研究棟東側にも遺構が残存している可能性が示された。当該地点の遺物包含層からは、数点ではあるが、遺物が採集されている。建屋南側には遺物包含層が確認され、今回の工事で掘削が及ばなかった地点にも遺物包含層が広がっていることが判明した。建屋西側では、明確な遺構は検出されていないものの、撹乱を受けていない旧地形が残存している可能性がある。動物病理解剖棟施設周辺部では、これまでにも重要な発見が続いており、今後の開発に際してはより一層慎重に対応する必要がある。

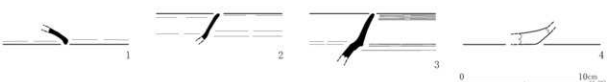


図 53 出土土器実測図

写真 173 出土遺物(土器)

表 11 出土遺物(土器)観察表

法量( )は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
1	B地点 包含層1	須恵器 坏蓋	口縁ー 天井部	③残高1.35	①②断面 青灰色(5B6/1)	0.5~1mmφの長石含む	
2	I地点 包含層2	須恵器 坏	口縁部	③残高2.1	①②断面 灰白色(N7/)	0.5~1mmφの長石含む	
3	B地点 包含層2	須恵器 ハソウ	口縁部	③残高2.6	①灰白色(2.5Y7/1~N7/) ②断面 灰白色(N7/)	0.5mmφの長石含む	
4	I地点 包含層2	土師質器 坏	底部	③残高1.35	①②断面 橙色(5YR7/6)	0.5~1mmφの長石含む	

3．総合研究等（国際総合科学部）改修工事に伴う立会調査

図 54　調査区位置図

調査地区　吉田構内H－18区
調査面積　160㎡
調査期間　平成28年7月20・26日
調査担当　横山成己
調査結果

平成27年4月に設置された国際総合科学部の校舎である国際総合科学部本館と、その北に位置する教育学部A棟の間に渡り廊下が新設される計画を受け、地下深く掘削される渡り廊下基礎部と生活・実験排水管切替部の立会調査を実施した。

現地表下140㎝の掘削が行われる配管切替部（A地点）では、地表下130㎝にて明黄褐色シルトの地山が部分的に遺存することを確認したが、遺構は検出されなかった（図55左、写真174）。

渡り廊下基礎部分（B地点）は、掘削深度が75㎝であったため、造成土内に止まった（図55右、写真175）。

国際総合科学部本館敷地では、弥生時代中期から後期にかけての集落が確認されていることから今後も慎重な対応が必要である。

写真 174　A地点掘削状況（東から）

写真 175　B地点土層断面（南から）

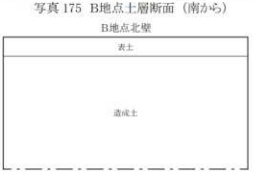


図 55　A・B地点土層断面柱状図

4．農学部果樹園排水工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内O－15区

調査面積　9㎡

調査期間　平成28年11月1日

調査担当　横山成己　山田圭子

調査結果

平成28年度に入り、農学部より第2学生食堂東側農耕地にて排水工事を行いたいとの相談を受けたため、8月3日より第2回埋蔵文化財資料館専門委員会(メール審議)を開催し、工事立会にて埋蔵文化財保護対応を行うことが承認された。

開発予定地は北から南にのびる丘陵(共育の丘)の縁辺部に位置しており(図56)、周域における既往の調査成果を見ると、第2学生食堂敷地では、昭和41年(1971)および平成10年(1998)の調査[註1]により、弥生時代の土器溜まりや古墳時代の竪穴式住居跡6棟、平安時代の大溝や古代から中世にかけての掘立柱建物跡が確認されているなど、第2学生食堂の西に位置する遺跡保存地区を含め、構内でも埋蔵文化財が密に分布する地域である。そのため、工事においては機械掘削時より立ち会いを行い、埋蔵文化財の有無を確認することになった。

掘削は南北排水溝の東端ルートから開始したが、耕土直下が地山であった(写真176・177)。地山上面を精査したところ、調査区南部では後世の攪乱を受けているものの竪穴式住居跡の可能性がある大型遺構が検出され、調査区北部ではピットや切り合いの見られる土壙群が検出された。また、遺構埋土には褐色のものと灰褐色のものがあり、前者は古代以前、後者は中世の遺構と推察された(図57、写真178・179)。耕土からは古代の須恵器片などが出土した(図58、写真180、表12)。

遺構が検出された地山までの深度は、現地表下10(北部)～30㎝(南部)であり、未掘削のルートを含め予定深度まで排水溝を掘削すると、遺構群が破壊されることが確実視されたため、農学部事務と果樹園担当教員、工事担当業者と現地にて協議を行うこととなった。その結果、開発予定地の排水溝間

図56　調査区位置図

写真176　作業風景（北東から）

写真177　調査区土層断面（南西から）

写真 178　調査区全景（北から）

写真 179　調査区全景（南から）

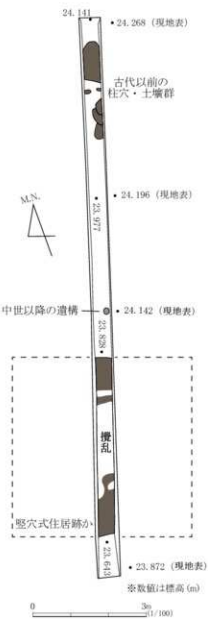


図 57　調査区平面図

図 58 出土土器実測図

写真 180 出土遺物（土器）

表 12 出土遺物（土器）観察表

法量( )は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
1	耕土	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.2	①②明オリーブ色(5GY7/1) 断面 オリーブ灰色(5GY6/1)	0.5～1mmφの長石含む	
2	耕土	須恵器 高台付坏	底部	③残高1.4	①灰黄色(2.5Y7/2) ②断面 灰白色(2.5Y7/1)	0.5～1mmφの長石含む	焼成やや不良
3	耕土	土師質土器 鉢	口縁部	③残高3.7	①②断面 にぶい橙色(7.5YR6/4)	0.5～1mmφの長石・石英含む	

に植える果樹は約20本で、果樹の根は地表下60cmまで伸びることがほとんどなり、現状設計のまま開発を進めると、開発予定地全域において埋蔵文化財が破壊される可能性が高いと判断された。

当館からは、開発を進める場合には、遺跡を保護するため予定地全域での発掘調査が必要となることを説明し、協議の結果、地山面に果樹の根が及ばない高さ(現地表＋80cm)まで盛土を施し、排水溝を設置することが決定された。

農学部附属農場敷地は構内でも密に埋蔵文化財が分布する地域である。今回、迅速な対応および埋蔵文化財保護に理解と協力いただいた農学部各氏や工事業者に感謝すると同時に、今後もさらに慎重な対応を心がけたい。

【註】

1) 豆谷和之(1994)「吉田遺跡第Ⅰ地区E区の調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅡ』, 山口

田畑直彦(2004)「平成7・10～14年度山口大学構内遺跡調査の概要」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ・ⅩⅦ』, 山口

5．人文学部駐輪場屋根新設工事に伴う立会調査

図 59　調査区位置図

調査地区　吉田構内M－20区
調査面積　26㎡
調査期間　平成29年3月14日
調査担当　横山成己
調査結果

当工事については、前年度末に人文学部校舎(研究棟)北側駐輪場に新設する計画で工事立会が承認されていたが、平成28年度の後半に至り、人文・理学部管理棟の西側駐輪場に予定地が変更となった(図59)ため、再度12月15日より埋蔵文化財資料館専門委員会(メール審議)が開催され、工事立会にて埋蔵文化財保護対応を行うことが承認された。

工事予定地周域では、近年小規模な改修工事等が実施されており、そのつど立会調査にて地山までの深度の確認を試みているが、未だ果たせていない[註1]。

写真 181　A地点土層断面（北西から）

工事掘削は、駐輪場屋根の基礎部15箇所に対し、80㎝×150㎝の範囲に深さ80㎝の規模で行われたが、造成土下位の層位が確認されたのは工事地の東端部(A地点)のみであった。A地点では、現地表下69㎝にて旧耕土と見られる灰褐色粘質土が確認された(図60、写真181)。

人文学部敷地は、周辺地に比して地下の情報が著しく少ないことから、小規模開発に対しても、今後とも工事立会を実施する必要がある。関係各位には引き続きご協力いただきたい。

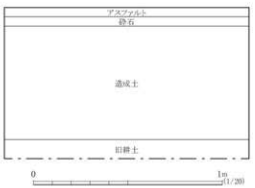


図 60　A地点土層断面柱状図

【註】

1) 横山成己(2013)「人文学部西側アプローチ改修工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成21年度－』, 山口
横山成己(2016)「人文・理学部管理棟EV設置工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』, 山口

6．共通教育等周辺駐輪場整備工事に伴う立会調査

調査地区　吉田構内J・K・L－16区　J・L－17区

調査面積　53㎡

調査期間　平成28年9月2・3・8日
　　10月19日　11月7日

調査担当　田畑直彦　横山成己

調査結果

共通教育棟周辺において、駐輪場整備工事が計画され、工事内容の確定を受けて、第3回埋蔵文化財専門委員会（メール審議・9月1日開催）で審議した結果、立会調査を実施することになった。

工事では現地表下60～70㎝まで掘削が行われたが、ＡⅠ工区では、一部で地山もしくは河川堆土と考えられる土層を確認するにとどまり、大半は造成土の範囲内であった。ＢⅠ工区はすべて造成土の範囲内であった。ＣⅠ工区の北部では、一部で河川堆土と考えられる土層を確認した。一方、南部の一部では、現地表下約13㎝以下で遺物包含層を検出した。同層はシルト系（暗灰色）で、層厚は最も厚い箇所でおよそ45㎝であった。同層には自然木や炭が含まれていたほか、10地点では土器片、12地点では石器（砥石）が出土した。検出状況から上面を削平されたと考えられるが、地山にも粗砂など河川堆積土が認められることから、旧地形の落ち込み埋土であった可能性がある。

調査の結果、最も浅い箇所では現地表下約13㎝で遺物包含層が検出されたことから、今後の埋蔵文化財の保護には、慎重な対応が必要である。

図61　調査区位置図

写真183　ＣⅠ工区10地点土層断面（西から）

写真182　ＣⅠ工区南部（西から）

写真184　ＣⅠ工区11地点土層断面（西から）

第3節　白石構内(白石遺跡)の調査

図62　調査区位置図

写真185　調査地点遠景（南上空から）

写真186　調査地点近景（東から）

1．教育学部附属山口小学校雨水管改修工事に伴う立会調査

調査地区　小学校正門西側空閑地

調査面積　24㎡

調査期間　平成28年12月21日～1月5日

調査担当　横山成己　山田圭子

調査結果

(1)調査の経緯と経過(図62、写真185～187)

平成28年度に至り、教育学部より附属山口小学校の雨水管改修工事の計画が提出された。第4回埋蔵文化財資料館専門委員会(9月16日開催)での審議にて、平成元年度(1989)の調査成果[1]から、本来であれば本発掘調査にて対応する事案であるが、開発面積が狭小であること等を鑑み、発掘調査同等の工事立会にて埋蔵文化財保護対応を実施することが承認された。また、工事予定期間は12月から1月となっているものの、工程が小学校冬期休暇期間内に限定されているわけではないことなどが確認され、作業員3名を雇用し、実働5日程度で調査を実施することが承認された。

しかしその後、附属山口小学校より、冬期休暇期間内での工事完了要請があり、終業式翌日の12月21日(水)より重機掘削を開始することとなった。

調査の経過は以下の通りである。

12月21日(水)　重機掘削
12月22日(木)　雨天中止
12月26日(月)　重機掘削
12月27日(火)　包含層人力掘削
12月28日(水)　遺構検出作業
12月29日(木)　遺構検出作業・記録作業
1月4日(水)　遺構検出作業・記録作業
1月5日(木)　記録作業・管路床掘り

(2)調査の結果(図63・64、写真187・191、表13)

工事による管路床掘り深度より上位に、地山を検出面とする遺構面を確認した。基本層序は以下のと

おりである(図63)。

1．表土(層厚約20cm)、2．造成土(層厚約20～30cm)、3．黄灰色(2.5Y6/1)強粘質土…旧耕土(層厚約10cm)、4．浅黄色(2.5Y7/3)粘質土…旧床土(層厚約10～20cm)、5．灰褐色(2.5Y6/2)礫混粘質土…遺物包含層1(層厚約20cm)、6．灰黄色(2.5Y6/2)礫混粘質土…遺物包含層2(層厚約10cm)。

第6層は調査区東部にのみ見られ、弥生時代終末期～古墳時代初頭の土器片を含んでいる。砂礫が多量に混ざることから水流により堆積したものと推定される。第5層は中近世の遺物を含んでいるが、その量は少ない。

調査区の中央部以西では、地山と包含層を切り込む形で段が形成されている。当該場所に堆積する土は灰オリーブ色(5Y6/2)強粘質土であるが、これは耕作に関する段差と見られる。

検出された遺構は、土壙2基、Pit3基、溝2条、流路2条であり、その分布は密とは言いがたい(図63・写真188～190)。埋土は灰色系と褐色系に2分され、前者には土壙1・溝1が該当する。いずれも灰オリーブ色強粘質土の下位に存在しており、耕作に伴う遺構と考えられ、所属時期は少なくとも中・近世にくだると思われる。

他の遺構の埋土は褐色系であり、遺物は確認できなかったものの、既往の調査成果から弥生～古墳時代に属する可能性が高い。

検出した流路2条は北－南方向に走っていると見られ、流路2に関しては西側に向かいさらに深まるものと推測される。流路埋土は砂礫であり、遺物は出土していない。

今回の調査で問題となるのが、平成元年度に実施された汚水排水管布設に伴う発掘調査区との位置関係である。報告された位置図(図62)によると、T－3区が今回調査区と重複するはずであり、今回調査区の西端で南北方向のヒューム管を確認していること、今回調査区南北ルート(土層断面B－E)においてもT－3区東西トレンチの痕跡とみられる攪乱を確認したことから、位置関係を復元できるはずであるが、平面図を合成すると、竪穴式住居跡をはじめとする遺構群が流路1・2の下流部に位置することになってしまう。また、現在の汚水桝(図63の青○地点)にT－3区の南北・東西トレンチ交点を重ねてもやはり遺構の関係に齟齬が生じるようである。

当館に残された記録では、この問題に対する明確な回答を得ることができなかったが、遺跡の分布状況から、当調査区周辺での開発計画にはなお慎重な対応が求められることに変わりはない。教育学部附属山口小学校は施設の老朽化が進行していることもあり、近い将来の大規模改修工事も予想されることから、開発計画の立案に対しては、早期の埋蔵文化財保護対応が必要と考える。

【註】

1)河村吉行(1991)「亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水配水管布設に伴う発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅸ』,山口

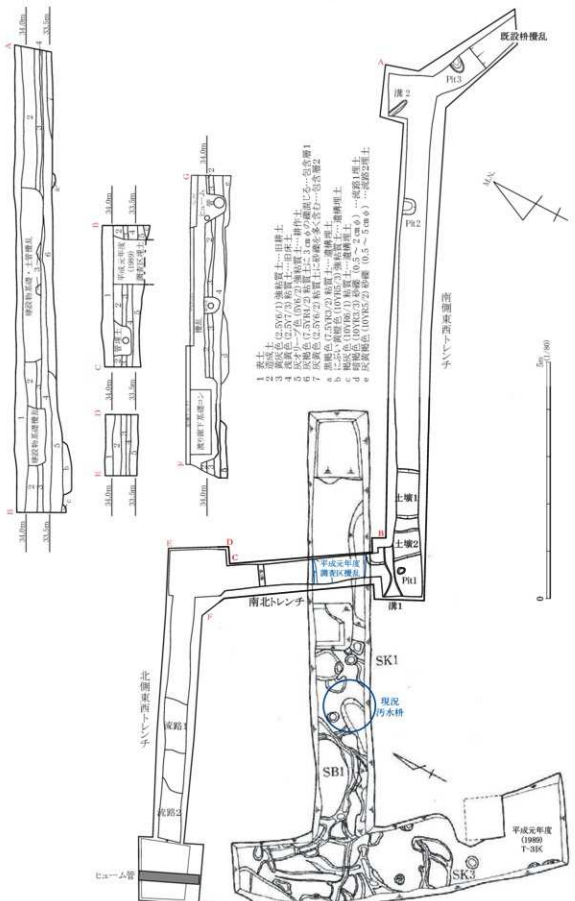


図 63 調査区平面図・断面図

写真 187　重機掘削風景（東から）

写真 188　南側東西トレンチ西端部遺構検出状況（西から）

写真 189　南側東西トレンチ東端部遺構完掘状況（南東から）

写真 190　北側東西トレンチ遺構完掘状況（西から）

図 64　出土土器実測図

写真 191　出土遺物（土器）

表 13 出土遺物（土器）観察表

法量（ ）は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
1	包含層1	瓦質土器 鉢	口縁部	③残高2.8	①②灰白色(5Y8/1)	0.5～2mmφの長石・石英含む	
2	包含層1	磁器 紅皿	底部	③残高2.6	①②灰白色(N8/) 素地　灰白色(7.5Y8/1)	精緻	
3	包含層2	弥生土器 甕	体部		①浅黄橙色(10YR8/3) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.5～2mmφの長石・チャート	

第4節　小串構内(山口大学医学部構内遺跡)の調査

図 65　調査区位置図

写真 192　調査地点遠景（北上空から）

写真 193　調査地点近景（東から）

1．基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事（自家発電設備工事）に伴う立会調査

調査地区　小串構内新病棟建設地西側空閑地

調査面積　100㎡

調査期間　平成29年1月17～20日

調査担当　横山成己

調査結果

(1)調査の経緯と経過(図65、写真192・193)

当工事計画に関しては、平成26年度に建物予定地北端部において予備発掘調査を実施した。調査においては、現地表下約3mにて検出される、貝の堆積する灰色海成砂礫層にて縄文土器や石錘などを確認したが[註1]、その分布が希薄であったため、予定地全域での本発掘調査は不必要であること、関連設備工事等で掘削深度が遺物包含層に及ぶ際には工事中に立会調査を実施することなどが平成26年度第2回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成26年10月3日開催)にて承認された。

平成28年度に至り、関連する基幹・環境整備工事に新たに自家発電設備工事を追加するとの連絡を受け、11月10日(木)に本学開発部局と協議をおこない、当該工事では約10m四方の範囲を現地表下4.45mまで掘削する必要があることを確認した。

開発予定地の北に隣接する地点にて平成16年度に実施した調査においても、汽水域の貝が堆積する灰色海成砂礫層から縄文土器や土師器、石錘などが出土している[註2](図66、写真194)ことから、発掘調査を要する事案であることは明白であったが、すでに工程が決定していること、さらにすでに診療棟・病棟新営本体工事が遅延していることから、やむなく工事立会にて対応することになった。

調査においては、地表下約3mに埋存する暗青灰色(10BG4/1)海成砂層の直上(＋15～20㎝)まで開発工事業者が機械掘削を行い、作業員5名と伴に2日間で人力掘削を行い、遺物の分布状況を確

認することとなった調査の経過は以下の通りである。

1月17日(火)・18日(水)重機掘削

1月19日(木)・20日(金)人力掘削・写真撮影

なお、1月20日(金)の天候は風雪であり、かつ湧水等により土層断面が脆弱であったため、矢板が設けられていない調査区東壁に対しては、安全面への配慮から断面精査と分層のみを行い、断面図作成は断念し、記録写真を撮影するにとどめている(写真195)。

(2)調査の結果(図67、写真195～198、表14・15)

調査区東壁の基本層序(写真195)に関しては、表土および造成土(1・2層)の大半が除去された状態であったが、平成16年度調査区の東壁(写真194)とほぼ同一であり、3.褐灰色(10YR4/1)粘土…旧耕土(層厚10～15cm)、4.褐灰色(10YR5/1)粘土…旧床土(層厚約40cm)、5.黄褐色(2.5YR5/3)粗砂に黄灰色(2.5YR5/1)粘土が混ざる…河川堆積土(層厚40～60cm)、6.暗青灰色(10BG4/1)海成砂…汽水域の貝を多量に含む海底堆積(層厚20cm以上)である。

現地表下約3m(標高0m)地点で、汽水域の貝類が堆積する6.暗青灰色(10BG4/1)海成砂層を検出した(写真196・197)。湧水と降雨・降雪が激しかったため、ヘドロ状の土から遺物を探す状態であったが、弥生時代前期の甕および石錘を確認することができ(図67、写真198、表14・15)、平成16・26年度の調査成果を追認することとなった。

これらの遺物の由来は、小串構内の北から北西に位置する丘陵上に形成された集落跡と推定されるが、現在は削平され住宅が建ち並んでおり、遺跡の痕跡をとどめていない。換言すると、丘陵直下の旧海底に堆積した、または投棄された遺物のみが当地の歴史的環境を復元する手掛かりとなる。

今回は十分な調査期間が得られず、限定的な調査となってしまったが、遺物の分布範囲を確認するため、小串構内北部では今後とも慎重な埋蔵文化財保護対応を行う必要がある。

【註】

1)横山成己(2019)「基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事に伴う予備発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』,山口

2)横山成己(2006)「医学部基幹整備(地下オイルタンク他)工事に伴う試掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成16年度－』,山口

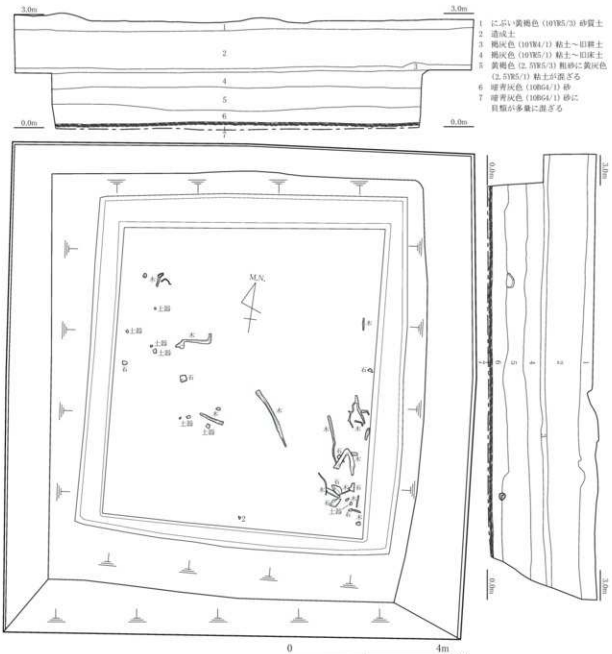


図 66　平成 16 年度調査区平面図・断面図

写真 194　平成 16 年度調査区東壁土層断面（西から）

写真 195　平成 28 年度調査区東壁土層断面（西から）

写真 196　貝堆積層検出途中（北西から）

写真 197　貝堆積層検出状況（南西から）

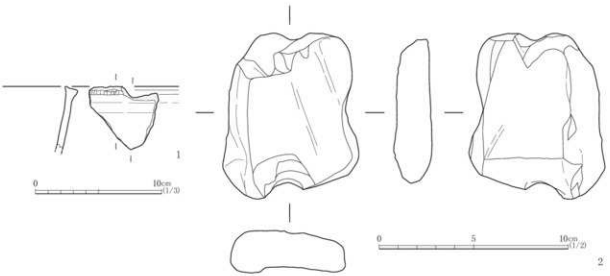


図 67　出土遺物実測図

写真 198　出土遺物（土器・石器）

表 14 出土遺物（土器）観察表

法量（ ）は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面　②内面	胎土	備考
1	7層上面	弥生土器 甕	口縁部	③残高5.0	①灰オリーブ色(5Y4/1) ～黄色(5Y7/6) ②灰オリーブ色(5Y5/3)	0.5～2mmφの長石・石英含む	

表 15 出土遺物（石器）観察表

法量（ ）は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm) ①長さ②幅③厚④重量(g)	石材	備考
2	7層上面	石錘	①8.8　②7.15　③2.2　④208.75	珪長岩	

第5節　光構内(御手洗遺跡)の調査

1. 教育学部附属光小学校バスケットゴール設置工事に伴う立会調査

図 68　調査区位置図

写真 199　A 地点土層断面（南から）

写真 200　B 地点土層断面（南から）

調査地区　光構内
調査面積　約4㎡
調査期間　平成29年1月15日
調査担当　田畑直彦
調査結果

教育学部附属光小学校でバスケットゴールの設置工事が計画された。地下掘削は支柱を設置する2箇所（A・B地点）で実施され、掘削後に立会調査を実施した。

A地点の平面形は約180㎝×約120㎝、B地点の平面形は約160㎝×110㎝であった。A地点では現地表下16㎝までが表土で、以下16～50㎝で造成土、50～56㎝で明黄褐色（2.5Y6/6）細砂（0.5～3㎝大の礫含む）、56～74㎝で明黄褐色（2.5Y7/6）粗砂（0.5～3㎝大の礫含む）、74～104㎝で黄色（2.5Y8/6）粗砂（0.5～3㎝大の礫含む）を検出した。B地点では、現地表下19㎝までが表土で、以下19～58㎝で造成土、58～80㎝で明黄褐色（2.5Y6/6）粗砂（0.5～3㎝大の礫含む）、80～100㎝で明黄褐色（2.5Y7/6）細砂（0.5～3㎝大の礫含む）を検出した。

既往の調査から、A・B地点の造成土以下は近世以前の堆積層とみられる。壁面・床面を精査したが、遺構はなく、遺物も出土しなかった。掘削土の一部も精査したが遺物は確認できなかった。

今回の工事では埋蔵文化財の保護に支障は生じなかったが、正門付近や演習棟周辺では遺物包含層や遺構が確認されていることから[註1]、引き続き、慎重な対応が必要である。

【註】

1）田畑直彦（2016）「教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う本発掘調査・立会調査」、山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』、山口

付節1　平成28年度　山口大学構内遺跡調査要項

山口大学大学情報機構規則

改正　平成18年3月14日規則第27号

（趣旨）

第1条　この規則は、国立大学法人山口大学学則（平成16年規則第1号）第9条第2項の規定に基づき、国立大学法人山口大学（以下「本法人」という。）の大学情報及び情報基盤を総合的に整備する山口大学大学情報機構（以下「機構」という。）に関し必要な事項を定める。

（組織）

第2条　機構は、次の施設をもって組織する。

(1)図書館

(2)メディア基盤センター

(3)埋蔵文化財資料館

2　前項の施設に関し必要な事項は、別に定める。

（業務）

第3条　機構は、次の業務を行う。

(1)大学情報及び情報基盤の戦略的整備計画の策定に関すること。

(2)大学情報及び情報基盤の整備の施策及び実施に関すること。

(3)情報セキュリティの施策及び実施に関すること。

(4)その他機構が必要と認めた事項に関すること。

2　前項の業務を行うため、機構は、各学部、各研究科、全学教育研究施設及び事務組織と相互に連携を図るものとする。

（運営委員会）

第4条　機構に、機構の管理及び運営に関する事項を審議するため、山口大学大学情報機構運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2　運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（情報セキュリティ委員会）

第5条　機構に、情報セキュリティに関する事項を審議するため、国立大学法人山口大学情報セキュリティ委員会（以下「情報セキュリティ委員会」という。）を置く。

2　情報セキュリティ委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（情報基盤整備委員会）

第6条　機構に、情報基盤の整備に関する事項を審議するため、国立大学法人山口大学情報基盤整備委員会（以下「情報基盤整備委員会」という。）を置く。

2　情報基盤整備委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（機構長）

第7条　機構に機構長を置き、学術情報担当副学長をもって充てる。

2　機構長は、機構の業務を総括する。

（副機構長）

第8条　機構に副機構長2名を置き、本法人の専任教授のうちから機構長が指名した者をもって充てる。

2　副機構長は、機構長を補佐する。

3　副機構長の担当は、機構長が定める。

4　副機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、機構長である副学長の任期の終期を超えることはできない。

5　副機構長に欠員が生じた場合の後任の副機構長の任期は、前任者の残任期間とする

（専任大学教育職員）

第9条　機構に、専任大学教育職員を置く。

2　専任大学教育職員の選考は、運営委員会の議に基づき、学長が行う。

3　専任大学教育職員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

（事務）

第10条　機構に関する事務は、情報環境部学術情報課において処理する。

（雑則）

第11条　この規則に定めるもののほか、機構に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

山口大学埋蔵文化財資料館規則

平成16年4月1日規則第148号
改正 平成17年3月24日規則第52号

(趣旨)

第1条 この規則は、山口大学大学情報機構規則(平成16年規則第139号)第2条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館(以下「資料館」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 資料館は、文化財保護法(昭和25年法律第214号)に基づき、国立大学法人山口大学(以下「本法人」という。)に所在する遺跡の埋蔵文化財の発掘調査及び研究を行い、出土品を収蔵・公開することを目的とする。

(業務)

第3条 資料館は、次の業務を行う。

(1)本法人構内等から出土した埋蔵文化財の収蔵・展示及び調査研究

(2)本法人構内等における埋蔵文化財の発掘調査及び報告書の刊行

(3)その他埋蔵文化財に関する必要な業務

(職員)

第4条 資料館に、次の職員を置く。

(1)館長

(2)副館長

(3)資料館所属の専任大学教育職員

(4)その他必要な職員

2 埋蔵文化財に関する特別な分野の調査研究を行うため、資料館に特別調査員若干名を置くことができる。

3 特別調査員は、専門委員会の議に基づき、館長が委嘱する。

(館長)

第5条 館長は、大学情報機構長をもって充てる。

2 館長は、資料館の業務を掌理する。

(副館長)

第6条 副館長の選考は、国立大学法人山口大学の専任の教授又は准教授のうちから山口大学大学情報機構運営委員会の議に基づき、学長が行う。

2 副館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、副館長に欠員が生じた場合の後任の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。

3 副館長は、館長を補佐し、日常的な業務の執行及びこれに必要な意思決定に関し、館長を助けるものとする。

(事務)

第7条 資料館に関する事務は、情報環境部学術情報課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、資料館に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 第5条第1項の規定にかかわらず、当分の間、館長は、大学情報機構副機構長のうちから大学情報機構長が指名した者をもって充てる。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会内規

(趣旨)

第1条 この規則は、山口大学大学情報機構運営委員会(平成16年規則第140号)第8条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会(以下「専門委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 専門委員会は、山口大学埋蔵文化財資料館(以下「資料館」という。)に関し、次の事項について審議する。

(1)管理及び運営に関する事項

(2)整備充実に関する事項

(3)予算に関する事項

(4)その他資料館に関し必要な事項

(組織)

第3条 専門委員会は、次の委員をもって組織する。

(1)機構長

(2)副機構長

(3)館長

(4)副館長

(5)資料館所属の専任大学教育職員

(6)考古学担当の国立大学法人山口大学専任の大学教育職員

(7)メディア基盤センター所属の専任大学教育職員のうち館長が指名した者1名

(6)施設環境部長
(9)情報環境部長
(10)情報環境部学術情報課長
(11)発掘調査地に関連のある部局の事務部の長

(任期)

第4条 前条第7号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 専門委員会に委員長を置き、館長をもって充てる。

2 委員長は、専門委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときには、副館長がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 専門委員会が必要と認めたときは、専門委員以外の者を専門委員会に出席させることができる。

(部会等)

第7条 専門委員会は、必要に応じて部会等を置くことができる。

2 部会等に関し必要な事項は、専門委員会が別に定める。

(事務)

第8条 専門委員会の事務は、情報環境部学術情報課において処理する。

(雑則)

第9条 この内規に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要な事項は、専門委員会が定める

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

平成28年度 山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会

委員長 根ヶ山 徹（大学情報機構長・館長・人文学部教授）

委員 多田村 克己（大学情報機構副機構長・創成科学研究科教授）

藤間 充（副館長 農学部准教授）
斎藤 智也（メディア基盤センター助教）
山根 信二（情報環境部長）
田畑 直彦（埋蔵文化財資料館助教）
川島 尚宗（埋蔵文化財資料館助教）
村田 裕一（人文学部准教授）
岩永 仁（施設環境部長）
叶井 貫一郎（情報環境部学術情報課長）
横山 成己（埋蔵文化財資料館助教）

付節2　山口大学構内の主な調査

表16 山口大学構内の主な調査一覧表

吉田構内

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
昭和41年	第Ⅰ地区A・B区	L～N−15	1	30?	土壙・柱穴	弥生土器、土師器、須恵器	事前	調査担当 小野忠熙	年報11・13
	第Ⅱ地区家畜病院新営	R−20・21 S・T−19・20	2	2,000	溝、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、須恵器	〃	〃	年報3
	第Ⅱ地区		3			弥生土器、土師器	試掘	〃	①
	第Ⅳ地区牛舎新営	S・T−10・11	4	300	弥生溝・土壙、古墳整穴住居、中世住居跡・溝	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器	事前	〃	年報14
	第Ⅳ地区		5				試掘	〃	
昭和42年	第Ⅲ地区杭列区および陸上競技場	D−19・20 E−17・19～21 F−17・18	6	1,600	杭列、弥生整穴住居	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、矢板状木杭	事前	〃	①
	第Ⅲ地区南区	G−21～23 H−22	7		河川跡、柱穴	縄文土器、弥生土器、木器、石器	〃	〃	
	第Ⅲ地区北区	H−20 I−19～21 J−20・21	8	1,400	整穴住居、溝、土壙、柱穴		〃	〃	
	第Ⅲ地区東南区	G−23 H−23・24 I・J−24 K−23・24 L−23	9		弥生整穴住居	弥生土器	〃	〃	
	第Ⅲ地区野球場		10		中世柱穴	瓦質土器	試掘	〃	
	第Ⅴ地区学生食堂	J−20 N−14 P−18	11		弥生溝、古墳土壙	弥生土器、土師器	事前	〃	
	第Ⅴ地区		12		河川跡、柱穴、土壙	弥生土器、土師器	試掘	調査担当 山口大学吉田遺跡調査団	
	第Ⅰ地区C区大学本部新営	K・L−14	13	600	整穴住居、溝、土壙	土師器、須恵器、瓦質土器	事前	〃	
昭和44年	第Ⅴ地区教育学部				河川跡	弥生土器、土師器、須恵器	試掘	〃	
昭和46年	第Ⅰ地区D区第1地点	L−13	14		近世大溝	弥生土器、木炭層	〃	〃	年報XIII
	第Ⅰ地区D区第2地点	L−13	15			弥生土器、土師器、瓦質土器、石鏃	〃	〃	
	第Ⅰ地区D区第3地点	M−13・14	16		土壙、柱穴	弥生土器、瓦質土器	〃	〃	
	第Ⅰ地区D区第4地点	M・N−14	17		土壙、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、石器	〃	〃	
	第Ⅰ地区D区第5地点	L−12・13	18		弥生溝	弥生土器、土師器	〃	〃	
	第Ⅰ地区D区第6地点	M−13	19		柱穴	弥生土器、土師器、石器	〃	〃	
	第Ⅰ地区D区第7地点	M・N−13	20			須恵器	〃	〃	
	第Ⅰ地区E区第2学生食堂新営	M・N−14・15 O−15	21	900	古墳整穴住居、土壙、溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、石器、鉄製品	事前	〃	年報XII XVIII
昭和50年	第Ⅱ地区					弥生土器	試掘	〃	①
昭和51年	第Ⅲ地区				整穴住居	弥生土器、土師器、須恵器	〃	〃	
昭和53年	人文学部校舎新営	M・N−21	22	160			〃	調査担当 近藤喬一	年報X
昭和54年	教育学部附属養護学校新営	A−20・21 B−19・20 C−19	23	410	溝、土壙	縄文土器、弥生土器	試掘	山口大学埋蔵文化財資料館 山口市教育委員会	年報IX
	理学部校舎新営	N・O−19・20	24	250			〃		年報X
	農学部動物舎新営	P−19	25	380			〃		
	本部管理棟新営	L−14	26	740	溝、土壙、柱穴、中世井戸、土壙墓、住居跡	弥生土器、土師器、石製品	事前		年報XII
昭和55年	経済学部校舎新営	K−21	27	66			試掘		年報X
	農学部農業観測実験施設新営	P・Q−15	28	50	溝、土壙		事前		
	本部環境整備	E−14～16 F−15・16	29				立会		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和55年	農学部環境整備	N−11 O−10・11 P−9・10	30				〃		年報X
昭和56年	教育学部校舎新営	H−19	31		弥生堅穴住居、土壙、溝、柱穴	弥生土器、石製品	事前		年報I
	教育学部音楽棟新営	H−16	32		溝		〃		
	教育学部美術科・技術科実験実習棟新営	J・K−19・20	33		旧河川、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器	〃		
	正門橋脚新営	I−11	34				立会		
	時計塔理設	I−14	35				〃		
	本部構内擁壁取設	K・L−13・14	36				〃		
	教養部構内擁壁取設	I−15〜17 J−17	37				〃	工法等変更	
	構内循環道路舗装	J〜M−15 M・N・16	38				〃		
	農学部中庭整備	N・O−17	39				〃		
	厩舎施設改修	O−16	40				〃	工法等変更	
	学生部文化会車庫新営	M−8・9	41				〃	工法等変更	
	学生部馬場整備	M・N−8・9	42				〃		
昭和57年	附属図書館増築	L・M−16	43	600	弥生〜古墳溝、土壙、柱穴、杭列	弥生土器、土師器、須恵器、石器	事前		年報II
	大学会館新営	M・N−14・15	44	130	弥生堅穴住居、溝	弥生土器	試掘		
	教育学部附属養護学校プール新営	A・B−21	45	880			立会		
	放射性同位元素総合実験室排水桝新営	O−18	46	2			〃		
	教養部自転車置場昇降口新営	L−17	47	10			〃		
	教養部中庭環境整備	J・K−16	48	150			〃		
昭和58年	大学会館新営	M・N−12・13	49	2,000	古墳井戸、土壙、柱穴、中世井戸、掘立柱建物	弥生土器、土師器、須恵器、輸入陶磁器、国産陶器、瓦質土器、緑釉陶器、木簡、石器	事前		年報III
	ラグビー場防球ネット新営	G−18・19 H−19・20	50	114	弥生溝、弥生〜古墳堅穴住居、土壙	弥生土器、土師器、石製品	〃	堅穴住居は工法変更により現地保存	
	理学部大学院校舎新営	M・N−20	51	409			立会		
	正門・南門二輪車置場および正門花壇新営	I・J−12・13 H−23	52	183			〃		
	学生部アーチェリー場的台・電柱設置	N−8・9	53	33			〃		
	学生部厩舎整備	M−7・8	54	1.6			〃		
	学生部野球場散水栓取設	I−21 K−22	55	1			立会		
	教養部環境整備	I−15・16 J−15 K−17・18 L−18	56	81			〃		
	学生部テニスコート改修	C−18 D−17 E−15・16 F−16	57	12			〃		
昭和59年	大学会館ケーブル布設	N−12	58	160	弥生土壙、柱穴	弥生土器	事前		年報IV
	大学会館排水管布設	J〜L−13	59	180	弥生〜中世遺物包含層、古墳土壙、古代〜中世土壙、溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、青磁、白磁、瓦質土器	〃		
	学生部テニスコートフェンス改修	B−17 C−16・17 D−16 E−15	60	25	古墳以降の遺物包含層	土師器	試掘		
	経済学部樹木移植	K−19・21	61	8			立会		
昭和60年	大学会館環境整備	L−14・15 M・N−15	62	592	弥生〜中世遺物包含層、弥生堅穴住居、貯蔵穴、土壙、古代〜近世土壙、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、輸入磁器、国産陶磁器、土製品、石斧、原石、鉄器、銅塊	試掘		年報V
	経済学部環境整備(樹木移植)	K・L−20	63	5			立会		
	農学部附属農場飼料圃排水溝修復整備	R−17〜19	64	30	古代末〜中世河川跡	須恵器、土師器、輸入陶磁器、轆口、石器、鉄滓	〃		
	農学部附属農場農道改修	V−15〜17	65	325			〃		
	教育学部前庭環境整備(樹木移植)	I・J−19	66	430			〃		
	中央ボイラー棟車止設置	O・P−16	67	2.5		須恵器	〃		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和60年	大学会館環境整備(樹木移植)	M-15	68	9		弥生土器、土師器、須恵器、石鏃、礫石、鉄滓	〃		年報V
	交通標識設置	J-20 N-14 P-18	69	3			〃		
	農学部解剖実習棟周辺環境整備(実験動物運動場設置)	Q-18	70	16			〃		
	理学部環境整備(毒物設置)	N-21	71	4			〃		
	農学部附属家畜病院舗装	S・T-19	72	270			〃		
昭和61年	国際交流会館新営	M-22・23 N-22	73	70	弥生～古墳河川跡 中世～近世溝	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵質土器、陶磁器、鉄滓玉、加工痕のある剥片	試掘		年報VI
	山口銀行現金自動支払機設営(電線路埋設)	J-19	74	11	包含層(河川跡か)	弥生土器	立会		
	農学部附属農場農道整備	S-20 T・U-19	75	165	中世溝、柱穴	土師器、瓦質土器	〃	工法変更	
	農学部附属農場農道交通規制(監視ポール設置)	M-10 P-15 Q-15～17	76	12			〃		
	正門横(水田内)境界杭設置	J-10	77	0.25	包含層か		〃		
	経済学部環境整備(樹木移植・記念碑建立)	L-20	78	3			〃		
昭和61年	吉田構内交通標識設置	G-23 K-9 O-22 S-20 V-17	79	3		須恵器	立会		年報VI
	市道神郷1号線および開田神郷線の送水管埋設	B-17・18 C-18・19 D-19・20 E-20・21 F-21・22 G-22・23 H-23・24 I・J・K-24 L-23・24 M・N-23 O-22・23 P・Q-22 R-21・22 S-21 T-20・21 U-19・20 V-18・19 W・X-18	80	2,100	古墳・弥生溝、古代河川跡、弥生包含層	弥生土器、土師器、須恵器(墨書のあるもの含む)瓦質土器、製塩土器、石斧、板石	立会	山口市教育委員会 山口大学埋蔵文化財資料館	
	教養部自動販売機理設(地根設置および縦覧席移動)	K・L-18	81	3.5			〃		
	教養部身体障害者用スロープ取設	L-15・16	81	3			〃		
	経済学部散水線取設	L-20	83	4			〃		
	吉田構内水泳プール改修等	E-15 F-15・16 H-15	84	26.5	包含層		〃		
	農学部附属農場水道管理設	S-12	85	3			〃		
	吉田構内汚水排水管等総改修	M-18 O-15	86	15.5		土師質土器	〃		
	本部身体障害者用スロープ取設	L-14	87	12			〃		
	経済学部身体障害者用スロープ取設	K-18～20 L-18	88	78			〃	工法等変更	
	附属図書館荷物運搬用スロープ取設	L-16	89	8		弥生土器	〃		
	教養部37番教室改修	K-16	90	1			〃		
昭和62年	教育学部附属教育実践研究指導センター新営	J・K-18・19	91	240		プランク、削器、植物遺体	事前		年報VII
	教養部複合棟新営	J・K-17	92	35	埋甕土壙、溝、柱穴	土師器、須恵器、土師質土器、石斧	試掘		
	教養部複合棟新営	I・J-16	93	30	溝状遺構	弥生土器	立会		

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和62年	教養部複合棟新営	J・K-17・18	94	900	落し穴、河川跡、竪穴住居、土壙、溝、井戸、埋甕土壙、掘立柱建物跡、谷状遺構、柱穴	縄文土器、土師器、須恵器、土師質土器、須恵質土器、陶磁器、石鏃、石斧、木製品	事前		年報Ⅷ
	九田川局部改修	B-16・17 C-16	95	20			立会	山口県教育委員会 山口大学埋蔵文化財資料館	
	国際交流会館新営	M・N-22・23	96	195			〃		
	教育学部附属養護学校自転車置場移設	B-20	97	1			〃		
	農学部附属農場E7圃場排水管理設及び圧圃場進入路拡幅	L～N-12	98	55	中世土壙墓か	弥生土器、土師器、須恵器、輸入白磁、国産磁器、敲石	〃		
	農学部植栽	N-17	99	3			〃		
	経済学部集水桝取設	J-20	100	0.5			〃		
昭和63年	教養部複合棟新営に伴う自転車置場移設	I-16	101	1	包含層か		立会		年報Ⅷ
	国際交流会館新営に伴う排水管理設	N・O-22	102	35	河川跡(溝か)、包含層	弥生土器、須恵器	〃		
	教養部複合棟新営に伴うケーブル埋設	J-18	103	1			〃		
	サッカー・ラグビー場改修	F-19・21 G-18	104	25	性格不明	弥生土器	〃		
	消防用水設置	K～M-22	105	7.5			〃		
平成元年	水銀灯新営	J・L-15	106	4	古墳溝状遺構柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、六連式製塩土器	事前		年報Ⅸ
	様野寮ボイラー設備改修	O-20・21	107	25			立会		
	野球場防球ネット新営	H-22 I-21・22 J・K-21	108	7	包含層	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器	〃		
	防火水槽配管布設	K・-21・22	109	15	柱穴		〃		
	吉田寮ボイラー設備改修	M-8	110	4			〃		
	体育施設系給水管改修	G・H-16	111	50		陶器	〃	工法等変更	
	大学会館前記念植樹	M-13	112	6			〃		
	吉田寮ボイラー棟地下貯油槽設備改修	M-8	113	45	包含層	土師器、須恵器、土師質土器、陶器、剥片、二次加工のある剥片	〃		
	第2武道場排水溝新営	G-15	114	2	溝		〃		
	案内標識設置	I-14 L-18	115	0.5			〃		
	本部車庫給水管改修	L-13	116	6.5		弥生土器	〃		
	大学会館前庭環境整備	N-14・15	117	35	中世溝		〃		
平成2年	大学会館前庭環境整備	M-15	118	2			〃		年報Ⅹ
	第1学生食堂設備改修	I・J-19	119	7			〃		
	教育学部附属養護学校案内板設置	E-20	120	1			〃		
平成3年	農学部連合獣医学科棟新営	O・P-17	121	76	縄文河川	縄文土器、石器	試掘		年報ⅩⅠ
	農学部仮設プレハブ倉庫設置	P-17	122	6		須恵器	立会		
	農学部微生物実験室その他模様替機械設備改修	P-17	123	8			〃		
	大学会館前庭記念植樹	L・M-15	124	2			〃		
	サークル棟新営	F-14	125	1			〃		
平成4年	農学部連合獣医学科棟新営	O・P-17	126	980	縄文河川	縄文土器、石器	事前		年報ⅩⅡ
	交通規制標識及びバリカー設置	H-22 M-10 O-22 R-19 S-20	127				立会		
	吉田構内道路(南門ロータリー)取設	H-23	128	40			〃		
	ボイラー室給水管漏水補修	O-16	129	4			〃		
	農学部附属農場ガラス室新営	S-14	130	3.5			〃		
	大学会館前庭記念植樹	L・M-15	131	3			〃		
	泉町平川線緊急地方道路整備工事及び山口大学吉田団地環境整備(正門周辺)	E-11・12	132				〃		
	泉町平川線緊急地方道路整備(信号機設置)	I-11	133	7			〃		
平成5年	本部裏給水管理設	K～M-13	134	70	溝、柱穴	弥生土器、土師器、滑石製模造品	事前		年報ⅩⅢ
	人文学部・理学部講義棟新営	M-20	135	4			試掘		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成5年	第2屋内運動場新営	G・H−16	136	144	溝	弥生土器、須恵器、砥石	〃		年報XIII
	農学部給水管埋設	N〜P−18	137	9			〃		
	基幹整備 (屋外他給水管改修)	L−15 M−17・18	138	16			立会		
	農学部連合獣医学科棟新営 電気設備	O−16	139	4			〃		
	大学会館前庭バリカー設置	N−14	140	1			〃		
	大学会館前庭記念植樹	L−15	141	1.6			〃		
	九田川河川局部改良	C−16 D−15・16	142	40			〃		
	農学部電柱立替	V−17	143	0.2			〃		
	農学部ガラス室設置	S−14	144	10			〃		
	教育学部給水管埋設	H・J−19	145	15			〃		
	環境整備(大学会館前庭)	L−14 M−13〜15 N−14・15	146	140.9			〃		
	環境整備(遺跡保存地区)	H−20 I−19〜21 J−20・21	147	361			〃		
	環境整備(正門周辺)	G−13 H−12	148	350			〃		
平成6年	グランド屋外照明施設新設	E−20 F−21 G−18・22 H−19・20 I−21	149	600	縄文河川、弥生住居、溝、土坑、弥生〜古墳河川、近世溝	縄文土器、弥生土器、土師器、ガラス小玉、砥石、磨石、敲石	事前	工法等変更	年報XIV
	第2屋内運動場新営	G・I−15・16	150	726	弥生〜古代溝、貯蔵穴、土坑、近世溝、土坑	弥生土器、土師器、須恵器、砥石、磨石、敲石、剥片、須恵器、瓦質土器、土師質土器、陶器、磁器、瓦、下駄	〃		
	グランド屋外照明施設配線埋設	F−21 G−20・21 H−19・20	151	200	縄文河川、弥生住居、溝、土坑、弥生〜古墳河川、近世溝	縄文土器、弥生土器、土師器、ガラス小玉、砥石、磨石、敲石	〃	工法等変更	
	経済学部商品資料館新営	K・L−21	152	87.5	河川	陶器、磁器	試掘		
	実験廃液処理施設棟新営	H−12・13	153	2	河川		〃		
	体育器具庫及び便所新営	G・H−17	154	60	河川		〃	工法等変更	
	経済学部商品資料館 仮設電柱設置	L−22 M−22・23	155	5			立会		
	人文学部前駐車場整備	K−23 L−22・23	156	6			〃		
	教育学部附属養護学校 生活排水管改修	F−19	157	2			〃		
	テニスコート改修	B−17 C−16・18 D−15〜17 E−15・16	158	15			〃		
	教育学部附属養護学校 生活訓練施設棟新営	B−20〜22 C−20	159	16			〃		
	陸上競技場整備(透水管埋設)	C−18 D−18・19	160	200			〃		
	ハンドボール場改修(プレハブ設置)	K−22	161	30			〃		
	野球場フェンス改修	H−22 I−21・22	162	3			立会		年報XIV
	基幹環境整備 (ボイラー室配電盤設置)	O−16	163	4	河川か		〃		
	九田川河川局部改良	D−15 E−14・15	164	100			〃		
	第2屋内運動場電柱仮設	G−14・15	165	0.5			〃		
	教養部水道管破裂修理	I−16	166	2			〃		
	グランド屋外照明施設配線埋設	E−20 F−20〜21 G−18・19・22 H−19・20 I−20・21	167	150			〃		
	公共下水道接続 (教育学部附属養護学校 プール排水施設設置)	A−21	168	4			〃		
	サークル棟給水管埋設	F−14	169	1			〃		
	プール新営給水管埋設	E−15 F−15・16	170	10			〃		
	公共下水道接続 (汚水管街水排水施設設置)	C−18	171	6	河川	土師器	〃		
	教育学部スロープ設置(音楽棟)	H−17	172	10			〃		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成7年	農学部RI実験研究施設新営	Q・R−17	173	75	近世溝	磁器	試掘		
	農学部RI実験研究施設新営	Q・R−17	174	520	中世井戸、近世溝	石斧、須恵器、磁器、瓦器	事前		
	公共下水道布設	C−18 E−16 G−14	175	70	溝、土坑、河川跡、柱穴	弥生土器、土師器	試掘		
	公共下水道布設	C・D−18 D・E−17 E・F−16	176	240	土坑、河川跡、柱穴	弥生土器、石器、骨角器	事前		
	農学部附属農場牛舎新営	T−10	177	22			試掘		
	独身宿舎改修	N・O−22	178	25.5	河川		試掘		
	第2学生食堂増築	N・O−15	179	48	柱穴、包含層	石鏃	試掘		
	第2屋内運動場外周照明施設新設	G−15・16	180				立会		
	機器分析センター新営工事用電柱仮設	O−19〜21 P−22	181				〃		
	農学部附属家畜病院バリカー新設	S−20	182				〃		
	吉田寮可燃ゴミ置場新設	N−10	183				〃		
	農学部RI実験研究施設電気・情報ケーブル及びガス・給排水管布設	Q・R−17	184				〃		
	情報処理センター スロープ新設	O−19	185				〃		
	基幹環境整備 (ATMネットワークケーブル布設)	E−19・20 F−18・19 G−18	186				〃		
	基幹環境整備(外灯新設)	I−15・16 J−20 K−19 M−10・11 N−12 O−16〜18・20 P−18・19 Q−17・18	187				〃		
平成8年	基幹環境整備(独身宿舎・国際交流会館排水管布設)	M−23 O−22	188	22.5	河川		試掘		年報XVI
	基幹環境整備(外灯新設)	H・I−21・22	189	306	河川	縄文土器、弥生土器、土師器、石器	試掘		年報XVI
	農学部附属農場排水管布設	S−10・11	190	93	包含層、ピット	土師器、須恵器	試掘		
	陸上競技場鉄棒取設	G−18	191	5.5	包含層		立会		
	農学部附属農場排水溝改修	R−11	192	2.2			〃		
	植野寮バリカー新設	O−20・21	193	7			〃		
	サッカー場給水管取替	H−19・20 I−19	194	12	包含層		〃		
	基幹環境整備(共通教育センター スロープ・テラス新設)	J・K−17	195	14.3	河川	縄文土器、須恵器	〃		
	九田川河川局部改良	E−14	196	18			〃		
	農学部附属農場道路舗装	K−12・13 L−12 M−11	197	27.6	近世用水路、溝状遺構	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器	〃		
	本部裏排水管取替	K−14	198	2			〃		
	農学部附属農場家畜病院患畜舎周障取設	S・T−19	199	1			〃		
平成9年	農学部附属農場堆肥舎新営	S−10	200	41.5			試掘		
	農学部バイオ環境制御施設新営	Q−15・16	201	140	河川、溝	土師器、須恵器、製塩土器、石鏃	試掘		
	カーブミラー新設	M−11 N−21	202	0.8			立会		
	基幹環境整備(外灯新設)	J・K−21 K・L−22 L−23	203	23.5	包含層		〃		年報XVII
	共通教育棟エレベーター新設	K−16	204	42			〃		
	九田川河川局部改良	E−14	205	48			〃		
	本部2号館西側バリカー新設	L−13	206	0.5			〃		
	教育学部附属養護学校時計塔新設	D−21	207	1.4	包含層	土師器	〃		
	基幹環境整備(教育学部附属養護学校排水管取替)	C・D−21	208	17	河川		〃		
	基幹環境整備 (焼却場裏表土すきとり)	O−16	209	40			〃		
平成10年	第2学生食堂の増築及び改修	N・O−15	210	967.2	掘立柱建物、溝、土坑、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、石鏃、鉄製品	事前立会		年報XVII
	教育学部附属養護学校給食室改修	C−21	211	12.3	縄文河川、土坑、柱穴	縄文土器、弥生土器	試掘		
	九田川河川局部改良	E・F−14 F−13	212	180			立会		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成10年	基幹環境整備(バリカー新設)	H−15・I−20 O−16・18 L−22	213	3.4			〃		年報XⅧ
	農学部動物用焼却炉改修	Q−18	214	53			〃		
	基幹環境整備(外灯新設)	L−17〜19 M・N−18	215	4			〃		
	理学部スロープ新設	M−18	216	16			〃		
	ステンレス回転モニュメント新設	M−13・14	217	27.6			〃		
平成11年	第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力線路施設整備	O−14〜16	218		包含層、柱穴、河川	土師器、須恵器	〃		
	九田川河川局部改良	F・G−13 G・H−12	219				〃		
	第2学生食堂北西擁壁新設	N−14	220				〃		
	サッカー場南側防球ネット新設	G・H−22	221				〃		
	第1体育館・共通教育本館スロープ新設	H−15 K−16	222				〃		
	基幹環境整備(外灯新設)	I−12 K・L−18 L−15 M・N−17	223				〃		
平成12年	総合研究棟新営	Q−18 R−17〜19	224	268	河川	土師器、須恵器	試掘		年報XX
	総合研究棟新営	Q・R−18・19 S−20	225	808	河川、土坑	縄文土器、土師器、須恵器、製塩土器、瓦質土器、石鏃	事前立会		
	厩舎及び周辺施設改修	M−8	226	3.6			立会		
	架空電線取り外し埋設	O−15 P−15・16 Q−14・15・18・19 R−13・14 R・S−19 S−14	227	268	包含層		〃		
	九田川河川局部改良	H−11・12 I−10・11 J−9・10 K・L−9	228	616			〃		
	山口合同ガスガバナー室新設及びガス配管布設	O・P−22	229	313			〃		
	基幹環境整備(バリカー新設)	N−22 M−10 V−17	230	0.4			〃		
	あずまや新設	L−18	231	5			〃		
	共通教育センター空調設備新設	J−16	232	1.4			〃		
	基幹環境整備(外灯新設)	J・K−21 M−10	233	2			〃		
平成13年	経済学部校舎改修(プレハブ校舎新営)	K−21	234	40	河川	縄文土器、土師器、須恵器	試掘		年報XXI
	九田川河川局部改良(平成12年度工事追加分)	K−9 L−8・9	235	42	河川		立会		
	総合研究棟新営(屋外配管布設)	P・Q−18	236	60			〃		
	理学部改修1期(屋外配管布設)	M−18〜20 N−19〜21 O−19	237	76			〃		
	九田川河川局部改良	L−8	238	96			〃		
	基幹環境整備(外灯新設)	I−14・15 J・L−15 M−15 N−16 Q−17・19 R−17・19 S・T・U・V−17	239	15.4	河川		〃		
	理学部校舎改修2期(ポンプ室配管布設)	M−19	240	11			〃		
	理学部校舎改修2期(自転車置場・渡り廊下屋根新設)	M・N−20	241	196			〃		
	第1学生食堂トイレ改修	I・J−19	242	6			〃		
	経済学部校舎改修(プレハブ校舎配管布設)	L−21	243	10			〃		
平成14年	農学部校舎改修(解剖実習棟プレハブ校舎新営)	R・S−19	244	520	掘立柱建物、柱穴、土坑、包含層、河川	土師器、須恵器(墨書土器)、製塩土器、緑釉陶器、瓦、輞口、鉈尾、鋤鍬石	事前		
	農学部附属農場実験圃場整地	O−14	245				立会		
	農学部校舎他改修	N〜Q−17・18	246		河川	縄文土器	〃		
	理学部改修3期工事(薬品庫掲示板・自転車置場新設)	N・O−19 M−19・20	247				〃		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成14年	東アジア研究科プレハブ校舎新営	N−21	248				〃		
	農学部校舎改修(解剖実習棟プレハブ校舎新営)	R・S−19	249		河川, 包含層		〃		
	教育学部トイレ改修	I−18	250				〃		
平成15年	農学部附属農場ガス管漏洩修理	O・P−16 Q−15	251	12	河川		立会		年報1
	教育学部附属養護学校給食調理員専用トイレ新設	C−21	252	1.7			〃		
	農学部環境微生物実験棟衛生室	P・Q−15	253	52			〃		
	理学部中庭通路屋根新設	N−19	254	5.8			〃		
	理学部中庭ふすまや新設	N−20	255	6.8			〃		
	基幹環境整備(外灯)	F−16, H−14 G−13〜15・18 I−16・19 J−19, L−12 Q−15	256	11.5	河川		〃		
平成17年	教育総合研究センター改修Ⅰ期	J・K−16	257	130	ピット, 河川	弥生土器, 土師器	予備		年報3
	教育総合研究センター改修Ⅰ期	I・J・K−16 H−12, E−20	258	580	ピット, 河川	弥生土器, 土師器 須恵器	立会		
	日本ペトロジー学会 木田土壌の断面調査	R−16	259	3.1	河川		〃		
	基幹環境整備(外灯)取設	H−17・22・23	260	7.7			〃		
	教育総合研究センター改修Ⅱ期	K・L−16, K−17 J−16・17	261	92	ピット, 溝, 河川	弥生土器, 土師器 石器	予備		
平成18年	農学部附属家畜病院改修Ⅰ期	S−20	262	36	包含層・谷	土師器・須恵器 製塩土器	予備		年報4
	農学部附属家畜病院改修Ⅰ期	S−20	263	225	掘立柱建物跡, 溝, 土壙	土師器, 須恵器 緑釉陶器, 木製品(柱根)	本		
	農学部附属家畜病院改修Ⅰ期	S−20	264	19	包含層		立会		
	教育総合研究センター改修Ⅱ期	K・L−16	265	84	ピット, 河川, 杭列	縄文土器, 弥生土器 土師器, 須恵器	本		
	教育総合研究センター改修Ⅱ期	J・K・L−16 I・J・K・L−17	266	480	ピット, 河川, 溝	弥生土器, 土師器 打製石斧, 柱材	立会		
	資料館(東亜経済研究所)新営	L−20・21	267	100	土壙, 落ち込み, 河川		予備		
	プレハブ倉庫移設	I−16	268	29			立会		
	第一学生食堂改修	J−20	269	75			〃		
	図書館前広場環境整備	L−17・18	270	55			〃		
	プレハブ校舎新営	F−14・15, G−15	271	400			〃		
	人文学部外灯用電源敷設	M−20	272	6			〃		
	テニスコートフェンス改修	B・C−17, C−18	273	10	河川, 包含層		〃		
平成19年	農学部附属動物医療センター改修Ⅱ期	T−20	274	48	土壙, ピット	土師器・須恵器 瓦質土器	本		年報5
	駐車場整備工事	J−21	275	10			立会		
	資料館(東亜経済研究所)新営	L−20・21	276	550			〃		
	第一事務局庁舎改修	L−15	277	5			〃		
	吉田寮前配水管敷設	M−11	278	11			〃		
	農学部附属農場内電源敷設	Q−15, S−18	279	0.5	ピット	須恵器	〃		
平成20年	経済学部研究棟改修工事	L・M−19	280	26	河川, 落ち込み		予備		年報6
	新教育研究棟新営	M・N−11・12	281	473	谷, ピット, 溝	弥生土器, 土師器 須恵器, 瓦質土器 青磁	〃		
	新教育研究棟建設関連工事	L−12〜14 M−12・13	282	313	ピット, 溝, 土壙	土師器, 須恵器 緑釉陶器, 白磁, 青磁 国産陶器, 瓦	本		
	新教育研究棟新営	M・N−11・12	283	1,333	掘立柱建物, ピット 溝, 土壙, 井戸, 谷	縄文土器, 弥生土器 土師器, 須恵器, 青磁 緑釉陶器, 瓦質土器 木製品	〃		
	農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期	T−19 S−20	284	250	掘立柱建物, ピット 溝, 谷	弥生土器, 土師器 須恵器, 製塩土器 青磁, 瓦質土器 木製品	〃		
	国際交流会館B棟改修工事	N・O−22 N−23	285	457	河川		立会		
	サッカーグラウンド防球ネット取設	H−21・22 I−21	286	8.5	河川, ピット		〃		
	正門改修等工事	L−13 M−12・13	287	174	ピット, 溝, 落ち込み	土師器, 須恵器 瓦質土器, 陶器, 磁器	〃		
	教育実践センター廻りフェンス取設	K−19	288	2	土壙	縄文土器	〃		
平成21年	東アジア研究棟・経済学研究科新営	K−21	289	117	溝, 河川	弥生土器, 土師器 須恵器, 木製品	予備		年報7

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成21年	野球場防球ネット取設置	H-23 I-24 K-24	290	40	ピット、溝、包含層	弥生土器、砥石	予備		年報7
	教育学部研究実験A棟改修	H•I-17•18 I•K-24	291	35.3			〃		
	里山整備工事	Q-10 O•P•Q-11	292	36.9			〃		
	新教育研究棟新営	L-13•14 M-11•12 N-12	293	340.5			立会		
	ビオトープ周辺雨水配水管取設	H-12	294	60			〃		
	仮設高圧引込工事	L•M-10•11	295	7			〃		
	ため池整備工事	S-8	296	130			〃		
	基幹整備(鋳鉄管改修)	J-14•15	297	156	包含層		〃		
	事務局外灯設置	J-14	298	1			〃		
	第1事務局庁舎東駐車場カーポート設置	L-14	299	1.2	ピット		〃		
	基幹・環境整備 (第1体育館周辺排水整備)	H-13	300	300			〃		
	男子学生寮東側丘陵災害復旧	N-8 O-8•9	301	700			〃		
	人文学部外灯設置	N-21	302	10			〃		
	人文学部西側アプローチ改修	M-20	303	750			〃		
	教育学部研究実験棟A棟改修電気設備	K-18	304	40	包含層、河川		〃		
	理学部ソーラー外灯設置	O-20	305	0.3			〃		
	農学部インターロッキング設置	P-17	306	9			〃		
	農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期	S-19•20	307	154	包含層、埋没谷	土師器、須恵器	〃		
	農学部附属農場水田暗渠排水	Q-15•16 R-15 S-15 T-15 U-15 V-15	308	96	包含層、河川	土師器、須恵器	〃		
	農学部植物工場新営	P-15	309	98	包含層	土師器、須恵器	〃		
	男子学生寮新営	M-10•11	310	1350			〃		
	ラグビー場排水整備	E-20 F-21	311	58.6			〃		
	アーチェリー場整備工事	N-7•8 O-7•8	312	750			〃		
	テニスコート改修	C-17 D-16•17	313	18.3			〃		
	共通教育講義棟改修	L-17	314	11.6			〃		
	石彫実習場整備その他	N•O•P-8 Q-9	315	29			〃		
平成22年	教育学部研究実験棟B棟改修工事	H•I•J-18	316	80	落ち込み、溝	弥生土器	予備 立会		年報8
	音楽サークル棟新営工事	G-14	317	13.5			予備		
	教育学部研究実験棟G棟改修工事	G-18	318	22			立会		
	吉田寮改修工事	L•M-9	319	1,820			〃		
	基幹整備(鋳鉄管改修)工事	Q-18	320	13.6	河川		〃		
	基幹整備(第1体育館周辺排水整備)工事	G-13	321	8			〃		
	事務局2号館車寄せ取設工事	L-14	322	3.6	土壙		〃		
	里山遊歩道手摺り取設工事	N•O-14	323	15.2			〃		
	人文学部駐輪場外灯設置工事	M-22	324	13.6			〃		
	教育学部附属特別支援学校 構内雨水排水補修工事	C•D-21	325	18	包含層、河川		〃		
	農学部附属農場果樹園側溝新設工事	R•S-19	326	10	ピット、溝、土壙		〃		
平成23年	特高受変電設備棟新営工事	P•Q-16 R•S•T•U•V-17	327	380	ピット、杭列、河川	土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、石鏃	本 立会		年報9
	基幹整備 (第1体育館周辺排水整備)工事	G-13•14	328	72			立会		
	埋蔵文化財資料館スロープ取設工事	N-16	329	48			〃		
	第2学生食堂西側 テーブル・ベンチ取設工事	M-15	330	8			〃		
	農学部植物工場新設工事	P-15	331	224	ピット		〃		
	農学部連合獣医学科棟横倉庫 撤去・新設工事	O-17	332	75			〃		
	教育学部附属特別支援学校 散水栓増設工事	C•D-21	333	16.8			〃		
平成24年	図書館改修工事及び環境整備 (図書館周辺道路迂回)工事	M-16	334	172	河川、杭列	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器 緑釉陶器、製塩土器 石器、木器、銙帯丸鞆	本		年報10
	産業動物実験施設新営工事	S•T-10	335	45			予備		
	棟野寮新営工事	O-21•22 P-22	336	48	溝	須恵器	予備		
	第1学生食堂増築工事	I-19•20 J-20	337	66.1	河川、ピット	弥生土器、土師器	予備		
	陸上競技場トラック排水溝改修工事	D-17～19 E-17•19 F-16～19 G-16～18	338	495	河川、溝		立会		
	人文・理学部管理棟EV設置工事	M-20	339	42.75			〃		
	農場本館事務室等改修機械設備工事	R•S-13	340	27			〃		
	図書館改修その他工事 (廃棄物プール設置)	K-10	341	25			〃		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成24年	国際交流会館1号館引込給水管改修工事	M・N−22	342	15			立会		年報10
平成25年	厨医学国際教育研究センター棟新営工事	P・Q−17	343	608	縄文時代河川	縄文土器	本		年報11
	第1武道場耐震改修その他工事	F・G−16 G−17	344	692	弥生古墳時代河川 溝，土壙	弥生土器，土師器，石器 竹製網代編み製品	〃		
	第1武道場耐震改修その他工事	H−15	345	1			立会		
	農場本館研究・実験室改修工事	S−13	346	4			〃		
	農学部本館他電気接地改修工事	S−13	347	1			〃		
	篠野寮新営工事	O−20・21	348	35	落ち込み，ピット，河川		〃		
	陸上競技場外灯設置工事	E−19・20 F−19 G・H−18	349	56			〃		
	自転車置き場設置工事	G・H−15	350	90			〃		
	基幹・環境整備(太陽光発電設備)工事	I・M−15 L−19	351	20			〃		
	交通標識設置工事	J−15 K−11 L−13 M−11・12 O−18	352	6	包含層		〃		
	学術情報資産の集約管理システム設備工事	K−14	353	22.8			〃		
平成26年	動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事	R−19 S−19・20	354	247	埋没谷 溝 土壙 ピット	須恵器，土師器，鉄器 製塩土器，墨書土器 木製品	本		年報12
	篠野寮1号棟改修工事	O−20・21 P−20・21	355	801	落ち込み ピット 河川	須恵器，土師器	立会		
	動物医療センター改修電気設備工事	S−19	356	9			〃		
	農学部附属農場水田排水路工事	U・V−17	357	50			〃		
	経済学部D棟改修電気設備工事	K−19	358	4			〃		
	第1学生食堂増築工事	I−19・20 I−20	359	341	河川	弥生土器	〃		
	第1学生食堂増築電気設備工事	I−19	360	16			〃		
	南門アプローチ整備工事	H・I−21・22	361	66.5	河川	弥生土器，土師器	〃		
平成27年	総合研究棟(国際総合科学部)改修工事	H−18・19	362	56.5	土壙，ピット，溝	弥生土器	本	工事位置変更	年報13
	動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(設備関連)	R・S−19	363	44.5	埋没谷	須恵器，土師器	立会		
	動物医療センター(ニリアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)	S−19・20	364	50	埋没谷	須恵器，土師器 製塩土器，輪羽口 木製品(曽我木簡)	〃		
	動物医療センター(ニリアック室等)新営その他工事(外灯設置)	S−20	365	2	遺物包含層	須恵器	〃		
	動物医療センター外灯設置工事	S−20	366	22	土壙，溝埋没谷	須恵器，土師器	〃		
	共同獣医学部解剖実習棟前動物休憩施設設置工事	R−19・20 S−20	367	10.75	遺物包含層		〃		
	共同獣医学部倉庫設置工事	R・S−20	368	25	遺物包含層		〃		
	共同獣医学部カーポート設置工事	N−17	369	3			〃		
	農学部附属農場水田排水路工事	T・U−15・17	370	100	溝		〃		
	理学部駐輪場屋根新設工事	N−20	371	16			〃		
	図書館周辺雨水排水整備工事	N−16	372	35			〃		
	総合研究棟横小路バリカー設置工事	Q−18・19	373	0.25			〃		
	総合研究棟北側喫煙所新設工事	Q−17・18	374	4.5			〃		
	陸上競技場横遊歩道標識設置工事	E−20 H−18	375	2			〃		
	正門前樹木緑樹工事	I−12	376	5			〃		
	事務局前樹木移設工事	K−15 I−16	377	14.5			〃		
平成28年	実習棟(動物病理解剖施設)新営その他工事	Q・R−19	378	491	埋没谷，土壙，ピット 風倒木痕	須恵器，土師器，円面硯 製塩土器，輪羽口 縦長剥片，打製石鏃 頭石，礫石，砥石，木製品	本		年報14
	実習棟(動物病理解剖施設)新営その他工事	Q・R−18・19	379	233	遺物包含層	須恵器，土師器	立会		
	総合研究棟(国際総合科学部)改修工事	H−18	380	160			〃		
	農学部果樹園排水工事	O−15	381	9	竪穴式住居跡か 土壙，ピット	須恵器，土師質土器	〃	工法変更(盛土保存)	
	大学部駐輪場屋根新設工事	M−20	382	26			〃		
	共通教育棟周辺駐輪場整備工事	J・K・L−16 I・L−17	383	53	河川，遺物包含層		〃		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育学部附属山口小学校・幼稚園運動場整備		1	60	古墳整穴住居、溝状遺構	土師器、須恵器、瓦質土器、瓦、石製品、木製品	試掘		年報Ⅲ
昭和60年	教育学部附属山口小学校散水栓改修		2	1			立会		
	教育学部附属山口中学校球技コート整備		3	2			〃		年報Ⅴ
	教育学部附属幼稚園環境整備(樹木植樹)		4	1			〃		
昭和61年	教育学部山口附属学校	幼稚園・小学校部分	5	57	中世土壙か	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、土師質土器、	試掘		年報Ⅵ
	汚水排水管布設	中学校部分		20	河川跡か低列	陶磁器、不明鉄製品、石鏃、剥片、植物遺体			
昭和61年	教育学部附属山口小学校電柱移設		6				立会		年報Ⅵ
昭和62年	教育学部附属幼稚園遊戯室拡張		7	40			〃		年報Ⅶ
昭和63年	教育学部附属山口中学校屋内消火栓設備改修		8	35	包含層	土師器、磁器、剥片	〃		年報Ⅷ
平成元年	教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設		9	260	弥生～古墳整穴住居、土壙、溝、柱穴、河川跡	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵質陶器、黒色土器、緑釉、二次加工のある剥片、使用痕のある剥片、剥片、石核、砥石	事前		年報Ⅸ
	教育学部附属幼稚園バレーコート支柱設置		10	0.3			立会		
	教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水管布設		11	170	弥生溝状遺構	弥生土器、土師器、打製石斧、削器、剥片、石核	〃		
平成2年	教育学部附属山口中学校汚水排水管布設		12	70	溝状遺構	縄文土器、弥生土器、土師器、瓦質土器、不明鉄製品、石鏃、敲石、扁平打製石斧、砥石、剥片	事前		年報Ⅹ
			13	130		弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、国産陶磁器、扁平打製石斧、砥石	立会		
平成6年	教育学部附属山口小学校プール新営給水管埋設		14	3			〃		年報ⅩⅣ
	教育学部附属山口中学校プール新営給水管埋設		15	7			〃		
平成7年	教育学部附属山口中学校自転車置場新設		16				〃		
平成10年	教育学部附属山口小学校給食室改修		17	15.8			試掘立会		年報ⅩⅧ
平成12年	教育学部附属山口中学校防球ネット新設		18				立会		年報ⅩⅨ
平成14年	教育学部附属山口中学校給水設備改修		19				〃		
	教育学部附属幼稚園運動場整備		20		河川、柱穴	土師器	〃		
平成15年	教育学部附属山口幼稚園庇新設		21	27.7			立会		年報1
平成16年	白石地区市道歩道改修		22	1	河川		立会		年報2
	教育学部附属山口小学校事務室新営		23	101	河川、土壙または溝		〃		
	教育学部附属山口幼稚園・小学校フェンス・通用門改修		24	11			〃		
平成17年	教育学部附属山口幼稚園・小学校給水管改修		25	10			立会		年報3
平成19年	教育学部附属山口中学校校舎等改修		26	121	河川、落ち込み、ピット	縄文土器、弥生土器	予備		年報5
	教育学部附属山口中学校校舎等改修		27	38	河川、包含層		立会		
平成21年	教育学部附属山口小学校共用棟・教室Ⅱ棟間渡り廊下屋根取設		28	2.5			〃		年報7

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
平成21年	教育学部附属幼稚園園内中庭池改修整備		29	50	落ち込み		立会		年報7
	教育学部附属山口中学校中庭庇取付		30	1.5			〃		
平成22年	教育学部附属山口小学校渡り廊下設置		31	12			立会		年報8
平成23年	教育学部附属学校園案内板設置工事		32	1			立会		年報9
	教育学部附属幼稚園渡り廊下屋根拡張工事		33	11.5			〃		
平成24年	教育学部附属幼稚園遊具設置工事		34	0.35			立会		年報10
	教育学部附属幼稚園園舎テラス取設工事		35	7.9			〃		
	教育学部附属山口中学校看板表示設置工事		36	0.6			〃		
	教育学部附属山口中学校テニスコート防球ネット嵩上げ工事		37	4.8			〃		
	教育学部附属山口中学校武道場新営植物移植工事		38	3			〃		
平成25年	教育学部附属山口中学校武道場新営工事		39	235.8		弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、木製品	予備		年報11
	教育学部附属山口中学校武道場新営工事に伴う外灯及び渡り廊下取設工事		40	77.6		縄文土器、弥生土器、土師器	立会		
平成27年	教育学部附属山口中学校グラウンド防球ネット新設工事		41	1.3			立会		年報13
	教育学部附属山口小学校ガス管交換工事		42	8			〃		
平成28年	教育学部附属山口小学校雨水管改修工事		43	24	土壙、溝、ピット	弥生土器、瓦質土器 磁器	立会		年報14

小串構内

調査年度	調　査　名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
昭和58年	医学部体育館新営		1	260		土師器、瓦質土器、石器	試掘		年報Ⅲ
	医学部図書館増築		2	4			立会		
	医学部体育館新営		3	1			〃		
昭和59年	医学部浄化槽新営		4	44	近世溝	土師器、瓦質土器、磁器	事前		年報Ⅳ
	医学部体育館新営		5	65		土師器、瓦質土器、磁器	〃		
	医学部基幹整備（特高受変電設備）		6	28		動物遺体(貝殻)	試掘		
	医学部臨床講義棟病理解剖棟新営		7	38			〃		
昭和60年	医学部附属病院外来診療棟新営		8	390		土師質土器、瓦質土器、陶磁器	〃		年報Ⅴ
	医学部基礎研究棟新営		9	10		近世陶器	〃		
	医学部看護婦宿舎改修		10	25.5		近世陶磁器	立会		
	医学部看護婦宿舎改修		11	20			〃		
	医学部環境整備（樹木植栽）		12	40			〃		
昭和61年	医学部附属病院外来診療棟新営		13	5			〃		年報Ⅵ
	医学部附属病院外来診療棟周辺環境整備等（雨水桝埋設）		14	18			〃		
昭和62年	医学部附属病院東駐車場改修		15	6			〃		年報Ⅶ
	医学部附属病院病棟新営		16	104		削器、ナイフ形石器、細石刃核	試掘		
昭和63年	医学部附属病院病棟新営		17	300		二次加工のある剥片、使用痕のある剥片、剥片、礫石、礫、原石、土師器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器	立会		年報Ⅷ
	医学部附属病院運動場整備		18	220			〃		
平成元年	医学部附属病院MRI棟新営		19	45		削器、細石刃、二次加工のある剥片、剥片、石核	試掘		年報Ⅸ
平成3年	医学部臨床実験施設新営電気工事		21	0.5			立会		年報Ⅹ1
平成4年	境界棟地盤調査		22				〃		年報Ⅹ2
平成5年	医学部臨床実験施設新営その他		23	9			〃		年報Ⅹ3
	医学部附属病院基幹設備（焼却棟新営）		24	6			〃		
平成6年	医学部附属病院MRI−CT装置棟新営		25	300			〃		年報XIV
平成7年	医学部附属病院看護婦宿舎新営		26	40			試掘		
平成8年	医療技術短期大学部屋外排水管布設		27	6			立会		年報XVI
平成9年	医学部慰霊碑・納骨堂新営		28	15.2			試掘		年報XVII
	基幹環境整備（看護婦宿舎浄化槽撤去）		29	4			立会		
	医学部消極棟移設		30	10			〃		
平成10年	宇部市土地区画整理事業（梯ヶ瀬丸向内線）		31	253.1	包含層、近世〜近代用水路	剥片、弥生土器、土師器、陶器、磁器	事前	宇部市教育委員会と合同調査	年報XVIII
	宇部市土地区画整理事業（梯ヶ瀬丸向内線・医学部敷地西側特殊道路）		32	381.1	包含層、近世〜近代溝	剥片、縄文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器	〃	宇部市教育委員会と合同調査	年報XVIII
平成11年	宇部市土地区画整理事業（梯ヶ瀬丸向内線）		33	792	近世〜近代用水路、土坑	陶器、磁器、鉄製品	〃	宇部市教育委員会と合同調査	
平成13年	医学部附属病院立体駐車場新営		34	229	包含層	縄文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器、鉄釘	試掘		年報XXI
平成14年	医学部附属病院高エネルギー棟新営		35	13.25			〃		
	総合研究棟新営		36	382	包含層	縄文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器	〃		
平成15年	基幹環境整備（塔突）新営		37	76			試掘		年報1

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成16年	医学部基幹環境整備（地下オイルタンク他）		38	144		縄文土器、土師器、陶器、磁器、石鏃	試掘		年報2
	医学部職員宿舎他公共下水接続		39	400		弥生土器、土師器、瓦質土器、陶器、磁器	〃		
	医学部総合研究棟北側連絡用渡り廊下取設		40	40.6			立会		
平成17年	医学部附属病院基幹環境整備（冷熱源設備他改修）		41	37			〃		年報3
	医学部南側通用門扉取設		42	30			〃		
平成18年	モニュメント設置		43	6.2			〃		年報4
平成19年	医学部総合研究棟改修Ⅰ期		44	6,75			予備		年報5
平成20年	医学部総合研究棟改修Ⅱ期		45	9			〃		年報6
平成21年	小串宿舎B棟埋設ガス管改修		46	58			立会		年報7
平成22年	医学部附属病院患者用・職員用立体駐車場建設		47	125		煙管、陶器、磁器、瓦質土器、土師器	予備立会		年報8
	地域医療教育研修センター新営		48	156	畦畔、溝	磁器、陶器、泥メンコ、土人形、煙管、土錘、土師器、須恵器、弥生土器、縄文土器	予備		
平成23年	地域医療教育研修センター新営工事		49	4			立会		年報9
平成26年	基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事		50	90		縄文土器、土師器、石鏃	予備		年報12
	基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事		51	30			立会		
	廃棄物管理棟新営工事		52	149			〃		
平成27年	保育所新営その他工事		53	50		陶器	予備		年報13
平成28年	基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事（自家発電設備工事）		54	100		弥生土器、石鏃	立会		年報14

常盤構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	工学部校舎新営		1	70		須恵器	試掘		年報Ⅲ
	工学部図書館増築		2	70			〃		
昭和59年	工学部尾山宿舎排水管布設			20			立会		年報Ⅳ
昭和60年	工学部尾山宿舎擁壁取設等			65			〃		年報Ⅴ
	工学部受水槽改修		3	1.5			〃		
昭和61年	工学部尾山宿舎排水管改修			6			〃		年報Ⅵ
	工学部身体障害者用スロープ取設		4	29			〃		
	情報処理センター(常盤センター)空調設備取設		5	30			〃		
昭和63年	工学部塵芥庁上屋新営		6	225			〃		年報Ⅶ
平成元年	工学部夜間照明装置及び防球ネット設置		7	2			〃		年報Ⅸ
	工学部記念植樹		8	2.5			〃		
平成2年	工学部ガス管改修		9	45			〃		年報Ⅹ
平成3年	大学祭展示物設置		10	7			〃		年報ⅩⅠ
平成4年	工学部プレハブ研究・実験棟新営		11	6			試掘		年報ⅩⅡ
	工学部・工業短期大学部の改組再編・博士課程設置に伴う建築物等の新営		12	40			〃		
	工学部および工業短期大学部職員宿舎取壊		13	9			立会		
	大学祭展示物設置		14	7			〃		
平成5年	工学部プレハブ研究・実験棟新営		15	12			試掘		年報ⅩⅢ
	工学部地域共同研究開発センター新営		16	16			〃		
平成7年	工学部国際交流会館新営		17	8		石鏃	〃		
平成8年	工学部国際交流会館新営		18	352	段状遺構	ナイフ形石器、剥片	事前		年報ⅩⅥ
平成12年	工学部福利厚生棟新営		19	38.5			試掘		年報ⅩⅩ
平成13年	工学部インキュベーションセンター新営		20	60		土師質土器、瓦	〃		年報ⅩⅩⅠ
平成14年	総合研究棟新営		21	13.5			〃		
平成15年	工学部本館改修		22	428			立会		年報1
平成16年	工学部定歪速度応力腐食割れ実験室新営		23	20			試掘		年報2
	工学部光半導体素子実験室新営		24	52.5			〃		
	工学部雨水幹線工事		25	9			立会		
平成17年	工学部職員宿舎揚水施設改修		26	65			〃		年報3
	工学部会議棟身障者スロープ取設置		27	38			〃		
平成18年	総合研究棟改修工事(Ⅱ期・本館北)		28	280			確認		年報4
平成19年	工学部総合研究棟改修(Ⅲ期・本館)		29	147			〃		年報5
平成20年	工学部女子学生寄宿舎新営その他		30	24			予備		年報6
平成21年	工学部ガス管改修		31	12.5			確認		年報7
平成26年	常盤寮C棟新営工事		32	103			立会		年報12

光構内

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育学部附属光小学校自転車置場設置		1	6	近世～近代石垣	瓦質土器、陶磁器、瓦	試掘		年報Ⅲ
昭和59年	教育学部附属光小・中学校焼却炉新営		2				立会		年報Ⅳ
昭和60年	教育学部附属光中学校外灯改修		3	1		土師器	〃		年報Ⅴ
昭和61年	教育学部附属光小学校創立記念事業(ブロンズ像建立)		4	2.5		土師器、須恵器	〃		年報Ⅵ
昭和62年	教育学部附属光中学校グラウンド防球ネット設置		5	2		弥生土器、土師器、瓦質土器、土師質土器、瓦	〃	御手洗湾採集	年報Ⅶ
昭和63年	教育学部附属光小学校遊器具移設		6	10		土師器、土師質土器、陶磁器	〃		年報Ⅷ
	教育学部附属光小学校屋外スピーカー設置		7	0.5		土師器、土師質土器、須恵器、瓦質、瓦質土器、陶磁器、土錘	〃	御手洗湾採集	
平成2年	教育学部附属光小学校運動場改修		8	15		縄文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、施釉陶器、磁器、土錘、剥片、鉱滓	試掘	御手洗湾採集遺物含む	年報Ⅹ
	教育学部附属光小学校運動場改修		9	23	土壙	土師器、須恵器、須恵器模倣土師器	事前		
平成3年	教育学部附属光中学校武道館新営		10	38	土壙、溝状遺構	土師器、磁器、陶器	試掘		年報ⅩⅠ
	教育学部附属光小学校屋外施設設置		11	18		土師器、石錘	立会		
	教育学部附属光中学校バック ネット新設		12	0.5		土師器	〃		年報ⅩⅠ
平成4年	教育学部附属光中学校武道館新営		13	500	土壙、柱穴	縄文土器、須恵器、土師器、瓦器	事前		年報ⅩⅡ
	教育学部附属光中学校武道館地盤調査		14				立会		
平成5年	教育学部附属光中学校武道館新営その他		15	6			〃		年報ⅩⅢ
平成6年	教育医学部附属光小中学校プール新営給排水管埋設		16	19			〃		年報ⅩⅣ
平成8年	教育学部附属光小・中学校囲障(外周フェンス・防球ネット)設設		17	7		陶磁器	〃		年報ⅩⅥ
平成10年	教育学部附属光小学校給食室改修		18	5.2			〃		年報ⅩⅧ
平成11年	教育学部附属光小・中学校上水道(給水管)改修		19	132	古墳包含層、柱穴、近世～近代土壙	土師器、須恵器、韓式系土器、瓢形土器、陶器、磁器	試掘立会		
平成12年	教育学部附属光小・中学校護岸石積改修		20	173	石垣	陶磁器	立会		年報ⅩⅩ
	教育学部附属光小・中学校上水道(給水管)改修		21	23			〃		
平成15年	教育学部附属光小学校エレベータ昇降路等新設		22	169	ピット、土壙、溝	縄文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器、石器	試掘立会		年報1
平成17年	教育学部附属光小学校体育器具庫新営		23	53		土師器、須恵器磁器陶	予備		年報3
	教育学部附属光小・中学校護岸改修		24	40	石垣	陶磁器	立会		
平成21年	教育学部附属光中学校校舎改修		25	107	ピット、土壙	須恵器	本		年報7
	教育学部附属光中学校校舎改修工事に伴う プレハブ建設		26	225			立会		
平成22年	教育学部附属光中学校防球ネット設備		27	1			立会		年報8
平成23年	教育学部附属光小学校下水道接続工事		28	19.4		土師器、須恵器、陶磁器	予備		年報9
	教育各部附属光小学校遊具設置工事		29	20			立会		
平成24年	教育学部附属光小学校下水接続工事		30	125.4	ピット、土壙、溝、落ち込み、包含層	縄文土器、弥生土器土師器、須恵器韓式系土器、製塩土器	本		年報10
	教育学部附属光小学校下水接続工事		31	889	ピット、土壙、溝、落ち込み、包含層	縄文土器、弥生土器土師器、須恵器韓式系土器、製塩土器	立会		
平成25年	教育学部附属光小学校設備工事		32	57	土壙	土師器	立会		年報11
	教育学部附属光小学校改修その他工事 教育学部附属光小学校改修その他機械設備工事 教育学部附属光小学校改修その他電気設備工事		33	412	落ち込み、包含層	土師器、須恵器	立会		

調査年度	調　査　名	構内地区別	地点	面積(㎡)	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
平成26年	教育学部附属光小学校グラウンド鉄棒新設工事		34	23	ピット	縄文土器、須恵器土師器、鉄器	立会		年報12
	教育学部附属光中学校校舎排水管改修工事		35	3			緊急		
平成28年	教育学部附属光小学校バスケットゴール設置工事		36	4			立会		年報14

その他構内

調査年度	調　査　名	構内地区別	面積(㎡)	遺　構	遺　物	調査区分	備　考	文献
昭和59年	学生部ボート艇庫合宿研修所整備	宇部市大字小野字土井	0.5			立会		年報Ⅳ
	学生部ヨット艇庫合宿研修所整備	吉敷郡秋穂町東字中道				〃		
昭和60年	熊野荘給湯機器取設	山口市熊野町3−21	7			〃		年報Ⅴ
昭和61年	湯田宿舎給水管改修	山口市湯田温泉6丁目8−29	35	杭		〃		
	経済学部職員宿舎公共下水道切替	山口市旭通り2丁目3−32	1		土師質土器	〃	6号宿舎	年報Ⅵ
	公共下水道切替	山口市水の上町6−9	7		瓦	〃	2号宿舎	
昭和63年	経済学部職員宿舎公共下水道切替	山口市白石二丁目8−7	1		須恵器、土師器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器	〃	7号宿舎採集	年報Ⅷ
平成元年	本部職員宿舎公共下水道切替	山口市水の上町6−1	1			〃	1号宿舎	年報Ⅸ
平成2年	人文・理学部職員宿舎公共下水道切替	山口市石観音町1−25	1.2		陶磁器	〃	7号宿舎	年報Ⅹ
	経済学部職員宿舎公共下水道切替	山口市香山町3−1	0.5			〃	3号宿舎	
平成3年	湯田宿舎A棟給配水その他改修	山口市湯田温泉6丁目	30			〃		年報ⅩⅠ
	経済学部6号職員宿舎電柱設置	山口市旭通り2丁目3−32	0.5			〃		
	人文・理学部職員宿舎公共下水道切替	山口市天花922−2	1			〃		
平成4年	上竪小路共同下水管布設	山口市上竪小路7丁目8−7	7			〃		年報ⅩⅡ
平成6年	湯田宿舎公共下水道接続及び排水施設改修	山口市湯田温泉6丁目8−29	44			〃		年報ⅩⅣ
平成15年	ボート部合宿所給排水整備	宇部市大字小野字土井	80			確認		年報1
平成16年	湯田宿舎B棟自転車置場新営	山口市湯田温泉6丁目8−29	11			確認		年報2
平成17年	経済学部職員宿舎2号フェンス取替	山口市水の上街6−9	1			確認		年報3
	工学部職員宿舎(尾山)揚水施設改修	宇部市上野中町1−33−34	15			確認		
平成21年	秋穂団地(ヨット艇庫)浄化槽改修	山口市秋穂東706−2	4.5			〃		年報7

※文献① 山口大学吉田遺跡調査団『吉田遺跡発掘調査概報』(山口大学、1976年)
※昭和41年以降、吉田構内においては、工事に際し随時継続的に調査を実施しているが、昭和52年以前の吉田遺跡調査団の関与した調査については、調査名をすべて把握しているわけでなく注意が必要である。

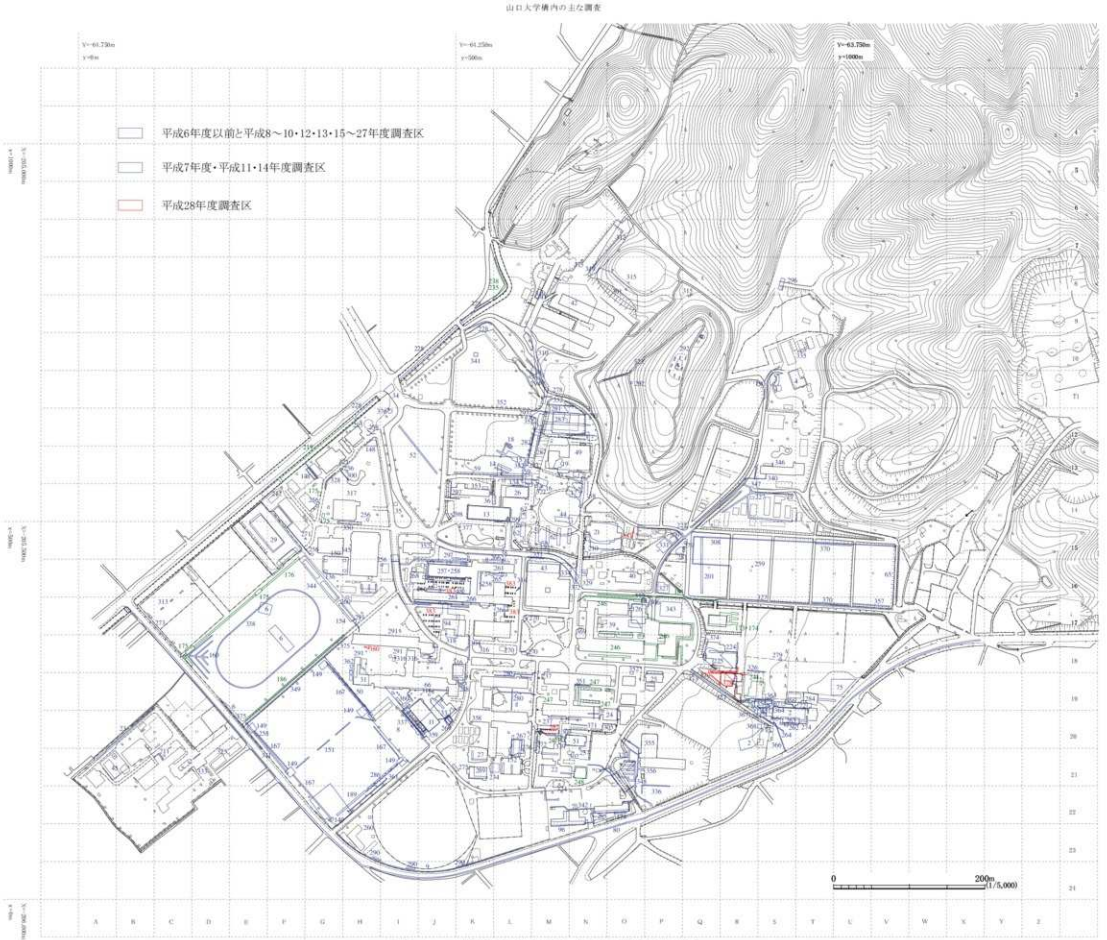


図69　山口大学吉田構内地区割および主な調査区位置図

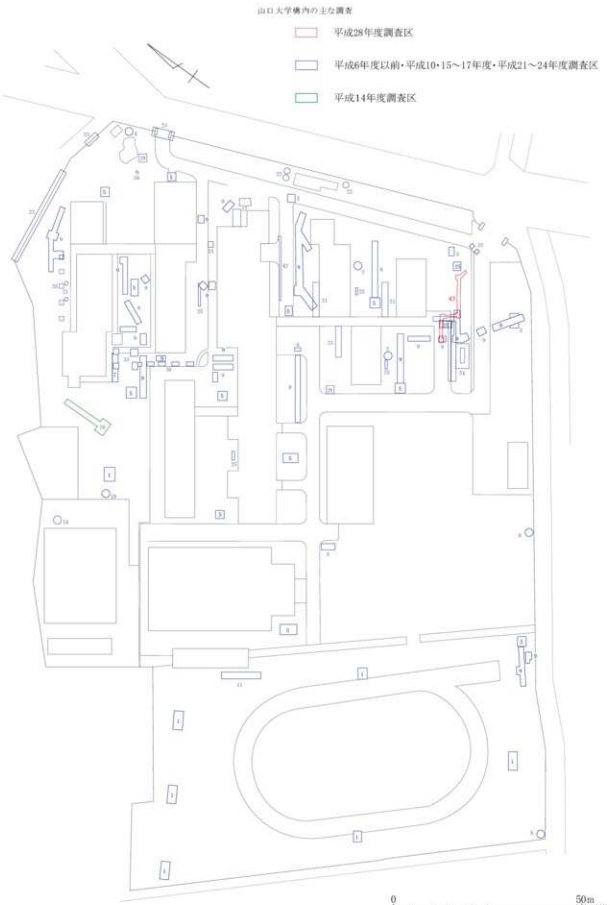


図 70 山口大学白石構内（幼稚園・小学校）調査区位置図

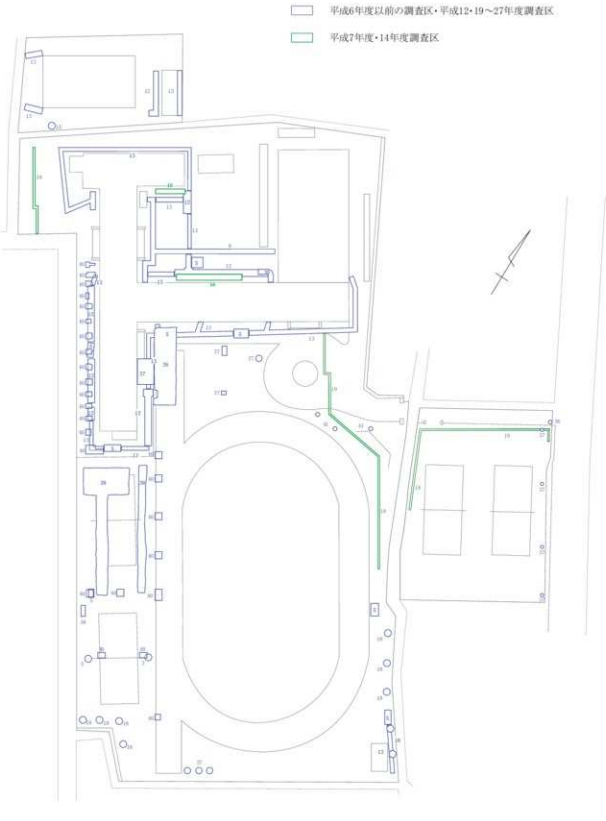


図71 山口大学白石構内（中学校）調査区位置図

図72 山口大学小串構内調査区位置図

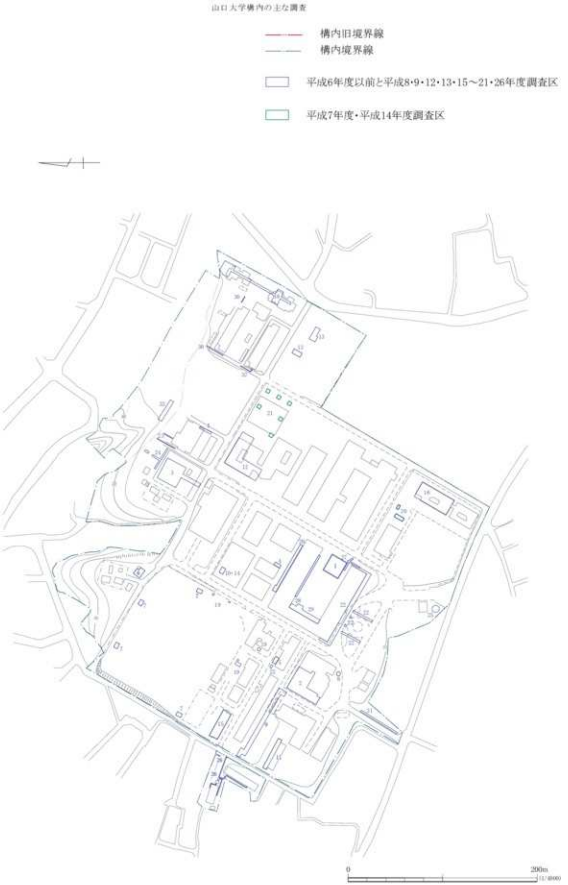


図73 山口大学常盤構内調査区位置図

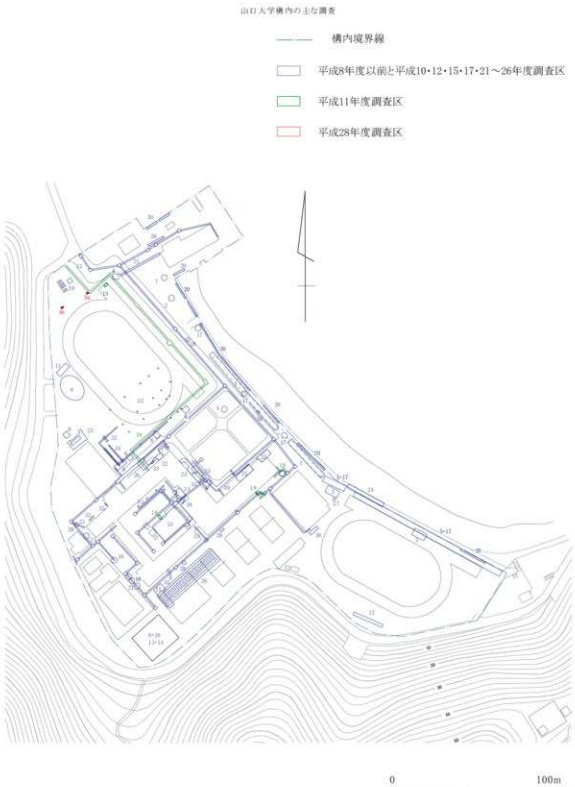


図 74 山口大学光構内調査区位置図

付篇1

平成27年度動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査出土の木製品について

水久保　祥子

1. はじめに

本稿では、資料の図化作業が進行していなかったことから未報告であった平成27年度に吉田構内で実施した動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査[21]で出土した木製品について報告する。なお、音義木簡については、資料の重要性を考慮し、先立ってその概要について報告しているが[22]、概要報告時にはなかった実測図を加えて他の出土木製品とともに改めて掲載するものである。

2. 調査の概要

周辺の調査成果(図75)

ここで取り扱う木製品の出土地は、吉田構内南東端部に位置する動物医療センターの西側にあたる。当地周辺は平成12年度に総合研究棟調査区での発掘調査が行われて以降、建物の新営および改修等に伴って数次にわたって発掘調査、立会調査が行われてきた。

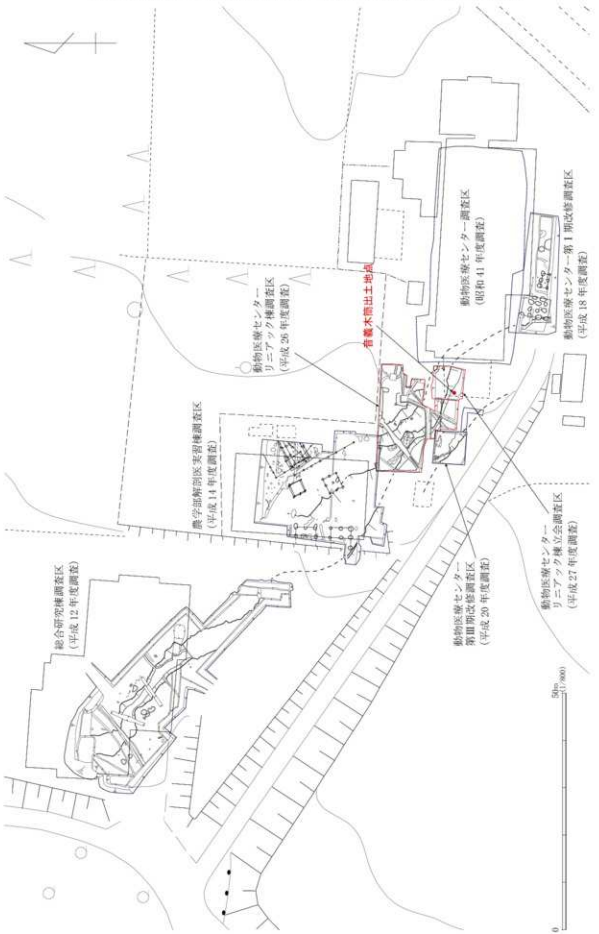
調査の結果、総合研究棟から動物医療センターの間にわたって埋没谷が確認されている。谷の下流部にあたる総合研究棟調査区(平成12年度調査)の埋没谷からは、円面硯を含む8世紀前半から9世紀中頃の土器類が出土している[13]。また、農学部解剖実習棟調査区(平成14年度調査)では、埋没谷の右岸に3棟の総柱建物が検出された。埋没谷の埋土から墨書須恵器「官」、銅製蛇尾未製品、銅鉱石、鞴羽口などが出土したことから鋳造関連の官衙の存在が推測されている[14]。

谷の上流部にある動物医療センター第Ⅰ期改修調査区(平成18年度調査)では、埋没谷右岸の緩傾斜地に大型掘立柱建物が確認され、谷埋土からは7世紀後半から8世紀中頃の土器や木製品が多く出土した[15]。さらに動物医療センター第Ⅲ期改修工事調査区(平成20年度調査)では、初めて埋没谷の左岸が検出され、杭・矢板列により護岸が施されていた様子が確認された。谷埋土からは、8世紀代の須恵器を主体とする土器とともに木製品が多数出土している[16]。土器の中には、墨書須恵器「卅(主)」「主・井」「安」も確認されている。動物医療センターリニアック棟調査区(平成26年度調査)では、調査区のほぼ全域が埋没谷にあたることが確認され、谷埋土からは墨書土器「□少カ　殿」「田」を含む7世紀後半から8世紀代を主とする土器類が多く出土している[17]。

本調査の概要(図76)

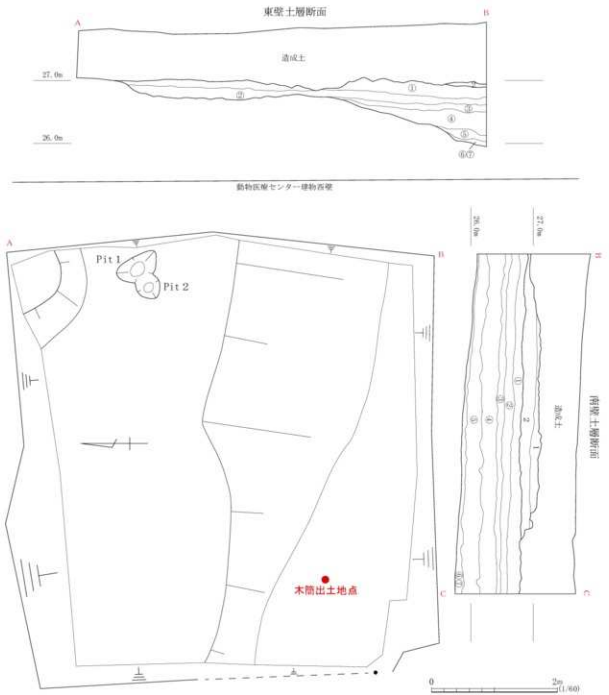
立会調査区は動物医療センターの西側にリニアック棟が増築されることを受けて平成26年度に実施した本発掘調査の西側隣接地に位置する(図1)。調査地には既設のプレハブ施設が存在し、この施設を解体した後にリニアック室を建設する予定となっていたが、平成26年度中は講義に使用するため、本発掘調査(平成26年度調査)時には調査対象とすることができず、平成27年度に工事立会を行うこととなった。

調査区内では、平成26年度調査区に続く谷筋が検出され、谷埋土の層序も一致している。基本層序は、



動物医療センター
リニアック棟調査区
（平成 26 年度調査）
音義木筒出土地点
動物医療センター調査区
（昭和 41 年度調査）
動物医療センター第 1 期改修調査区
（平成 18 年度調査）
農学部解剖医実習棟調査区
（平成 14 年度調査）
総合研究棟調査区
（平成 12 年度調査）
動物医療センター
第 III 期改修調査区
（平成 20 年度調査）
動物医療センター
リニアック棟立会調査区
（平成 27 年度調査）
0
50m
(1/2000)

図 75　調査区位置図



1　包含層1　　黄褐色（2.5Y5/3）粘質土
2　包含層2　　褐灰色（10YR4/1）に褐色（10YR4/4）が混ざる粘質土
①　谷埋土1　　黄灰色（2.5Y4/1）強粘質土に1～2mmφの白色礫が極少量混ざる
②　谷埋土2上層　　黒褐色（10YR3/1）弱粘質土に0.5～2mmφの礫が少量混ざる
③　谷埋土2下層　　谷埋土2上層と同色・同質であるが0.5～10mmφの礫が多量に混ざる
④　谷埋土3上層　　黒褐色（2.5Y3/2）泥土に0.5～30mmφの礫が極少量混ざる（木製品多量に含む）※木簡出土層
⑤　谷埋土3下層　　黒色（N/2）泥土　※有機物腐蝕土層
⑥　谷埋土4　　黒褐色（2.5Y3/2）泥土に灰黄色（2.5Y6/2）強粘質土が混ざる
⑦　谷埋土5　　0.5～100mmφの砂礫（水流堆積層）
地山　　明黄褐色（2.5Y6/6）シルトに灰色（N/5）シルトが部分的に混ざる

図76　調査区平面図・断面図

① 谷理土1　（黄灰色（2.5Y4/1）強粘質土に1～2㎜φの白色礫がごく少量混ざる）
② 谷理土2上層（黒褐色（10YR3/1）弱粘質土に0.5～2㎜φの礫が少量混ざる）
③ 谷理土2下層（谷理土2と同色・同質に0.5～10㎜の礫が多量に混ざる）
④ 谷理土3上層（黒褐色（2.5Y3/2）泥土に0.5～30㎜φの礫が極少量混ざる（木製品多量に含む））
⑤ 谷理土3下層（黒色（N/2）泥土）
⑥ 谷理土4　（黒褐色（2.5Y3/2）泥土に灰黄色（2.5Y6/2）強粘質土が混ざる）
⑦ 谷理土5　（0.5～100㎜φの砂礫）

となっており、谷理土3下層は有機物が密に堆積し、部分的に腐植土層となっている。このうち谷理土4・5については、層が薄く、顕著な湧水のため厳密な分層は行われていない。土器の出土は谷理土2上層が最も多く、木製品は谷理土3上層からその大半が出土しており、音義木簡も同層から出土している。

3．出土木製品について（図77・78、写真201・202、表17）

立会調査で出土した木製品は60×37×15㎝の遺物収納コンテナで2箱分あり、図化したものは音義木簡を含め5点である。

谷理土5層出土

1 棒状製品。断面円柱状に整形されており下端は丸く収めているが、上端は欠損している。残存長21.6㎝、最大幅1.7㎝、最大厚1.5㎝を測る。

谷理土4層出土

2 曲物蓋。半損しており、現状で3片に割れている。残存長16.9㎝、残存幅6.75㎝、最大厚0.7㎝を測る。

3 棒状製品。3片同一個体と思われるが、そのうちの2片のみが接合する。接合する2片の残存長は計52.0㎝、残りの1片の残存長は22.5㎝、全体を通しての最大幅は2.5㎝、最大厚1.7㎝を測る。断面方形に整形されており、下端は片側が「く」の字状に面取りされている。

谷理土2層出土

4 曲物の蓋の一部と思われる。残存長8.0㎝、残存幅5.95㎝、最大厚0.95㎝を測る。

谷理土3上層出土

5 音義木簡。谷理土3上層中から出土。文字面を下に、ほぼ水平の状態で、複数の木製品とともに発見された。上端は欠損しており、残存長28㎝、最大幅3.7㎝、最大厚0.6㎝を測る。左右側面と下端を削って薄い板状に整形している。木簡下部は摩耗のためと思われる表面の荒れがみられ、幅も下端部で3.3㎝と狭まっている。樹種はヒノキ科ヒノキ属。墨書は片面にのみ認められ、墨が淡く肉眼では判読が困難な文字も多い。釈文は以下の通りである。

1字目	文字：折損	訓：□［田ヵ］
2字目	文字：雨	訓：不　路
3字目	文字：露	訓：ツ　由
4字目	文字：□［結ヵ］	訓：□［亡ヵ］　須　ム
5字目	文字：霜	訓：之　母
6字目	文字：金	訓：□［久ヵ］　加　□

6字目の下にも一部墨書の痕跡かと思われる箇所がみられるが、文字としては判別できない。記載されている内容は、漢字1字の下に万葉仮名でその発音や意味が記されており、音義木簡とみられる。音義木簡は、これまで平城京二条大路跡(注9)、飛鳥池遺跡(注10)(奈良県高市郡明日香村)、北大津遺跡(注11)(滋賀県大津市:大津京推定地)、観音寺遺跡(注12)(徳島県徳島市:阿波国府推定地)の都城や国府に関する遺跡から出土しており、吉田遺跡出土品で5例目となる。

原典は、梁の周興嗣『千字文』第9句から11句にかけての「雲騰致雨　露結爲霜　金生麗水」と考えられる。2字目の「雨」を「フル」と動詞で訓んでいること、本来であれば5字目に入るべき「爲」が欠落することなど、疑問点もあるものの、音義木簡の原典が判明したものとしては初例であり、貴重な資料といえる。

4. まとめ

木製品については、隣接する調査区(平成20年度・平成26年度調査区)からも多数の木製品が出土している。それに対し、北西にあたる農学部解剖実習棟調査区、総合研究棟調査区、南東にあたる動物医療センター第Ⅰ期改修調査区では顕著な出土は確認されていない。リニアック棟調査区は谷筋の中でも木製品の投棄が集中しており、また、出土木製品に端材が多く見受けられることから、近隣に木製品を取り扱う工房の存在が示唆されている(注13)。音義木簡は、これらの施設に関わる官人たちの手習いとして用いられたものであろう。

【註】

1) 横山成己(2020)「動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成27年度－』, 山口

2) 横山成己(2018)「吉田遺跡出土「千字文」音義木簡略報」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成25年度－』, 山口

3) 田畑直彦(2017)「吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅩ』, 山口

4) 田畑直彦(2004)「平成7・10～14年度山口大学構内遺跡の概要」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編),『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ・ⅩⅦ』, 山口

5) 横山成己(2010)「農学部附属家畜病院改修Ⅰ期工事に伴う本発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編),『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成18年度－』, 山口

6) 横山成己(2012)「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編),『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成0年度－』, 山口

7) 横山成己(2019)「動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事に伴う本発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編),『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成26年度－』, 山口

8) 【註1】と同じ

9) 奈良国立文化財研究所(1995)『平城宮発掘調査出土木簡概報(三十)二条大路木簡四』, 奈良

10) 奈良国立文化財研究所(1998)『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(十三)』, 奈良

11) 濱修・山本崇(2011)「滋賀・北大津遺跡」, 木簡学会(編)『木簡研究』第33号, 奈良

12) 徳島県埋蔵文化財センター(2002)『観音寺遺跡Ⅰ(観音寺遺跡木簡篇)』, 徳島

13) 【註7】と同じ

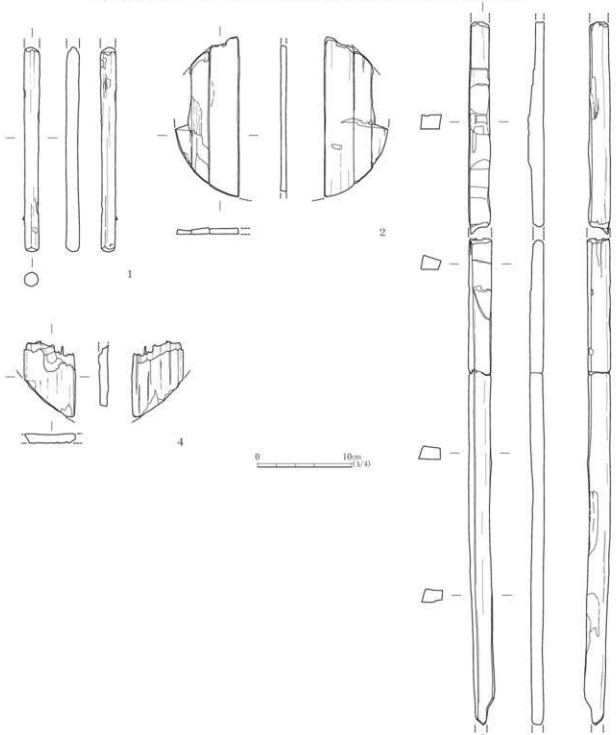


図 77　出土木製品実測図

表17　出土遺物（木製品）観察表

法量（ ）は復元値

遺物番号	遺構	器種	法量(cm) ①長さ②最大幅③最大厚	備考
1	谷理土3下層	棒状製品	①21.6　②1.7　③1.5	
2	谷理土3上層	曲物蓋か	①16.9　②6.75　③0.7	
3	谷理土3上層	棒状製品	①52.0　22.5　②2.5　③1.7	
4	谷理土2上層	曲物蓋か	①8.0　②5.95　③0.95	
5	谷理土3上層	音義木簡	①28.1　②3.7　③0.6	

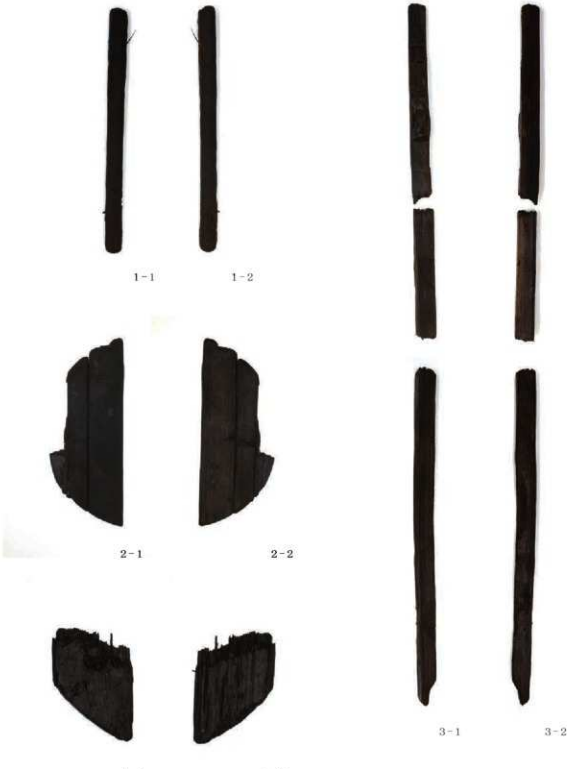


写真 201 出土木製品

5-1　　5-2

（奈良文化財研究所　中村一郎氏撮影）

□　田カ
雨
路　不
露
由　ツ
□結カ
ム　□亡カ
須
霜
母　之
金
□　□久カ
加

5

0　5cm (1/1)

写真 202　出土音義木簡

図 78　出土音義木簡実測図

平成27年度動物医療センター（リニアック室等）新営その他工事（プレハブ撮影）に伴う立会調査出土の木製品について

付篇2

吉田遺跡第Ⅳ地区の調査

横山　成己

1. 報告の経緯

山口市の中心街、現在の県道203号厳島早間田線（通称「バークロード」）沿いを中心に各地に散在していた学部が、山口市吉田地区への統合移転を開始するのは、昭和41年（1966）のことである。校地造成中に土器等の埋蔵文化財が多量に掘り出されたことを受け、7月より小野忠熙氏（当時：教育学部教授）が学生らと緊急発掘調査を実施するとともに、構内の分布調査やボーリング調査を実施することによって、遺跡の広がりと性格把握に努めつつ、開発工事に直接関係する敷地の緊急対応を順次行った。翌昭和42年（1967）7月には、本学のみならず外部の学術研究者と事務局の協力を得て、学長を団長とする「山口大学吉田遺跡調査団（以下、調査団と記す）」が結成され、以降統合移転がひとまずの終了を迎える昭和48年（1973）まで開発に伴う埋蔵文化財保護対応を行うこととなった。

これらの調査成果は、小野氏により昭和51年（1976）に『山口大学構内　吉田遺跡発掘調査概報』として公開された（小野1976）が、これはわずか13頁の略報であり、昭和52年（1977）の当館竣工後は、出土遺物や記録類がほぼ未整理のまま長らく収蔵されることとなった。

平成4年（1992）以降、小野氏または調査団に関する資料に対し、館員による資料整理や調査報告、追加調査が断続的に行われてきた（豆谷1993ab・1994・1995、横山2007、田畑2016・2017a）ものの、未整理の資料が未だ多数存在している。

平成31・令和元年度（2019）に至り、農学部附属農場溜池2・3・4の改修及び撤去という大規模工事が計画されたことから、事前に周囲の埋蔵文化財の様相を把握する必要が生じたことを受け、昭和41年（1966）に小野氏と学生により実施された吉田遺跡第Ⅳ地区、農学部附属農場牛舎新営に伴う発掘調査にて出土した資料の調査を実施し、その成果を報告することにした。

2. 吉田第Ⅳ地区の調査

まず、『山口大学構内　吉田遺跡発掘調査概報』における小野氏の記述を確認する。

第Ⅳ地区

第Ⅰ地区の北東の谷奥にある傾斜変換線付近で、調査当時牛舎の予定地とされた畑地であった。発掘調査の結果、弥生時代と古墳時代の後期から中世をへて大学移転直前の住居跡などがあり、4回にわたってほぼ同じ場所に間欠的に居住していたことが明らかになった。

弥生時代の遺構は、1個の土壙と著しく削剥された直線状の溝状遺構がある。古墳時代の後期には土師器と須恵器を出土した方形プランの竪穴住居跡が2軒以上あるが、何れも水田化の際切り下げられて損壊が大きい。この期の住居跡の一つには炉跡近くに置かれた平たい自然石に夥しい切痕があり、工作台か調理台に使われたものと思われる。中世の住居跡や環状の溝の遺構も損壊を蒙っていた。住居跡は極く浅い方形プランの竪穴で、内部から瓦器が出土した。遺物の種類や量は少なく、少量の弥生式土器・土師器・須恵器・瓦器・陶磁器などがあるが、一部の古墳時代後期の土器を除いてはいずれも小破片である。（小野1976：10頁）

当館に収蔵される吉田第Ⅳ地区に関連する資料は、遺物収納コンテナ1箱にまとめられた出土遺物と、「吉田第Ⅳ遺跡　1966年10月18日～30日　実測者 佐藤 添田 田中 須内 武居 垣田」の注記がある平板測量図1枚（縮尺不明）、平面図類（原図の大部分は所在不明でトレースと青焼きが残る：縮尺

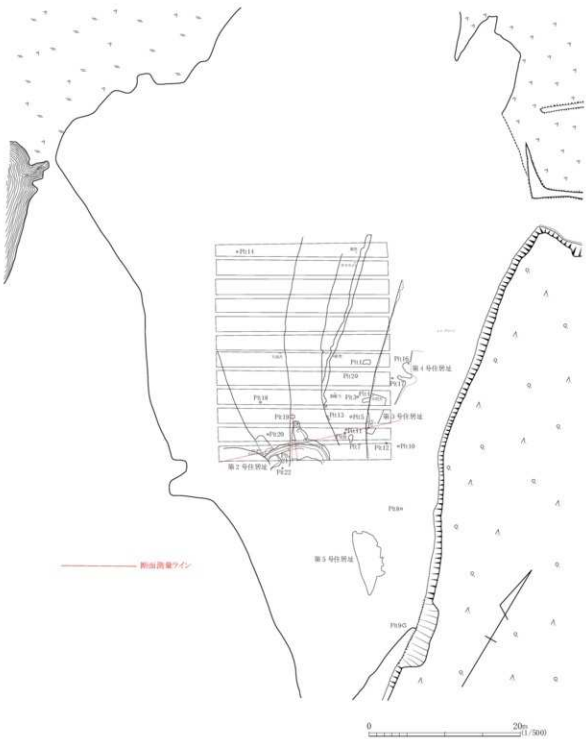


図 79　吉田遺跡第Ⅳ地区（農学部附属農場牛舎敷地）平板測量図

1/10)、断面図3枚(「S41.10.29　吉田第Ⅳ遺跡　A面の第3トレンチ断面図　縮尺1/5　岡村 辻田」、「平川第Ⅳ　C面溝状遺構断面図　第2号住居址断面図」、「平川吉田第Ⅳ遺跡　1966.11.2　縮尺1/10　実測者、永富 添田 嶋崎　断面図X-Y」の注記がそれぞれある)、調査写真94葉である。

測量図や遺物収納袋に記された日付から、第Ⅳ地区の調査は昭和41年(1966)の10月14日から11月2日にかけて実施されたようであるが[注1](写真203～209)、同年10月15日から10月30日にかけては第Ⅰ地区B区でも調査が実施されており[注2](豆谷1993b)、11月2日には第Ⅱ地区第1調査区の本発掘調査が開始され、12月後半まで調査を実施していることから(横山2007)、小野氏の指導の下、学生達が充実した学業生活を送っていた姿が浮かび上がる。

第Ⅳ地区での発掘調査は、農学部附属農場牛舎予定地を対象として実施された。残された平板測量図[注3]には、北東－南西方向の12本のトレンチ[注4](南西から第1～12トレンチと命名)と遺構のほか、針葉樹や広葉樹の地図記号とともに溜池の北東端部とみられるコンタラインや周辺地形が描かれている(図79)。正確な調査区の位置は特定できないものの、現在の地図と重ね合わせてみると、おおよそ現牛舎建物をおおう範囲で調査が行われたものと推定される(図80)。

a. 遺構(図81、写真211～242)

本学統合移転以前の当地は、東から西に降下する丘陵端部を階段耕作地として活用していたようで、地山は大きく削平を受けており、調査においては高所平坦面から低所平坦面までをA～E面と呼称している。削平のため遺構の依存状態は悪かったようであるが、竪穴式住居跡4棟、溝2条、土壙1基、ピット22基が検出されている。

竪穴式住居跡

遺構平面図および平板測量図によると、第2号～第5号の4棟が検出されている。遺物収納袋に「第1住居址」と記されたものが存在するが、内容的に第3号竪穴住居跡出土資料とみなされることから、何らかの理由により第1号は欠番となったのだろう。また、平板測量図(図79)と遺構平面図(図81)に描かれた第4・5号住居跡は、ピット4基とともに調査トレンチ外に位置していることから、調査時に地表に露出していたものと思われる。

第2号竪穴式住居跡は、調査区の南東部、低位平坦面であるD面にて検出された方形住居跡である

図80 吉田遺跡第Ⅳ地区（農学部附属農場牛舎敷地）調査区位置図

（写真215～218）。主軸を南東－北西方向に向けており、階段耕作により西半部が破壊されている。遺存部の中央南西寄りで溝2と重複しているが、図や写真を見ると溝2により住居跡が切られていると判断したようである。遺存する北東壁は長さ440cmを計る。残存深度に関しては不明確であるものの、残された断面図C－Dを見ると10cm程度であったと思われる。床面遺存部中央には、溝2に切られる状態で残存長70cm、幅80cmの楕円形土壙が存在する。平板測量図には「炭化物の含まれている所」との注記が付されており、断面図E－Fから深さは5cm程度とみられることから、地床炉の可能性が残る。当住居跡に関しては、小野氏は瓦器の出土を根拠に「中世の住居跡」と見なしているが、残された資料中に第2号竪穴式住居跡出土と目される遺物が見いだせない（表18）ことから、所属時期の特定は困難である。

第3号竪穴式住居跡は、高位平坦面であるA面にて検出された方形住居跡である（写真219～223）。主軸をほぼ南北に向けており、階段耕作により西半部が破壊されている。遺存する東壁は長さ510cmを計る。上位は大きく削平を受けており、断面図X－Yでの残存深度は20cmである。遺物台帳NO. 11の注記に「1966.10.22平川吉田Ⅳ③トレンチA面攪乱層」と注記されていること、10月29日に記録された断面図G－Hでは「包含層」と認識されていること、翌30日から「1号住居址」と記された遺物袋が登場することから、調査の最終盤で住居跡と認識されたものと想像される。小野氏が記した「炉跡近くに置かれた平たい自然石」は床面の南側に図示されているが、炉跡は図示されていない。一方で北壁付近に「木炭片」が図示されており、遺物台帳NO. 13と遺物台帳NO. 23に収納された炭化物がこれに当たると思われる。柱穴は図示されていないものの、調査写真（写真219・223）からは複数存在しているように見える。当住居跡出土資料は、所属の可能性が高いものを含めると比較的豊富で、小野氏は古墳時代後期としているが、奈良時代（8世紀代）の住居とみなされる。

第4号竪穴式住居跡は、第4～7トレンチの北東外方に位置する。写真219の右端に写るのが第4号竪穴式住居跡と見られるが、複数の遺構の切り合いにも見え判然としない。平面図では、方形住居の西壁と思われるラインが描かれており、残長約750cmを測る。

第5号住居跡は、平板測量図にのみ描かれており、それと分かる写真は残されていない。第1トレンチの10m南東に位置し、南西半部は削平を受けているようで、平面形態は判然としない。残存長約900cm、残存幅約350cmを測り、住居であれば大型のものとなる。

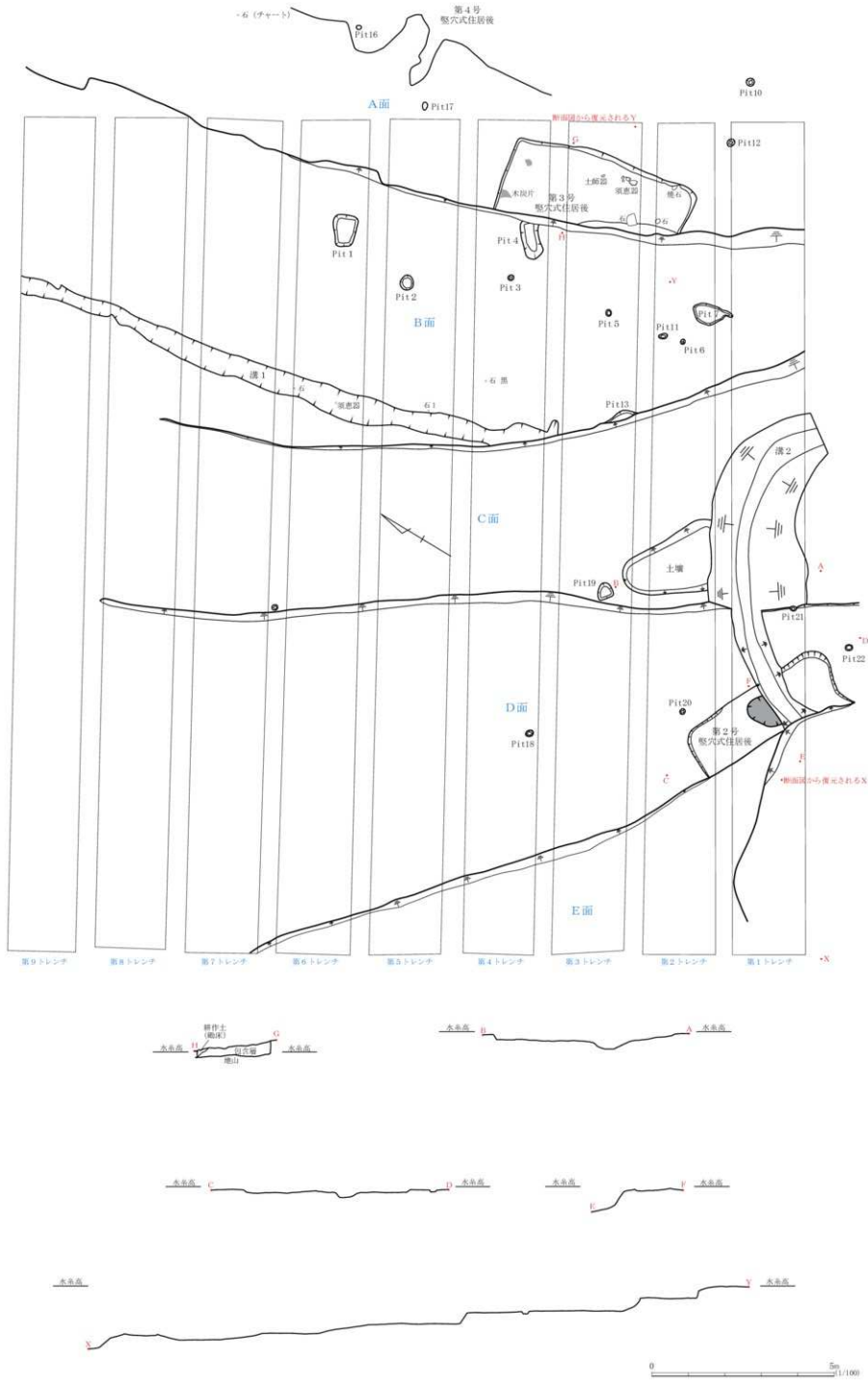
溝

溝1はB面を南北方向に直線的に走っている。幅30～80cmを測り、約15mの長さで検出されている。断面図が残されておらず深度は不明であるが、C面に遺存していないことから20cm未満と推定される。小野氏は「著しく削剥された直線状の溝状遺構」を弥生時代のものとしているが、出土遺物に弥生時代のものはみられない。

溝2はC面とD面の南端部で検出されており、南東から南西にC字状に走る。溝幅は最大で260cmを測るが、D面では上部を削平され80cm程度に狭まる。断面図A－Bにより深さは約20cmと見られるものの、写真239～242ではもう少し深いようにみえる。青磁や滑石製石鍋が出土していることから、中世に機能した溝と推定される。

土壙

C面溝2の北に接している。図・写真では両者の先後関係は不明であり、溝2の関連施設である可能性も残している。残存長240cm、最大幅200cmを測り、断面図A－Bにより深さは約15cmとみられる。当遺構は小野氏報告に触れられておらず、明確な出土遺物も存在しないが、コンテナNO. 95袋NO. 3の「C面遺構」が土壙を指すのであれば、古代に所属する遺構となる。



第 81 図　吉田遺跡第Ⅳ地区（農学部附属農場牛舎敷地）遺構平面図・断面図

写真 203　調査地遠景（南西から）

写真 204　調査地遠景（南西から）

写真 205　調査地から農場本館を望む（北東から）

写真 206　調査風景（南西から）

写真 207　調査風景（北東から）

写真 208　調査風景（南西から）

写真 209　調査風景（南西から）

写真 210　完成直後の農場本館（南東から）

写真 211　A面B面遺構群（南東から）

写真 212　B面遺構群（北から）

写真 213　B面遺構群（南東から）

写真 214　D面遺構群（北東から）

写真 215　第2号竪穴式住居跡（南東から）

写真 216　第2号竪穴式住居跡（西から）

写真 217　第2号竪穴式住居跡（西から）

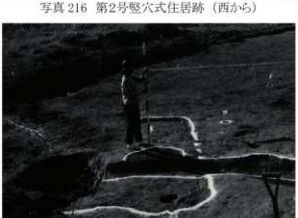


写真 218　第2号竪穴式住居跡（南東から）

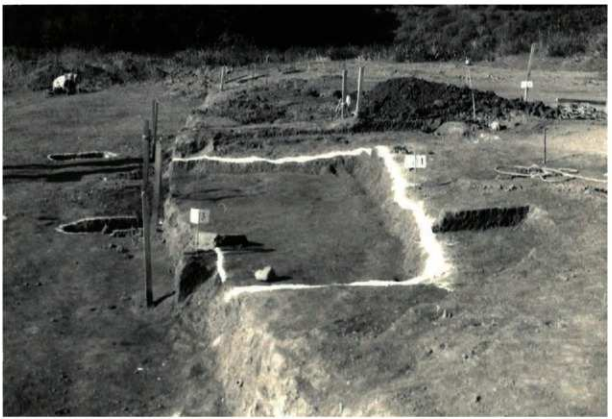


写真 219　第3号竪穴式住居跡（南から）

写真 220　第3号竪穴式住居跡須恵器出土状況（西から）

写真 221　第3号竪穴式住居跡石器出土状況（方向不明）

写真 222　第3号竪穴式住居跡（北から）

写真 223　第3号竪穴式住居跡（南から）

写真 224　Pit1（南西から）

写真 225　Pit2（南西から）

写真 226　Pit3・4（南西から）

写真 227　B面Pit群（南から）

写真 228　Pit6・11（南西から）

写真 229　Pit7（南東から）

写真 230　Pit10・12（南西から）

写真 231　Pit13（南西から）

写真 232　Pit14（方向不明）

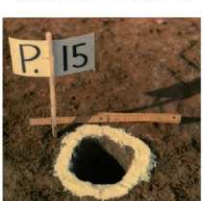


写真 233　Pit15（所在不明）

写真 234　Pit18（南西から）

写真 235　Pit19（西から）

写真236 Pit20（方向不明）

写真237 Pit21（南西から）

写真238 Pit22（方向不明）

写真239 溝2（北東から）

写真240 溝2（南東から）

写真241 溝2（南東から）

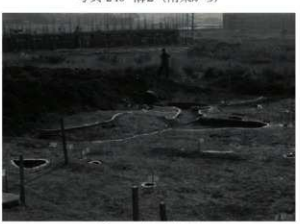


写真242 溝2（北から）

b. 遺物（図82～84、写真243・244、表18～20）

当館に伝わる吉田遺跡第Ⅳ地区出土遺物を表18にまとめた。内容をみてわかるように、遺物はごく少量であり、図示可能な資料も少ない。また、出土遺構を特定できる遺物も少なく、ここでは可能性が高いものも含めて提示する。

第3号竪穴式住居跡

10月30日の遺物取り上げ時には「第1住居址」と呼称されていたようだが、平面図に第1号住居なるものは存在せず、遺物の内容的から第3号竪穴式住居跡出土と判断した。**1**は須恵器甕の外反口縁に形態が似るものの、3箇所に長方形透窓の痕跡が存在することから、円面硯脚部とみられる。透窓の横幅は約1㎝であり、間隔は一定しない。吉田遺跡で5例目の円面硯となる（河村ほか1985、田畑2004、田畑

2017b・本書図18の79、横山2020)。2は土師器甕口縁部片。やや内傾して立ち上がる頸部から口縁をわずかに外反させる。27・28は図81や写真219から出土状況がわかる資料で、小野氏報告の「炉跡近くに置かれた平たい自然石」である。27の両面には擦痕がみられ、両者ともに被熱により赤色化している。3～8はいずれも須恵器で、第3号竪穴式住居跡出土の可能性が高い。3は坏蓋口縁部片、4・5は坏口縁部片、6は高坏口縁部とみられる。7は皿口縁部片、8はカキ目の復元径(20.5cm程度)から横瓶体部と推定した。破断面の一端に弧状に横ナデが施されており、内面もわずかに外反することから頸基部で折損しているものと思われる。

溝1

小野氏が「弥生時代の遺構」としたものであるが、弥生土器は確認されていない。9は須恵器坏身の受け部片。受け部および口縁端部を欠失する。10は瓦質土器鍋の口縁部片とみられる。

溝2

小野氏が「中世の環状の溝」としたもので、11は龍泉窯系の鎬蓮弁文青磁椀口縁部片である。29は滑石製石鍋の体部片。外面に煤が付着している。

溝1または溝2

遺物袋に「溝状遺構」としか記されていない資料で、溝1・2いずれかより出土したものとみられる。12は須恵器坏の口縁部片で、直立気味に高く立ち上がる口縁の内端に段を形成している。13は須恵器高台付坏底部片で、高台は欠失しているものの底部外端のやや内側に付く。14は瓦質土器の体部片。外面に格子叩きが施されている。

溝2または土壙

遺物袋に「C面遺構」とあるので、溝2または土壙から出土したとみられる。15は須恵器高台付坏底部片で、断面長方形の高台が底部外端に付く。16も須恵器高台付坏底部片で、内外端部をつまみ出した高台は、体部外端のやや内側に付く。17は土師器高台付坏底部片。底部外端に断面三角形状の小ぶりな高台が付く。

E面(撹乱)

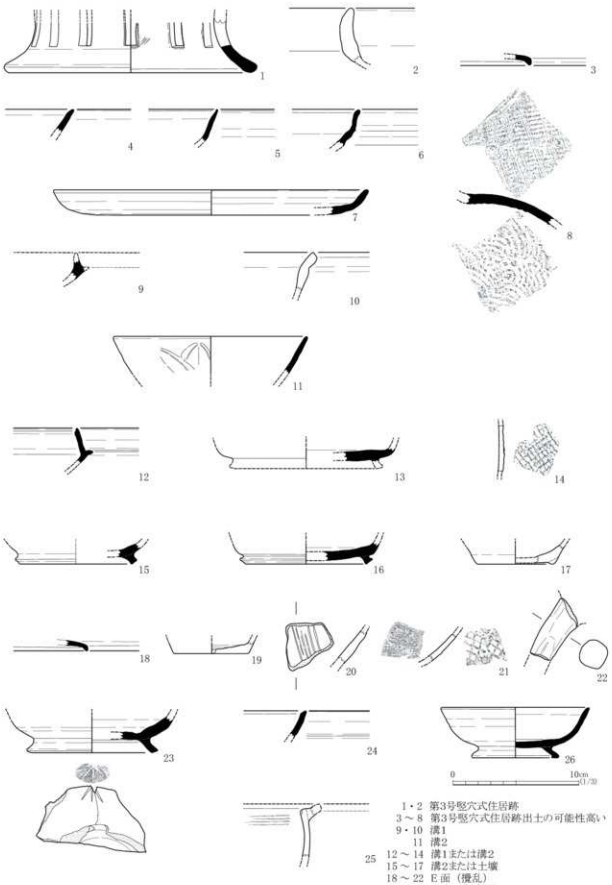
遺構平面図(図81)をみると、E面北東端部(第1トレンチ)は大きく撹乱を受けているようである。遺物は撹乱埋土から出土したものとみられる。18は須恵器坏蓋口縁部片。扁平な天井部から口縁をほぼ垂直に下垂させる。19は土師器坏底部片。平底の底部から体部が直立気味に立ち上がる。20は瓦質土器擂鉢の体部片。6条の卸目が残る。21は瓦質土器鍋の体部片。外面に格子叩きが施されている。22は瓦質土器足鍋の脚部片。

表土・包含層そのほか

23は須恵器高台付坏の底－体部片。底部外端に外方に大きく開く長い高台が付く。体部外面には吉田遺跡にて散見される鳥足状のヘラ記号が施されている。24は須恵器坏の口縁部片。口縁内端に面を取っている。25は瓦質土器羽釜の口縁部片。鍔はやや上向きに付き、端部を欠失している。30は安山岩製の有茎尖頭器と見られる。遺物袋に「第5トレンチB面」と記されており、平面図にある「×石1」のマークが出土位置と思われる。31は緑岩製の磨製石斧の刃部片で、全面風化が著しいが、破断面を砥石として再利用している。遺物袋に「第Ⅱトレンチ」とあり、平板測量図を見ると第2トレンチ土壙内に「石」と記されていることから、土壙埋土より出土した可能性がある。32は黒曜石製の打製石鏃。逆刺の一部が欠失している。吉田遺跡第Ⅳ地区から出土した以外の情報を有していない。26は混入品で、動物医療センター周辺(吉田遺跡第Ⅱ地区)にて採取された完形復元可能な須恵器高台付坏である。

表18 吉田遺跡第IV地区出土遺物一覧

NO.	旧コンテナ袋番号	袋注記	内容	今回注記	掲載遺物	備考
1	95-14	1964.10.14 吉田第4遺跡 表土及包含層	須恵器2 瓦質土器1	YD1966-IV No.1	NO.23 NO.25	
2	95-30	1964.10.29 溝状遺構 D面 第4遺跡	須恵器2 土師器2	YD1966-IV No.2		溝2出土遺物
3	108-28	1966.7.10 吉田遺跡 第IV遺跡 第IIトレンチ	石器1	YD1966-IV No.3	NO.31	
4	95-10	1966.9.8 吉田第IV遺跡	石器2	YD1966-IV No.4	NO.32	
5	95-13	1966.10.21 吉田遺跡IV 第IIトレンチ 表土	須恵器1 土師器1	YD1966-IV No.5	NO.24	
6	95-27	1966.10.21 吉田遺跡IV A面 第IIトレンチ1	土師器14	YD1966-IV No.6		第3号竪穴式住居跡出土遺物 である可能性が高い
7	95-15	吉田第IV遺跡 P.15 1966.10.22	石1	YD1966-IV No.7		Pit15出土遺物
8	95-17	1966.10.22 吉田遺跡IV A 第IIトレンチ2	須恵器2 土師器5	YD1966-IV No.8	NO.4 NO.8	第3号竪穴式住居跡出土遺物 である可能性が高い
9	95-19	1966.10/22 平川第IV遺跡 3トレンチ	黒曜石1	YD1966-IV No.9		
10	95-22	3トレンチ 1966.10/22 平川第IV	土師器1 炭化物	YD1966-IV No.10		
11	95-24	1966.10.22 平川吉田IV ③トレンチ A面 攪乱層	須恵器2 瓦質土器1 土師器13	YD1966-IV No.11	NO.7	第3号竪穴式住居跡出土遺物 である可能性が高い
12	95-16	1966.10.22 第4遺跡 第4トレンチ	須恵器1 土師器5	YD1966-IV No.12	NO.5	第3号竪穴式住居跡出土遺物 である可能性が高い
13	95-12	S41.10.22 吉田第四 第4トレンチ	炭化物	YD1966-IV No.13		第3号竪穴式住居跡出土資料 である可能性が高い
14	95-18	S41.10.22 吉田第四 St1 5トレンチ II段	石器1	YD1966-IV No.14	NO.30	
15	95-8	1966.10.22 吉田第IV遺跡 第6トレンチ II段	黒曜石1	YD1966-IV No.15		
16	95-7	1966.10.24 平川吉田第四遺跡 a面 第3トレンチ	須恵器1 土師器1	YD1966-IV No.16		第3号竪穴式住居跡出土遺物 である可能性が高い
17	95-31	1966.10.24 吉田遺跡IV 第3トレンチ ●判読不能	土師器2	YD1966-IV No.17		
18	95-9	1966.10.24 平川四遺跡 第7トレンチ	土師器3	YD1966-IV No.18		
19	無	1966.10.25 吉田第4遺跡 a面 IIトレンチ	土師器2	YD1966-IV No.19		第3号竪穴式住居跡出土遺物 である可能性が高い
20	95-3	1966.10.27 吉田第IV遺跡 C面遺構	須恵器2 土師器1 石英1	YD1966-IV No.20	NO.15 NO.16 NO.17	溝2または土壙出土遺物 である可能性が高い
21	95-5	1966.10/29 吉田第IV遺跡 C面上 溝状遺構	青磁1 石鏃1	YD1966-IV No.21	NO.11 NO.29	溝2出土遺物
22	95-4	平川・吉田第IV遺跡 第1住居址 1966.10.30	須恵器4 土師器9 粘土塊1	YD1966-IV No.22	NO.1 NO.2	第3号竪穴式住居跡出土遺物
23	無	平川・吉田第IV遺跡 第1住居址 1966.10.30	炭化物	YD1966-IV No.23		第3号竪穴式住居跡出土資料
24	95-25	1966 10/30 吉田第IV遺跡 B面の溝状遺構	須恵器4 土師器16 瓦質土器1	YD1966-IV No.24	NO.9 NO.10	溝1出土遺物
25	95-11	吉田遺跡第IV遺跡 S41.10.30 溝状遺跡	須恵器7	YD1966-IV No.25	NO.12 NO.13 NO.14	溝1・溝2のどちらか不明
26	95-23	吉田(IV) A3 Trench	須恵器4 土師器16	YD1966-IV No.26	NO.3 NO.6	第3号竪穴式住居跡出土遺物 である可能性が高い
27	95-20	●●(判読不能) D面 南側	土師器2	YD1966-IV No.27		
28	95-28	1966.10.28 吉田第IV遺跡 E面	須恵器5 土師器3 瓦質土器4	YD1966-IV No.28	NO.18 NO.19 NO.20 NO.21	
29	95-26	IV P攪乱	瓦質土器1	YD1966-IV No.29	NO.22	
30	95-21	第四遺跡 第四トレンチ かくらん層	土師器6	YD1966-IV No.30		
31	95-6	吉田 IV遺跡 カクラン層 チップ	石2	YD1966-IV No.31		
32	12-1	吉田遺跡第IVトレンチ 包含層中 1966.7.18	弥生土器および土師器73	YD1966-IV No.32		吉田遺跡第I地区A区 第IVトレンチ出土遺物と 見られる
33	95-1	吉田第一IV 家畜病院横 S42.5.25	須恵器3 土師器1 磁器1	YD1966-IV No.33	NO.26	吉田遺跡第II地区 (動物医療センター周域) にて採取されたと見られる
34		遺物に「牛舎」の注記	台石ほか自然石など	YD1966-IV No.34	NO.27 NO.28	平成10年(1998)4月15日に附属 農場本館で発見され、埋蔵文化財 資料館に移管された資料 第3号竪穴式住居跡出土遺物



1・2　第3号竪穴式住居跡
3～8　第3号竪穴式住居跡出土の可能性高い
9・10　溝1
11　溝2
12～14　溝1または溝2
15～17　溝2または土壙
18～22　E面（撹乱）
23～25　表土・包含層
26　吉田遺跡第Ⅱ地区

図82　吉田遺跡第Ⅳ地区出土土器実測図

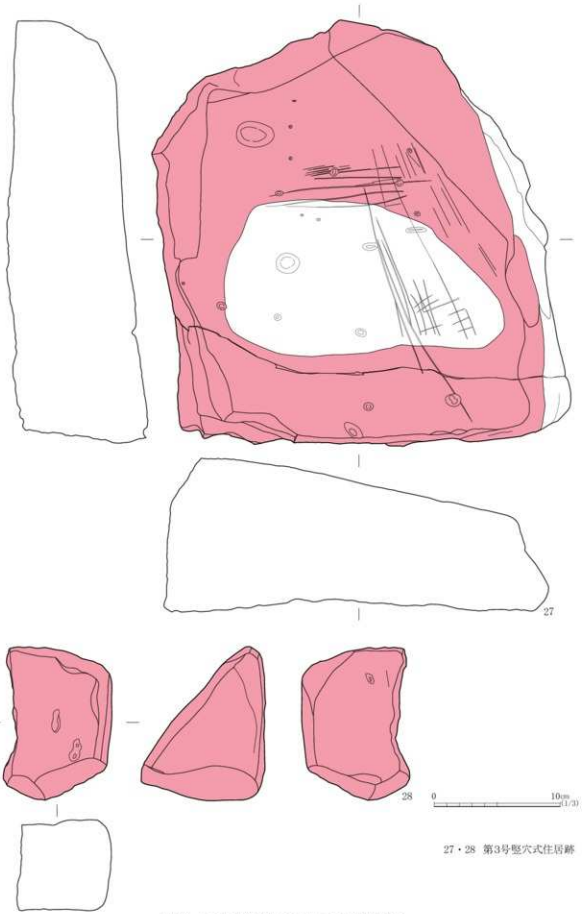
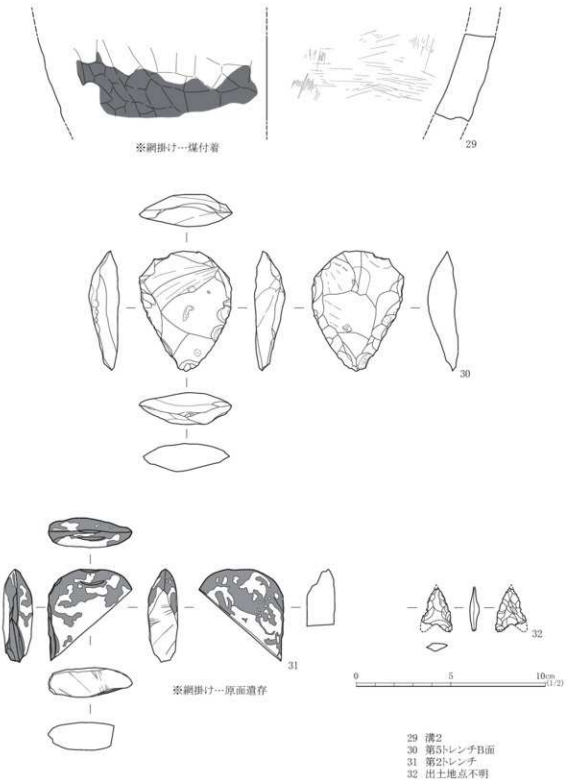


図 83　吉田遺跡第Ⅳ地区出土石器実測図①



29 溝2
30 第5トレンチB面
31 第2トレンチ
32 出土地点不明

図 84 吉田遺跡第Ⅳ地区出土石器実測図②

1・2　第3号竪穴式住居跡
3～8　第3号竪穴式住居跡出土の可能性高い
9・10　溝1
11　溝2
12～14　溝1または溝2
15～17　溝2または土壙
18～22　E面（壁北）
23～25　表土・包含層
26　吉田遺跡第Ⅱ地区

写真 243　出土遺物（土器）

27

28

27・28　第3号竪穴式住居跡

29-1

29-2

29　溝2

30-1

31-1

32-1

30-2

31-2

32-2

30　第5トレンチB面
31　第2トレンチ
32　出土地点不明

写真244　出土遺物（石器）

表19 出土遺物(土器)観察表

法量( )は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面 ②内面	胎土	備考
1	第3号 竪穴式住居跡	須恵器 円面硯	脚部	脚部径(20.2)	①② 灰色(N6/)	0.2～1.5mmφの砂粒少量混ざる	スカシ間隔不均一
2	第3号 竪穴式住居跡	土師器 甕	口縁部	③残高4.3	①②橙色(7.5YR7/6)	0.1～1.5mmφの砂粒少量混ざる	
3	第3号 竪穴式住居跡か	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高0.95	①②灰白色(N7/)	0.1～0.2mmφの砂粒極少量混ざる	
4	第3号 竪穴式住居跡か	須恵器 坏	口縁部	③残高1.9	①②灰黄色(2.5Y7/2)	0.2～0.5mmφの砂粒極少量混ざる	小片のため傾き不確実
5	第3号 竪穴式住居跡か	須恵器 坏	口縁部	③残高2.7	①②灰色(N6/)	0.2～0.5mmφの砂粒極少量混ざる	高坏口縁部の可能性あり
6	第3号 竪穴式住居跡か	須恵器 高坏	口縁部	③残高2.9	①灰白色(N7/) ②灰色(N6/)	0.1～0.5mmφの砂粒少量混ざる	
7	第3号 竪穴式住居跡か	須恵器 皿	口縁～底部	①(25.0) ②(19.0) ③2.0	①②灰白色(N7/)	0.2～1mmφの砂粒少量混ざる	
8	第3号 竪穴式住居跡か	須恵器 横瓶	肩部		①灰色(N5/) ②灰白色(N7/)	0.5～2mmφの砂粒少量混ざる	
9	溝1	須恵器 坏	受け部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.2～0.5mmφの砂粒極少量混ざる	
10	溝1	瓦質土器 鍋か	口縁部	③残高3.1	①暗灰色(N3/) ②浅黄色(2.5Y7/4)	0.2～0.5mmφの砂粒少量混ざる	焼成やや不良
11	溝2	青磁 椀	口縁～体部	①(15.4) ③残高3.0	素地 灰色(N6/) 釉 オリーブ灰色(2.5GY6/1)	精緻	龍泉窯系
12	溝1または溝2	須恵器 坏	口縁～受け部	③残高2.8	①②灰白色(7.5Y7/1)	0.1～1mmφの砂粒極少量混ざる	
13	溝1または溝2	須恵器 高台付坏	底部		①②灰白色(7.5Y7/1)	0.1～1mmφの砂粒少量混ざる	高台欠失
14	溝1または溝2	瓦質土器 鍋か	体部		①灰色(N5/) ②灰白色(7.5Y7/1)	0.1～0.2mmφの砂粒極少量混ざる	
15	溝2または土壙	須恵器 高台付坏	底部	②高台径(9.7) ③残高1.65	①②灰白色(7.5Y7/1)	0.2～0.5mmφの砂粒極少量混ざる	
16	溝2または土壙	須恵器 高台付坏	底部	②高台径(10.6) ③残高1.7	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	0.2～1.5mmφの砂粒少量混ざる	
17	溝2または土壙	土師器 高台付坏	底部	②高台径(6.0) ③残高1.5	①灰白色(10YR8/2) ②褐灰色(10YR5/1)	0.2～1.5mmφの砂粒(金雲母など)極少量混ざる	焼成やや不良
18	E面(攪乱)	須恵器 坏蓋	口縁部	③残高1.3	①灰白色(N7/) ②灰白色(N7/)～灰色(N5/)	0.2～1mmφの砂粒極少量混ざる	
19	E面(攪乱)	土師器 坏	底部	②(5.9) ③残高0.9	①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②褐灰色(10YR6/4)	0.1～0.2mmφの砂粒少量混ざる	
20	E面(攪乱)	瓦質土器 擂鉢	体部		①暗灰色(N3/) ②灰白色(2.5Y8/2)	0.1～0.5mmφの砂粒少量混ざる	卸目6条
21	E面(攪乱)	瓦質土器 鍋か	体部		①黒色(7.5Y2/1) ②にぶい橙色(7.5YR7/4)	0.2～2mmφの砂粒極少量混ざる	
22	E面(攪乱)	瓦質土器 足鍋	脚部		①赤橙色(10R6/6)	0.2～2mmφの砂粒少量混ざる	二次被熱
23	表土包含層	須恵器 高台付坏	体部～底部	②高台径(10.4) ③残高2.9	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)～灰色(N6/)	0.5mmφの砂粒極少量混ざる	鳥足状ヘラ記号
24	表土包含層	須恵器 坏	口縁部	③残高2.3	①②灰色(5Y6/1)	0.2～0.5mmφの砂粒極少量混ざる	
25	表土包含層	瓦質土器 羽釜	口縁部		①褐灰色(10YR4/1) ②褐灰色(10YR6/1)	0.2～1mmφの砂粒極少量混ざる	
26	吉田遺跡第Ⅱ地区	須恵器 高台付坏	口縁～底部	①(11.8) ②高台径(7.0) ③4.0	①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	0.2～3mmφの砂粒少量混ざる	

表20 出土遺物(石器)観察表

法量( )は残存値

遺物番号	遺構・層位	器種	法量(cm) ①長さ②幅③厚さ④重量(g)	石材	備考
27	第3号竪穴式住居跡	作業台	①(33.4) ②(33.8) ③(12.2) ④(18,800)	斜長斑岩	被熱
28	第3号竪穴式住居跡	作業台	①(12.15) ②(8.8) ③(9.8) ④(1,119.2)	斜長斑岩	被熱
29	溝2	石鍋	体部径23.0 ④(185.6)	滑石	煤付着
30	第5トレンチB面	有茎尖頭器	①6.35 ②4.75 ③1.7 ④40.26	安山岩	
31	第2トレンチ	磨製石斧	①(4.8) ②(4.45) ③(1.45) ④(33.29)	輝緑岩	刃部
32	不明	打製石鏃	①(2.25) ②(0.5) ③(1.6) ④(0.91)	黒曜石	

3. 小結

吉田遺跡第Ⅳ地区は、本学吉田地区統合移転時に、構内北東部、姫山(標高199m)の南に派生する二筋の丘陵と開析谷に付された名称であり、農学部移転関連工事に際し、地区内で唯一実施されたのが附属農場牛舎新営に伴う発掘調査であった。[15]

調査地は、元来は東から西に舌状に延びる丘陵の西斜面であったが、本学移転以前に階段耕作地として利用されていたことから大きく削平を受けており、深度の深い遺構以外はすでに消滅したものと推測される。そのような状況において、4棟の竪穴住居跡を確認したことは大きな成果と言える。

このうち第4・5号住居跡はすでに地表に露出していたようで、新営牛舎の範囲外であったことから調査は遺構の検出にとどまったようである。[16] 小野氏が古墳時代の住居跡と判断した第3号竪穴式住居跡は、半壊状態であったものの、少量ながら遺物が出土している。内容を見る限り8世紀以降の住居跡である。第2号竪穴式住居跡に関しては、小野氏は出土遺物を根拠に中世の住居跡としているが、明確な出土遺物を確認することができなかった。

そのほかに検出された遺構に関しては、溝1は所属時期不明、溝2は鎌倉時代(13世紀ころ)に機能していた可能性が高く、溝2に接する土壙は溝2に切られているのであれば鎌倉時代以前の遺構である可能性があるが、所属時期を特定できない。ピットに関しても、建物を復元できるような並びを見せておらず、出土遺物にも恵まれていない。

当地における人類活動は、出土遺物から見ると、出土地が正しければ有茎尖頭器の出土から後期旧石器時代まで遡るようであり、縄文時代石斧の存在から周辺地での活動が断続的に行われたようであるが、集落地としての土地利用は8世紀以降に始まる。[17] 吉田遺跡においては、当地のおよそ850m南方、動物医療センター周域に官衙が成立する時期であり、円面硯の出土や、鳥足状ヘラ記号を施す須恵器の共有から、官衙に関連する集落であることは確実視される。[18]

古代集落はおそらく短期間で廃絶し、再び集落地として活用されるのは鎌倉時代、13世紀以降のようである。貿易陶磁や石鍋の存在は、当地に比較的裕福な農民層が居住したことを物語っているものの、集落構造を復元するには情報が不足している。私見であるが、弥生時代の遺構とされた溝1は、出土遺物から所属時期が否定されるばかりでなく、階段耕作地の区画に平行して直線的に設けられていることから、近世以降に灌漑用施設として設けられた可能性が高いと考えている。

発掘調査から半世紀以上が経過し、残された断片的な資料から調査の再評価を行った。遺物の所属遺構が不安定であることから推論に頼らざるを得ない状況であったが、小野氏および調査団による遺跡の評価とは大きく異なる結果を得ることとなった。当地ばかりでなく、吉田遺跡全体の性格を捉える上で重要な成果と言える。

本稿をもって、調査団設立前の昭和41年(1966)に小野氏と学生達(文化会考古学部および地理学

談話会）により実施された吉田遺跡の発掘調査に関しては、報告を終えることになる（第Ⅰ地区A区：豆谷1993a、田畑2016　第Ⅰ地区B区：豆谷1993b、田畑2017a　第Ⅱ地区：横山2007）。調査団の実施した発掘調査に関しては、既報告のものもあるが（第Ⅰ地区D区：豆谷1995　第Ⅰ地区E区：豆谷1994）、特に第Ⅲ地区（構内グラウンド周辺の沖積低地）の出土遺物量が膨大であることから、整理作業の目途が立たない状況にある。これらの資料に対しては、今後機会を見つけて報告を行いたい。

本稿を成すに当たり、遺物整理と遺物実測で乃美友香と水久保祥子の協力を得た。また、農学部附属農場に関する施設し関し、農学部附属農場技術専門員の長砂光治氏に様々な情報をいただいた。末筆ではあるが記して感謝の意を表したい。

最後に、吉田遺跡第Ⅳ地区の調査成果を取りまとめていた最中の平成31年4月6日に、当調査を担当し、当館の創設にも尽力された小野忠熙氏が他界された。氏は、本学在職中に吉田遺跡ばかりでなく、島田川流域遺跡群をはじめ山口県内の多くの遺跡調査において陣頭指揮を執られ、当県の考古学研究において大きな足跡を残された。心よりご冥福をお祈りしたい。

【註】

1）吉田遺跡第Ⅳ地区の遺物台帳NO. 32「吉田遺跡第Ⅳトレンチ包含層中1966.7.18」は吉田遺跡第Ⅰ地区A区の第Ⅳトレンチ出土品と見られる。NO. 33の「吉田第－Ⅳ家畜病院横S42.5.25」は吉田遺跡第Ⅱ地区（現動物医療センター周域）での採取品であろう。NO. 1と2の「1964」は誤記、NO. 3の「1966.7.10吉田遺跡第Ⅳ遺跡第Ⅱトレンチ」は日付の誤記もしくは日付が正しければ地区名（第Ⅰ地区）の誤記と思われる。

2）第Ⅰ地区B区の調査については、出土遺物へ注記された日付から、実際は11月に実施されたとの指摘がなされている（田畑2017a）。

3）平板測量図には縮尺が記入されていなかったことから、遺構平面図に描かれたトレンチ長から縮尺を復元した。

4）残された写真を見る限り、トレンチ間の畦はまもなく取り外されたようである。

5）当発掘調査時の写真を見ると、附属農場本館（昭和42年竣工）はすでに建設中であり（写真205）、本館の北に位置する収納舎（昭和42年竣工）は本館が完成した状況で建設中である（写真210）。同時期に計画された3棟の建物でなぜ牛舎のみが発掘調査対象となったのかは不明である。

6）筆者の調査区位置の推定（図80）が正しければ、第5号竪穴住居跡は後に建設されたサイロにより破壊された可能性が高く、第4号竪穴住居跡も牛舎の拡充や牛の活動により遺存していない可能性が高い。

7）少数ではあるが古墳時代後期の須恵器が出土していることに関しては、現在でも調査地の西方に横穴墓が遺存している（図80）ことから、周域に展開していた古墳に由来する可能性も考えられる。

8）当地の南西約275m地点で確認されている土壙群（河村1992）は、ほぼ一間間隔で並んでいることから7世紀後半から8世紀にかけての大型掘立柱建物跡である可能性が高く、その西方約100m、第2学生食堂敷地にて確認された8～10世紀に所属する溝状遺構や掘立柱建物群（豆谷1994、田畑2004b）も官衙に関連する施設である可能性が高い。

【文献】

小野忠熙（1976）『山口大学構内　吉田遺跡発掘調査概報』、山口大学吉田遺跡調査団、山口

河村吉行ほか（1985）「吉田構内大学会館新営に伴う発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』、山口

河村吉行（1992）「吉田構内農学部農業環境観測実験施設新営に伴う発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅹ』、山口

田畑直彦(2004a)「農学部バイオ環境制御施設新営に伴う試掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ・ⅩⅦ』,山口

田畑直彦(2004b)「平成7・10～14年度山口大学構内遺跡調査の概要」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅥ・ⅩⅦ』,山口

田畑直彦(2016)「吉田遺跡第Ⅰ地区A区の未報告図面について」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅩⅠ』,山口

田畑直彦(2017a)「吉田遺跡第Ⅰ地区B区の未報告図面について」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅩ』,山口

田畑直彦(2017b)「吉田構内総合研究棟新営に伴う発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅩ』,山口

豆谷和之(1993a)「吉田遺跡第Ⅰ地区A区の調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅠ』,山口

豆谷和之(1993b)「吉田遺跡第Ⅰ地区B区の調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅠ』,山口

豆谷和之(1994)「吉田遺跡第Ⅰ地区E区の調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅡ』,山口

豆谷和之(1995)「吉田遺跡第Ⅰ地区D区の調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報ⅩⅠ』,山口

横山成己(2007)「吉田遺跡第Ⅱ地区の調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成17年度－』,山口

横山成己(2020)「動物医療センター(リニアック室等)新営その他工事(プレハブ撤去)に伴う立会調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成27年度－』,山口

報告書抄録

ふりがな	やまぐちだいがくまいぞうぶんかざいしりょうかんねんぼう
書名	山口大学埋蔵文化財資料館年報
副書名	－平成28年度－
巻次	
シリーズ名	山口大学埋蔵文化財資料館年報
シリーズ番号	14
編著者名	田畑直彦　横山成己　川島尚宗　永久保祥子
編集機関	山口大学埋蔵文化財資料館
所在地	〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1 ℡083-933-5035
発行年月日	西暦2021年(令和3年)3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
吉田遺跡	山口県山口市吉田1677-1	35203		34度08分48秒	131度28分16秒	20160720~20161020	491㎡	実習棟(動物病理解剖施設)新営工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉田遺跡	官衙・集落	奈良～平安	埋没谷・土壙・ピット	須恵器・土師器 円面硯・製塩土器 輪羽口・木製品	

山口大学埋蔵文化財資料館年報
－平成28年度－

令和3年3月31日

編集　山口大学埋蔵文化財資料館
発行　山口大学
〒753－8511　山口市吉田1677－1
印刷　(有)三共印刷
〒759－0204　宇部市大字妻崎開作1953－8

YAMAGUCHI UNIVERSITY
ARCHAEOLOGICAL MUSEUM REPORT Vol.14

CONTENTS

Chapter Ⅰ Report of the Yamaguchi University Archaeological Museum activities ····· 1
Section 1 Exhibition activities ····· 2
Section 2 Social education activities ····· 6

Chapter Ⅱ The project on the Yamaguchi University campus in the 2016 fiscal year ····· 8
Section 1 General outline of the project on the Yamaguchi University campus in the 2016 fiscal year ····· 8
Section 2 Excavation on the Yoshida campus "Yoshida site" ····· 12
Section 3 Excavation on the Siraishi campus "Shiraishi site" ····· 156
Section 4 Excavation on the Kogushi campus "Yamaguchidaigaku-Igaubukounai site" ····· 160
Section 5 Excavation on the Hikari campus "Mitarai site and Tsukimachiyama site" ····· 164
Appendix 1 The gist of researches and studies at Yamaguchi University in the 2016 fiscal year ··· 165
Appendix 2 List of researches in Yamaguchi University campus ····· 168

Appendix 1 Report of excavated wooden tools at Yoshida site (Animal Medical Center Linac room) ····· 192
Appendix 2 Archaeological research for Area Ⅳ at Yoshida site ····· 201

Published by
Yamaguchi University Archaeological Museum
Yamaguchi, 2021